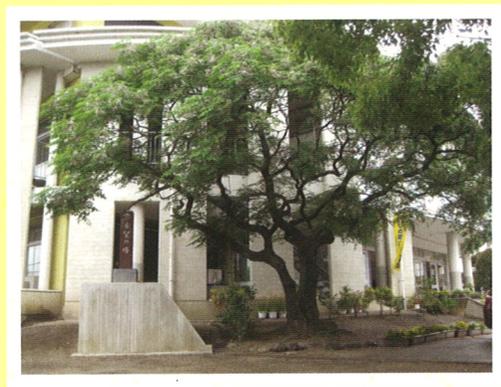
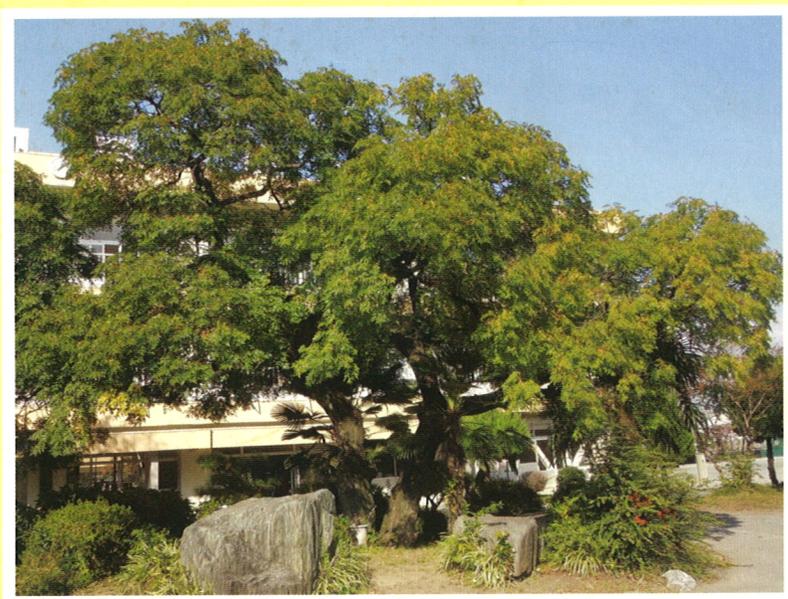


九合村物語

～ 77の秘密～



せんだんの木（上：九合小、左下：中央小、右下：旭小）

九合村物語編集委員会

太田市1%まちづくり事業

発刊に寄せて

太田市長 清水 聖 義

九合村物語、めでたく発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

九合村は、私が生まれる前年に太田町と合併してなくなってしまいました。今でも九合村時代の繋がりが非常に強く残っております。

私が生まれた時は太平洋戦争真っただ中で、世の中は大変混乱していた時代でした。戦後も、食糧難や物資不足など住民の生活も大変な時を過ごしていましたが、九合の人々皆で助け合い、励まし合って、生きていたように記憶しております。その後、高度経済成長とともに、田園風景が広がる、自然豊かな古き良き時代の田舎というものが、現在では都市化・核家族化が進むことで、昔ながらの地域の繋がりが、希薄化してきているように感じています。

このような時代に、若い世代を含む九合地区有志の方々や大学生がこのような物語を発刊されたことは、生まれ育った九合を愛する私にとって大変喜ばしいことでもあります。また、このような活動が、今後太田市中、さらには日本中に広がって欲しいと願っております。

終わりに、この九合村物語がこれからの未来溢れる子どもたちに、九合の素晴らしさを理解してもらい、新たな九合の発展に繋がることを期待いたしますとともに、この九合村物語に携わった皆さまのさらなるご健勝をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

太田教育長 澁澤啓史

このたび、「九合村物語～77の秘密～」が、太田市1パーセントまちづくり事業で採択され発刊されますこと、心よりお慶び申し上げます。

本書は、九合村物語編集委員のみなさんが、九合地区の歴史について、地域のお年寄りから細かく聞き取りをした結果をもとにまとめられたものです。編集委員会のみなさんが本書の発刊に至るまでに払われたご努力と郷土に対する愛情に敬意を払うところであります。

さて、本書には、子どもたちが地域の歴史に触れ、自分の郷土に対する愛着がもてるよう、分かりやすく楽しく読める工夫がなされている部分もあります。ふだんから見慣れている今の風景と、かつて先人たちが生活し文化を育んできた九合村とのつながりを子どもたちが意識するには、先人たちの生活や文化を探り出そうという動機づけがなければなりません。自分が住んでいる地域に「秘密がある」となれば、調べてみたいという気持ちをもたせることができるでしょう。本書には、九合の各地区ごとに7つの秘密が紹介されています。読み物としてはもちろんのこと、社会科や総合的な学習の時間の資料として本書を活用することで、子どもたちが地域についての理解と関心を深め、郷土を愛する心をもつきっかけになれば、この上ない喜びであります。

自分の郷土を大切に作る心が太田市全体に広がり、これからのよりよい太田を担う一員としての意識が高まることを期待して、発刊に寄せてのことばといたします。

九合地区区長会 前会長 志 村 仁

星野さんから九合村物語作成のお話を聞き、素晴らしいことだと思いました。

昭和 41 年（1966）に、九合に葦川から移り住み、九合の事を調べました。そのきっかけは越して来てわずか 10 年たらずで父が内ヶ島の区長を受けたことでした。先ず何故？でした。それから九合と云う所、明治の合併、孫佐衛門（孫殿様）、県道 2 号線（館林迄）、日光例幣使道、空爆、受楽寺と蓮光寺、受楽寺と円養寺、専用道路、日本陸軍通信隊、九合小分離問題、中央小、南一番街等、自分なりに調べてみました。

一番気になったのが 11 あった村が最後に（岩瀬川と下浜田を除く）九つの村で合併し、九合と名付けた話でした。

父が区長に選ばれたのも九合小のマンモス化そして分離問題があったからだと感じました。

それから 25 年後に私は目塚の区長になりました。

私の地区でのいきいきサロンでは、私が調べた話を全てしました。九合を知る事、住んでいるところを知る事、毎年 3 回ですから 10 年で 30 回になります。サロンに集まる人たちは皆私より人生の先輩です。何の話をしようかと一週間前から考えて 20 分間の話にまとめるには大変苦勞をしました。人にはそれぞれ歴史があります。共通の思い出、いわゆるあの頃の話、そして住んで居るところの歴史、忘れ去ることは、進歩にはつながらならいと云う思いで、10 年区長として区民の皆さんに語り掛けて来ました。九合村物語の完成を見て 10 年前に出来ていたら大変助かったなあとと思います。次世代を担う子どもたちに少しでも伝えられたらと思っています。

本当に御苦勞様でしたと心より申し上げます。

九合地区 区長会 会長 北 島 淳 孝

九合村物語の発刊、おめでとうございます。この本の発刊目的である「子供たちに語り聞かせるもの」および「地域の歴史・語り継がれている事柄などを記録、保存する」ことは充分達成できた事業だと考えております。

九合地域は昭和 30 年代の新井町の区画整理から始まり、昭和 30 年代後半から 40 年代前半にかけての太田駅南口の再開発事業、および飯田町、新島町、小舞木町および飯塚町の一部の区画整理で村から都市へ変貌しました。又、平成に入り東別所町および東矢島町の一部の区画整理、再開発、飯塚田んぼへの大型ショッピングセンター建設でこの地域は大変貌を遂げました。

その一方で住民構成も変わり、もともと地元に住んでいた住民より新しく移り住んで来た住民の方が多くなり、だんだん地域の歴史、語り継がれてきた事柄などが忘れ去られてきております。特に、このような事柄を知っている長老、語り部の人々は年齢を重ねてきておりますので、今回の九合村物語のまとめ、発刊は非常に意味深いものであると同時に有意義のある事業だと考えておりました。

これからは「子供たちに語り聞かせるもの」として学校の図書室への常備、又、家庭では是非とも一冊手元に置いて戴き、親御さん達が熟読して子供たちと本に書かれている地元の場所に行ったり、郷土芸能であればその意味をかみしめたりして、子供たちとの地域の共通の話題作りに役立てて戴きたいと思っております。

「九合村物語」の発刊にあたりご尽力なさいました「九合生涯学習推進協議会」、「九合村物語編集委員会」の皆様、ならびに編集に協力して戴きました「各地区の長老・語り部の皆様、座談などに協力して戴いた皆様」に感謝申し上げます。

太田市立九合小学校 校長 高山幸延

九合村物語の発刊、誠におめでとうございます。

「地域のことを知らない地域住民が結構いる」という寂しい現実が全国のどこでもある現在、「地域の歴史やよさをキャラクター一等を使って物語にまとめる」というユニークな取組を行った、星野さんを始めとする編集委員の皆さんの実行力に、心から敬意を表します。

この物語は、「九合地区の秘密をわかりやすい形でまとめ、後世に伝えたい」という編集委員会の面々の熱き思いが結実したすばらしいものだと思います。できあがるまでの苦労のほんの一端を知っている私としては、その地道な努力とできあがった作品の質の高さに、改めて感動しています。

今後、私たち学校関係者は、子どもたちに、九合地区の伝統や歴史等の宝物を末永く伝え続けることが、膨大な時間を使ってまとめ上げた星野さんたちの努力に報いる唯一の方法だと思っています。

物語の完成に対し、お祝いを申し上げるとともに、有効に活用させていただきます。

太田市立中央小学校 校長 長谷川 正彦

身近な地域のよさを見つめ直すことにより、子どもたちが住んでいる地域に愛着と誇りをもつ心が着実に育まれます。地域と密着した教育活動を行うことは、学校と地域との協働による開かれた学校のあるべき姿として、重要視されています。

本校は公共施設や商業施設などが集まる市街地の中心部にあり、以前から校外学習等を通じて地域との連携がありました。子どもたちが社会の一員としての自覚をもてるよう、身近な地域学習を進める上で、「九合村物語」はとても大切な資料になります。

太田市立旭小学校 校長 福田 進

この本の特色は地域の方々の聞き書きを大切にしていること、学校でも活用できるように編集されていることです。児童のみなさんには、まずは自分の住んでいる地域の秘密（歴史）に興味をもっていただき、隣の地域や市全体、県、国、さらにはよその国の歴史へと興味・関心をひろげて行っていただければ幸いです。

また、ここにまとめられている聞き書きは、地域の歴史のほんの一部かと思えます。児童のみなさんのおじいちゃん、おばあちゃん、ご近所の方々に聞いてみると、ここに載ってない話があるかもしれません。それを記録して学級で発表したり、宝物として残しておくのもよいのではと思えます。

むすびに、地域に愛着をもたせ歴史好きにしてくれる本書の編集にたずさわった星野雅範さんをはじめとするみなさまのご労苦に深く感謝申し上げます。

九合村物語目次

・はじめに

作成の経緯	1
大正インタビューについて	2
各地区物語について	3
7つの秘密活用方法紹介	5

・口絵

現太田市町名区画図及び九合地区行政区区画図	7
旧九合全体航空写真	8
旧九合各地区航空写真	9
各地区7つの秘密写真	18

第1章 九合村について

九合村成立頃の様子	29
序	30
成立と役場	30
九合村と構成する各地区の関係	31
村長	31
解散式式辞	32
戦争	33
人口	34
道・区画	35
小学校とせんだんの木	36
祭り	36
神社	37
お寺	38
青年活動	38
自然環境と子どもの遊び	38
古墳	39
河川と用水	39
養蚕	40
国宝武人埴輪	40
各地区概要一覧表	41
各地区祭りと行事一覧表	43

第2章 各地区大正インタビュー

飯塚町	44
飯田町	54
新井町	63

南新井町	67
西矢島町	72
東矢島町	77
東別所町	85
内ヶ島町	93
内ヶ島町目塚	99
新島町	106
小舞木町	114

第3章 各地区7つの秘密の物語と秘密の地図

77の秘密リスト	123
飯塚町	124
飯田町	133
新井町	143
南新井町	152
西矢島町	163
東矢島町	172
東別所町	182
内ヶ島町	191
内ヶ島町目塚	202
新島町	211
小舞木町	220

第4章 各地区7つの秘密の基礎データ

飯塚町	234
飯田町	238
新井町	244
南新井町	248
西矢島町	251
東矢島町	255
東別所町	259
内ヶ島町	263
内ヶ島町目塚	267
新島町	270
小舞木町	275

・その他の資料

語り手の皆様の寄稿	280
文献紹介	285

はじめに

九合地区は、p 7 の地図にあるように、群馬県太田市の南東部に位置する。名称の由来は、明治 22 年（1889）に飯塚、飯田、新井、西矢島、東矢島、東別所、内ヶ島、新島、小舞木の 9 村が合わさって九合村を構成したことによる。その後、九合という地名は、昭和 15 年（1940）に太田町（現太田市）と合併した際になくなりこそしたが、現在においても九合行政センターが設置されていたり、小中学校（九合小、中央小、旭小、東中、旭中）の通学区が旧九合村の範囲をほぼ引き継いでいたり、その他各種活動が九合を単位に行われている。また、九合村のもととなった 9 村は、現在でも住所（町名）としてそのまま残っており、行政区としては、新井町から南新井町が、内ヶ島町から内ヶ島町目塚が分かれ、計 11 となっている。

私たちの九合地区を振り返ると、東日本最大の天神山古墳を擁し、国宝の武人埴輪の出土があり、奈良時代の土地区画制度である条里制の名残が見られるなど、古代から人々が暮らしを営んできた地域であった。そして、特別に大きな古墳、優れた埴輪は、恵まれた自然に支えられた、豊かな生活があったことを教えてくれる。

その後も、地域の先人たちは各地区各様の、多様な文化を花開かせた。神輿、獅子舞、獅子回し、弓引き、数珠まわし、経典、巨木、各種の伝承、石造物等々、誇るべきものがたくさんある。一方で、中島飛行機の拡大に伴い人口は膨れ上がり、町は大きく発展し、そしてその代償に、悲惨な空襲も経験した。この土地に刻み込まれた、悲喜こもごもの記憶を、遺産として後世に伝えていきたい。

作成の経緯

地域にはすばらしい歴史、文化があるにも拘わらず、それが古老の記憶の中だけにとどまり、若い世代に広く知られていない現状がある。そしてその記憶を持ったまま遠くへ行ってしまわれる。そんな思いの中、故郷新井町について、平成 20 年に「新井町見聞記」を作成し、その歴史を保存することを試みた。

それから数年が過ぎ、今度は歴史の「保存」とともに、「活用」に焦点を当てたものを作りたいと思った。特に子どもたちに、地域の今と昔がつながっていることを知り、好きになってもらうための種を贈りたいと。その場合、子どもたちは小学校という単位で生活しているのだから、新井という単位では狭すぎ、現在の小学校の通学範囲のもととなり、かつて存在した九合村という枠でまとめていくことがどうしても必要だと考えた。そして書き方であるが、活用を考えると、堅い文章ではなく、「物語」として子どもたち

に語り伝えられるものにしたい。そこから想起されたのが本書、「九合村物語」である。

九合地区区長会場で作成の希望を伝えたところ、ご賛同を得て、生涯学習推進協議会の活動として行うことを勧めてくださった。こうして同会の平成24年度の活動に位置づけていただいた。その後九合だより等でメンバーを募集したところ30代～80代の5人の九合地区住民有志と、群馬の歴史や文化を絵本などの形にして子どもたちに分かりやすく伝える活動をしている群馬大学教育学部家政教育講座田中研究室に所属する学生2人の計7人が集まった。そして同年4月から活動を始め、会議を重ねながら方針を定めつつ、九合地区3小学校の意向を伺いながら、調査、編集を行ってきた。平成25年度については太田市1%まちづくり事業に採択され、この予算によって本書が発刊されることとなった。

大正インタビューについて

私たちはまず古老の皆さんの記憶の中から、子どもたちに伝えるべきことながらを引き出させていたごとうことで、基礎調査として、平成24年夏に九合の各11地区（9大字＋内ヶ島町内の目塚地区＋新井町内の南新井地区）において、区長さんのご協力をいただき大正時代生まれの方々を中心にお招きして、「大正インタビュー」と題した座談会を開いてまわった。それはすなわち、平成24年現在での各地区における最長老級の方のお話を伺ったということとほぼ同義であった。実際いくつかの地区では、もはや大正生まれの語り手を見つけることができなかった。



大正インタビューの様子

11地区で総勢42名に及ぶ語り手へのインタビューを終えたとき、九合には本当に「宝物」といえるようなたくさんの貴重な歴史が散りばめられていたことを知り、驚き、そして語り手を通してそれらと対面できたことに感謝した。語弊を招く表現かもしれないが、ああ、聞き取りが間に合ってよかった、というのが正直な感想であった。もちろん、あと5年、10年早く行っていたら、さらに多くを教えていただくことができたであろう。しかし、今この時に、現在の古老からお預かりした物を大切にしたい。それらのうちのいくつかは、どこにも記されず、語り手のご記憶の中だけに存在していた貴重なものだ。また、今回の語り手の皆さんは、昭和15年に閉じた九合村の記憶をお持ちである。外見的には今の九合地区にその面影は薄くなったとはいえ、古老の中にはありありとその風

景が生きていた。現在の古老は九合村を知る最後の世代といえるだろう。

インタビューの記録は、本書にできるだけそのままの形で実名入りにて掲載している。この「大正インタビュー」は歴史の「保存」を中心としており、資料的価値として非常に高いものがあると考えている。

各地区物語について

本書における、「活用」のための部分である。大正インタビューとその後の追加調査から見えてきた情報をもとに、各 11 地区において、神社やお寺、祭り、戦争、地理など、目につきやすいもの、公的なもの、歴史的なもの、教育的なものなどから「7つの秘密」を設定した。これが本書の副題となっている、 $11 \times 7 = 「77の秘密」$ である。

この物語では、九合小にあるセンダンの古木、「せんだんさん」の使いである、九合の妖精「くーたん」と、中央小、旭小をイメージした小学生「チュート（男）」と「アーサ（女）」が、不思議なセンダンメガネをかけることで時にタイムスリップをしたり空を飛んだりしながら、それぞれの地区で7つの秘密を求めて探検していく。その際に、より親しみ深さを増すため、物語中に語り手の皆さんに実名と実年齢（平成 25 年末現在の年齢）付きで登場して頂いている。また、各秘密についてクイズを設定し、子どもたちの興味と理解を深めることを試みている。そして、それらの秘密には 1 枚ずつのカラー写真もしくはイラストを用意し、また実際に町を歩けるように各秘密が記された地図を地区ごとに作成し、掲載した。さらに、各秘密に対する裏付けとなる基礎データを第 4 章に掲載した。

なお平成 24 年度に、九合、中央、旭の 3 小学校の授業の中で、実際にこの物語の語り聞かせを行わせて頂いたところ、概ね先生方、児童達には好評を頂いた。実際、物語を聞いた後、地図を頼りに近所にある「秘密」の場所に行ってみたという子がいたし、また数ヶ月後に聞いてみるとまだ話の内容を覚えている子もいた。

本書の活用法について具体的に例を挙げてみる。

- ・ 学校の授業の一環に取り入れる（詳しくは次ページ以降に記す）
- ・ 地域の人が読み聞かせ活動として学校に出向いて本書を読み聞かせる
- ・ 先生方が九合地区を知り、子どもたちへ伝えるための資料として使用する
- ・ 「九合カルタ」の内容を積極的に取り入れてあるので、その資料とする
- ・ 家庭では親子、または祖父母と孫の間で会話の種としたり、実際に地図を見ながら町を歩く
- ・ 地域の育成会等の行事として、町探検ツアーを行う
- ・ いきいきサロン等の高齢者の集まりの中で、昔を懐かしんだり、再発見したりするた

めの資料として使用する

- ・ 各町内の歴史をさらに掘り下げて記録するための基礎資料として使用する
その他、様々考えられると思うが、本書がふるさと九合を好きになる子を増やし、住民の皆様のお役に立てることを切に願っている。

※大正インタビュー及び、各地区物語については、語り手の皆さん及び各地区区長、生涯学習推進協議会委員にチェックをいただいた上で掲載している。

※各地区を並記する際の順序については行政資料になった。

九合村物語編集委員 代表 星野雅範

参考：教育現場における各地区7つの秘密の活用方法紹介

九合村物語は、九合地区の歴史を伝えるために設定した「秘密」を子どもたちが知ることで、ふるさと九合地区が好きになる子どもを育てたいと思い、作成したものです。対象としては社会科で地域のことを学習する小学4年生程度を考えています。九合村物語が、ただ教えられるだけの教材では子どもたちの記憶にも残りにくいし、愛着を持つというところまで持っていくのは難しいのではないかと考えられます。そこで、九合村物語を基に、子どもたちによって、周りの人に秘密を伝えるという活動をいくつか提案します。

子どもたちによって秘密を伝えるということは、子どもたちがよく理解をしてから行うこととなります。調べ学習をすることで理解を深め、さらに児童による発表は他の児童も興味を持って聞くことができるのではないかと考えられます。下記の内容を活用のヒントにしていただけたらと思います。

《物語の流れに沿って行うもの》

① 劇

1つの地区を選び、九合村物語のストーリーと同じような内容で劇にして発表をする。秘密について調べ、物語の途中でナレーションとして取り入れる、実際に見に行つて秘密に見立てたオブジェのようなものを作り登場させる、役に合わせて恰好をアレンジする、小道具を使うなど工夫をする。

② ペープサート（紙人形劇）

1つの地区を選び、九合村物語のストーリーと同じような内容でペープサートにして発表をする。秘密について調べ、物語の途中でナレーションとして取り入れる。また、実際に見に行つて秘密をペープサートで示したり、登場するそれぞれのキャラクターを作り、メガネをかけるシーンで大きなセット変更をしたりするなどの工夫をする。

③ 絵本・紙芝居

1つの地区を選び、九合村物語のストーリーと同じような内容で絵本にして発表をする。絵本にする場合、会話だけではなく、登場人物の行動も書く必要がある。子どもたちが工夫しておもしろいストーリーを考えることもできる。作ったあと教室などに置き、いつでも見ることができるようにする。

《秘密だけを取り上げたもの》

④ 映写

プロジェクターや書画カメラ等を使って写真を見せたり、自分たちで描いた絵を映したりして発表をする。また、物語には沿わなくても、物語の内容を1つ1つの秘密のエピソードとして発表していくこともできる。

また、映像は背景として活用し、その前でペープサートを使って物語を伝える発表をすることもできる。背景は、秘密が変わるところで変えたり、メガネをかけるところや戦争のシーンで変えたり、地図を映したりすると、視覚的変化が大きくなりやすい。

⑤ 模造紙

秘密について調べたことを模造紙にまとめていく。そのとき、写真、地図、イラスト、インタビューなどを使いながら、より詳しい知識がわかりやすく、みんなに伝わるような発表をする。また、学年ですべての地区の模造紙を作成することができれば、みんなが見られるように掲示をすることができるし、またその先何年もそれを基にした学習を行うことができる。

⑥ クイズ

物語の中で出てくる疑問や、秘密の内容に関する知識をクイズにして発表を行う。疑問を解決するための調べ学習や、または昔の様子から推測できることを子どもたちが考えていくことができる。クイズも、言葉だけでなく、写真やイラストを使うなど工夫をして楽しくわかりやすい発表ができるとよい。

以上 群馬大学田中研究室 深谷晃世

群馬県太田市町名区画図



九合地区

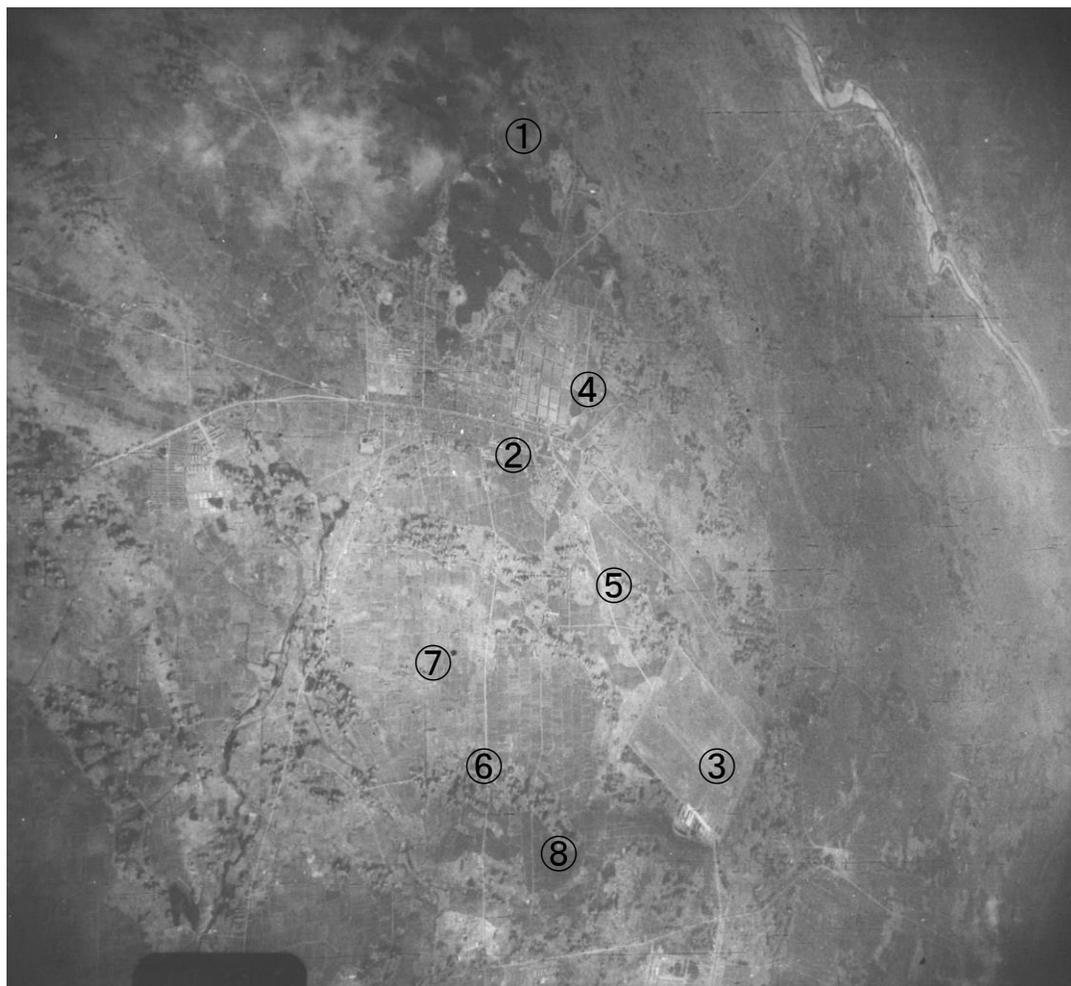
※行政区名の南新井町、
内ヶ島町目塚は、町名
としてはそれぞれ新井
町、内ヶ島町となる。



九合地区行政区区画図

平成24年3月末現在

九合地区全体(1942年3月23日撮影)



※確認する中で九合地区を撮影した最古級の航空写真

- ①金山
- ②太田駅
- ③太田飛行場
- ④中島飛行機太田工場
- ⑤専用道路
- ⑥熊谷県道(旧道のまま)
- ⑦中島住宅建設前の田畑
(緑町や住吉町がまだできていない)
- ⑧東矢島集落

飯塚(1947年11月1日撮影)



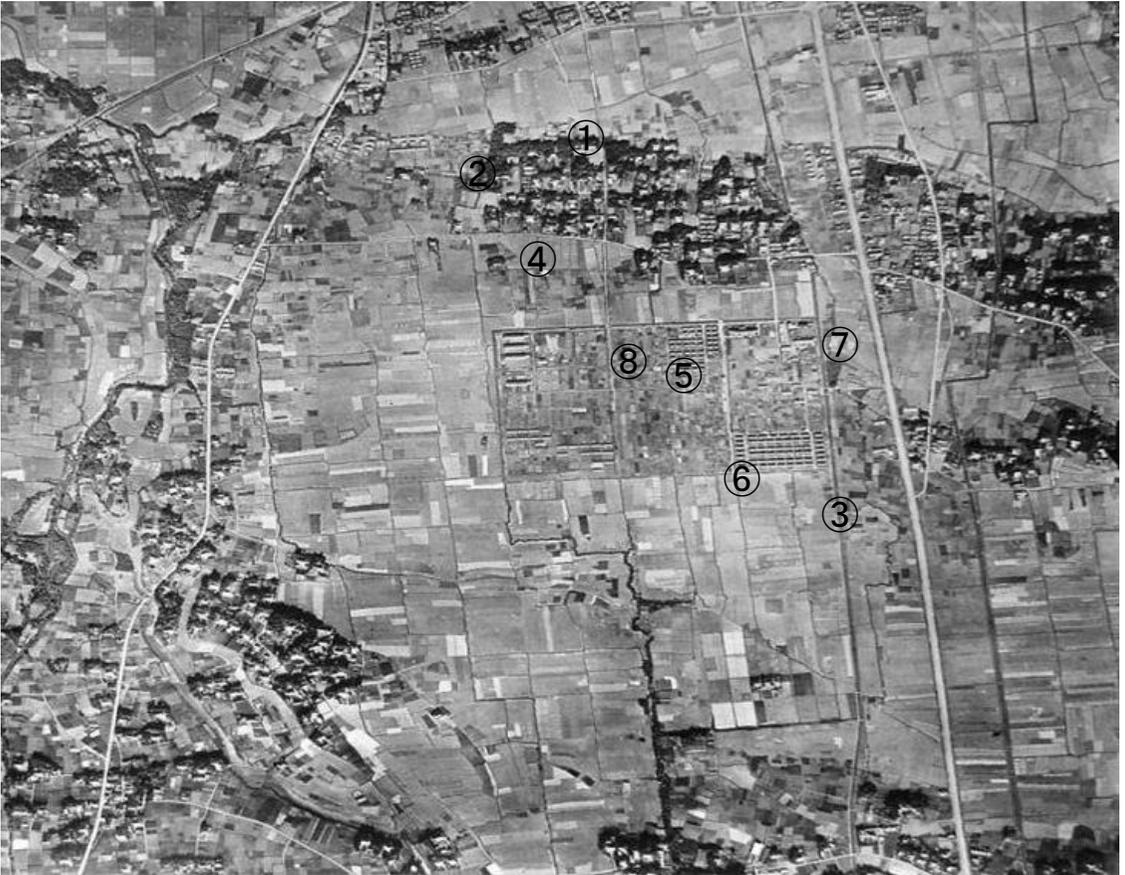
- ① ながら長良神社
- ② しょうせん正泉寺
- ③ 飯塚の幹線道路
- ④ (③の)クランク
- ⑤ 専用道路
- ⑥ 現国道407号線
- ⑦ 東矢島集落
- ⑧ 九合小学校

飯田(1948年2月19日撮影)



- ①雷電神社
- ②靈雲寺
- ③旧熊谷県道の道筋
- ④本郷
ほんごう
- ⑤在家
ざいけ
- ⑥四軒飯田
しけんいいた
- ⑦太田駅
- ⑧現中央小学校

新井(1948年2月19日撮影)



- ①八幡宮
- ②十輪寺
- ③八瀬川
- ④川の曲がり
- ⑤緑町
- ⑥住吉町
- ⑦いなづかやま ぼうくわかん ししゅう稲塚山と防空監視哨
- ⑧現市営住宅

西矢島(1948年2月19日撮影)



- ①赤城神社
- ②安楽寺
- ③八瀬川
- ④紫雲塚古墳
しうんづか
- ⑤現国道407号線
- ⑥東矢島集落
- ⑦高林の交差点
- ⑧旧三和工場
みわ

東矢島(1948年2月19日撮影)



- ①長良神社
- ②薬王寺
なかしんでん
- ③旧中新田集落
とおしんでん
- ④旧遠新田集落
- ⑤現末広町
- ⑥現南矢島町
- ⑦西矢島集落
- ⑧現旭小学校

東別所(1948年2月19日撮影)



- ①長良神社
こくじょう
- ②国貞寺
- ③東別所往還道路
ふるこおり
- ④古氷集落(現大泉町)
- ⑤現国道354号線
- ⑥太田飛行場
- ⑦飛行機格納庫
- ⑧アメリカ村

内ヶ島(1947年11月1日撮影)



- ①伊勢神社
- ②蓮光寺
れんこう
- ③天神山古墳
- ④女体山古墳
- ⑤専用道路
- ⑥館林県道
- ⑦小泉県道
- ⑧孫佐衛門の観音堂

新島(1948年2月19日撮影)



- えぶみ
- ①江文神社
 - ②新島の集落
(2ヶ所に分かれていた)
 - ③小泉県道
 - ④追分地蔵
 - ⑤専用道路
 - ⑥中島飛行機太田工場
 - ⑦太田駅
 - ⑧爆弾の穴(周辺に複数見られる)

小舞木(1948年2月19日撮影)



- ①円養寺
- ②地藏様の辻(③と④の交点)
- ③小泉県道
- ④飯塚へ至る道
- ⑤専用道路
- ⑥高射砲陣地跡
- ⑦飯田(本郷)集落
- ⑧九合小学校

松原の長良神社跡の碑



① 国宝武人埴輪



③ 正泉寺の天井絵

九合村役場門柱



② 九合村役場跡

明治十七年地図



現存するクランク

④ 飯塚の幹線道路

オオダネ跡



⑤ 飯塚の3つの池



⑥ ナカクルワ墓地の古椿



⑦ 九合小学校

せんだんの古木

飯塚町 7つの秘密



①雷電神社の雨降り石

実線部が現存



②旧熊谷県道の道筋

霊雲寺裏



③飯田の崖



天狗

④祇園祭りの女神輿



⑤祇園祭りの獅子回し



五色団子

⑥霊雲寺のお釈迦様像と花祭り



九合小から贈られた
せんだんの木

飯田町

7つの秘密

⑦中央小学校



①八幡宮本殿の
三つ葉葵の紋

京都伝来の獅子頭



②八幡宮の獅子舞



③十輪寺の地藏堂



④幻の天神様



⑤御庵稻荷古墳



⑥夜泣き様



⑦川の曲がり

この付近に爆弾投下される

新井町 7つの秘密

緑町

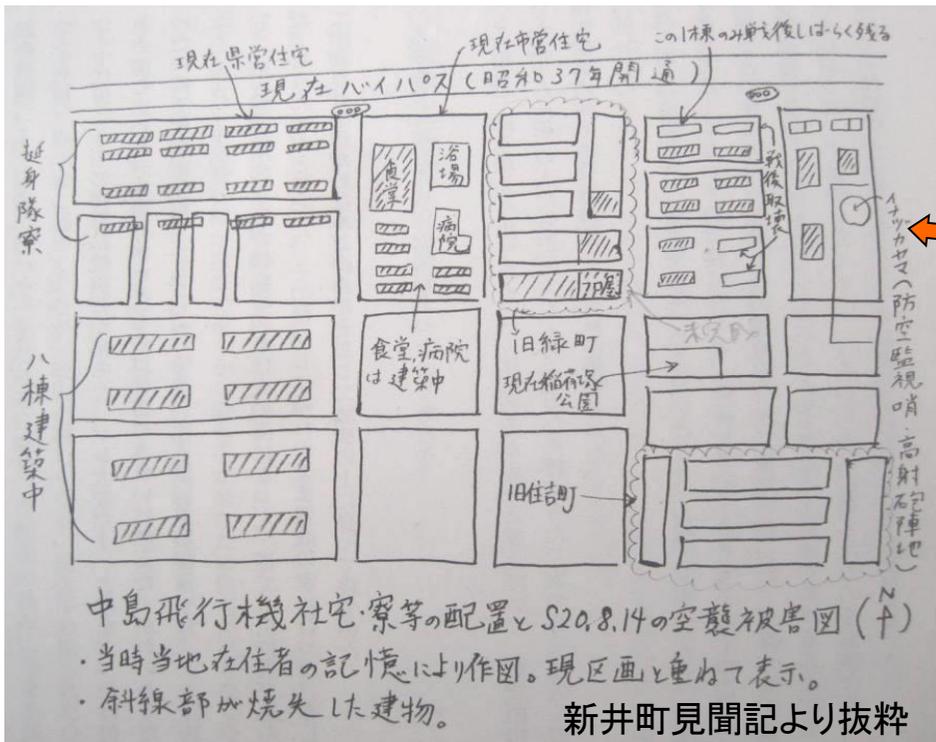


住吉町



南新井町 7つの秘密

① 緑町と住吉町 (昭和22年)



② 幻の稲塚山



③ 市営住宅と県営住宅

⑥ 九合最大の焼夷弾被害



建設中

⑤ 富士重工矢島工場



⑦ 南新井町集会所



赤城神社本殿

①赤城神社のムカデ伝説



②大杉の切り株



大人用

子供用

③祇園祭りのケンカ神輿



④神輿のふるさと元屋敷



西矢島
旧集落
原山

現国道3
54

明治十七年地図

⑤原山と三和工場



⑥紫雲塚古墳



開校100年
記念碑

西矢島町

7つの秘密

⑦不倦舎のあった安楽寺 22



①長良神社の獅子舞



②獅子舞の万灯



③お寺のふるさと元寺



④薬王寺の宝篋印塔



⑤薬王寺の抜け出し地蔵



⑥南矢島町と末広町

明治十七年地図



⑦旭小学校

西門そばのせんだんの木

東矢島町 7つの秘密



①長良神社裏の古墳

獅子頭をくぐるところ



②奇祭、獅子頭回し



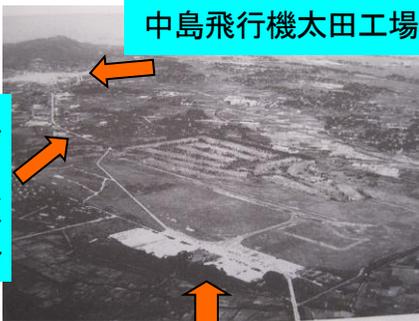
③往還道路



櫓

1949年

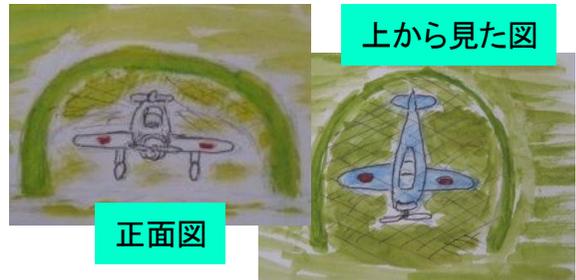
④国貞寺の八木節祭りと道具一式



中島飛行機太田工場

専用道路

⑤太田飛行場



正面図

上から見た図

⑥掩体壕



⑦アメリカ村の区画

明治十七年地図

東別所町 7つの秘密

旧東宮
旧西宮



①2つの伊勢神社



②伊勢神社の弓引き



③稲荷様(左)と八幡様(右)



地藏様

④カンカンナイト



⑤孫佐衛門の観音堂



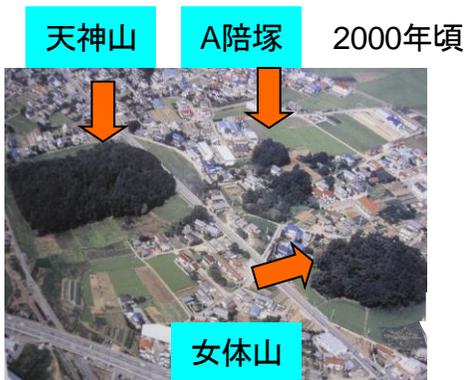
⑥県道の名残

⑦開校
100年
記念碑

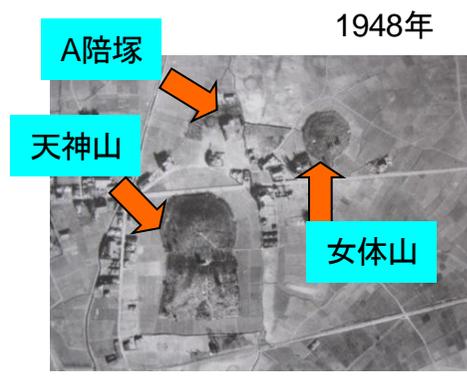


⑦開文学校のあった蓮光寺

内ヶ島町 7つの秘密



①天神山古墳



②女体山古墳



③天神様



④天神山古墳A陪塚



⑤目塚の高射砲陣地



⑥幻の浄土寺跡



⑦旧館林県道

内ヶ島町目塚 7つの秘密



①専用道路

富士重工



上部が破損している

②九合最大の空襲被害



③新島銀座と小泉県道



大吉庵

④観音堂と大吉庵



⑤江文神社の松



⑥一配森稻荷



⑦追分地蔵

新島町 7つの秘密

明治十七年地図



地蔵様の辻
小泉県道
飯塚への道

①2本の古い道



②小舞木の地蔵様

賀茂神社跡の石碑



③幻の賀茂神社



④円養寺の一切経様

初代梵鐘(昭和15年頃)



二代目梵鐘



平和への鐘の音ひびく円養寺

⑤円養寺の2つの梵鐘



⑥金比羅様

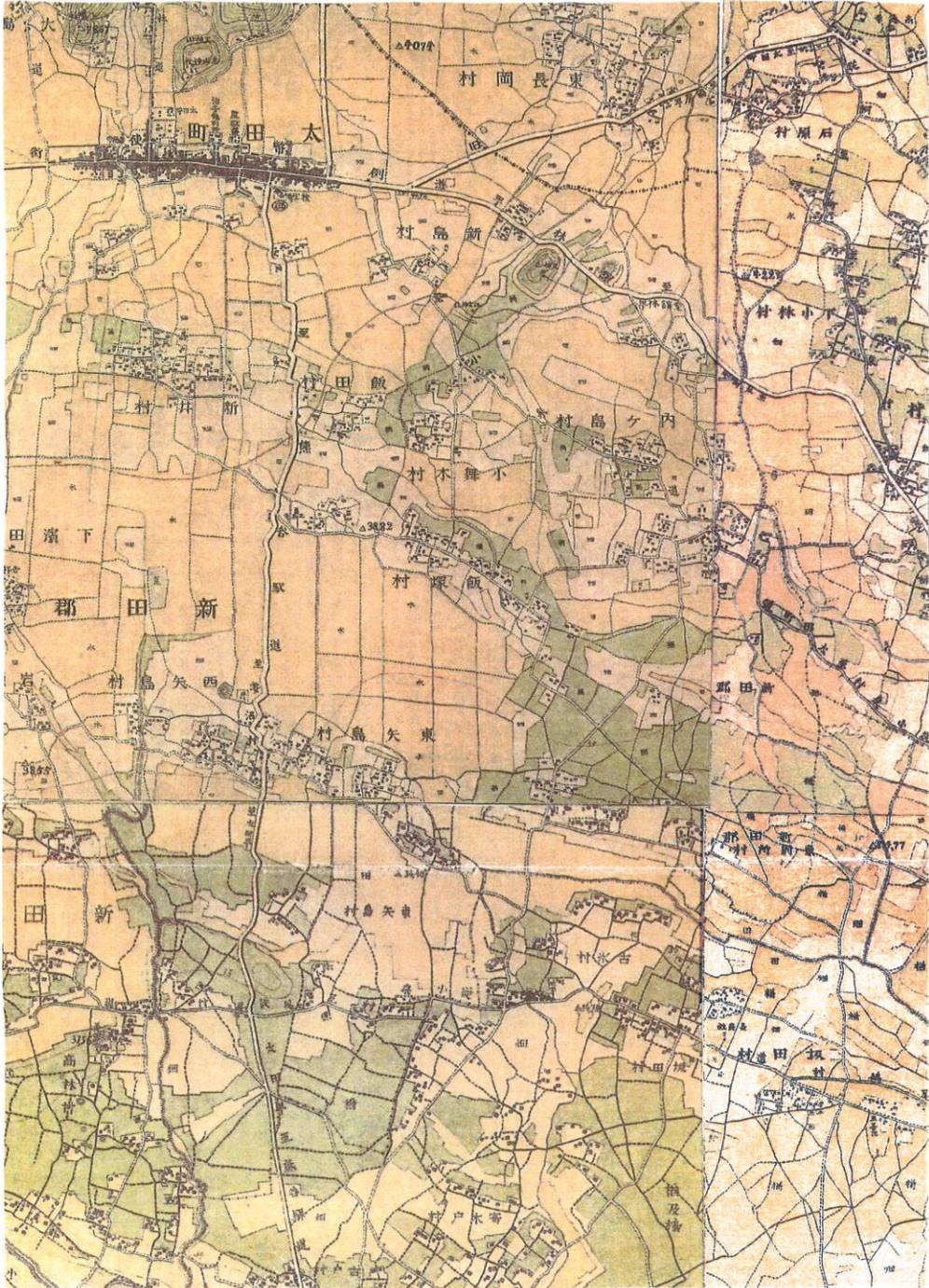


現九合6号公園

⑦小舞木の高射砲陣地

小舞木町 7つの秘密

第1章 九合村について



九合村成立頃の様子（陸軍測量局彩色迅速測量図：明治17年）

※4枚を貼り合わせたためつなぎ目で多少ズレが生じ、色が異なっている。

緑は林を表す。

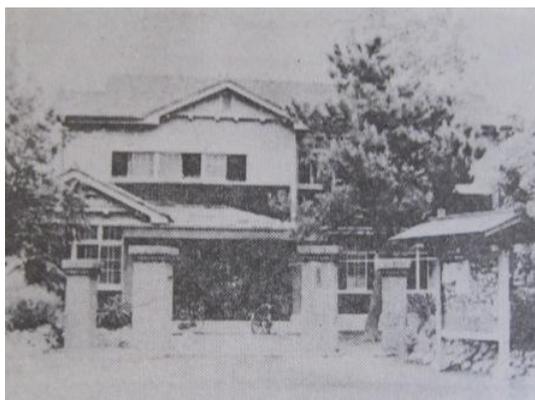
序

今回の大正インタビューおよび、追加の聞き取り調査をする中で得た九合地区全体の特徴、またはなかなか1地区だけを取り出したのでは分からない各地区間の比較について概略を記す。

成立と役場

九合村は、町村制の施行により、明治22年（1889）に飯塚村、飯田村、新井村、西矢島村、東矢島村、東別所村、内ヶ島村、新島村、小舞木村の9つの村が合わさって成立し、昭和15年（1940）に太田町と合併するまでの約50年間続いた。

九合村の成立前には、上記の9つの村は独立して存在していたが、明治11年（1878）、郡区村編成法が公布され、200



旧九合村役場

（昭和11年頃～15年まで役場として使用）

戸以下の小町村はできるだけ合併させる方針をとった。これにより、同12年（1879）時点では小舞木村連合（小舞木、新島、飯田、飯塚、東別所、内ヶ島）と西矢島村連合（西矢島、東矢島、岩瀬川、新井、下浜田）ができ、その後同17年（1884）には再編成により新田郡飯塚村連合と称し、後に九合村を構成する9村が連合を結んでいた。

太田町との合併時の九合村役場（写真：旧九合公民館の場所）は飯塚の長良神社の南西にあった。旧の役場はもう少し東方にあったが昭和11年（1936）頃に新築、移動した。詳しくは飯塚の資料を参照されたい。役場の新設について参考までに記すが、新島の古老によると、かつて太田駅の北まで新島の土地が広くあり、昭和9年（1934）の中島飛行機太田工場建設に際し土地を売却し、このお金で九合村役場を新設したと聞いているという。確かに役場と工場の建設時期は一致している。九合村役場は周辺の村役場と比べて立派であったことも、この件により資金が豊富にあったからではないか、とのことである。

ちなみに、二代目村長、飯田和五郎の孫嫁にあたる飯田ヤス子さんが伝え聞くとところによると、九合村成立当初は役場がなく、和五郎氏の自宅離れを解放して仮庁舎にしたといい、ヤス子さんもその建物を見たことがあるという。九合村という村名の発案も和五郎氏だと聞いているとのことである。

九合村と構成する各地区の関係

大正インタビューの内容から私たちが思ったことは、かつて九合は1つであったということである。九合村役場という中心があり、小学校は1つで地区の全員が集い、共に学び、共に遊び、卒業してからも青年団、消防団等の諸団体活動は九合を単位に行われていた。

その一方で、行政的には九合村になっていても、それを構成する9つの大字がかなりの独自性を持っていた。古老が単に「ムラ」といった場合、九合村ではなくそれぞれの大字を意味する。各大字は江戸時代以前からの集落であり、神社や寺、その祭り、水田の用水使用などは基本的に大字単位により運営されてきた。子どもの遊び場も各大字の神社やお寺の境内が多く、大字の子どもがチームを作ったの大字対抗の戦争ごっこというものも行われていた。九合小の運動会の大字対抗リレーではムラの威信をかけて競い合った。それだけ大字意識が高く、このレベルが重要であった。よって九合村物語を編むということは、必然的に大字ごとの物語を編んでいくこととなった。つまり、「行政組織としての九合村」と「9つの大字」という2つの枠組みの共存が九合村であったように感じる。

村長

九合村郷土誌（明治43年）に記されている歴代村長の名前と任期を記す。カッコ内には出身地を記したが、苗字や聞き取り等から判断してのものであり、正確な記録ではないので参考までとしていただきたい。

- | | | | |
|----|-------|------------|----------|
| 初代 | 山本多三郎 | 明治20年～ | (旧新田町綿打) |
| 二代 | 飯田和五郎 | 明治23年～ | (内ヶ島) |
| 三代 | 対比地幸吉 | 明治26年～ | (東矢島) |
| 四代 | 倉澤平次郎 | 明治41年～ | (内ヶ島) |
| 五代 | 大槻盛一 | 大正8年～ | (内ヶ島) |
| 六代 | 上原栄三郎 | 大正10年～ | (内ヶ島) |
| 七代 | 飯田藤一郎 | 昭和2年～ | (内ヶ島) |
| 八代 | 岡田熊吉 | 昭和10年～ | (飯塚) |
| 九代 | 星野勝太郎 | 昭和?年～昭和15年 | (新井) |

村長について、断片的であるが知り得たことを記す。歴代9人中5人までが内ヶ島出身者であり、その勢力の大きさが分かる。実際、人口も面積も9地区中で最大であった。ちなみに九合青年団の団長も内ヶ島勢が占めていたと古老に聞いている。初代の山本村

長は選挙ではなく官選だったという。「九合小百年のあゆみ」（九合小学校）二代目飯田和五郎家では、和五郎氏が初代村長だったと伝えられており、これは九合村住民から選挙で選ばれた初の村長、ということであると考えられる。

四代目の倉澤平次郎氏の曾孫、星野貴美代さん（旧姓倉澤）が聞いている話では、平次郎氏は立派なひげをたくわえ、「ひげの村長さん」と呼ばれた。質素儉約を旨とし、あえて派手なものは身に着けず、家の周りも飾り立てなかった。会議で前橋に行く用事があるとき、当時の村長であれば人力車を使うのが普通であったが、歩いて伊勢崎まで行き、そこから電車に乗って行った。平次郎氏の葬儀は内ヶ島の蓮光寺で行われたが、たくさんの方が参列し、九合小の小学生も大勢来たという。

九合村時代は、自治体の長である村長と、村民や小学生との距離は今よりずっと近かったのであろう。九合小の卒業式の集合写真では、村長も一緒に写っている。

最後の村長である星野勝太郎氏は出身地新井では「かつつあん」と呼ばれ、周囲から慕われていた。九合小学校にある昭和16年に作られた二宮尊徳像の背面には「建築委員長 星野勝太郎」の名が見られる。

九合村解散式々辞

この資料は、旧九合村役場の取り壊しの際に偶然発見された貴重なもので、原本は美しい筆書きである。太田市史等には出ておらず、今回初めて活字になったと思われる。

本日茲に九合村解散式を挙^こ行するに当たり所懐の一端を述^こぶるの機会を得たるは誠に欣幸とする所なり。

顧るに本村古への沿革は^{つまびらか}審ならざるも康和の頃次部大輔源義国^ま之を所管し其の嫡男大炊介義重始めて新田の姓を名乗るに至り子孫相伝へて所領す○来新田六郎義貞館林城主榊原式部大輔康政等幾多の変遷を経、五代將軍綱吉公に及びて旗本の領地となる。更に明治新政以後を考ふるに明治元年岩鼻県同四年栃木県同九年群馬県の所管となり明治十七年飯塚村外八ヶ村連合して戸長役場を飯塚に置き引続き明治二十一年（注：二十二年と思われるが原文のまま記載）四月町村制の発布と共に九合村と称し戸長を村長と改め以って今日に及べり。其間先人の努力と諸君の奮斗とは自治に産業に教育に経済に飛躍的發展を遂げ以って今日の盛況を見るに至れり。然るに最近軍事工業の勃興と中島工場の拡張に伴ひ全国各地より雪崩れ込む職工により農村は一躍工業都市と化し人口数十万を数ふる大新田市の建設も將に近からんとする時其の中核をなす吾が九合村も勢

九合村解散式々辞
本日茲に九合村解散式
を挙行するに當り所懐
の一端を述ぶるの機会
中略
てて式辞とす
昭和五年三月三十日
九合村長
星野勝太郎
式辞原本

赴く所安如たり得ず遂に其の一着手として太田、葦川、沢野と合併の議起ころや挙村一体欽然として之に賛意を表し愈々皇紀二千六百年四月一日を期し之が実現を見るに至れり。勿論今回の解散は大新田市建設の前提要件たる発展的躍進的解消にして前途の繁栄に思ひを致せば誠に祝福に堪へざるもの有りと雖も一面村民としては古き歴史と貴き伝統を考ふる時うたた感慨に堪へざるものあり。

然りと雖本村将来の発展を考ふるの時合併によりてこそ始めて真の大成を遂げ本村永年の歴史伝統を発揮し得るものと信ず。此意味に於て進んで合併に協力すると共に将来の伸展を祈って止まず。

茲に九合村解散式に当りて一言蕪辞を述べて式辞とす。

昭和十五年三月三十日 九合村村長 星野勝太郎

(旧漢字は現代のものに直した。読みづらい部分には句読点を打った)

戦争

今回の調査では太平洋戦争のことに焦点をしぼった。九合と戦争というと、中島飛行機を抜きにしては語れない。昭和9年(1934)に、太田駅北に中島飛行機太田工場が建設された。このとき、新島の土地も買収の対象になったという。その後、昭和16年には新島、小舞木、内ヶ島、東別所を通り、専用道路が開通。同年太田飛行場も開設。その際にはそれぞれの地区において農地や山林が強制的に買い上げられた。

星野村長の解散式式辞にもあるが、中島飛行機太田工場の開業により多くの人たちが全国から流れ込み、人口が急増した。住宅が足りず、多くの農家で納屋を貸したり、貸家を新築したりした。特に、太田工場と隣接していた新島はまさにベッドタウンとなり一気に開発され、小泉県道に沿って新島銀座と呼ばれた商店街が形成された。

九合には2か所の高射砲陣地が造られた。1つは目塚を含む地域(中心は下小林)、もう1つは小舞木南部であった。この小舞木の陣地が構築されるまでの1年弱(昭和16年8月～)、九合小の旧校舎が兵舎として使用された。(九合小学校百年のあゆみより)

中島飛行機という軍需工場があったことが、戦時中九合地区に悲惨な空襲を招いた。代表的な空襲は3度で、まず昭和20年(1945)2月10日の太田工場を狙った空襲。このとき、工場敷地からそれた爆弾が新島や目塚、小舞木に落ち、九合小の児童も犠牲になった。次に4月4日未明の、太田駅が狙われた空襲である。このとき、飯塚、新井、西矢島、東矢島、小舞木などに被害が出た。最後は終戦前夜、8月14日の晩の空襲である。現南新井町にあった中島住宅や挺身隊の寮を狙って大量の焼夷弾が投下され、たくさん家が燃えた。結局終戦までに九合9地区の全てが空襲の被害を受けている。戦争については「戦渦に生きた子どもたち」(小林ふく著)に詳しい。

人口

表に示すように、九合地区の人口は増加を続けており、明治10年（1877）に2,388人だったのが、平成25年（2013）現在では10倍以上の25,822人となっている。地区別でみると、昭和10年（1935）から33年（1958）の間に、小舞木で3倍、新島で4倍、飯田では5倍に急増している。これは中島飛行機の影響が大きいと考えられる。その後、区画整理が早かった飯田、新井、新島、小舞木などでは人口が大幅に増えたが、開発が一段落し、また高齢化などのためか近年減少に転じている。一方、後から開発された飯塚、西矢島、東矢島、内ヶ島、小舞木などでは増加傾向にある。

地区別人口

	飯塚	飯田	新井	南新井	西矢島	東矢島	資料
明治10年	297	186	352	0	162	368	郡村誌
明治43年	523	354	556	新井に含む	328	674	九合村郷土誌
昭和10年	464	404	539	新井に含む	378	674	〃
昭和33年	894	2045	956	1093	454	892	市民課
昭和50年	2044	2566	1483	1328	641	1356	〃
昭和60年	3043	2591	1970	2008	772	* 1074	〃
平成10年	3406	2226	1933	2543	1095	1702	〃
平成25年	3766	1712	3766	2322	1151	2893	〃
面積(段)	1236	694	937	新井に含む	784	1554	郡村誌

1段=991.7㎡ *南矢島町分が分離したため減少したと思われる

	東別所	内ヶ島	目塚	新島	小舞木	九合全体	資料
明治10年	236	479	内ヶ島に含む	161	147	2388	郡村誌
明治43年	462	796	内ヶ島に含む	230	269	4192	九合村郷土誌
昭和10年	426	814	内ヶ島に含む	453	242	4394	〃
昭和33年	597	791	336	1791	799	10648	市民課
昭和50年	1855	1272	717	1849	1265	16376	〃
昭和60年	3134	2880	内ヶ島に含む	1864	1881	20143	〃
平成10年	4134	2023	1713	1620	2115	24510	〃
平成25年	3716	3013	1766	1682	2050	25822	〃
面積(段)	841	1648	内ヶ島に含む	790	423		郡村誌

※面積については現在のデータは見つからず、明治10年時点でのものであり、その後、

中島飛行機や富士重工の工場建設で大きく減少した地域があり、また道路造成や区画整理でも変動している。

道、区画

区画整理が終わってから生まれた世代にとって、車の通れるような道は限られていたということは想像しづらいが、各地区で「昔は道がなかった」という話を聞いた。地区の中の幹線道路、または地区と地区をつなぐ道があり、そこを歩いて人々は往来した。例えば新井では南北と東西に1本ずつの大通りがあったし、小舞木には新島から飯塚へ至る南北の道と、南東の小泉へ至る小泉県道があった。飯塚や東別所では明治以前からの地区内の幹線道路がほぼそのままの形で残されている。

有名な日光例幣使街道が、九合村の北端、新島を通過していたことはあまり知られていないかもしれない。この道と古河往還（館林県道）の分岐点も新島地内であり、かつてここに立っていて、現在太田市の文化財に指定されている道案内地蔵（現在は東本町）も新島内にあった。

九合地区を貫通する道として、熊谷県道（妻沼県道）があり、飯塚、飯田、東西矢島を通る。この道は戦争中に拡幅、直線化され、まだ砂利道ではあったが現在の国道407号線のもととなった。この拡幅・直線化される前の道筋が現在も飯塚と飯田に残されているのには歴史のロマンを感じる。詳しくは飯田の資料に記した。

他に九合を横断するものとして、例幣使街道から別れ、新島、小舞木を通り、内ヶ島を抜けて小泉へ至る小泉県道がある。この道筋も途切れながらも残っている。特に、区画整理で碁盤目状になった小舞木の中にわずかに残されているのは興味深い。

また、戦争中に有無をいわず通された中島専用道路も九合の歴史に大きく関わっている。太田工場から新島、小舞木、内ヶ島と通り、飛行場へ接続した。現在は公園道路と改称されているが、戦争中ここを軍用機が引かれて行ったということはなかなか想像できない。当時、近所の住民はかなり迷惑をこうむったようで、道の向こう側にある田んぼに行きたくても、飛行機が通過するときは通せんぼになってしまった。新島では、昭和30～40年代の区画整理において、この専用道路が区画割りの基礎となり、現在にも影響を与えている。詳しくは新島の資料に記した。

また昭和初期を中心に九合各地で「救済道路」と呼ばれる道路が作られた。これは昭和恐慌のさなか、農家らのための公共事業であったようだ。確認する中では、飯塚、飯田、内ヶ島がある。主に九合小への通学路を整備したようにも感じられる。当時としては珍しい、広くて真っ直ぐの道が出来た。飯塚ではこの工事の際に、後に国宝に指定される武人埴輪が発掘されたと伝えられている。

九合地区の土地区画整理として、大きなものは2つ挙げられ、1つ目は飯塚、飯田、西矢島、内ヶ島、新島、小舞木の全部または一部が対象となった「九合土地区画整理」（昭和37～45年頃）であり、2つ目は新井の北部が対象となった「浜町新井土地区画

整理」(昭和 45～54 年)であった。これにより農村然としていたものが基盤目状の市街地となった。(区画整理一覧については太田市史通史編近現代 p.1011 にあり)

小学校とせんだんの木

かつて九合地区に小学校は九合小しかなかったので、九合の子はみんなここに通った。よって友達も九合地区中にいることになり、子どもたちは旺盛に遠くまで出かけていった。ある昭和初期生まれの方(女性)が、「昔は友だちのところを渡り歩いて、九合中^{じゅう}をかけめぐっていました」とおっしゃっていたのが印象深い。

その後、児童の増加に伴い、昭和 52 年(1977)に中央小、59 年(1984)に旭小ができ、九合の児童は 3 校に分かれて通うことになった。ところで、九合小に古くからあるせんだんの古木は九合全体のシンボルツリーといえるが、中央小ができる時にはその子どもが贈られ、今では玄関前に立派に枝を広げている。しかし旭小について、西の塀際に石の枠の中にせんだんの木が植えられているのだが、これが九合小由来のものであるかどうか資料もなく、当時を知る人とも出会えず不明となっている。とはいえ旭小の命名にあたり、「せんだん小学校」という案も出たくらいであるから、九合小のせんだんにちなんで植えられたことは間違いないと考える。いずれにせよ、せんだんの木は 3 小学校を結ぶ架け橋といえるだろう。

ちなみに、小舞木町の円養寺に植えられている数本のせんだんの木も、九合小のせんだんの子どもだそう。このように、九合小のせんだんの子どもたちは、九合の各所に広がっているのかもしれない。

※小学校について、詳しくは各地区での説明を参照。

祭り

大正インタビューにおいて、祭りの話になると、古老たちの顔は輝きだした。祭りは基本的に各地区に分かれて行われており、地域の中の大切な行事として古くから継続されてきた。各祭りは、確認する限り、もれなく神社またはお寺(お堂)と関係しており、神仏がなければお祭りが始まらないというほどである。娯楽の少ない時代、祭りは住民にとって待望の日であった。嫁に行った娘も、地元の祭りの日には実家に帰ってゆっくと過ごしたという話を各地区で聞いた。一方、嫁いできた嫁にとっては、ごちそうを用意したり客をもてなしたりしなければならず、逆に忙しい日でもあった。

九合地区の伝統芸能としては、新井八幡宮および東矢島長良神社の獅子舞が挙げられ、祭りの中核としてなくてはならぬものであり、現在まで継承されている。神輿について、今でこそ他の地区でも作られているが、古くからあったのは確認する限り飯田と西矢島

のみである。しかし、両神輿は対象的で、飯田は女神輿などといわれ静かに担いで進んだが、西矢島は怪我人続出の暴れ神輿であった。

珍しい祭りとしては、東別所の獅子頭回しがあった。獅子頭の入った箱を担いで各家を回り、家の者がその箱をくぐるとご利益があるといわれた。小舞木の円養寺では、江戸時代から伝わる一切経というお経を、送り盆の日に住民総出で団扇で扇いで虫干しをするという行事もあった。その他にこれといったお祭りのない小舞木では、この虫干しがある意味では祭りの要素を持っていたのかもしれない。

神事、仏事としては各種あるが、内ヶ島伊勢神社の弓引き、内ヶ島キタツバラ地区のカンカンナイドという数珠回し、新島地区の観音様の祭りなどが挙げられる。

祭りは各地区で行われていたと冒頭に書いたが、子どもたちが自分の地区以外の祭りに出かけていくことは珍しいことではなく、他地区の獅子舞や神輿、八木節を見に行く、ということは普通に行われていたようだ。

その他、ここに書ききれない数多くの祭りがあったが、これらは各地区の資料を参照していただきたい。

神社

神社やお寺は各地区の要であり、その行事や祭り、信仰心によって人々の絆が強められていたし、子どもたちにとっては境内が遊び場、成長の場となり、郷土愛をはぐくむ格好の場所であった。ところで神社の拝殿は大体の地区で昭和に建て替えられているが、奥にある本殿については、ほとんどの地区で明治以前の建物がそのまま保存されているようである。地域の要である神社のその中心となる建物で、まさに地域のヘソともいえる。本殿というものをもっとしみじみと眺めてもよいのかもしれない。興味深いのは小舞木に存在した賀茂神社や、飯塚にもう1つあったマツバラグルワの長良神社が、飯塚の長良神社境内に移転、保存されていることである。国の指令により、神社を合併せざるを得なかったわけであるが、幾世紀にもわたり信仰してきた地区の神社の本殿を取り壊してしまうということは、どうしても当時の村人たちにはできなかったのであろう。建物の大きさとしては、やはり九合で唯一、郷社の社格にあった新井八幡宮が最大と思われるが、どれが一番というのではなく、どれもがそれぞれに、みんな違ってみんなすばらしい。多くは上屋で覆われていて普段見ることはできないが、特徴的なものとしては、西矢島の赤城神社本殿に描かれたムカデ絵などが挙げられる。

神社に至る参道付近に手洗い用の池があったという証言や言い伝えがいくつもあり、興味深い。これまで、飯塚の松原長良神社、新井八幡宮、内ヶ島の伊勢神社の東宮、西宮、目塚の天神社で確認している。

お寺

お寺については、火事による被災が非常に多い。今回の調査で確認しただけでも飯塚、新井、東矢島、東別所、内ヶ島、内ヶ島町目塚、新島、小舞木と半分以上の地区で火災の言い伝えがあり、内ヶ島町目塚と新島では火災以来お寺がなくなってしまったと伝えられる。また飯塚、東矢島、小舞木では火災により場所を移したという伝承がある。その他特筆すべきこととして、飯田、新井、西矢島、東別所、内ヶ島（地蔵様、観音様）、内ヶ島町目塚、小舞木、新島（観音様）では、大小様々ではあるが、お寺やお堂を中心とした祭り等が古くから行われ、各地区住民同士の信仰や娯楽の場となってきた。特に、霊雲寺（飯田）の花祭り、十輪寺（新井）の地蔵様の祭り、国貞寺（東別所）の八木節祭りでは、地区を越えて近在からも見物客や参拝客が集まった。

青年活動

九合に限ったことではないが、かつては地域において、青年の役割というものがあった。九合青年団が組織され、その分団として、各地区にも青年団があった。各種ボランティア活動を行い、戦地へ慰問袋を送ったりもした。

各地区の青年団は、祭りと関係していた。新井で十輪寺の地蔵様の祭りを、東別所で国貞寺の八木節祭りを主催したのは彼らであった。小舞木では辻の地蔵様の縁日に団子を用意して参拝者に配った。消防団も九合というレベルで組織されていた。

自然環境と子どもの遊び

九合地区は非常に自然が豊かだった。明治末発行の九合村郷土誌を見ると、多様な動物、鳥類がいたことが分かる。昭和中期になっても虫が飛び交い、田園風景が広がっていた。また九合各地にヤマと呼ばれる平地林があった。飯塚ではキタヤマ、シモツパラ。新井では天神ヤマ、新田ヤマ。小舞木、内ヶ島では房塚ヤマ。西矢島では原ヤマ。その他、名前のついていない多くの林があり、これらの林は主に農家が薪を取るのに使用された。電気やガスのない時代において、煮炊きや風呂には薪が必須であり、それらを自給するための林が必要であった。林を持たない人は、金山に松葉をさらいに行ったりもした。それら林の多くは戦争中に切り開かれ、農地になったり軍需工場や飛行場が作られたりし、現在では面影すらない。

子どもたちは自然の中で思い切り遊んでいた。上記のヤマでカブトムシやクワガタを取ったし、また川や池には魚がたくさんいて、子どもたちは魚とりを楽しんだ。ウナギやナマズも豊富に取れたという。用水路の堰で水浴びをするということも、子どもたちの人気の遊びだった。桑畑でドドメ（桑の実）を食べることも各地区共通で、これは子

どもたちのごちそうだった。この話をする時は古老の顔がほころんだ。また、多くの地区で神社やお寺の境内が子どもたちのたまり場になっていた。また神社やお寺の祭りでは多くの場合、子どもたちはお菓子をもらえたり、役割が与えられたりしており、地域で子どもを育てる場となっていた。

遊びの中で特筆すべきこととして、旧暦 10 月 10 日に行われた十日夜とおかんやのワラデッポウがある。稲ワラで自作した取っ手のある棒状のものをワラデッポウといい、ワラデッポウの歌を歌いながらこれを地面に叩きつけて遊ぶ行事であるが、この日に地区間での子どもたちの戦争ごっこのようなものが各地で行われた。確認する中では、飯田と飯塚、飯塚と小舞木、内ヶ島と小舞木、西矢島と東矢島、新井と浜町、東別所と古氷の間で行われ、子どもたちにとって楽しみな日であった。

古墳

東日本最大の天神山古墳を始め、九合地区にはかつてたくさんの古墳があった。昭和 13 年（1938）発行の上毛古墳総覧ではすべての古墳に番号がつけられ、九合地区内に 77 基確認されている。しかし、戦争に関する開発や戦後の区画整理等で急速に姿を消し、残っているものはわずかである。私たちが確認しているものとしては、新井に、御庵稲荷古墳（九合第 20 号墳）、わずかな高まりとして、八幡宮裏の古墳（同 21 号墳）。西矢島に紫雲塚古墳（同 26 号墳）。東別所に長良神社裏の古墳（同 61 号墳）。内ヶ島町目塚に、A 陪塚（同 67 号墳？）、女体山古墳（同 68 号墳）、天神山古墳（同 69 号墳）と、わずか 7 基である。1000 年以上の長きにわたりその場所に存在してきたものが、この数十年間で実に 9 割以上が消失してしまった。時代の流れとはいえ、残念なことである。逆に言えばそれだけ現在残っている 7 基は貴重なものであるといえる。

河川と用水（町矢場両堰土地改良区監修）

九合地区の水田用水は、元をたどれば渡良瀬川から引いているが、直接的にはその支流である八瀬川（四ヶ村用水しかむら）、七ヶ村用水しちかそん）、休泊堀（川）の 3 つを利用している。四ヶ村用水は八瀬川を利用し、飯田、新井、西矢島、浜町の 4 地区が使用したことからの名があるが、2013 年現在、浜町には水田耕作者がなく、実質は 3 地区で使用している。

七ヶ村用水は九合地区北西の新観音堰から始まる用水で、内ヶ島、新島、小舞木、飯田、飯塚、東矢島、東別所と流れるが、以上の 7 地区が使用することからの名がある。

休泊堀は市内北部の毛里田地区から始まり、大泉へと流れていく水路で、大谷休泊（1521～1578）が掘削させたことからその名がある。（内ヶ島まではそれ以前から水路

があったが、休泊によって修繕された) 九合地区では内ヶ島がこれを利用している。昭和 16 年に旧太田飛行場ができたことにより工場敷地に沿って曲げられている。以上 3 用水とも、江戸時代以前からの古い水路である。

養蚕

九合地区では古くから大変養蚕が盛んであった。(例えば「太田市農協三十年史」の p 814「九合地区と養蚕」を参照)しかし、繭販売価格の下落や高齢化等により、養蚕農家は減少を続け、平成 24 年、九合地区(内ヶ島町目塚)で最後まで養蚕を続けていた大槻妙治さん(昭和 4 年生まれ)、美智子さん(昭和 6 年生まれ)夫妻がおやめになったことで、ついに九合地区から養蚕農家がなくなった。美智子さんは、「若ければもっと続けたかった。養蚕を続けていたおかげで県内の養蚕農家の集まりに出て、色々なところに友達ができてよかった。」とおっしゃっていた。

国宝武人埴輪

詳しくは飯塚町の秘密を参照していただきたいが、ここに改めて、九合地区から国宝が出土しているということを記しておきたい。飯塚町から出土した武人埴輪は国宝として指定されている全国でも唯一の埴輪である。また、群馬県には国宝が 1 つもなく、国宝が出土している地域というのは大変稀有である。



九合を構成している各地

項目 地区	歴 史		
	地区名称初出時期とその文書、及び解説など		
飯 塚	鎌倉時代	「関東下知状 (長楽寺文書)」：1259 年	“上野国邑楽御厨飯墓郷”の記載がみられ郷” (1455 年)などの名称も現れる。名称を盛った形の古墳に由来するとの説があるがあり、この地が早くから開かれたことを
飯 田	室町時代	「上野国新田庄 知行分目録」：年不詳	“飯田郷”とあり、新田一族里見氏系の鳥とが記録されている。名称由来は不詳だが名ではないかとの説がある。
新 井	室町時代	「岩松持国知行分注文」 ；年不詳	足利成氏から受けた左記文書に“〈ゆら〉”は不明だが、別名“荒居”。新田庄を開いたの次男覚義が居住し、“荒居禪師”と称した時代には、“新田領新井村”と呼ばれた。
南新井	平成時代	—	昭和 51 年に新井から分離し一時期“錦町”新井から分かれた南の地ということで、現
西矢島	安土桃山時代	小田原北条氏直の書状 ：1584 年	氏直が小泉の富岡氏に宛がった所領の 1 つと記されていて、この頃には矢嶋村が東西す。矢は谷に通じることから、低平な湿地島(集落)というのが“矢島”の地名由来と
東矢島	室町時代 (矢島として)	「新田庄内惣領知行分 郷々公田百町注文」 ：1404 年	“浜田郷 矢島村”とあり。新田庄内にあったが、「長楽寺系図」に新田政義の三男矢嶋ており、当地名が苗字の由来とすると、とお矢嶋村は、その後 2 つにわかれ、当地はたという。
東別所	室町時代	「新田庄内惣領知行分 注文」：1404 年	所領の 1 つとして、“由良郷 別所村”と記別荘の意から変化した名称とする説がある推定され、もとは別所と称したが宝泉別所前後に「東」を冠したと言われている。
内ヶ島	南北朝期	「西内島注文」：1343 年	慶応 4 年、(1341)佐貫江口又四郎入道に「内西内島村を与えられたと記されている。分割されたい。地名の由来は不詳。
目 塚	江戸時代初期	—	江戸時代初めころは、内ヶ島と目塚の 2 村 3 年(1650)の検地の折に合併され、拡大しこの由来は不詳。
新 島	鎌倉時代	「岩松時兼讓状」 ：1262 年	時兼が娘「とち御前」に宛てた土地讓状に「さいけ(在家)とも」と記された史料が残ったには、“せんざい(前裁)郷；旧尾島町のうの記載があるが、これらが現在の新島を指不明。
小舞木	室町時代	「岩松持国知行分井闕 所注文案」；年不詳—	“小舞木郷”との記載がある。別名“虎舞由来は不詳であるが、藤原長良が国司としし竜舞賀茂神社を創建した(861 年)際、四を立えた木(場所)に由来するとの説がある。
注記	*1884 年、飯塚・飯田・新井・西矢島・東矢島・東別所・内ヶ島・新島・小舞木の 9ヶ村が合併し、この地に由来する。 *地区の記載順序は行政資料に準拠した。また、各地区の人口・世帯数は、平成 25 年 4 月現在の世帯である。 *地区の古い歴史に関しては、主に「群馬県地名大辞典(角川日本地名大辞典 10 群馬県)		

区概要（歴史と現在の姿）一覧表

	現在の姿						
	人口	世帯数	公園(500㎡以上)	小中学校区		寺・神社(旧村社以上)	
る。その後、“いゝつかの 亦由来は不詳であるが、飯 る。奈良時代の条里制遺構 を示している。	3766	1544	九合7号公園 運動公園	九合小 旭小	東中 旭中	正泉寺	長良神社
鳥山式部の所領であったこ が、飯塚と対比している地	1712	805	中央公園 九合1号 2号,4号公園	九合小 中央小	東中	霊雲寺	雷電神社
荒井郷”とある。名称由来 と新田義重の3代後裔義房 たと言われる。その後江戸	1751	841	御庵公園 高田公園	中央小	東中	十輪寺	八幡宮
”と称したが、平成23年 現在の名称に変更された。	2322	1076	稲荷塚公園	九合小	東中	—	—
つに“新田領之内西矢島” 西に分かれていたことを示 地(水田)の中に形成された と推定される。	1151	518	—	旭小	旭中	安楽寺	赤城神社
った浜田郷内の地域であつ 鳥三良(三郎)信氏と記され 起源は鎌倉時代となる。な は一時邑楽郡佐貴庄に属し	2893	1099	ひまわり公園	旭小	旭中	薬王寺	長良神社
記されている。本庄由良の る。東別所も追加開墾地と 所と区別するため明治維新	3716	1555	東別所公園 仲よし公園 西浦中央,東公園	旭小	旭中	国貞寺	長良神社
上杉憲顕から寮米(龍舞)保 この時期以前に東と西に	3013	1219	—	九合小 中央小	東中	蓮光寺	伊勢神社
村に分かれていたが、慶安 した内ヶ島となった。地名	1766	796	あさがお公園 ひまわり公園 コスモス公園	中央小	東中	—	—
“新田庄にぬしまのうち、 っている。また、別の史料 ち、にいしまの郷(村)”と 旨すのか、名称由来も含め	1682	819	九合3号公園	中央小	東中	—	江文神社
舞木”(上野国郡村誌15)。 して反乱平定後、神に感謝 四神の1つである白虎の旗 るが、その真偽は不明であ	2050	896	九合5号、 6号公園 小舞木公園	九合小 中央小	東中	円養寺	〈飯塚の 長良神社 に合併〉

併して「新田郡新塚村連合」となる。その後1889年町村制の施行によって「新田郡九合村」が誕生したこ

1日「行政区別人口及び世帯数 全住民調査月報」による。なお、九合地区全体数は25,822名、11,178

製)および「ふるさと地名散歩」；茂木晃著を参照した。

各地区の主な祭りと行事一覧表

	名 称 (場所)	時 期	備 考
飯塚	秋葉祭(長良神社) 納涼祭(長良神社境内)	4月上旬 8月下旬土曜日	火災除け
飯田	祇園祭り(雷電神社) 花祭り(霊雲寺)	太田祭りの一週間前 (7月上旬) 5月8日	神輿、天狗、獅子頭披露 関係者のみ
新井	大祭(八幡宮) 勤労新穀感謝祭(〃) 地蔵祭、戦没者被爆者慰霊祭	9月15日に近い土日 11月23日 3月彼岸	獅子舞奉納 獅子舞奉納 関係者のみ
南新井	夏祭り(稻荷塚公園)	7月第4土曜日	子ども神輿巡行
西矢島	祇園祭り(赤城神社) 薬師様の祭り(安楽寺) いとこ祭り(集会所)	7月下旬 4月12日、12月12日 10月第2土曜日	神輿披露 団子を振舞う
東矢島	春祭り(長良神社) 秋祭り(〃)	4月中旬日曜日 11月23日	獅子舞奉納 獅子舞奉納
東別所	獅子頭まわし(町内周回)	4月第3日曜日	トラックに乗せて周回
内ヶ島	七草祭(伊勢神社) カンカンナイド(地蔵様前) 観音様の祭り(観音堂)	1月7日 8月1.4.7日 旧暦の3月18日、7月10日	弓引きを行う (目塚地区と合同) 大数珠を回す 団子を振舞う
目塚	天神様の祭り(天神様) 薬師様の祭り(共同墓地)	1月、2月、11月の各25日 4月12日	関係者のみ 関係者のみ
新島	初午(一配森稻荷) 夏祭り(江文神社) 観音様の祭り(大吉庵)	2月の二の午 7月中旬(おおた祭りの日) 11月27日	関係者のみ 子ども神輿巡行 関係者のみ
小舞木	一切経の虫干し(円養寺) 納涼祭(九合6号公園)	8月16日 8月18日	現在虫干しは行っていないが希望者は一切経を頭にかざしてもらえる

※本書に掲載した行事を中心に紹介
 ※行事の日にちは現在のものを記載
 ※新しく始まった行事も掲載
 ※関係者のみの行事も見学は可能

第2章 各地区大正インタビュー

大正インタビュー：飯塚編

語り手：岡田安弘さん（大正13年生まれ：シモ）、中庭武男さん（昭和3年生まれ：マツバラ）、中庭和夫さん（昭和4年生まれ：ナカ）、大澤宏敬さん（昭和14年生まれ：カミ、正泉寺住職）

※生年の後に書いてあるのはその方の生れ育ったクルワ（地区）の名称

聞き手：星野雅範

場所：正泉寺 日時：平成24年7月19日9時半～11時半

（星野）それでは始めさせていただきます。本日飯塚の集会所が使えないということで、大澤住職におかれましては場所を提供していただきありがとうございます。さて今日は飯塚地区の地理、お祭り、神社、お寺、子どもの頃の遊び、戦争、養蚕という順でお話を伺っていきたいと思います。まず飯塚の地理について、ここに住宅地図を広げてありますが、飯塚は東西にやや細長い形をしていて、昔は真ん中に東西に幹線道路が走り、その道路に沿って家が分布していたという形のようなですね。

（一同）そうです。

（星野）今もそうですし明治初期の絵図を見ても明らかなのですが、その幹線道路が町内東部でカクンと2回90度折れてクランクのようになっていますが、これは特徴的ですね。この曲がりには何か意味や通称があるのでしょうか。

（一同）確かに昔からここは折れ曲がっていますが、特に理由というのではありません。名称も別についていません。

（星野）では幹線道路自体の名前はありますか。往還などいいませんでしたか。

（一同）特にないですね。往還といえば町内西端を走る国道407のことを指します。

（星野）わかりました。その他町内で重要な道というのがありましたか。

（数名）そのクランクのところを斜めに行く道（現存）がありまして、六尺道だったと思いますがこれは東別所や大泉方面へ行くときの近道となり、よく利用されました。幹線道路からナカグルワの墓地の脇を通って小舞木、太田（町）方面へと至るカーブした道（現存）も大切な道でした。

（星野）そうですか。飯塚は集落部分が区画整理されていないため、昔の街道がよく保存されていますね。碁盤目に整理した新井などにはわずかしか残っていません。さて、

先ほどナカグルワ墓地という名前が出ましたが、飯塚は町内がカミ、ナカ、シモ、マツバラという4つのクルワに分かれているとのことですが、その境界を教えてください。

(一同) カミとナカの境は九合小の西を南北に流れる大堀です。ナカとマツバラは先ほど言った小舞木へと至る道です。マツバラとシモはクランクの道です。

(星野) それはとても分かり易いですね。ところで、クルワというのはただの便宜的な呼称なのでしょうか。それとも何かクルワごとの制度的なものはあるのですか。

(大澤) 寺の総代は伝統的にカミ、ナカから2人ずつ、シモとマツバラを合わせた中から2人ずつ選ぶようになっています。シモとマツバラは合わせてシモと呼ぶ場合があります。

(中庭武) 神社総代も同様です。

(大澤) 墓地についてもカミ、ナカ、シモ(マツバラ含む)と分かれています。

(星野) なるほど、それぞれのクルワがある程度の独立性を持っている感じなのですね。そういえば今日お見えの4人は4つのクルワから1人ずつということで、ちょうどいいですね(笑) さて、飯塚の田んぼには奈良時代の頃の条里制の遺構が残っているといわれます。昔の地図を見ても確かにきれいになっていますが、実際田んぼを耕作されてきた皆さんはそうにお感じになりましたか。

※条里制：奈良時代の土地区画制度。太田市史通史編原始古代 p.451 参照

(岡田、中庭武、中庭和) そうですね。他の地区に比べるとどうしてこんなに整理されているんだろう、などと感じていました。ただ明治9年に耕地整理があったとも聞いており、条里制によるものなのか、この耕地整理によるものなのか、定かではありませんが。

(星野) やはりそうなのですね。本で読むのと当事者からお話を聞くのとでは実感が違います。さて飯塚は九合の中心部であり、九合村役場や九合小などがありますが、みなさんとしてはやはりそういう優越感のようなものを感じていましたか。

(数名) そうなのは別にはないですよ。ところで旧九合公民館のところに九合村役場の門柱があります(平成24年解体)が、もう少し東に役場があったのを覚えています。平屋の細長い建物でした。それはその前の役場だったのででしょうか。記憶が定かではありません。

※これについては、門柱に昭和11年寄贈とあったことから、この時期に移転したことが伺われる。

(星野) 昔の地図を見ますと、飯塚の南東部にはかなり広い林があったようですね。

(一同) ありましたね。今の運動公園になっているところ一帯が林でした。ナラ、松などの雑木林ですね。そしてその中には古墳がたくさんありました。

(岡田) 雪が降ると竹を割ってスキー板の代わりにして、古墳の上から滑り降りて遊んだものです。楽しかったですよ。

(星野) いいですね。古墳の上から滑りおりて遊ぶというのは各地区で聞いています。子どもとしては山があれば登りますよね(笑) さて、その林の所有者は飯塚の人で、薪をとるためにあったわけでしょうか。

(数名) そうですね。でも自分ちの土地でなくとも拾ってきてしまいます。

(星野) そういうことも許されたのですね(笑)

(数名) 誰も監視していませんから。

(星野) そうでしたか。さて、今はその林は影も形もありませんが、伐採は中島飛行機の飛行場建設の時なのでしょうか。

(岡田) それもありますが、おそらくその前、昭和1桁の頃から開墾していったのだと思います。農閑期の冬に伐採して、その次の年には陸稲を作るのです。そして次の年からは当時お金になった養蚕のための桑を植えて桑畑にしていきました。うちはそのに8反の桑原があったのですが、その後昭和10年頃か、飛行場を作るということで、お上からの命令で全て売却させられました。1反300円といくらかの補償費がついたと記憶しています。我が家はそのお金で貸家を建てましたが、1軒900円かかり、3反売って1軒が建ったということになり、あまりよい買取価格ではなかったと思います。

(中庭武) いやだとはいえませんからね。そんなこと言ったら憲兵に連れて行かれてしまいますよ。

(星野) すごい時代でしたね。ところでその林には何か名前がついていませんでしたか。

(岡田) 内ヶ島に近い北の方はキタヤマ、それより南の方はシモツパラと呼んでいました。

(星野) やはり名前があったのですね。

(中庭武、中庭和) 道のことで、飯塚には名前のついている道がありました。現在は拡幅されてラフィエット通りになっていますが、この道は昔、ケンミンミチまたはシンミチと呼ばれていました。シンミチの名前の由来は分かりませんが、ケンミンミチというのはけんみんみち検見道で、昔年貢を取り立てる役人が、飯塚はどれくらい米が取れるかということけんみんみちを査定にくるときに通ってもらった道だと聞いています。実際、この道の両側の田んぼはよく米ができず、飯塚の村人としては年貢を低く見積もってもらえて好都合なわけです。

(星野) 貴重な言い伝えですね。では次に、お祭りのことをお聞きします。飯塚のお祭りというとなんがありましたでしょうか。

(一同) やはり長良神社のお祭りですね。春と秋とありまして、一番の目玉はひょっこ踊り(神楽)でした。今でも境内に神楽殿が残っています。秋の方がやや盛大ではありましたが、両方ともひょっこ踊りが出ましたし、露店も出ました。

(中庭武) 露店はかき氷などを覚えています。子どもは神楽よりもお小遣いをもらってそういうものを買う方が楽しみだったように思います。

(数名) 昼間は呼び太鼓というのか、ドンドン叩いて祭りを知らせました。本番は夕方からですね。夜 8 時頃には終わりになったと思います。

(星野) その神楽は新井町では足利の南大町から呼んでいて、その晩は各農家の家に神楽師に泊まってもらったそうですが、飯塚もやはりそうでしたか。

(数名) 飯塚もそこから呼んでいました。昔はこちらから役員が歩いて迎えに行ったそうです。ただ、農家に泊まってもらったというのは聞いたことがありません。

(星野) その他のお祭りはありましたか。

(数名) 長良神社のお宮に向かって右側に小さなお社がありますが、これは秋葉様^{あきば}といって火の神様でして、現在でも 4 月に区長を中心に火災除けのお祈りをします。また別の神様になりますが、昔は「雹^{ひょう}の祈祷」といって、田んぼに旗を立てて雹が降らないようお祈りしたのを記憶しています。

(大澤) お寺ではそのような盛大なお祭りはなかったように思います。ただ戦後、檀家の奥さんたちが静修会というものを作って、4 月 8 日の釈迦誕生際の花祭りのときに 5 色の餅を搗いたり、甘茶をふるまったり、ということをしていました。

(中庭和) 私が子どもの頃、戦前になりますが、やはり花祭りの時にお寺で甘茶をもらった記憶がありますよ。

(星野) では甘茶を振舞うことはかなり古くから行われていたのかもしれませんが。花祭りは飯田のお寺が有名だったそうで、新井町の子は飯田まで行ってお団子をもらったりしたそうですが、飯塚の子も行きましたか？

(一同) 飯田までは行きませんでした。ひと田んぼありますし。新井と飯田は近いですからね。

(大澤) 戦後は演芸会をやりましたよね。本番は神社でしたが、このお寺の本堂で先輩たちが練習していたのを覚えていますよ。

(岡田) 私なんか踊った方です(笑) カツラをかぶって、名月赤城山なんてやったものです。もう亡くなってしまいましたが、～さんなんかと一緒にね。

(星野) さて次に神社についてお聞きします。長良神社の石碑に刻まれています。町内には長良神社がもう 1 つあったそうですね。

(中庭武) 詳しくはその石碑に書いてありますが、古老から伝え聞いた話では、明治の末に国の方からお達しが出て、小さな神社は合併しなくてはならなかったそうです。そのため飯塚のマツバラにあった長良神社はこのナカグルワの長良神社に合祀する形になりました。また小舞木には賀茂神社があったのですが、小さい村で、なかなか維持が難

しかつたのでしょう。土地を持参して飯塚の長良神社に合併したとのこと。ですから今でも飯塚の神社を長良賀茂神社、と呼びます。長良神社に向かって右手側の覆いの中のお宮が小舞木から来た賀茂神社です。

（星野）なるほど、そのように伝え聞いてらっしゃるのですね。石碑の内容とも一致します。

（岡田）私が子どもの頃はまだマツバラの長良神社跡にタカヤマ（古墳）が残ってしまって、登って遊びましたよ。その後、その山を崩したときに出てきたのが国宝の埴輪だそうです。

（星野）出ましたね、国宝桂甲武人埴輪！ではここでそのお話を是非お願いします。

（中庭武）飯塚ではギンちゃんと呼ばれた、明治 30 年代頃生まれの岡田銀太郎さんという方から聞いた話です。その方は昭和初期、20 歳くらいのとき実際に発掘の現場に居合わせ、その目で武人埴輪を見たそうです。まず、なぜその旧長良神社の山を崩したかという、その当時、恐慌で経済が行き詰まり、いわゆる景気対策のために公共事業が行われました。その 1 つが先ほど話に出た飯塚のクランク道路を拡幅、整備するということで、一口に救済道路などと呼びました。そして、道路を広げるには土が必要で、その土を近くにあった古墳を崩して使ったわけです。岡田さんによると、その武人埴輪以外にも立派な出土品が多くあったとのこと。ただ当時は価値が分からないので、神社の祭りの時に立てる棹さおをしまっておく野外の長い屋根の下に適当に並べておいたそうです。時には「なんだこんなもの！」とポコッと壊したりなんて人もいたようで、だんだんと散逸してしまったとのこと。ではなぜその武人埴輪だけがちゃんと残ったのかというと、まあ当時の人が見てあまりにも立派だったので、これは壊してはもったいないと思ったのでしょうね。それで国へ渡ることになったのでしょうか。どういう経緯で国の所有となったか詳しくは知りませんが、岡田さんがいうには、帝室博物館（国立博物館の前身）から長良神社に対して感謝状が送られてきて、額に入れて飾ってあったそうです。でもいつの頃か紛失してしまい今はどこにあるやら分かりません。

※「昔と今の話」（太田市老人クラブ：1983 年）p.24 に岡田氏本人の談あり

（星野）なんとほんと、実に生き生きとした貴重なお話ですね。しかし、その並べられて壊されたりどこかへ行ってしまったりした埴輪たちや感謝状、もったいなかったですねえ。さて、太田市の資料などによりますと、埴輪は美術史研究者の松原さんという方の所有となり、それを国が昭和 27 年に購入した、となっていますがこれはどういうことでしょうか。

（中庭武）以前、県の調査員がそれを聞きに来たことがありまして、確かに埴輪が出たのはマツバラという地名ですが飯塚には松原という名字の人はいないと答えました。そ

の後よくよく調べてみると、松原というのは偶然の一致で、その武人埴輪を修復したのがその方だったようです。

(星野) 分かりました。今はなきもう1つの長良神社、国宝の埴輪、色々な物語がありますね。それにしてもこちらにいらっしゃる岡田さんは武人埴輪の上で遊んでいたことになりませぬ (笑)

(数名) マツバラの長良神社の名残はいまでもありますよ。跡地のすぐ東に岡田家がありますが、その家は通称で宮下^{みやした}という屋号で呼ばれています。岡田さんといえば何軒もありますからどこの家か分かりませんが、宮下んちといえはすぐ分かります。

(中庭武) またここに昭和期の飯塚の地図 (武男氏所有) がありますが、長良神社跡地が異常に細かく分割されていますでしょ。

(星野) 一目瞭然ですね。どういうことでしょう。

(中庭武) これは神社の移転後、昭和9年頃だったと記憶していますが、跡地を15、6軒の氏子が分割して所有したのです。ですから1軒当たり3畝くらいの畑をもらったわけです。私ももちろん見ましたが、うなぎの寝床のように間口の狭い畑が縦に幾筋も並んでいました。現在は住宅地になっていて、面影はまったくありませんが、当時の区画だけはそのままです。かつてはこの場所に長良神社跡の石碑が立っていましたが、現在は現存するナカの長良神社の境内に移動されています。

※この石碑は社殿東側にあるが、「長良神社址 大正三年十二月 松下一同」と彫られている。「松下一同」というのは、マツバラとシモの住民一同ということであろう。

(数名) それと神社の参道と、手を清めるためと伝えられた池がありました。参道は先ほどいった東別所へ抜ける斜めの道から飯塚の幹線道路に伸びる道です。またこの参道の南に2つの池がありまして、大きいほうはオオダネ、小さい方はコダネといわれていました。そしてこの辺りの地名が「御手洗^{みたらせ}」というのです。この池で手を清めてから神社にお参りしたのだ、ということを知っています。

(星野) そうなのですか、実に不思議ですね。その池はもうないのですか。またどれくらいの広さだったのですか。

(一同) もう埋めてしまいました。広さは、オオダネは60坪くらいはありました。コダネは小さくて、丸型でした。現在コダネは跡形もありませんが、オオダネは区画だけはそのまま残っていて、荒地のようになっています。

(大澤) おそらく大溜め、小溜め^{なま}が訛ってこの名前になったのではないのでしょうか。

(数名) コダネには魚はいませんがオオダネにはたくさんいて、その魚を競売して売り上げを消防とか区の経費に当てました。その南にももう1つ池があって、5畝(150坪)くらいの大きさがあり、マツボとよばれていました。「ボ」というのは田んぼ、池ん

ぼ、という風に、水たまりなどを表すことばかもしれません。ここにはそれこそたくさん魚がいて、大きなナマズも取れました。そして池に大きな横穴が3つ空いていてそれがずーっと長く続いているのです。人間が入っていけました。魚がその穴にかなり入っているの、カイドリ（搔掘り：魚取りの方法）をする時には水を搔き出す前にその穴の中の魚を追い出す必要がありました。

※「まつぼの池」について 太田市史民俗編下巻 p.653 参照

（星野）なんだかうソのような話ですねえ（笑）マツボの横穴に入ってみたかったです。今は埋めてしまったとはもったいなかったですね。

（中庭武、中庭和）マツボは確かにもったいなかったですね。現在も区画だけは面影が残っており、場所は分かりますが。ただ横穴というのは池にはよくあるものですよ。池のことでもう1つ面白い話があります。オオダネをカイドリすると、松の木をくり抜いた筒が出てきます。これは花火の筒で、古老がいうには、昔飯塚の年寄りが花火に夢中になって、それにお金を使い過ぎたために飯塚は貧乏になったのだそうです（笑）今でもきつと掘ればその筒が出てきますよ。松は腐りませんから。

（中庭武）魚の競売の話で、池だけでなく、水路の魚も競売の対象となりました。各水路を、1本いくらで1年の魚を取る権利を売るので。うちもタテッポリと呼ばれた水路の権利を50銭で買った覚えがあります。

（中庭武、中庭和）神社に関して、これは余談になりますが、私達の「中庭」という名字は非常に珍しいのですが、もしかしてこの名字はそのマツバラの長良神社と関係があるのでは、などと思っています。中庭家は貞享年間（1684~1688）の墓石があり、300年以上の歴史があるのですが、その長良神社の参道に位置してしまっていて、もしかして神社の「中庭」なのでは、と考えたりします。

（数名）ちなみに飯塚五^{ごみょう}苗という言い方があり、中庭のほか、岡田、吉田、和田、丸岡と聞いています。

（星野）興味深いですね。では次に正泉寺についてお聞きします。現在は飯塚の西端にありましたが、かつては東端にあったそうですね。

（大澤）かつては運動公園の野球場あたりに寺がありましたが、江戸時代に火事になって焼けてしまい、それから何十年かして現在地へ移動したようです。現本堂を昭和55年に新築したのですが、その際に取り壊した旧本堂にあった棟札には、安永8年（1779）新築と記されていました。また旧本堂の天井に70数枚の格子絵があったのですが、その裏書に吉田平蔵という町内の人の先祖の名前と天明年間（1781~1789）の書き付けがありました。よってその頃、江戸後期には現在地へ来ていたと思われます。その絵は戦争の時の爆弾による爆風で割れてしまったものもありますが、現在も保管してあります。

(星野)なるほど、貴重なものですね。しかしなぜお寺は東から西へ移動したのでしょうか。

(数名) はっきりしたことは分かりませんが、飯塚の村というのは、もとは東だけで、西はあとから開発されたようです。井戸の水質なども東の方がいいのです。よって現在の寺の地も新しく開いた土地だったのではないのでしょうか。

(岡田) 土地の質も違います。うちの方(東)の土は砂質で、壁土を塗るために土をこねてもうまくまとまらず、他のところから粘土を持ってこなければなりませんでした。

(星野)なるほど。またさきほども話に出ましたが飯塚は墓地が3つに分かれています。これはどういうことでしょうか。

(大澤) 墓地というものは昔からお寺に付属しているものと個人や各集落でもっているものがあるわけです。飯塚の場合はかつてカミ、ナカ、シモと正泉寺付属の墓地との4つに分かれていました。しかし昭和30~40年代の区画整理のときに、カミグルワにあった墓地は正泉寺に移動しまして、現在は3か所になっています。

(星野) そうでしたか。ちなみに、ナカグルワやシモグルワの方々は盆や彼岸の墓参りの時にはお寺まで来るのですか？

(一同) お盆の時は先祖様の魂を迎えるためにお寺まで来ますが、お彼岸のときには来ません。

(星野) そうですか。それは近くて便利ですね。また、東西に長い飯塚だからこそ、そういう形になったのかもしれませんが。ところで、ナカグルワの墓地入り口にある椿の木は見事ですね。

(中庭和) そうですね。私が子どもの頃から形が変わりません。椿があればだけになるには大変年数がかかると思います。切った方がいいなどという人もいましたが。

(星野) あれは是非残していただきたいものです。その他、お寺について何かございますか。

(大澤) 戦後、先代住職が、本堂で子ども達に紙芝居を行ったりしていましたね。楽しみの少ない時代でしたから。

(星野) お寺に子どもたちが集まるというのはいいことですね。

(中庭和) お寺のことで、年寄りから聞いているのですが、飯塚にはもう1つお寺があって、それは今の長良神社のすぐ東にあったそうです。名前は、漢字は分かりませんがカンショウ寺といったそうです。その和尚さんの墓石が残っていて、私の父親の世代の男達は、この墓石を力試しに担いだそうですが、担げた人は2人しかいなかったとのこと。この墓石は長良神社の境内に置かれていて、私も見ました。現在もそれらしきものがあります。

※このお寺について、明治初期の壬申字引絵図には長良神社の東に確かに描かれて

いる。

(星野) では次に、遊びについてお聞きします。飯塚では子どもの集まる特定の遊び場はありましたか。

(大澤) カミグルワの子は結構お寺に集まっていたね。竹の棒でチャンバラをしたり。

(一同) あとは神社で遊んだり、一度家に帰ってからまた学校(九合小)へ行って校庭で遊んだりもしましたね。あとは林でカンペー(クワガタムシ)取りとか。

(中庭和) 現在ある神社の新築が昭和15年だそうですが、それまではワラ葺きの屋根でした。私はその時小学生で、新築のため降ろしたワラに上から飛び降りて遊んだ覚えがあります。

(数名) 当時はいじめというものはなかったように思います。ケンカはありましたが、押し倒すとか、鼻血が出たらそこで終わりでした。

(星野) さて、皆さん十日夜とおかみやのワラデッポウで遊んだかと思いますが、他の地区の子と戦争ごっこのようなものをした経験はありませんか。

(大澤) 西矢島の子とやった覚えがありますね。(その他の方は記憶なし)

(星野) やはり村を挙げてではなく、小グループで行ったのですね。お寺のあるカミグルワは西矢島と近いですね。ちなみにその時というのは飯塚意識というか、他地区への対抗意識みたいなものが燃え上がるものなのですか。

(大澤) まあ、学校は同じでも普通の遊び仲間ではない子たちですからね。自然とそういう気持ちになります(笑) 西矢島とカミグルワは入り組んでいまして、西矢島のお祭りの神輿もすぐ近くまで来ましたよ。

(星野) ところで飯塚では紙芝居屋はどこにきましたか。

(一同) 先ほどの東別所へ行く道、団子屋のところ、火の見やぐらのところ、旧妻沼県道など何か所か来る場所がありました。アイスキャンディー屋なども来ましたね。

(岡田) 遊び遊びといいますが、私などそんなに遊ばせてもらえませんでしたよ。子どもは重要な働き手でしたから。蚕の忙しいときなどは親が学校なんて行かなくていい、といって働かせました。でも私はそのことを恨みに思っているのではなく、今の子どもたちも勉強ばかりでなく、小さい頃から何か仕事を手伝った方がいいと思います。私は仕事の中で色々なことを覚えました。

(大澤) 1週間から10日くらい、農繁休暇というのがあって学校が休みになりましたしね。子どもが家の仕事を手伝うのは当たり前でした。私は九合小を経て東中の野球部に入りましたが、2年生の新人戦が終わって、さあこれからという時に、母から陸稲の草むしりが忙しいから野球部をやめて手伝ってくれといわれ、野球部をやめました。

(星野) なんと、今では信じられませんが、昔は子どもが家の仕事を手伝うというのは

当たり前だったのですね。さて次に戦争に移ります。先ほど住職さんが寺の天井絵が爆風で被害を受けたとおっしゃいましたが、飯塚の空襲について教えてください。

(大澤) 昭和 20 年の 4 月、太田駅がやられた時ですね。飯塚と西矢島の境、国道 407 沿いの今のホームセンターニトリ辺りに 5、6 発まとまって落ちました。その爆風で本堂は吹きぬかれてしまいました。柱は残りましたが障子や戸板は壊れ、壁も半分くらい落ちてしまい、建物自体が傾いてしまいました。その後、業者に補強してもらってなんとかもたせた状態でした。

(数名) お寺から結構近かったですね。爆弾の穴は直径 10m くらいはあったでしょうか。そしてすぐに池になって魚やらザリガニが湧くのですね。それと終戦前夜の 8 月 14 日、焼夷弾攻撃がありまして、カミ、ナカの 2 軒が燃えました。ちょっと火傷をした人もいましたが、大きな人的被害はありませんでした。

(中庭和) 飯塚の話ではありませんが、2 月 10 日、中島飛行機のやられた空襲のとき、私はそこで働いていました。東の空がキラキラと光り、何だろう、きれいだなあと思っ
て見ていました。そしてそのうちジョウロで水をまいたように何か落ちてくるのですが、それが爆弾で、ひどい空襲が始まりました。

(岡田) 私は軍隊に入っていましたから空襲は経験しませんでしたね。

(星野) やはり長良神社で挨拶をして出征されたのですか。

(岡田) そうです。その後高崎の連隊に入り、九州へ行きました。

(星野) 最後に養蚕についてお聞きします。皆様何か印象に残っていることがありますか。

(岡田) 先ほど話に出ましたがうちは飛行場のヤマ(かつては林だった旧飛行場地)に 8 反の桑原があり、飯塚で一番蚕を飼っていました。とにかく蚕がいるときは人間より蚕優先で、家の中を蚕が占領してしまいますから、私達は馬屋の上に横板を渡してその上に寝たものです。ドドメ(桑の実)を蒔いて苗をつくり、それを挿し穂にして桑の木を増やすなんてこともしました。

(数名) ほんとお蚕様でした。大変でしたが、当時は繭が良い値で売れたのでよかったのです。8 月のお盆の時期は蚕が忙しいということで、7 月にお盆をしたこともありましたね。2、3 年やったでしょうか。

(星野) そうでしたか。最後といたのですが、あと 1 つだけお聞かせください。九小の運動会で、恒例の「大字対抗リレー」というものがあつたと聞いていますが、みなさんご記憶ありますか。

(一同) 覚えていますよ。これが楽しみで、大変盛り上がりました。9 つの大字でそれぞれ鉢巻の色を変えて行いました。郷土意識が働く場でした。

(中庭武、中庭和) わたしたちの頃は内ヶ島が強かったですね。人数も多かったですから。

(大澤) 私の頃もあったと思います。

(岡田) 私は家の仕事が忙しくてリレーどころではなかったですね。

(星野) それぞれの家の事情があったのですね。では皆様、長時間にわたりありがとうございました。

大正インタビュー：飯田編

語り手：小川二郎さん（大正 14 年生まれ：本郷）、岡野幸男さん（昭和 3 年生まれ：四軒飯田：旧姓清水）、伊藤智治さん（昭和 14 年生まれ：本郷）、清水日出男さん（昭和 14 年生まれ：本郷）

※生年の後に書いてあるのはその方の生れ育ったクルワの名称。

聞き手：星野雅範

場所：飯田町住民センター

日時：平成 24 年 7 月 24 日 13 時半～15 時半

(星野) それでは始めさせていただきます。さて今日は飯田地区の地理、お祭り、神社、お寺、子どもの頃の遊び、戦争、養蚕という順でお話を伺っていきたいと思います。まず飯田の地理ということですが、清水さんが貴重な絵図を持ってきてくださいましたね。これは明治時代初期に各村で作成して県に提出した壬申地引絵図というものかもしれませんがね。余談ですが、提出されたものは前橋の県立文書館にあるのですが、どういうわけか九合の中で飯田だけは所蔵がないとのことで大変残念に思っていました。それが今まさに目の前にあり、驚いています。

(清水) 先祖が名主をやっていたからではないでしょうか。

(星野) これは提出したものの村側の控えかもしれませんね。さて、この絵図を見ても分かる通り、飯田というのは集落が田んぼをはさんで大きく 3 つに分かれていますね。これはどういうことでしょうか。

(数名) おそらく、村域の真ん中が低地で宅地を作れず、それを囲むようにして高台に集落が作られたのだと思います。

(星野) なるほど、確かに今市民会館や南一番街があるところは広い田んぼになっていますね。この 3 つの集落はそれぞれなんという名前ですか。

(数名) 南にある大きな集落を本郷ほんごうといい、北西を在家ざいけ、北東を四軒飯田しけんと呼びます。

(伊藤) 先ほど真ん中は田んぼといいましたが、これが菜種つ田などと呼ばれ、排水が悪くて麦の作れない湿田でした。稲刈りのときにも水が溜まっていて、大柵刈りという特殊な刈り方をしました。(稲 7 列を柵として残し、その両側 4 列ずつを刈ってそこに

乗せる) 簡単にいうと、真ん中にある田んぼ全体が池のようなものでした。

(星野) なるほど、真ん中が池ですか。それは分かり易いですね。しかし現在は南一番街など商業地域になっており、面影は見られないようですね。

(伊藤) 昭和 30~40 年代の区画整理で現在のようになりました。しかし現在でも大雨が降ると水びたしになることがあります。ところで、その湿地地帯と高台地帯には明確な境界がありまして、そこをオカゲと呼んでいました。現在でも中央公園(旧市民会館)の南に1枚田んぼが残っていますがその田んぼとその南の畑の間にオカゲを見ることができます。

(星野) なるほど、私も子どもの頃からなんかここは崖のようになっていて変な地形だなあと感じていたものでした。これがその境界だったわけですね。その他にも飯田は緩やかな坂が多いですが、その境界線と関係しているようですね。

(数名) 水路の最後は、神社のすぐ裏にあたるのですが、溜池のようになっていました。

(星野) 絵図でもそうなっていますが珍しいですね。この池には名前がありましたか。

(伊藤) そうするのは特にありませんでしたが、イモリがたくさんいました。

(清水) このあたりが一番低くなっていたのだと思います。うちはこの池のところに田んぼがあり、池を埋める際にはこの崖になっている部分の土を削って用いたのですが、耕運機を入れると埋まりこんでしまい、何年かは機械が入りませんでした。

(数名) 水路ということでは、戦争中に中島飛行機から南に排水堀ができてこれが飯田を南北に横断していました。

(小川) 私もこれを掘りましたよ。トロッコを使用しました。

(星野) これは排水専用で用水には使わなかったのですか。またそれは戦争中ということで強制労働だったのでしょうか。

(小川) いえいえ、ちゃんと給料がでました(笑) また、基本的には排水路専用でしたが、戦後になってこの水路に堰を張って水を溜めて、鯉を養殖したことがありました。しかし、逃げないようにしていた網が流されて鯉がみんな逃げてしまい、間もなく中止になりましたね(笑)

(星野) さすが大正生まれの小川さん、貴重な証言ですね。

(数名) この排水路は何か所かクランクがありましたが、区画整理のときに真っ直ぐとし、また下水管の本管を入れ、水路の代わりとしました。そのため現在は飯田町内に水路は見られません。飯塚にいくと開渠かいきよとなっており、外から見る事が出来ます。

(星野) なるほど、確かに城山病院の西から非常に深い水路が急に出現しますね。さて、ここに拵かまげてある現在の飯田町の住宅地図を見ると一目瞭然なのですが、碁盤目状に区

画整理がなされた中に、旧妻沼県道の道筋がカーブを描きながらほぼ完全に残っていますね。これは貴重な道筋だから、ということで意図的に残したのでしょうか。

(一同) 残っているのは確かですが、そういう話は聞いていません。区画整理の審議委員はみんな亡くなってしまいましたし。

(伊藤) 道といえば、親父が常々いっていましたが、九合の中で飯田ほど道のない村はなかったのです。まともな道といたらその妻沼県道と、もう1本南北に通っていた九合小へ至る^{がっこうみち}学校道、それとその間を通る中道(田んぼの真ん中)くらいしかありませんでした。その他はぬかってリヤカーが入っていけないような道で、田んぼから小麦や稲を運び出すのに、200mも人間が担いで出さなければなりませんでした。

(星野) 飯田の村人は苦勞をしていたのですね。

(伊藤) ですから父は区画整理に際して、広い道路に自分の屋敷が面することを夢見ていまして、それが叶ったわけですが、その分だけ減分(土地を減らされる割合)が大きく、もとの面積の4割になってしまいました。ちなみにこの区画整理での土地減分平均は3割減位だと思います。

(星野) では次に祭りについてお聞きします。飯田でのお祭りというとなが何がありましたか。

(一同) やっぱり祇園です。世良田祇園と同じ7月25日で、古くからあるお神輿を担ぎました。飯田の神輿は女神輿といって静かで、もみません。

※太田市史民俗編下巻 p.67 参照

(星野) 西矢島の神輿はけんか神輿で激しかったそうですが、これとは違うのですね。

(数名) 正反対です。昔お姫様を乗せたような「輿」^{こし}なのですね。男4人で楽々担げます。掛け声もありませんし、水をかけたりもしません。残念ながら区画整理前頃からは担がなくなっていました。現在はお祭りの日に出して飾るだけです。

(星野) 西矢島は神輿の通る道が決まっていたとのことですが。

(数名) 飯田も決まっています、それを^{てんのうみち}天王道といいました。村内を一巡するのですが、休むところも決まっています。

(一同) 神輿を担ぐ前に、獅子回しをしました。これは子どもたちの仕事で、1人が獅子頭を持ち、あと何人かが後ろの風呂敷の中に入りました。そして飯田の全戸を回ります。

(伊藤) うちでは父が子どもたちを家に上げさせたので家の中を獅子が駆け回ったのを覚えています。そうすると獅子の中に入っている子どもたちはおひねりをもらえるわけです。

(数名) 神輿と一緒に、太鼓とサカキ、天狗なども一緒にまわったと思います。

(星野) それは面白い風習ですね。みなさんも獅子の中に入ったのですか。

(岡野) 覚えがありません。

(清水、伊藤) 私達はその年齢になる頃にはもうやらなかったように思います。

(小川) 私は中に入りましたよ。

(星野) 貴重な証言ですね。ところでこのお神輿や獅子回しはいつ頃から行っているのでしょうか。

(一同) さあ、、、。相当古いということは確かですが。

(星野) 分からないほど古いということでしょうね。その他に祇園祭りで何かありましたか。

(伊藤) 祭りになると境内に太鼓が出されます。それを子どもが叩いて村中に知らせます。そうすると他の子どもたちがどんどん集まってきます。7月25日ですから夏休みになってすぐあったものです。そういえば昭和27年頃に子ども神輿を作りましたね。神輿を担いで帰ってくるとおひねりがもらえたりしました。

(星野) 子どもが叩くというのが面白いですね。その他にお祭りはありましたか。

(一同) あとはあまり印象にないですね。

(小川) 神社の春祭りと秋祭りとありますが、子どものころ、春祭りに大泉から神楽師を呼んできて、神楽殿で舞ったのを覚えています。

(清水、伊藤) 私達は知りませんね。神楽殿は老朽化が進み、もうほとんど使われていませんでした。

(星野) 霊雲寺^{れいいうんじ}の花祭りが有名だったと聞いていますが。

(数名) お釈迦様の誕生祭で、5月8日ですね。月遅れで旧暦に近い季節に行いました。この時は「花餅^{はなもち}」といって粉で5色の団子を作りました。これをお釈迦様に供えた後、来た人に配りました。また小さなお釈迦様の像に甘茶をかけたりしました。それと、霊雲寺の本尊で、現在太田市の重要文化財に指定されているお釈迦様の像もこの日にはご開帳となりました。

(星野) なるほど、ご本尊が釈迦如来であることも、飯田の花祭りが盛んだった理由の1つなのでしょうね。新井の子も飯田の花祭りへ行って団子をもらってきたと聞きます。ところで、その団子は誰が作るのでしょうか。

(数名) 檀家の人たちで作ります。そもそも霊雲寺には住職がいませんでした。

(岡野) 私も楽しみで四軒飯田から歩いてきましたよ。

(数名) 戦後何年か、お寺にヤグラを組んで八木節をやりましたね。新島の岡さん(大正インタビューに出席してくれた岡庄次郎さんの父)なんかが歌いに来ました。あの人はのどがつぶれてしゃがれ声で、大変上手でした。

(星野) それでは次に神社についてお聞きします。飯田の中心となる神社はここ、雷電神社だと思いますが、この社の西側に小さめの木のお宮がありますね。他の小さな石のお宮と比べ、重要な扱いのようですが。

(数名) それは「伊藤の稲荷」などと呼ばれるお宮ですが、かつては飯田の西端、新井との境の宮原^{みやばら}という小字にあったそうで、それをいつの頃かこちらへ移したそうです。伊藤というのは飯田に多い苗字ですが、なぜ伊藤の稲荷というのかは分かりません。現在でも雷電神社の春祭りのときに一緒にお祭りします。

(清水) この絵図にもはっきり記されています。

(星野) あ、本当ですね。明治初期には西端にあったのですね。しかしどんな由来があったのでしょうか。きっと大切にされていたのですね。ところで現在その稲荷様の手前にもすごく横に枝を伸ばした桜の木がありますね。これは古いのでしょうか。

(数名) これはそれほど古くはないと思います。子どもの頃はなかったように思います。

(伊藤) 木といえば、神社は今のようによくなく、うっそうとした杉林でした。戦争中はこの杉林の中に屋根のない溝だけの防空壕を掘ったものでした。それとモクレンジュという丸い実のなる木（おそらくムクロジ）があって、その実の皮を水の中でもむと石鹸になるといので拾って使った覚えがあります。

(一同) 今は神社の前の道路になっている辺りに大きなイチヨウの木がありました。大人何人かで抱えるような、とにかく大きな木でした。

(伊藤) その木はギンナンが落ちるので、近くの畑からサトイモの葉を一枚失敬して、それに包んで家に持って帰った覚えがあります。そうすると臭いものですから親に「こんなもの拾ってきて！」と怒られました（笑）

(星野) 雷電神社のイチヨウといえば有名だったようですね。私も他の人からも聞いたことがあります。さて、神社の北東部に少し高くなった上にお宮がありますが、この山は古墳か何かなのでしょうか。

(一同) それは浅間神社^{せんげん}ですが、古墳なのか築山なのか分かりません。

(清水) でも私は戦時中に分散授業で雷電神社で授業を受けたのですが、そのときに登って遊んだ覚えがありますから、それなりに古い山ではありますね。

※分散授業：空襲が激しくなって学校まで通うのが危険となり、各地区の神社や寺などに分散して行った授業

(伊藤) とこで飯田には私の覚えている中で落雷というものが一度もありません。気流等の関係なのかもしれませんが、昔から雷電神社があるからだ、といわれてきました。雷電神社は雷や雨と関係してまして、雨が降らないと、神社の境内にある「雷電宮」という石を持ち上げて雨乞いをしたものでした。

(清水) 私も親から「神社行って石塔を揺すって来い！」などといわれたことがあります。この石塔は今でも神社の鳥居の東にあります。

(星野) さすがは雷電神社、そのようないわれがあるのですね。興味深いです。では次にお寺について伺います。明治初期の絵図では、雷電神社のすぐ隣に稲妻寺とうまいたというお寺がありますね。

(清水) 神仏分離の前は神社とお寺が一体となっていたのでしょうか。分離後は、稲妻寺は（もともとあった）霊雲寺と一緒にしたようです。

(星野) なるほど。ところで霊雲寺の本堂向かって左手にすっと伸びた立派な赤松がありますね。これは古いのでしょうか。

(数名) そうですね。子どもの頃からあのような形をしていました。しかし年寄りに聞くと、昔はもっとあの松は横に寝ていて、子どもが駆け上がって遊べたほどだったのが、だんだん起きてきたとのこと。

(星野) 不思議な話です。あの松は霊雲寺のシンボルですね。さて、境内西の方に石塔や石仏が並んでいますが、その中に道標となっている石塔がありますね。嘉永6年「右めぬま、ふつと・左こいつみ、あかいは」と書いてあるそうですが、これは区画整理前はどこかの辻に置かれていたのでしょうか、みなさんどこにあったかご存知ですか。

(一同) ちょっと分かりませんね。しかし先ほど話したように飯田には道が少なかったもので、おそらく旧妻沼県道あたりにあったのではないのでしょうか。ところでお寺の本堂はよく飯田の人たちの集会所に使いました。昔は今私達がいる住民センターのような建物はなかったので、本堂に寄って会議等を行いました。

(星野) それは珍しいですね。神社の神楽殿に集まったというのはよく聞きますが。

(数名) 飯田の神楽殿は老朽化が進んでおり、私達は神社というよりお寺に集まりました。

(星野) では次に戦争についてお聞きします。飯田には空襲があったと聞いていますが。

(伊藤) 昭和20年2月10日に中島飛行機がやられたときに、現在の九合4号公園の南西辺りの田んぼに3発ほど落ちました。

(清水) それと終戦前夜の8月14日、新井の中島住宅が焼夷弾でやられたとき、その流れ弾と思われるものが飯田内に落ちて、一軒燃えました。しかし幸いにもどちらの時も怪我人はありませんでした。

(数名) 飯田で新島や新井と比べて被害が少なかったのは、やはり真ん中が田んぼで人家がなかったことも理由の1つではないかと思います。昔からの飯田の地形に助けられたのかもしれませんが。

(伊藤) 昭和20年4月3日のお節句（月遅れのひなまつり）の夜の空襲で太田駅が焼

けたとき、我が家の防空壕より本家の防空壕の方がしっかりつくってあったので母と一緒にそちらへ避難しようとして布団をかぶって移動したのですが、照明弾で昼間のように明るくなり、金山に蟻が這っているのが見えるようでした。

(数名) 飯田からすぐ近くの太田駅がやられても飯田に被害がなかったのは、駅のところにあった昭和産業の建物が壁になって爆風を防いでくれたのだと思います。

(伊藤) うちの新島に田んぼがあってその中に爆弾が落ちたのですが、穴が大きくて、そちらに近づけず、危なかったですよ。

(小川) 私は駅がやられたのを知りませんでした。兵隊として出征し、当時九州にいました。

(星野) 戦争にいつてらっしゃったのですね。出征のときはやはり雷電神社から出たのでしょうか。

(小川) そうですね。

(岡野) 戦争ということで、四軒飯田にすみれ寮という住宅ができました。これは女子挺身隊として地方から来た女学生のための寮でした。戦後は一般の人が住みました。

(星野) では次に遊びについて伺います。飯田の子たちにとって、特定の遊び場というのがありましたでしょうか。

(小川、伊藤、清水) 神社が多かったですね。庭も今より広がりました。

(伊藤) 私はある会社の倉庫にコンクリが打ってあったので、そこでよくベアゴマを削りました。今と違ってコンクリがあると珍しかったのです。また、「飯塚町」の信号北東の角の土地は現在はパチンコ屋になっていますが、戦争中は吉川工業という軍需工場でした。この工場の中に庭園があって藤棚や池などもあり、ここでよく遊びました。

(星野) 当時の子どもたち、軍需工場の中にまで入って行ってしまおうとはたくましいですね。

(数名) 吉川工業の社長は東京の人で、お祭り大好きのまさに江戸っ子という感じの人でした。会社で山車と神輿を持っていて、お祭りをしました。そこには飯田の人たちも参加できました。ところで飯田には国道 407 に沿って軍需工場が立ち並びました。その他に江川鉄工、小川機械、八州産業などがあり、また駅の近く（在家の北）には昭和産業がありました。

(清水) 吉川工場の神輿は現在雷電神社に保管されています。またこの会社は始業と終業を太鼓を叩いて知らせていたのですが、その太鼓が現在でも町内のある店に置いてあります。

(星野) さて、十日夜のワラデッポウについてお聞きしますが、これについて、隣村の子どもたちと戦いごっこをしたという方はいらっしゃいませんか。

(清水) 飯塚の子たちとやりましたよ。こちらの陣地は雷電神社、あちらは長良神社。今の図書館あたりが中間地点で、この辺りで戦いになりました。大將が先頭になって進んでいきました。

(伊藤) そのときに斜めに切つてある篠竹を踏んで足を怪我してしまう子がいました。しかし当時は医者にも行かず、包帯を巻いてなんとかかしてしまいました。ところで当時の子はいつも肥後の守(小刀)をポケットに入れていました。護身用というのではなく、これで何でも工作をしました。例えば、神社に行くと子どもたちは上を向いて歩いています。これは木の枝のY字になっているところを探しているわけです。これを削ってパチンコを作ります。カシの木じゃないとだめですね。ケヤキなどはしなりがなく折れてしまいだめでした。それでスズメなどを狙ったものです。昔の子は何でも自分たちで作りました。

(小川) 私はガスデッポウで遊びましたね。

(星野) 西矢島でも聞きました。カーバイト(炭化カルシウム)(注:カーバイトは水を加えると可燃性のアセチレンガスを発生する。)を軍需工場からもらってきたそうです。

(小川) 私達は買ってきました(笑)

(岡野) 四軒飯田の子たちは離れていたのあまり神社など本郷の方までは遊びに来なかったように思います。

(星野) では最後に養蚕についてお聞きします。何か養蚕にまつわる思い出を教えてくださいませんか。

(伊藤) 桑原は高台の部分にありまして、やっている農家が多かったですが、飯田は他の地区に比べてあまり大規模にはやらなかったように思います。うちもやっていませんでした。というのは、養蚕をやるには屋根がある場所が必要なわけですが、うちには大きな納屋がなかったのです。

(清水) 父が飯田の養蚕組合長をやっていた時、9月の末頃に私の家に村の人が集まって秋蚕が終わったお祝いで宴会をしていましたね。

(伊藤) 養蚕旅行というものもありました。繭は主に神戸生糸に売っていたのですが、会社からいくらかお金が出たようです。それだけ養蚕というのは景気がよかったですね。

(清水) でも養蚕は恐ろしかったですね。子どもは「このザルいっぱい(桑の葉を)摘まない遊びにいつかはだめ」と言いつけられたり、また家は蚕に占拠され、家族は納戸の隅に小さくなって寝たものでした。

(伊藤) 飯田は区画整理の後、昭和40年代終わり頃までで養蚕は終わりになったと記憶しています。

(清水) うちには今でも養蚕の道具が一式全て残っていますよ。父が生きていた頃、も

うやらないから捨てようといったら、「おれが生きているうちは捨てるな」といっており、
つつい捨てずに今日まで来てしまいました。

（星野）お父さまの養蚕に対する思い入れが強かったということでしょうか。さて、こ
ちらからの質問は以上ですが、皆様の方からこれは伝えておきたいということがありま
すでしょうか。

（伊藤）これは飯田のことというわけではないですが、ノミとシラミのことを書いてお
いてください。戦後、私が九合小に通っていた頃、学校で衛生検査というものがあり、
ノミやシラミが体についていると分かると、今では毒性が強く禁止されている DDT を
頭からかけられました。小学校低学年くらいの女の子でも、清潔にするためということ
でまれに丸坊主にすることがありました。また、学校から帰ってくると、母が湯をわか
して待っているのです。そして全部着ているものを脱いでタライの中に入れ湯をかけて
消毒します。体中がノミだらけですから。また腹の中は回虫などの虫だらけで、便に虫
が入っていることもありました。今思えばよくあのような衛生状態で学校が成り立って
いたな、と思います。教科書は例の墨塗りでした。軍国主義に関するような部分が墨で
消してありました。またドングリを拾ってくるように言われて学校に持っていきました。
おそらくそれを粉にして小麦粉と混ぜパンか何かにしたのでしょう。ドングリを持って
いくと芋飴と交換してくれました。それだけ食糧事情が逼迫していました。今の子達に
は想像もつかないと思いますが。

（星野）皆様、本日は貴重なお話どうもありがとうございました。

大正インタビュー：新井編

語り手：市川^{ちわき}千和気さん（大正 14 年生まれ）、城代^{きのしろ}幸太郎さん（昭和 5 年生まれ）

聞き手：星野雅範

場所：新井町住民センター

日時：平成 24 年 5 月 20 日 14 時半～16 時

（星野）それでは始めさせていただきます。まず新井町について最初にこれだけはいっておきたいということがありますか。

（市川）まずはなんといっても八幡様です。うちは八幡様と地続き（実家が八幡様の裏）ということもあって、神社こそ自分の育った場です。広場というか遊び場というか。お寺でも遊びましたが、やっぱり神社。学校から帰ると、勉強なんてしないで、もう 1 分くらいで神社に飛んでいきました。ケンカもしたし、色々な遊びもしました。おっとばしっこ（おいかけっこ）、こんなこといってはまずいですが社殿の囲いの上に登ったり、とにかく生活の場です。神社があって今の私がいるとっていい。年 6 回ある祭りの中で、特に秋祭りが盛大だったのですが、ひょっとこおかめの神楽が来たり、ササラ（獅子舞）をしたりしました。当時は境内の西側に神楽殿という建物があって、ここで神楽をしたんです。秋祭りは今みたいに土日なんていわないで、9 月 15 日としっかり日が決まっていて、新井の子だけはその日は半日で学校が終わりになりました。その半日の授業だってもうお祭りが楽しいで勉強なんて手につかない（笑）3 時頃からひょっとこおかめが始まりますが、もう帰ったら何はともあれ八幡様へ一目散でした。

（星野）なるほど、とにかく八幡様への想いがほとぼしるという感じですね。ちょっとここで余談のようですが、市川さんは八幡様の狛犬や石畳ができたときのことを覚えていらっしゃるようで、それについて教えていただけますか。

（市川）ええ、見ていました。私が子どもの頃ですが、参道の石畳は、セメントを打ち、少し乾いてから木の定規のようなものを使って筋をつけていました。狛犬は、丸太を三脚架に組んで、滑車を使って片方から綱を引っ張って持ち上げていましたね。

（星野）貴重な証言ですね。さて、では八幡様が遊び場だったということですが、城代さんもやはり八幡様で遊びましたか。

（城代）いや、私は新井の東の方の生まれで、八幡様は新井の西で、遠かったから遊び場にするのはあまりなかったですね。お祭りのときはもちろん行きましたけど。

（市川）十輪寺の周辺が林のようになっていて、ここでもよく遊びましたよ。それと、現在のひかり幼稚園辺りに高堰^{たかぜき}という堰があって、ここが深くなっていたので、水浴びをしましたね。

(星野) なるほど、同じ町内でも東と西で遊び場が違うのですね。では東の方の子はどこで遊んだのですか。

(城代) 今みたいに公園なんてないですから、農家の庭なんかで遊びましたけど、とくに御庵稲荷(古墳)の周りで遊ぶことが多かったですね。新井はよく東口、中口、西口、^{ひがしぐち なかぐち にしぐち}という分け方をしますが、東と西は大分離れていた感覚があります。今と違って道も曲がりくねっていましたし。

(星野) 子どもの遊びということで、市川さんのお兄さんから、十日夜のワラデッポウというものをやったと聞いていますが、弟さんもおやりになりましたか？

(市川) やりましたね。浜町の子どもたちとやり合いました。お互い10人くらいずつでしょうか。まだ私は幼く、いくつか年上の人たちが中心でしたが、ワラデッポウというものをつくって新井と浜町の間田んぼあたりで対決するわけです。今でいう天神公園辺りですね。私が覚えている中では新井が優勢で、だんだん押して行って、浜町のお寺辺りまで攻め寄せて行ったことがありました。当時は世相もあって、ケンカごっこというのがはやっていたように思います。八幡様と十輪寺に分かれて竹の機関銃をつくってケンカごっこをしたこともありましたよ。

(星野) さて次に、さきほども出ましたが八幡様の秋祭りのことで、新井には獅子舞という伝統芸能が伝わっていますが、これについてお聞きしたいのですが。

(市川) 獅子舞のことを昔はササラといいましたが、とにかくこれは貴重な文化ですよ。

(新井) 村の人たちがずっと伝えてきてくれたのですから。

(城代) 市川さんは親父さんが笛の師匠でしたしね。

(市川) でもこれが戦後の混乱の中でだんだん下火になって、存亡の危機になってしまいました。そんなときここにいる城代さんたちが受け継いでくれて保存会もできて今につながっているのですからありがたいことです。

(城代) うち、親父や叔父も(獅子舞を)やりましたから、セガレもやれということで誘いがかかったのです(笑)

(星野) そして城代さんは今でも3人の笛吹きの師匠の最長老として活躍されていますものね。今、当たり前のように獅子舞がありますが、ほんとうにありがたいことですね。お祭りについて、新井には昔、十輪寺でも大きなお祭りがあったそうで、それについてお聞きしたいのですが。

(市川) 地藏様のお祭りですね。3月の彼岸にやるのですが、盛大でしたよ。子どもの頃あれを見ると、早く大人になりたいなあと思ったものです。というのは、今の人とは分らないかもしれませんが、浪花節などの演芸会をやったのです。それを若者衆が取り仕切って、会場準備をしたりなんだりして、それがかっこよかったのです。

(城代) 地蔵様青年といいまして、地蔵様の祭りを主催する新井の青年の会がありました。他の諸々の活動をする青年団とは別な組織でした。やぐらを組んで八木節なんかもやりましたね。

(市川) ああやりました。あと、小学生達で劇をやったのですが、これも思い出深いです。「かぐや姫」とか「因幡の白兔」などが記憶にあります。この劇の指導を九合小学校の先生がしてくれました。これは新井の子の自慢でした。

(星野) 地域と学校が結びついてたということですね。また地域の中に若者の活躍の場があったということで、いい祭りですね。今はお客さんが来るというのではなく、住職と役員を中心に法要が行われています。では次の話題ですが、戦争のことについてお聞きします。戦争中、新井には中島飛行機の社員住宅ができましたよね。

(市川) そう。田んぼの中を造成してね。まず緑町というのができて、その後南東に住吉町ができました。でも終戦前に空襲があって、とくに緑町が焼夷弾で大分燃えてしまいました。

(城代) 新井は昔、北側に集落があってその南はずーっと田んぼで、西矢島に近いところに三軒家といって三軒だけ家がありました。その田んぼの中に今市川さんがいった住宅ができたんです。

(星野) 新井町の空襲としては、今おっしゃった終戦前夜の焼夷弾攻撃のほか、4月4日未明にも爆弾が落とされていますよね。これについて教えてくださいか。

(市川) 私は家の裏の防空壕に入っていたわけですが、あれはものすごい衝撃でした。焼夷弾じゃなくて爆弾ですね。今の高田公園の東の水路に沿って落ちました。そして防空壕から出て、我が家を見て驚きました。柱を残して何にもなくなってしまって、家の南の神社の森が見えるんですよ。まあ夜だったから暗いですけど、とにかく、雨戸や障子というものが爆風でどっかに飛んでなくなってしまいました。その後、家の脇の道を、だれか怪我人を担架か何かに乗せて太田の町の方の病院へ運んでいくのが聞こえました。「がんばれー」とかなんとか騒いでいました。後で聞きましたがその怪我人はまだ若い女性で、爆弾の破片が当たって大怪我をし、その後亡くなったそうです。

(星野) 他にも何人も亡くなったそうですね。私の祖父はこの時友達と2人で外に出ており、飛行機の音が大きくなってきたので防空壕に駆け込み、その瞬間に爆弾が落ちて命拾いしたそうです。しかしその時一緒に外に出ていた友人は逃げ遅れて亡くなってしまいました。さて城代さんのお父さんもその日の空襲がもとで亡くなられたとお聞きしましたが。

(城代) うちの裏の御庵稲荷に横穴を掘って防空壕にしていた家族で入っていたのですが、同じ日に太田駅も空襲でやられて、その時駅にいくつもあったガソリンのタンクが

爆発して、その爆風がここまで来て、防空壕のドアが開いてしまうのです。よく引っ張ってても、爆発するたびにふわっと開いちゃうんですよ。その時親父だけは防空壕に入らないで、家の中のアガリハナ（玄関を入ったところ）の火鉢の前でタバコを吸っていました。そしてみんなが防空壕から出てきて親父に話しかけるのですが何も口を聞かないんです。まあ寝て起きれば治るだろうっていったけど、朝になっても治らない。これはおかしいってということでリヤカーにのせて医者連れて行って見てもらったけど原因は分からない。傷もないし、息はしてるのですが、何もしゃべれないんですよ。その後3、4日して亡くなりました。

（星野） 壮絶な話ですね。次に新井の道や水路について伺いたいのですが。

（市川） 新井の川筋は、浜町から来て、お寺の西を流れ、高堰という堰で曲がって、その後本通りと重なって東へ進みます。そして今でいう御庵公園の近くで南へ折れていきます。新井には大きな道というのは2本ありまして、1本は今いった水路に沿った東西の道です。もう1本は町内中ほど、矢島商店の前を通る南北の道ですね。ちなみに、私の子どもの頃は、その東西の道より南には家が1軒しかありませんでした。今ではたくさん建っていますけど。

（星野） 大変な変わりようですね。では最後に昭和45～54年に行われた区画整理についてお聞きします。これによってどう新井町は変わりましたか。

（市川） 一言でいうと、新井の村がなくなってしまいました。または故郷がなくなってしまったといってもいいです。神社とお寺はもとの場所にありますが、それ以外はすっかり変わってしまい、何がなんだか分からなくなってしまいました。もちろん便利にはなったわけで、時代の流れで仕方ないのですが、住民感情としては、寂しいですねえ。今でも私の頭の中には、昔の道筋や1軒1軒の家の位置がはっきりと残っていますよ。

（城代） 曲がりくねっていた道を真っ直ぐに引き直したわけで、ほとんどの家が動きました。動かない家は何軒もありませんでした。

（星野） それだけ大きなことだったのですね。今日はお2人とも、ありがとうございました。

大正インタビュー：南新井編

語り手：高久昭^{たかくあきら}さん（昭和6年生まれ：旧緑町）、高橋栄一さん（昭和6年生まれ：旧三軒家）、酒井健次郎さん（昭和15年生まれ：旧住吉町、当時南新井区長）

聞き手：星野雅範

場所：南新井町集会所

日時：平成24年8月1日16時～17時半

（星野） それでは始めさせていただきます。さて今日は南新井地区の地理、お祭り、神社、お寺、子どもの頃の遊び、戦争、養蚕という順でお話を伺っていきたいと思います。まず南新井の地理ということで全体的なことをお伺いしたいのですが、九合の11地区の中でも南新井は特殊な成立事情がありますね。

（酒井） とにかく戦前は三軒家しか住んでいなかったわけですから。あとは全部新井の農家の人の持っていた田んぼです。そして戦争中に中島飛行機の工員住宅ができ、戦後市営住宅ができ、田んぼが住宅へと変わっていき、今に至るわけです。

（星野） 九合の他の地区とは違って江戸時代以前からの農村というわけではなく、三軒家を除いて基本的には昭和以降に開発された地域ということですね。では三軒家の子孫の高橋さん、三軒家はいつ頃からあの場所に住み着いたのでしょうか。

（高橋） 私の祖父からですので恐らく明治の中頃と考えられます。三軒家というのは田んぼの中にぽつんと三軒あったからなわけですが、うちが最初の一軒でした。竜舞の地主の田んぼが新井にあり、それを管理するために祖父が竜舞から来て住み着いたわけです。そして東矢島の親戚を一軒連れて来て二軒となり、その後新井の農家から一軒来て、三軒となりました。新井といっても新井の本村からは大変離れていますし、間にできた中島飛行機の住宅ともそれなりの距離がありました。またうちの前（南）にあった東西の堀が西矢島との村境であり、西矢島寄りに位置していました。

（星野） それから中島の住宅ができるまで約半世紀の間、誰も南新井町区域には住んでいなかったわけで、まさに先住民ですね。

（酒井） 私が南新井町に越してきたのは昭和22年ですが、その頃は住吉町からはるか南、田んぼの中に三軒家が見えましたが、ランプの明かりだったのを覚えています。

（高橋） 昭和20年代でもランプを使っていましたね。電気が通っていませんでしたから。

（星野） それはそれは。さて高久さん、中島飛行機社員住宅ができたのは何年頃でしたか。

（高久） 昭和17年だと思います。うちは18年から住み始めました。住宅は2か所に分

かれていて、私の住んでいた方は緑町といい、現在は1丁目と呼んでいます。酒井さんの家がある方は住吉町といい、現在は3丁目と呼んでいます。また、中島の社員住宅と一口にいいますが、実際にはそうでない家も多くありました。中島飛行機工場の周辺は空襲で狙われる危険があって危ないということで、太田町1丁目に住んでいた人たちが強制疎開をさせられました。その移住先として指定されたのがこの新井の住宅で、希望を出せば優先的に入居できました。ですから20軒ほど1丁目から集団疎開してきたわけです。うちなどは1丁目でタバコ屋をやっていたから新井に来てからもしばらくタバコ屋をやっていたし、1丁目では太田小に通っていましたが、こちらへ来てからも九合小ではなく周りの子と一緒に太田小へ通いました。

(星野)なるほど。貴重な証言ですね。さて、緑町と住吉町の町会組織などはどのようなになっていたのでしょうか。

(酒井)緑町(1丁目)、住吉町(3丁目)、そして昭和20年代にできた市営住宅(2丁目)がそれぞれ独立しており、別の区長を立てていました。それが一緒になったのは昭和50年代です。それまでは全体として新井住宅という呼称で呼ばれていましたが、それを機に錦町という名前が使われることになりました。

(酒井)古老によると、錦町の他にも稲荷塚町などいくつか太田市側から提案があったそうです。

(星野)そして最近、南新井町という名前に変わりましたね。その経緯を教えてくださいませんか。

(酒井)錦町という名前は九合の中では知られていましたが、一步外に出るとほとんど知られておらず、残念に思っていました。確かに、錦町というのは歴史的な背景などを何も踏まえておらず、内外から認知をしにくいものでした。そこで、ここはもともと新井町という歴史ある名前のついた地域であり、その南であるので南新井町にしようと提案し、皆様の賛同を得たというわけです。ただ太田市当局より、そのためには全住民約2150人の8割の署名が必要といわれまして、全住民というのは赤ん坊から年寄りまで全てということなのです。かなり難しい注文でしたが、夜や朝を狙ったりして2ヶ月かかって署名をかき集め、めでたく平成23年4月から南新井町という行政区名が正式に認められました。今のところ、皆さんから喜んでいただけているようです。

※錦町、南新井町というのは行政区名であり、住所は旧来通り新井町。区域としては新井町のうち県道鳥山竜舞線(通称バイパス)より南側である。

(星野)大変なご苦労でしたね。それと、南新井町区域の大きな変化というと昭和40年代の富士重工矢島工場の造成がありますが、住民としていかがでしたか。

(酒井)別に影響なしですね。影響があったのは本村の方の農家の方々だと思います。

よくあれだけの広さの農地をまだ農業が盛んだった当時手放したと思います。

（高橋）私も田んぼを売却しましたが、特に大きな問題はなかったように思います。当時のお金で1反50万でした。同時に周辺の区画整理をしたわけですが、整理後の田んぼを代替地として買い直す場合は経費がかかっているということで1反55万でした。また、売却した面積の3割以内しか取得できない、というような規則がありました。また三軒家の三軒の屋敷は工場の敷地になってしまったので、移住することとなりましたが、これも別に無理な条件ではありませんでした。

（星野）貴重なお話ですね。では次にお祭りについてお伺いしますが、どのように行われていたのでしょうか。

（酒井）やはり、私たちが子どもの頃は1丁目と3丁目は別々に祭りをやっていました。簡素なタル神輿を担ぎました。休憩所でスイカやキュウリをもらったり、楽しい行事でした。

（酒井）現在は稲荷塚公園にて、南新井町全体として行っています。今年、3年ぶりに行いました。ただ、昔の名残が残っていて、現在南新井町は1丁目（旧緑町）、2丁目（市営住宅）、3丁目（旧住吉町）、4を抜かして5丁目（西部）と分かれています。育成会は1・3丁目で1つ、2・5丁目で1つと分かれており、1つの町内に2つある状態になっています。神輿をかつぐ時は2つの育成会で協力して行っております。

（星野）先日のお祭り、大変にぎわっていましたが、そういう内情もあるのですね。さて、次に神社とお寺についてなのですが、南新井町には三軒家時代以来存在しないということよろしいでしょうか。

（一同）その通りです。

（星野）先日のお祭りのとき、お神輿の前に賽銭箱が置いてあり、なるほど、これが神社の代わりで、南新井町は移動式の神社なのだな、と思って見ておりました。

（酒井）あれでも二千数百円入っていましたよ（笑）

（星野）市内の沢野地区の末広町も南新井町と同様中島飛行機の住宅から発展した町ですが、ここには末広神社が建てられましたが、南新井ではそういう話は持ち上がらなかったのでしょうか。

（酒井）ここは新井の八幡様がありますからね。それで十分だったのではないのでしょうか。

（星野）では次に、遊びについてお聞きしたいのですが、何か特定の広場やたまり場のようなのがありましたか。

（一同）そういうものは特にありませんでした。

（高久）今の市営住宅のところには全国各地から集まった女子挺身隊の寮がありまして、

その人たちのための大きな風呂がありました。10×15m くらいはあったと思います。ここで挺身隊の人たちが入ってくる前に子どもだった私はプール代わりにして遊ばせてもらいました。というのも、うちはタバコ屋をやっていたから、風呂の番人がタバコが欲しくて、セガレの私のご機嫌をとったわけです（笑）楽しかったですよ。

（高橋）住宅の方へはあまり行きませんでした。近くの水路でよく魚をとりました。大きなナマズやドジョウがたくさん取れました。当時は自然が豊かで、蛭などもたくさんいました。

（星野）十日夜のワラデッポウの時に、近所の子とケンカ遊びをした、ということはありませんでしたか。

（一同）そういうことはしませんでした。

（高久）ケンカといえば、私は新井に来てからも周りの子たちと太田小に通ったといましたが、途中新井の本村を抜けていくわけです。その時に新井の子が待ち伏せしていて、私たちにちょっかいを出すのです。ですので私達はケンカの強い子を先頭にして身構えながら登下校したものです。

（星野）新島でもそんな話を聞きました。どこの地区でもそういうことがあるのですね（笑）では次に、戦争についてお聞きします。終戦前夜に南新井町が焼夷弾攻撃で大火事になったというのは有名な話ですが、その場にいらっしゃった高久さん、お話をお聞かせください。

（高久）空襲警報は日常茶飯事でしたが、その夜の警報は本当に危険だということで、緑町の人たちが共同で掘った防空壕へとみんなで走って逃げました。その防空壕というのは先ほど高橋さんがいった、三軒家の南にあった新井と西矢島の村境となる深い堀に横穴を掘って作ったものでした。余談ですがその堀には赤い腹のイモリがたくさんいました。線香を炊いた記憶があるのですが、それはイモリを追い払うためだったような気がします。それで走って逃げる最中に雨が降ってきました。私はこれで家が燃えずにすむ、よかった、と思いましたが、今思うとそれは石油かガソリンだったのです。そして防空壕へついてしばらくして、顔を出して自分たちの家の方を見てみたらゴウゴウと燃えています。それ大変だということで慌ててみんなで戻りましたが火の勢いが余りにもすごくて打つ手も無く、結局 80 戸あった住宅のうち 33 戸が燃えてしまいました。うちはぎりぎり大丈夫だったのですがすぐ隣の家まで焼失してしまいました。

（星野）焼け出された人たちはその後どこへ住んだのでしょうか。

（高久）付近の空いている住宅に住んだり、また東京の人が多かったので東京へ帰ったりしたように思います。

（星野）貴重な体験談ですね。その他に空襲がありましたか。

(高久) 爆弾が落とされたことはありませんが、艦載機が飛んできてバリバリと機銃掃射をしてきました。^{かなだら}金盃を叩くような音がしました。

(高久、酒井) 戦争といえば、古墳の上に防空監視哨というものがありませんか。

(星野) イナヅカヤマの上に建てられた、敵の飛行機を監視する施設ですね。酒井さんのいらっしゃる昭和 22 年にもまだありましたか。

(酒井) 山は確かにありました。建物もおぼろげに覚えています。

(星野) その後数年のうちに山は削られてしまったわけですね。その他、酒井さんがこちらに住み始めた頃、戦争の名残のようなものはありましたか。

(酒井) そうですね、戦後ということで、皆生活が逼迫していたように思います。そういえば、戦後早いうちの産業としてメリヤス業がありましたね。住吉町にも何軒かありました。それが近所のおばちゃんたちの雇用の場にもなっていました。

(高久) 緑町にも二軒ありました。

(星野) なるほど、同じ中島飛行機住宅由来の末広町でもメリヤス業が盛んだったそうですが、農地をもたない住民としてはメリヤス業は有効な収入の手段だったのでしょうか。

(星野) では最後に養蚕についてお聞きします。何か皆様思い出はありますか。

(高久) 非農家としてはあまり関わりがないですね。妻の実家に手伝いに行ったことはありましたが。

(高橋) うちも養蚕はやりませんでした。もともと三軒家は田んぼを管理するために来たわけですから、桑原自体がなかったのです。

(酒井) 私も縁がないですね。ドドメを食べたくらいでしょうか。

(星野) この近くだとどの辺にいいドドメがありましたか。

(酒井) 現在の稲荷塚公園あたりにたくさんありましたよ。ドドメは私達のごちそうでしたから。

(星野) みなさま、ありがとうございました。

大正インタビュー：西矢島編

語り手：野口慶雄さん（大正 15 年生まれ）、茂木宏之さん（大正 15 年生まれ）、高草木右兵さん（昭和 2 年生まれ）、前田元江さん（昭和 3 年生まれ）、野口幸男さん（昭和 5 年生まれ）、関口喜好さん（昭和 6 年生まれ）

聞き手：星野雅範

場所：西矢島集会所

日時：平成 24 年 7 月 8 日 9 時半～11 時

（星野） それでは始めさせていただきます。今日は西矢島の地形、祭り、神社、寺、遊び、戦争、の順で伺っていきます。まず、西矢島の旧集落の配置はどのようなものだったのでしょうか。

（数名） 家があったのは村の北の方で、神社を囲んでありました。お寺は北のはじっこでした。ハラ（南部の小字名）にも家がありましたがこれは新宅に出た家です。

（星野） ハラにはハラヤマという平地林があったそうですが、これは誰が土地をもっていたのでしょうか。またいつ伐採したのでしょうか。

（関口） 西矢島の人がかもっていました。ここにいる高草木さんちなんかが多かったと思います。今は矢崎加工になっていますが、戦争中そこに三和工場^{みわこうば}という飛行機の部品を作る工場ができて、そのときに切ったんです。そして残っていた部分も戦後の不発弾処理で切ったんだと思います。私は高林に親戚がいて、そこに行くのにハラヤマを抜けていかなければならず、怖かったですよ。一応農道みたいな道がありましてそこを通りました。言葉は悪いですが、その林の中に物乞いの人がいました。

（星野） 相当大きな林だったということですが、ハラヤマには動物はいましたか。またその林は何のためにあったのでしょうか。

（数名） そんなに動物というのはいなかったみたいです。用途としては薪を取るのに用いました。

（星野） では次に道路についてお聞きしたいのですが、西矢島の道路の中で何か特徴的なものはありますか。

（関口） 神社の北の通りは昔はそんなに広くなかったのですが、救済道路といって、雇用対策として道路を広げたと聞いています。

（茂木） それと戦争中に 2 本の排水道路を掘ったと記憶しています。1 本は矢島放水路、もう 1 本は八瀬川だと思ひます。そしてこれは朝鮮から連れてこられた人に掘らせたようです。

（数名） 国道 407 を今のように広げたのも戦争中で、それも朝鮮の人にやらせたようで

す。当時は砂利道で自転車では通りづらかったです。なのでわざわざ旧道の方を通ったりしました。今のように舗装されたのは昭和 30~40 年代ではないかと思います。

(星野) では次にお祭りについてお聞きします。西矢島のお祭りというところがありますか。

(一同) 祇園の夏祭りです。7月15日が初祇園、25日が本祇園となります。大人用、子ども用と昔から二つの神輿がありました。

※太田市史民俗編下巻 p.68 参照

(星野) 初祇園には何をしますのですか。

(一同) 神輿を洗ったり、拝んだりします。そして本祇園までの十日間は卵、魚などの生臭ものは食べず、身を清めました。また喪中の家の人は祭りに出られませんでした。これは各家が徹底していました。

(星野) すごいですね。それと太田市史に、神輿にキュウリを上げるので、それまではキュウリを食べてはいけない、と書かれています。本当にそうだったのですか。

(一同) それは聞いたことがありません。でも確かにキュウリが一番多く上げられていたと思います。

(星野) では、その祭りの様子を教えてください。

(数名) 村の中をもみこんで歩きますが、通る道や途中で休憩する家が決まっています。その休憩した家では必ずお神酒が出されました。昔は酒なんてこんな時じゃないと飲めなかったのでみんな楽しみにしていました。西矢島の神輿は暴れ神輿で有名でした。祭神がスサノオノミコトであることも関係するかもしれません。とにかく担ぎ手が酔っ払っているのが何が起こるか分かりません。ここには書けないようなことも色々ありました(笑) 最後は大久保というお店があって、そのところで「セリアガリ」というのをします。これをやらないと終わりになりません。安全のために神輿の周りに麦藁をしき、そして神輿の屋根の上に何人も乗って、組体操のように高く組みあがり、これがお祭りの最高潮となります。

(野口慶) 神輿を車のボディに落としてしまったこともありました(笑)

(星野) なんだかものすごい盛り上がりだったのですね。そして、その神輿はいつ頃まで続いたのでしょうか。

(数名) 平成 7、8 年頃までやっていましたが、交通規制等の関係からやめることになりました。また担ぎ手も少なくなっていました。ある時、西矢島町内に工場のある NEC に、担ぎ手の若者を出してくれるように頼んだことがあります。そして上役が祭りを下見に来ましたが、あまりに暴れ神輿で揺すったりぶついたり危ないので、こんな危ないところにうちの社員は出せないということで断られてしまいました(笑)

(星野) さて、では西矢島で他にお祭りはありましたか。

(数名) 伝統的、というわけではありませんが、終戦後、昭和 22、23 年頃に青年団の演芸会がありました。通称ヤクザ踊りといい、神社の神楽殿で行いました。ここにいる高草木さんは女方の師匠でした。人気があり、小舞木辺りまで呼ばれて行ったこともあります。またこれも終戦前後ですが、やはり神社の神楽殿で盆踊りをしました。それと、安楽寺の西に紫雲塚しうんづかという古墳がありますが、ここに稲荷様が祀ってあり、初午のときに団子をくれました。旗を立てた記憶があります。

(野口幸) 私はシウンヅカでなくスクモヅカという名前を聞いています。漢字で書くと紫雲塚だからでしょう。

(高草木) 私はタカンドヤマと呼んでいましたね。

(星野) 次に赤城神社についてお聞きしますが、こちらの神社の特徴といいますと何がありますか。

(数名) やはり大杉ですね。今でも切り株がいくつか残っていますが、お宮の前と後ろに 5 本ずつくらいありました。これは九合でも一番大きかったのではないのでしょうか。金山からも赤城神社の森が見えました。

(関口) 中でも一番大きい杉は途中で二股に分かれたようになっていて、風が吹くと割れるように揺れました。戦争中、大杉に日照旗を掲げたこともありました。

(星野) 確かにこれほどの杉はなかなかあるものではありませんね。杉は西矢島の皆さんの誇りでもあったのですね。さて、先ほど神社の本殿に描かれたムカデ絵を見せていただきましたが、太田市史（民俗編下巻 p.146）にムカデは赤城神社のつかいだから大事にしろといった、という記述がありますが、みなさんもそのように聞いていらっしゃるでしょうか。

(前田) はい。ムカデは殺してはいけないと聞いています。（その他の人は、赤城神社とムカデが縁があるということは知っていても、大事にしろということは聞いていないとのこと）

(星野) 前田さんのその証言は貴重かもしれませんね。

(数名) 女の人は 19 歳の厄年になると、厄落としということで赤城神社に来てミカンを投げました。

(星野) 豆でなくミカンですか？

(数名) ミカンに厄を乗せて投げるのだと思います。よく見ました。それを子どもたちが拾います。また神社はかつて、町内東部にある「元屋敷」というところ（今は石のお宮がある）にあったという説があります。その地名も由緒ありげですし、また不思議なことに、先ほど話したお祭りの神輿は、町内行脚の折にかつてしきたりとして必ずモト

ヤシキに寄りました。これが何を意味するのか、もしかしたら赤城神社がかつてそこにあったのか、または神輿と関係する神社である八坂神社がそこにあったのか、謎です。

(星野) なんか口マンがある話ですね。では次にお寺、安楽寺についてお聞きしますが、有名な話で、この寺が九合小学校の発祥の地だとのこと。何かそれにまつわるエピソードなどお知りの方はいらっしゃいませんか。

(野口幸) 私のひいおばあさんの話ですが、安楽寺には明治の初め頃まで寺子屋があったそうです。鳥之郷のお寺が寺子屋の大もとで、そちらまで通った人もいたようですが。

(数名) 安楽寺では4月8日の花祭りで屋根の下の小さいお釈迦様に花を飾って頭から甘茶をかけました。これは終戦前までだと思います。その他、薬師様の行事があります。本堂に向かって左手のお堂が薬師様のお堂で、ここにいる茂木さんが先頭に立って5年ほど前に建て替えました。年2回、4月と12月に供養があって、西矢島の各クルワ(集落)から世話番が出ます。(全部で6人)その奥さんも出て、寺で厄除け団子という団子を作り、それをお供えします。そして団子を下げて、お参りに来た人に配ります。今は1時から4時までですが、昔は夜で、ろうソクを立ててやりました。お参りに来る人は少なくなりましたね。

(星野) さて、では次に皆さんが子どもの頃の遊びについてお聞きします。まず、決まった遊び場というものがありましたか。

(数名) 赤城神社の境内ですね。

(星野) 十日夜^{とうかんや}のワラデッポウの時、東矢島の子とケンカをしたと聞いたのですが、みなさんしましたか？

(数名) しましたね。でもこれは村を挙げて、というのではなく、各村7、8人ずつくらいだったと思います。

(星野) なるほど。全員参加というわけではないのですね。でも東西矢島対決、面白そうですね。さて、十日夜の時に農家の縁側に挙げてある団子などを子どもがとって食べる、というものがありませんか。

(数名) いえ、それは十五夜の時です。十五夜は公然と盗みをしたわけです。といっても、本当の泥棒とは違い、とられた方は蚕がたくさん取れる、などといいまして、子どもがとれるようにわざと出していた、という面もありました。1つの風習ですね。十日夜はそういうお供え物はしません。

(匿名) 戦争中はガスデッポウをしました。孟宗竹を1間くらいに切って穴を開けて、カーバイトを入れ、水を入れて火をつけるとドーンといい音がするんです。

(星野) カーバイトはどこから手に入れたのですか。

(匿名) 三和工場^{みわこうば}です。

(星野) なるほど、西矢島にあったわけですね。少し分けてもらうのですね。

(匿名) そんなことしませんよ。だましてもらって来るんです。

(匿名) 訓練なんていって戦争ごっこのようなこともしました。そして夜中に田んぼの隅においてある溜め桶（糞尿を溜めておく桶）に落ちこたりましたものです（笑）

(匿名) 赤城神社の古い杉の根元に穴があいていて空洞になっていて、その穴が上まで達しているものがありまして、ある悪ガキが根元のところで紙を燃やすと、煙が上から出てきてびっくりしました。

(星野) 色んなイタズラがありましたね（笑）では次に戦争についてお聞きします。西矢島に爆弾が落とされたとのことですが。

(数名) 国道 407 のすぐ東の田んぼに 7, 8 発まとまって落ちました。三和工場を狙ったと考えられますが、それが北にそれたようです。時期はいつだったでしょう？

(高草木) まだ田植えにならない頃でした。また、夜でした。朝になって行ってみたら田んぼに大きな穴が開いて池のようになっていました。

(星野) ということは、太田駅がやられたのと同じ、4月4日未明（3日深夜）だと考えていいと思います。

(高草木) その穴は今はありませんがどう埋めたのだろうと思います。田んぼの中だったので怪我人などはいませんでした。100m 以上離れた我が家にも土砂が飛んできました。また家のケヤキの大木に 2つ 3つ爆弾の破片がささっていました。

(数名) その他、機銃掃射（爆弾を落とすのではなく、近距離から直接機関銃で物や人を狙った）は昼間にしょっちゅうありました。

(関口) ほんの 10 年位前までコンクリの塀に弾痕が残っていましたよ。

(星野) そうでしたか。また、出征兵士はやはり赤城神社から駅に向かったのですか。

(数名) そうです。～さんが出征するのを覚えています。往還（国道 407）まで送っていきました。

(星野) 本日はどうもありがとうございました。

大正インタビュー：東矢島編

語り手：清水かず江さん（昭和 2 年生まれ：旧姓対比地）、野村英男さん（昭和 6 年生まれ）、大谷勝範さん（昭和 7 年生まれ）、加賀谷光輝さん（昭和 9 年生まれ、薬王寺住職）、対比地貞夫さん（昭和 10 年生まれ）、阿部太郎さん（昭和 14 年生まれ）

聞き手：星野雅範

場所：東矢島集会所 日時：平成 24 年 7 月 11 日 13 時半～15 時半

※清水さんのみ新田しんでんの出身、他の方は本郷ほんごうの出身

（星野）それでは始めさせていただきます。今日は東矢島の地理、祭り、神社、寺、遊び、戦争、養蚕の順で伺っていきます。まず、村の形ですが、南北に長いですね。

（数名）そうですね。そして集落がかたまって島のようだったんです。

（清水）ただ、この神社などがある本郷の集落と、私の住んでいた中新田なかしんでん、そしてもっと南の遠新田とおしんでんと田んぼを隔てて 3 つに分かれていました。

（数名）中新田と遠新田を合わせて新田といいます。現在新田の南部（旧中島飛行機住宅地）は末広町、北部（旧農村）は南矢島町として別の行政区になっています。

（阿部）南小学校ができてから新田の子は南小に行くようになり、そこから分かれたような形だと思います。私の少し下の学年ですが。それまではみんな新田の子も九合小に通っていましたし、本郷も新田も一体の村でした。

（星野）地図で見ると本郷と遠新田は大分離れていますね。確かに新田の子が九合小まで通うのは大変だったでしょうね。

（清水）遠かったですね。私が子どもの頃南小はまだなかったわけですが、本郷まで来るのはかなり距離がありました。

（数名）九合小に行く途中で新田の子が本郷の家に寄って（井戸）水をもらって飲んでいくということがよくありました。

（星野）本郷と新田は神社のお祭りの参加などはどのようになっていますか。

（数名）本郷の長良神社のお祭りの時、世話番という役員は昔から新田の人もなっていました。まったく本郷も新田も同等でした。今は新田の人はお客として招かれています。私達本郷の者も、新田の稲荷様のお祭りに招かれます。かつては同じ村の仲間だったわけで、行政区が分かれるときには違和感がありました。

（星野）昔の地図を見ますと、東矢島地区には塚や平地林が何か所かあったようですがそれについて教えてください。またその名称があったら教えてください。

（対比地）（中新田の）清水さんちの北、今のオギハラ（金型メーカー）のところに松林

がありましたね。

(清水) そうですね。

(阿部) 田谷(小字名：町内北西部)にも林がありました。それはもともと家があったのが誰も住まなくなって林になったものです。また、新田に道風山^{どうふうざん}という大きな古墳がありました。これは私の家の畑になっていました。石の室があってその中で子どもの頃よく遊びました。昭和15、6年頃に土を取るために崩したと記憶しています。そのとき古い刀が出土し、現在前橋辺りに行っているのではないのでしょうか。

(清水) ドウフヤマでは私も子どもの頃上って遊びました。丘のようになっていました。

(加賀谷) 朝鮮から連れて来られた人が山を崩す作業にあたったと記憶しています。その土をトラックで運んで神社の東の道(新田へ向かう道)の土盛りに使いました。

(対比地) 朝鮮の人といえば、戦争中、矢島排水路を掘ったのもその人たちですね。今もその水路がありますが。

(数名) 新田にはドウフヤマの他にも塚が結構ありました。

(星野) 旧新田の南矢島ではつい最近大規模な区画整理が行われ、碁盤目のように整備されましたが、旧本郷の東矢島ではこれまでに大きな区画整理は行われていないようですね。住民の皆様としてはどうお考えですか。

(数名) 昭和40年代頃、やろうという話があって、杭打ちまでしましたが、反対者があって行いませんでした。区画整理をすると土地が3割取られてしまうということで、農業が今より盛んだった当時としてはそういう判断になったのも分かりますが、今思うとあの時やっておけばよかったですね。もうこれからはできないと思います。

(星野) 昔の道筋がそのまま残っていて、貴重だとは思いますが、そこに住んでいる方としては道が狭かったり、不便があるのですね。では次に、お祭りのことをお聞きしたいと思います。東矢島でのお祭りというと何があるのでしょうか。

(一同) なんととっても長良神社の春・秋のお祭りです。獅子舞(ササラと呼ぶ)をやるんです。

(星野) 春と秋はどちらが盛大だったのでしょうか。また出店など出たのでしょうか。

(一同) 春も秋も同じくらいの規模でした。露天商が何軒も出ました。よく覚えていませんが綿菓子とかアメとかがあったと思います。

(星野) なるほど。では東矢島の人にとってこの春秋のお祭りが1年で1番楽しみな日だったということでしょうか。

(一同) そうですね。大変賑やかで、嫁に行った娘もその子を持ってお祭りには戻ってきたものです。

(星野) すごいですね。では東矢島から嫁いだ清水さんもやはりお祭りには帰ってきた

のですか？

(清水) それはもう必ず来ましたよ。楽しみに帰ってきました。嫁というのは何か特別な理由がないとなかなか実家へ里帰りすることはできないものですが、お祭りといえど堂々と帰ることが出来ました(笑)そしてお餅をついたり赤飯を炊いたり、晴れの日、という感じでしたね。子どもの頃も、お祭りのときは中新田からでも神社が遠いと感じませんでした。そうそう、東矢島の村の中で嫁に行った友達がありますが、その方が「あなたはいいわね、お祭りのときゆっくりできて。私は準備が大変でお祭りをゆっくり楽しめないわ」ということをいっておられました。お祭りの日は、その家の嫁は忙しいんです。

(星野) それは嫁の立場からの貴重な証言ですね。さて、お祭りの中心となるのはやはり先ほど出た獅子舞ということになるのでしょうか。

(一同) そうですね。

(星野) では、太田市の無形文化財にも指定されている東矢島の獅子舞について、少し教えていただけますか。

(野村) 私は昔獅子舞をすりました。「する」というのは「舞う」という意味) 東矢島の獅子舞の特徴の1つとしては、「宿^{やど}」があることです。世話番という神社の役員の中から1軒その年の宿が選ばれるのですが、獅子舞はその家で最初に準備をし、すって出ました。(舞ってから出たという意味)。私もスリダシ(最初の舞を舞うこと)をやったことがあります。そこから神社まで行列で太鼓を叩きながら向かいます。もちろん新田の家が宿になることもあり、遠いですが村の中を練り歩くわけです。

(対比地) 宿になると大変なんですよ。うちは父が獅子舞の笛吹きをやっていたから宿を免除されたこともありましたが、踊り手や関係者の食事を全部準備するわけです。また獅子頭を1年間ずっと預かって管理しなければなりません。神社での祭りが終わるとまたその宿に帰って、宴会となります。

(星野) 宿は本当に大変そうですね。その食事代などはどうするのでしょうか。

(野村) オサゴ代といって各家からお金を集めました。それにしても大変でしたよ。当時は獅子舞をやる人も10~20人いましたから。昔は獅子舞は農家の長男しかやってはいけないといわれましたが、それでも当時は他に楽しみもなく、やり手が多くいました。

(星野) 獅子舞について、村の人たちは何が楽しみだったのでしょうか。

(清水) 私はその支度(外見)や動きが面白かったですね。

(一同) それと観客を獅子が追いかけてたりするんです。

(加賀谷) ナマハゲを怖がる子どもの心境でしょうね(笑)

(野村) 獅子は3頭いて、雄獅子と雌獅子というのが夫婦で、もう1頭は法眼^{ほうがん}というん

ですが、これが番頭さん（農家の手伝いの男）で、番頭さんが雌獅子を奪っちゃうんですね。それなんで雄獅子が面白くなって、観客に当り散らすわけです（笑）

（数名）ああそういう筋だったんですか。

（野村）宿から神社に来るのは夕方ですが、踊りが終わって宿に帰るのは夜の 10 時頃です。当時は街灯なんてろくにありませんから、行灯に火を入れて、提灯を下げて行列するわけです。

（星野）風流ですね。さて、東矢島獅子舞の特徴の 1 つに立派な万灯（花笠のようなもの）がありますね。新井町の獅子舞でも万灯を使いますが、こちらほど凝ったものではありません。

（数名）あれは立派ですね。7－5－3 の花笠になっていて、多人数で毎年作ります。

（野村）私も色々なところの獅子舞を見ましたが、これほど立派なものはなかなかありませんよ。

（星野）なるほど、立派な万灯は東矢島の人自慢なのですね。貴重なものだと思います。

（野村）獅子頭も古いんです。今使っているものは 260 年は経っているそうです。それと、その先代の獅子頭というのがかつて神主をしていた神藤^{かんどう}さんちにありますが、これは塗料の鑑定によると鎌倉時代まで遡るといわれます。

（星野）獅子舞が祭りにとって大事なものだということがよくわかりました。では、その他にお祭りはありましたか。

（数名）ヤグラを立てて八木節大会をやったことがありました。これは伝統的というのではなく、戦後、青年団などが地域のためにということで 2、3 回やっただけです。また、これも戦後の一時期だけですが、神社の神楽殿で演芸会をやりました。国定忠治などが出てきて、俗にヤクザ踊りといえます。

（加賀谷）その練習を薬王寺の本堂でやっていたのをよく覚えています。

（大谷）八木節や演芸会をやっていたのは私なんかよりももう少し先輩の人たちで、大正末から昭和のほんとの始め頃生まれの人たちですね。（手で笠をもつ仕草をして）三度笠をかぶってね、大分人気がありましたよ。

（数名）～さんとか、～さんは踊りの師匠で上手だったんですよね。（数人の名前が挙がる）

（星野）お寺の方のお祭りというのはなかったですか。

（一同）お寺では人が集まるようなお祭りというのはありませんでした。

（星野）では次に神社についてお聞きします。長良神社について、何か特徴的なことはありますか。

(数名) やはりお祭りが一番ですね。あと、境内は今みたいに明るくなくて、木が茂っていて暗かったですよ。

(大谷) 私は神社のすぐ隣に住んでいますが、それでも子どもの頃は神社で遊んでいて、少し遅くなるともう怖かったもんです。神社の森にフクロウがいて、ホー、ホーといかにも恐ろしく鳴くんです(笑)

(数名) ほんとに太陽の出ているうちだけです。あとお宮の裏に1抱えもあるホオノキがあって、上って遊びました。またお宮の北東に大きな松の木が1本ありました。ちなみに長良神社の北西に少し高くなってお宮がありますがこれは天神さまといい、かつては神社の西の天神下(小字名)というところにあつたのを移したものとこのことです。

(加賀谷) 遊びの帰り道というのは怖いものでしたね。家が近づくにつれてどんどん怖くなってくるんです。家の戸を開けるところが1番怖い。何か最後に襲われるような気がして。そして戸を開けて家に飛び込んでたがいま一つというところとやっとなんとするんです(笑)

(数名) 昔はとにかくみんな神社を大切にしていました。地域の中心で心のよりどころでした。

(星野) 本郷の東の方に柿木稲荷という神社がありますが、これは何なのでしょう。

(阿部) タヤ(小字名)の稲荷様などといいますが、10人くらいの連名で土地を所有しています。年2回祭礼がありまして今でも続いています。昔は行くと子どもはお菓子がもらえてうれしかったものです。

(星野) では次に、お寺、薬王寺についてお聞きします。加賀谷住職さん、お寺の歴史や特徴など教えていただけますか。

(加賀谷) 今お寺は神社から大分南東に離れたところにありますが、昔は神社のすぐ南東にあつたそうです。

(数名) 今でもそこに元寺という地名が残っていますし、お墓になっています。

(加賀谷) 約200年前にお寺が火事になり、それを機に現在のところへ移動したようです。お寺というものは護摩を炊いたり、また昔は菜種油の灯明を灯していましたから火事になりやすいのです。ですので再建する際に、また火事になって他の家まで燃えてしまつては大変だということで、延焼の危険の少ない今の場所へ移したのではないかと私は考えています。大体が村においては神社とお寺というのはすぐ近くにありますが、それが離れている村では火事が起こっているケースが多いのです。確証はないのですが、薬王寺の再建の頃、寺に残っている古文書から、住職が托鉢をして費用を集めた、という記録があります。その住職は村内の家から出た人です。

(数名) 昔はお寺の門の南に池がありましたね。

(加賀谷) それは壁土を取るために掘った穴が池になったものだと聞いています。池にはナマズなどありとあらゆる川魚がいましたよ。魚釣りができました。

(星野) それは実に合理的ですね。

(加賀谷) あとお寺に「抜け出し地蔵」という地蔵様があります。これは、仏様が普通乗っている蓮華座がなくて、体が半分土に埋まっているんです。もしお願いを受けたら、すぐに叶えてやるという意味で、地に足がついていて、また人々と視線が近い、という意味だそうです。

(一同) 知りませんでした。

(星野) それはいいお地蔵さんだと思いますが、地域の人には知られていないのですね。住職さんはどうお知りになったのですか。

(加賀谷) 40年ほど前にある信仰心の厚い人に聞きました。当時でもあまり知られていなかったようです。さて、薬王寺ではありませんが、中新田に「能節坊様^{のせつぼうさま}」というものがあります。これは昔その辺りに流行病^{はやりやまい}が出て、子どもがたくさん亡くなったことがあって、ある和尚が自分から生き埋めになって、竹をくり抜いてさして空気穴として、土の中で鐘を鳴らすがこの鐘がなくなったら私が息耐えたと思ってくれ、その代わり疫病がおさまるようにしよう、とあって、和尚が亡くなったあと病がおさまったそうです。その和尚は大変酒が好きだったので、それ以来地域の人が篠竹を切ってその節に酒を入れてお供えして供養し、昔は妻沼の方からもお参りする人があったそうです。戦後一時この風習は途絶えましたが、私の先代住職のときにまた始まりました。というのはその時何かよくないことがあったそうで、これはその供養をしなくなったからだ、という声があがったからのようです。中新田の若い衆は、この供養で上がった酒を飲んで酒の味を覚えた、などという話も古老から聞いています。

(清水) 私も子どもの頃、同じ話を聞きました。

(数名) 詳しい話は知りませんでした。能節坊様という名前は聞いたことがあります。

※「能節坊様について」 太田市史民俗編下巻 p.172, 671 参照

(星野) その他、本郷の西の外れのところに観音堂、また新田には阿弥陀堂という、それぞれお堂とお墓がありますが、これは何なのでしょう。

(加賀谷) 観音堂は東矢島の野村一族のお墓です。供養のときには私が呼ばれていきます。阿弥陀堂はももとは新田の人たちのための墓地です。今は他の人のお墓もありますが、やはり供養は私がいけます。それぞれの歴史的なことは分かりませんが、どちらも古くからあるようです。特にお祭りをやるというようなことはないようです。

(星野) では次にみなさんが子どもの頃の遊びについて伺います。決まった遊び場というのがありましたか。

(数名) 長良神社の境内が多かったですね。神社に来れば誰かしら遊んでいました。あとは堰ですね。

(対比地) 学校帰りに家に帰る前に神社に寄って、野球をしましたよ。

(阿部) よその家のヤマ(家の裏の屋敷林)に入って木登りをしたり、竹と竹の間を次々と渡ってみたりしましたね。

(星野) 堰というのはどこにあったのですか。また名前がありましたか。

(数名) 神社の北東にあってドードーと呼ばれていました。深くて飛び込んでも足がつかないので泳げない子は大変です(笑) それとその北にはタナバタという堰がありました。また田んぼの排水口にウケを仕掛けて、秋に稲刈りのために水を切ると、ドジョウなどがたくさん取れました。夕方は魚とりです。置きばりといって、ワナに大きなミミズをエサにしかけて水の中に沈めておき翌朝上げるんです。ウナギも取れました。

(星野) 遊びということで、十日夜とおかんやのワラデッポウで皆さん遊んだと思いますが、このとき西矢島の子とケンカみたいにしたということがありましたか。

(対比地) やりましたよ。何人かでね。でも私の家は東矢島の西端で西矢島と接していましたから、普段からよく西矢島に遊びに行っていたんです。だから十日夜の時はどっちの味方にもつけないから困ったものです。

(数名) その対抗戦は村を挙げてというのではなくて、宮西みやにし(東矢島の西の方)の子たちがやっていたものでしょうね。でも西矢島の子は神輿があったから気が荒かったような気がします。あの神輿はすごかったですよ。東矢島からも見にいきました。バスを止めてしまうこともありました。

(対比地) 私の家はそんなわけで西矢島と接していたので、昔から西矢島の神輿のお祭りでも寄付をしました。もし寄付をしないとお神輿にやられちゃうんですよ。

(星野) やられちゃうとはどういうことですか？

(対比地) 家に神輿をぶつけて壊されたりしますよ。とにかく荒っぼいんですから。

(星野) ひどいですね(笑)

(数名) 大久保というお店のところでみんながお神輿に登りあがる(セリアガリ)のですが、それは見ものでした。

(星野) さてでは次に戦争のことをお聞きします。東矢島には空襲がありましたか。

(数名) 神社の東に2発、また国道407沿いに東西に渡って18発落ちました。西に落ちたのは今の矢崎加工が三和工場みわこうばといって飛行機の部品を作っていたのでそこを狙ったのが北に外れたようです。太田駅がやられたのと同じ日(昭和20年4月4日未明)でした。穴は直径数メートルにも及び、穴と穴がつながって川になり、魚釣りができました。

(対比地) 私の家はその 100mほど北にありましたが、爆風でガラスは割れるし戸板は壊れるし大変な被害がありました。

(野村) 東に落ちたのは、近くに下肥を溜めた囲いがあって、それを何かと間違っって落としたのではないのでしょうか。

(加賀谷) 私は爆弾の穴でえぐれたところがよい粘土になっていたの、それを取って学校に持っていきましたよ。またお寺の境内に爆弾の破片が落ちていました。お寺の戸板も爆風で倒されたりしました。爆弾の他に、艦載機の機銃掃射もありました。K さんちはそれを受けて屋根を突き抜けて床下まで弾が届いたという話です。

(数名) 夜の照明弾はきれいでした。昼間のような明るさで、防空壕の中から見とれてしまいました。

(一同) 東の 2 発についてはいつ落ちたのか不明です。東矢島の空襲については、怪我人、死亡者などはいなかったようです。

(星野) では最後に養蚕についてですが、何か印象に残っていることを教えていただけますか。

(数名) 大変でしたよ。住んでいるところに上げた(大きくなった蚕をワラで編んで作るマブシに入れてカゴの上に広げて並べた) んですから。大きな納屋があればそこへ置けますが、大体は母屋に並べて人間の方はみんなまとまって小さくなって寝たものです。回転マブシができたのは後からで、昔はワラで編んだマブシでしたから場所を取りました。養蚕の回数は、昔は年に 2, 3 回でしたが、だんだん増えて最後は 5 回もやる家がありました。桑の与え方もだんだん時代によって変わりました。取れた繭は東矢島の養蚕組合の裁量でどこの製糸会社に売るか決めました。1 つのところ、というのではなくいくつかのところに出しました。養蚕の最後の方は農協に出していました。

(星野) 本日はありがとうございました。

大正インタビュー：東別所編

語り手：大谷芳男さん（大正 13 年生まれ：新田）、森尻昭久さん（昭和 4 年生まれ：新田）、森尻桂司さん（昭和 10 年生まれ：本郷）

※生年の後ろにその方の出身の区域名を記した。

聞き手：星野雅範

場所：東別所集会所

日時：平成 24 年 6 月 3 日 13 時半～15 時

（星野）それでは始めさせていただきます。今日は東別所の地理、祭り、子どもの遊び、獅子まわし、戦争などについて伺っていきたいと思います。まず地理から伺いますが、東別所はかつて、4 つに区分されていたそうですね。

（大谷）はい。北東に突き出た部分がキタツパラ、南側は西からニシツパラ、^{ほんごう}本郷、^{しんでん}新田と分かれていまして、往還道路の東と西がニシツパラと本郷の境界、神社の東の道が本郷と新田の境界でした。往還道路というのは東別所の幹線道路で、町内西部を南下し、お寺の南西で 90 度に右折し、ずっと東へ向かう道で、この道に沿って家々が並んでいました。お寺や神社への参道もこの道に接続していました。昔はここくらいしか広い道がありませんでした。昭和 12 年にキタツパラの部分がそのまま中島飛行機の飛行場用地として買収されました。ここには 20～30 軒の家がありましたが、飛行場造成に伴い、何か所かに分かれて移住しました。東別所の面積の 3 分の 1 ほどが取られてしまったわけですが、特に反対運動などはなかったように思います。東別所はヤマ（平地林）が多く、キタツパラは全部ヤマでしたし、ニシツパラ、本郷、新田の集落のすぐ北にはもうヤマがせまっていました。九合小に通うにもヤマを突き抜けて行かなければなりませんでしたし、小泉へ行くにも広いヤマを抜けなければなりませんでした。2～3 キロほど続いていたと思います。これらのヤマに特に名前があったという記憶はありません。また往還道路の南には家は 1 軒もありませんでした。東別所の全体像としては、北部はヤマ、それから南に行くに従い、居住区域、畑地、水田、とはっきり分かれていまして、南北で随分勾配がありました。

（星野）次はお祭りについてですが、東別所には大きなお祭りがあったそうですね。

（大谷）お祭りですか。いやあ、私も昔のことといわれて何を話そうかと考えていましたが、やはり最初に思いついたのがこれでした。^{こくじょうじ}国貞寺の八木節ですね。曜日は関係なく 8 月 21、22 日と決まっていて、私の子どもの頃からあって、それはにぎやかでした。戦争中は中止になりましたが。テレビも電話もないのにみんな知っていて、（八木節の盛んな）足利の堀込やら色んなところから腕自慢、喉自慢が集まって八木節大会をやった

んです。青年団が主催で、竹を割って、紙花をあしらった花笠を作ったものです。また開催のための寄付を集めるのですが、旧小泉（現大泉町）の商店街にもらいに行きました。東別所は九合村であり、後には太田になりましたけど、買い物などはそちらへ行っただんです。10～15軒くらい店があってそれで大体の物が買えましたね。往還道路からお寺まで参道は30～40mくらいあると思いますが、そこに屋台がずらーっと並んだんです。子どものおもちゃとか食べ物屋とか。すごかったんですよ。

（森尻昭）私も青年団に入ってお祭りに関わりました。戦争中の混乱で一時中止になりましたが、戦後すぐ復活しました。でも時代の流れで昭和23、24年頃を最後にやらなくなってしまいましたね。

（星野）それは残念ですね。しかし大変盛大なお祭りだったんですね。どれくらいの人が集まったのでしょうか？

（森尻桂）私などは運営には携わった世代より下になりますが、とにかく賑やかでした。境内に入りきれないで、本堂に上がりこんでしまう人もいたくらいです。

（大谷）東別所の人だけじゃなくて、古氷やら坂田やら、近隣からも大勢見に来ましたよ。祭りには、八木節の^{やぐら}櫓というのを建てたんです。2階建てでね、木や竹を組んで作るのですが、それがもうセットになっていて、ずーっと昔から毎年そのセットを使ってきたんです。今でもお寺の床下にしまっていてありますよ。そして東別所の長老などの審査員がお寺の本堂に陣取ってしまっていてね、歌い手は櫓の上にはいますでしょ。それで櫓の上に滑車がついていて、櫓と本堂の審査員席がヒモでつながっているんです。そして審査員が評価をして、その結果を滑車をつかって櫓の方へ伝えるんです。

（星野）すごいカラクリですね。また、櫓の材料が今でも残っているとは、それは文化財ですね。さて、では今度は長良神社の方のお祭りについて教えてくださいませんか。

（森尻昭）神社の祭りというと4月の春祭りと10月の秋祭りですが、大勢人が集まるのは10月の方ですね。今はこの場所は集会所という建物になっていますが、昔は神楽殿といって、床が高く作ってあって、まあ舞台のようになっていて、ここでおかめひょっとこの神楽をやったんです。戦後は演芸会ですね。青年団が自分たちで歌に合わせて踊るんです。日本舞踊というほどではないですが、着物を着て日本の歌に合わせて踊りました。

（大谷）当時は大流行で、どこの地区でもやったんですよ。当時は今と違って娯楽が少ないから、みんな楽しみにしてたんです。

（星野）地域の手作りのお祭りだったんですね。また、お祭りは若い人たちが中心となって作ったんですね。お神楽も東別所の人たちが舞ったのですか。

（大谷）いや、神楽は違う所から呼んだんです。どこからだったか知りませんが。

(星野) なるほど。では、さっきお話に出ましたが、神社の春祭りについて伺います。ここでは獅子頭をかついで村中をまわる、という珍しい風習があったそうですね。

(太田市史民俗編下巻 p157.158 に写真有り)

(森尻昭) はい。神社の春祭りは、さっき話したお寺の八木節祭りのようにみんなが境内に集まるというのではなく、獅子頭を各家に回すのが中心なんです。これは知らない人が見たらこの人たちは一体何をやってるんだろうと不思議に思うような変わった風習ですよ(笑) しかも、獅子頭は木箱に入っていて、その木箱が担ぎ棒に取り付けられた形になっています。普通お神輿というのは担ぎ棒の上にあるものですが、ここでは逆に

なっています。
(大谷) 4月の18、19日がお祭りなのですが、世良田(旧尾島町)のテンノサマ(八坂神社)から年番^{ねんぱん}の男達が獅子頭を借りてくるんです。昔は歩いて借りにいくのを見ましたよ。お神輿をかつぐみたいに、前と後ろに人がついて、交代しながら木箱に入った獅子頭を乗せて借りてきました。私は20歳のときに父を亡くしまして、一家の代表としてその時から年番として参加しました。その当時は自転車にリヤカーをつないで行きました。お祭りの前の晩(17日)に行って、むこうの神社に泊まって来ました。

(森尻昭) そして、東別所につくと一軒一軒農家を回って歩くんです。そうすると各家で、縁側にごちそうを出してくれるんですよ。まあごちそうといっても今みたいに肉などがあるわけじゃなく、煮物とか、カキナのおひたしとかですが。あとお酒。そして、今の人はムシロって知らないかもしれませんが、まあワラで編んだカーペットのようなもので、これを家の中に敷いて、ここに獅子頭を担いだ役員が土足で上がっていくんです。そうすると家の人はありがたがってこの獅子頭の下をくぐるわけです。これが無病息災で縁起がいいというわけなんです。さっきお酒といいましたが、担ぐ人はお酒を楽しみにしていて、もしお酒を出してくれない家があったりすると、なかなかその家から出ようとしなくて、酒を出すよう催促するような、そんな話もありましたよ(笑)

(森尻桂) うちはひよこの孵化場の商売をしていましたから、特にそういうものを大事にしまして、獅子が家の中に上がるほど縁起がいいということで、座敷まで上がってもらいました。私自身ももちろん獅子頭の下をくぐらせてもらいました。親が担ぎ手にお酒をふるまっていたのも覚えています。

(大谷) 村の西から回り始めるのですが、東にある私の家に来るのは夜になってしまうこともありました。というのは、獅子を担ぐ人は酒が飲みたいので、また酔っ払っているのです。隣の古氷地区や坂田地区の家までまわって余計にお酒をもらおうとするのです。別所の獅子まわしは有名で、行けば必ずお酒を出してくれました。酒は、まず獅子頭に上げてから、人が飲みました。迎える側は別に文句をいわず、みんなあり

がたがっていました。酒をたくさん出してくれた家ではワッショイワッショイと余計に威勢よくもみこんだものです。中の獅子頭が壊れてしまうとかそういうことは気にする必要はありませんでした。祭りのあとまた世楽田に返しに行くわけですが、その日はちょうど妻沼の聖天様のお祭りで、利根川を渡ってそこへ寄って遊んでくることがありました。

（星野）随分と変わった風習ですね。またお酒の話など、今では考えられないですねえ。

（森尻昭）ほんとですね。しかも、獅子頭を担いでいくわけですが、それは木箱の中に入れて、外からは見えないんです。だからみんなただ木箱の下をくぐるわけです。変な風習ですね（笑）

（星野）面白いですね。今はどうなっているんですか。

（大谷）今は4月の第3日曜に車で借りに行って、太鼓を叩きながらそのまま車で町内を回ります。その時お札を受けてきて、希望者は購入します。私の家も毎年購入して、玄関に掲げています。

（星野）では、次に子どもの遊びについてお聞きします。新井町では子どもたちは神社の境内に集まって遊ぶことが多かったと聞いていますが、東別所ではそういう場所がありましたか。

（大谷）私の記憶ではそういう場所はないですね。それに私の家などは農業が忙しくて、子どもも仕事を手伝わされたので、そんなに遊ぶなんてできなかつたですよ。東別所は比較的畑が多くてね、養蚕をたくさんやったんです。農家は蚕を飼いましたから、今頃の季節になると桑摘みといって、桑の葉を一枚一枚手でもいだのです。子どもは大事な労働力だったんですよ。

（森尻昭）そう。だから学校でも農繁休暇といって、田植え時期と稲刈り時期は学校が休みになったのですから。子どもは家の仕事を手伝いなさい、ってことですよ。田植え前に田んぼを牛や馬で耕すのですがその案内役の鼻取りというのも子どもの仕事でした。私なんかは遊びといたら魚とり、魚釣り、水浴びでしょうか。田んぼの水口にウケという仕掛けをしておくと、コブナとかドジョウがよくとれました。昔は田んぼの中に魚が泳いでいましたから。あと外来のエビガニ（ザリガニ）釣りもよくやりましたよ。水浴びは、坂田堰という大きめの堰があって、そこは水がたまっていたから、よく泳ぎました。

（大谷）女の子は子守も大事な仕事でしたね。小学生のときから、もっと小さい子をおんぶして学校に来た子も多かったですよ。40人のクラスのうち5、6人はいましたねえ。

（星野）そうですか。今では考えられないですが、農作業の手伝いにしろ、子守にしろ、子どもは大事な働き手だったのですね。

(森尻桂) 私は友達と長良神社で遊びました。境内で相撲をしたり、また神社の裏がずーっと広い杉林になっていまして、そこで色々な遊びをしました。神社の裏には古墳がありますが、この斜面を利用して、かくれんぼをしたり、山のむこうとこちらに分かれて戦争ごっこをしたりしたものです。林の中にウルシの木があって、その木を切ったら全身がかぶれてしまったなんてこともありました(笑) また、先ほど出た往還道路がそのまま遊び場でした。昔は車が通るわけではなかったので危険ではありませんでした。

(大谷) 小学校のことが出たので少し話すと、当時 40 人学級で男組と女組で別れていて、6 年間クラス替えはなし。ずっと同じ顔なんですね。それで義務教育は 6 年間だけ。その次は今でいう中学校みたいな高等科というのがあって、そこへ進んだのが 12、13 人。太中(今の太田高校)に進んだのが 1 人、小泉農学校へ行ったのが 1 人。あとは大体中島飛行機に就職です。それだけ中島飛行機というのはもうすごかったんです。今の富士重工どころじゃなかったですね。

(森尻昭) 私の学年は男組、女組と、あと男女の混ざった男女組がありましたね。

(星野) やっぱ男女組になった方がうれしいんでしょうか？

(森尻昭) そうですね(笑) 子どもの楽しみということでは、小さいお祭りがたくさんありました。(東別所)村の色んなところに～様という神様のような仏様のような道祖神がありまして、1ヶ月に1度くらい、それぞれのお祭りがあるんです。今月はこの神様、来月はここ、という風に。そのたびに農家から少しずつお米を集めて、それに小豆を混ぜて炊いて、新聞紙で包んで子どもたちにくれるんですよ。当時お米は貴重で、イモばかり食べていたわけです。米を食べるとしても、麦の混ざった麦飯。そんなとき白米が食べられるというのは子ども心にうれしく、その日が楽しみでしたよ。いい民俗行事でしたね。

(森尻桂) 私もそのような道祖神を覚えています。現在それらの多くは神社の裏の古墳上に集められ、並べて祭ってあります。

(森尻昭) もう1つ、十日夜とおかみやというのがありましたね。旧暦の10月10日、今でいうと11月になりますが、この日に農家はごちそうを作って、それを神様にお供えするんです。お団子とか、サツマイモを蒸かしたりね。それを縁側に置いておきます。その日に子ども達は、稲ワラをしばって持つところを作った頑丈なワラデッポウワラデッポウというのを作るんです。中にイモガラといってサトイモの茎を入れて。これは地面を叩いて音を出して遊ぶおもちゃなのですが、子どもは「十日夜ワラデッポウ♪」なんて歌があって、歌いながら地面を叩いて、各農家を回って、それで縁側にお供えしてあるごちそうを盗って食べるんです。みんなで盗みっこの競争をして。今だったら泥棒になってしまいますが、当時の大人たちは見てみぬふりというか、子どもたちに与えるために出しておいたような

感じだったんです。あれは楽しかったですね。

(星野) いい風習ですよ。十日夜に関して、地区によっては、隣の地区の子たちとワラデッポウで叩きあったりしてケンカをしたなんていう話を聞きますが、東別所はそういうことはありましたか。

(森尻昭) 古氷とやりましたよ (笑) ちょうどこっちと古氷との間にちょっと飛び越えられない堀がありまして、そこをはさんで両方からお互いの悪口をいいあったんです。石を投げたりとか。だんだん思い出してきましたけど、桑の実はおいしかったですねえ。この辺ではドドメって言って、学校帰りに桑原に寄って食べたんです。当時は砂糖が貴重で、甘いものがないから、ドドメは最高の甘さでした。

(星野) 学校帰りにですか。帰り道におやつがあるなんていいですね。

(大谷) そうですね。農家は桑の実なんてどうでもいいから子どもがとっても怒らないんですよ。また今と違ってそこら中に桑畑がありましたしねえ。とにかく養蚕をよくやりましたよ。1年に5回も飼ったのですから。農家としては、養蚕は半年でお金になるからありがたかったんです。カイコなんて呼び捨てにしないで、「オコサマ」なんて呼んでください。

(星野) この地域と養蚕は切っても切れない関係があったのですね。さて、話は尽きませんが、次の話題として、戦争について教えていただきたいと思います。東別所には空襲があったそうですね。

(大谷) 空襲は忘れられないですねえ。最初の空襲は昭和20年の2月10日。このときは東別所には落ちなかったですが、太田の中島飛行機がやられました。私はその時仕事で足利にいて、こっちまで帰ってくるのに汽車が動かないから線路づたいに歩いて帰ってきました。

(森尻昭) 冬の澄んだ青空高くに何十機ものB29が銀色に光ってね、きれいでしたよ。でもきれいだなんていってる間にもものすごい空襲が始まりました。

(大谷) 東別所に落ちたのは4月4日未明です。太田駅がやられたのと同じ日。飛行機の格納庫がやられました。

(森尻昭) 順を追って話すとね、昭和16年に東別所の北部に中島飛行機の飛行場ができて、そこに作った飛行機をしまっておく格納庫が4棟できたんです。これがその日にやられたわけです。中の飛行機もろとも壊滅。夜間空襲で50機位のB29が爆弾を落としました。私は自宅に掘った防空壕の中で震えていました。爆弾というのは、落ちてくるときにグォーっというなんともいえない音がするのですね。そこからドドドドドっという衝撃。もうだめだと思いました。この間の地震(平成23年3月11日東日本大震災)どころの怖さではありませんでした。翌日見に行くと大穴が開いていました。た

だ不幸中の幸いで、東別所の住宅地に落ちたわけではなかったから怪我人などはいなかったと思います。うちは衝撃で壁が少し落ちてしまいましたけど。

(星野) では東別所が直接狙われたのはいつなのでしょう。

(大谷) 私は5月15日に出征して兵隊になって、それから終戦まで東別所に帰らなかったのですが、私が行く前にはまだ狙われていなかったですね。だから5月以降です。

(森尻昭) 私は戦争に行っていないから東別所にいましたけど、1回、2回じゃないんですよ。艦載機といってね、空母から飛んできた戦闘機がバリバリバリっと人間を狙い撃ちするんです。終戦まで何度も何度も来ました。怪我人はいなかったですが。

(大谷) うちは自宅のすぐそばまでやられました。屋敷稲荷の社に破片が当たって今でも跡が残っています。それと、家にたくさん木が生えていて、それを昭和51年に切った時に業者の人が大変困っていましたね。外から見ても分からないんですが、切ってみると中に爆弾の破片がたくさんささっていたんですよ。

※平成24年9月、大谷家の屋敷稲荷の傷跡を見せていただく。相当な力で一気に貫いたことがわかる傷が格子扉に残っていた。

(森尻昭) 戦争の被害というと、掩体壕えんたいごうというのがあったんです。さっきいった飛行場から東別所の住宅地まで築いた土手なんですけどね、この中に飛行機を並べて隠しておいたんです。まあ米軍に見つからないように目隠しですよ。飛行機の上には木の枝などを乗せたりしていました。この土手を作るのを手伝われました。そして、これは私達の大切な農地をつぶして作られたんです。戦争中は個人の権利なんてあったもんじゃありません。

(大谷) 兵隊から数ヶ月ぶりに村に帰ってきたときは掩体壕などで村の中がめちゃくちゃでびっくりしましたね。

(森尻桂) 今は私の知る限り掩体壕の跡は全く見られないですが、東別所内の東から中ほどまで、屋敷地だけは避けて、畑の部分にずーっと作られました。私の家の庭にも2つ作られました。問答無用です。土を盛って作ったわけですが、高さは2~3mくらいでしょうか。戦後、進駐軍(GHQ)が平らになりました。

(星野) そうでしたか。さて、最後に、航空写真などで見ると一目瞭然ですが、東別所北部に現在、半円型、放射状に区画整理された住宅地がありますね。東別所幼稚園が中心にあります。これも戦争と関係しているとのことですが。

(森尻昭) あれは最初、戦前に中島飛行機のゴルフ場として作られたんです。青々とした芝生で、池や山もありましたね。そして戦後、進駐軍が太田に入ってきて、その宿舎がないと。そこで目をつけたのがこの土地だったんです。ゴルフ場をならして、進駐軍上級職の住宅地にしました。50軒くらいあったのでしょうか。今と違って一軒一軒の庭は

広くて、ポツンポツンと建っていた感じでした。すごかったですよ。当時私たちはガチャコン（手押しポンプ）の井戸水を使って、トイレは汲み取り式だったのに、ちゃんと水道があって、浄化槽もあったんですから。神社の裏にあたりますが、それぞれの家で車も持っていました。それもアメ車のかっこいいやつで、うらやましかったですね。今の東別所幼稚園のところには彼らのための消防署がありましたね。あの暮らしを見て、ああ日本がこんな進んだ国と戦争して勝てるわけはなかった、と思いましたね。私はここで初めて黒人を見ましたけど、肌が真っ黒で目は真っ白でびっくりしましたよ。でもね、最初は怖かったし驚きましたけど、だんだん慣れてくると交流もありましたよ。カタコト英語で話しかけるとガムやチョコレートをくれたり、農家はその頃鶏を飼っていたから、彼らが卵を買いに来るんですよ。こっちとしてはお金がもらえるからうれしかったですよ。

（大谷）大体1軒の家で日本人のメイド2人、ボーイ1人を雇っていましたね。神社の東にはこの住宅で働く日本人女性のための女子寮まで立ちました。日本人としては仕事になるし、英語も覚えられるしよかったです。私の妹は洋裁ができたので、ある進駐軍の家族に雇われ、専属の洋服仕立て屋みたいになって、その家族の服を全部縫って作りました。もちろん電気ミシンで。当時日本の家でそんなものはないですよ。

（森尻昭）強制的にっていうのじゃなくて仕事としてですね。なんてアメリカ人っていう人たちなんだろうって思いました。戦争中は「鬼畜米英」っていう合言葉で、アメリカ人やイギリス人は鬼や畜生だなんていったのに。

（森尻桂）長良神社の裏に、古墳を少し削る形で進駐軍の住宅のための汚水処理施設が作られました。我が家の庭にもその土管が通されましたが、当時日本人は汲み取り式の便所で、それを肥料にして田畑にまいていた時代ですから、そんな施設ができたのは驚きで、アメリカの進んだ仕組みに驚きました。しかし、その施設の浄化力は完全ではなく、下流に流された水は川を汚染し、それまできれいだっただ川から悪臭が漂うようになりました。進駐軍は10年もいなかったんじゃないでしょうか。その後その土地は三洋電機に払い下げになって、それを社員などに分譲して売って、今に至っているわけですね。

（星野）東別所は戦中、戦後に渡り、かなり特殊な環境にあったのですね。本日は貴重なお話をありがとうございました。

大正インタビュー：内ヶ島編

語り手：、飯田市太郎さん（大正 13 年生まれ：ナカ）、家泉彰男さん（大正 14 年生まれ：キタッパラ）、加島弘一さん（昭和 3 年生まれ：キタッパラ）、飯田ヤス子さん（昭和 9 年生まれ：ニシ）、飯田一雄さん（昭和 15 年生まれ：ニシ、当時内ヶ島区長）

※生年の後に書いてあるのはその方の生れたクルワの名称。

聞き手：星野雅範

場所：内ヶ島集会所

日時：平成 24 年 7 月 8 日 14 時～16 時半

（星野） それでは始めさせていただきます。今日は内ヶ島地区の地理、子どもの頃の遊び、お祭り、神社、お寺、戦争、養蚕という順でお話を伺っていきたいと思います。まず内ヶ島の地理ということで、ここに住宅地図を広げてありますが、とにかく広いですね。他の地区の倍くらいあります。

（一同） 九合でも最大の面積があります。

（星野） そのためか、内ヶ島は同じ町内で、行政区的には目塚と分かれていますね。この区切りはどこになるのでしょうか。

（飯田一） ほぼ東武小泉線が境で、それより北が目塚、南がこの集会所を含む、いわゆる本村となります。

（星野） 他にも地域の分け方があるとお聞きしていますが。

（飯田一） かつては第 1、第 2、第 3 という分け方が浸透していました。農事支部はこれに沿って 3 つに分かれています。第 1 と第 2 の境界は、はっきりしませんが大体バイパスから伊勢神社のライン、第 2 と第 3 の境界は明白で、東武小泉線です。そして、複雑なのですが、さらにクルワというものに分けられています。第 1 はヒガシ、ナカ、ニシのクルワに分かれ、第 2 はハネキ（葉根木）、キタッパラというクルワに分かれています。またヒガシ、ナカ、ニシを合わせて本郷ともいいます。目塚は単体で第 3 です。

（星野） 何だか複雑ですね。さすがは広い面積を持ち、昔から人口も多かった内ヶ島です。

（飯田一） 神社総代などは、各クルワから選出されます。伝統的に、目塚、キタッパラからそれぞれ 2 人、ハネキ、ヒガシ、ナカ、ニシから 1 人ずつで、計 8 人が選ばれます。

（星野） なるほど、昔から各クルワのバランスが取られていたような形なのですね。また今は目塚は別の行政区になっていますが、伊勢神社のお祭りなどでは今でも交流があるわけですね。さて、昔の地図を見ると、内ヶ島には平地林が大分あったようですが、みなさんが子どもの頃はまだありましたか。

(数名) 旧フランスベッドや、現在スーパーのヤオコーなどのあるあたりを小字名で房塚づかといいいますが、そこからキッタパラの大林おおばやし（小字名）まで林が続いていました。その林を房塚山ぼうづかやまといいました。

(飯田ヤ) 子どもの頃は恐ろしくて、お化けが出るなんていう話がありました。

(星野) そういう平地林はだれが何のために所有していたのですか。

(数名) 内ヶ島の農家が持っていたものと、村の共有地も結構ありました。内ヶ島の農家は大体薪山まきやま（平地林）を持っていて、そこから生活に必要な薪を取りました。それで一年間に合いました。何年かに1回切って売ることもありました。

(飯田ヤ) 父は「ヤマカリに行く」、とって弁当持ちで出かけることがありました。

(星野) 昭和16年に太田飛行場ができましたが、内ヶ島の土地が引かかったそうですね。

(加島) そうですね。あれは半強制的だったのでしょうかね。

(飯田市) 「半」どころじゃありません。「全」強制的でしたよ。当時、田んぼは一等地で1反600円、畑は300円、桑畑はそれに90円の補償費がつきました。そのとき、内ヶ島に議員がいて、私の父のところへ相談に来たんです。「かつつあん（父）、畑300円じゃ安すぎるから陳情をしよう」というように。それが昭和10年頃の話です。そして、どういうわけかその話が漏れて、騒動になりました。その後その議員がうちに来て、「かつつあん、おれはもう手を引くよ。うちに特高警察が来て1時間も居座られたよ。」と。特高警察は憲兵よりさらに上で、恐ろしい存在でした。これに逆らえばどうなるかわかりません。結局国の言い値で売り渡すことになったわけです。だから「全」強制的というわけです。

(星野) 貴重な証言ですね。さてでは、祭りについて伺います。内ヶ島で祭りというところがありましたか。

(一同) 伊勢神社のお祭りです。春、秋とありまして、子どもたちは楽しみにしていました。また1月7日には弓引きを行いました。

(飯田一) この3つのお祭りで特徴的なのは、甘酒を出すことですね。昔は各家がサシヨセといって米を持ち寄り、その米で麴をつくって甘酒を作りました。これがお祭りで振舞われます。昭和40年頃以降はサシヨセはしませんが、かつての名残で今でも甘酒は出しています。

(数名) そういえばお祭りでの甘酒が楽しみでした。

(飯田市) 春秋のお祭りでは露店が出ました。確か綿菓子や飴などだったと思います。ところでその甘酒ですが、これはカマバンというその年の神社の世話役の中で、私の家を含むナカグルワの家が宿（準備をする家）に選ばれていました。しかし、宿というの

は大変で、ナカグルワの家々から不満が出ていました。伊勢神社の祭りは内ヶ島全体の祭りなのに、ナカグルワだけから宿を選ぶのはおかしいと。そこで私がある集まりでそれを投げかけたら、「それは昔からの決まりなのだから変えない方がいい」、という人もいましたが、大勢としては「若いっちゃんがいうんじゃそうすべえ」となり、それ以来宿は全村から選ばれることになりました。

(星野) それはそれは。さて、弓引きは内ヶ島の誇る伝統文化だと思いますが、どんなものなのか教えてください。

(数名) 5~7歳の子が弓を引いて的を射抜く神事なわけですが、昔は紋付羽織袴で行う神聖なものでした。親がウツギの木で弓を作ります。かつて弓引きができる子は限られていました。農家の長男でないとできないし、両親がそろっていない子、喪中の家の子も引けませんでした。

(飯田市) 私の頃は5歳と7歳でやるものでした。ただ私は5歳の時は引きましたが、7歳の時は母親が亡くなったので引けませんでした。

(飯田ヤ) 弓引きは子どもというより親がうれしいんです。先ほどの理由で、この弓引きに参加できるのは幸せなことだと考えられていましたから。

※太田市史民俗編下巻 p.72 参照

(星野) さて、その他に何か祭りはありましたか。

(一同) 戦後、演芸会というのをやりましたね。

(飯田ヤ) ここにいる家泉さんが白いスーツを着て漫才をやったのが印象的でした。内容まで覚えていますよ(笑)

(数名) そう、わたしたちが青年団でやりました。高崎の陸軍病院や高林の中島飛行機の寮に慰問に行ったこともありました。その他、お寺で盆踊りがありましたね。ヤグラを組みました。

(飯田市) 盆踊りは弓引きなどと違ってずっと昔からというのではなく、明治になってからだと思います。その他の祭りとして、キタツバラの一大事業のナイドナイドがありますね。

(加島) そうですね。これも昔はにぎやかでした。カンカンナイドともいって8月1~7日まで、お地蔵様の境内で行います。みんなで大きな数珠を回します。お地蔵様はバイパス(県道鳥山竜舞線)が通って庭がなくなったようになっていますが、昔は広くて、お祭りのときは氷屋などの露店が出ました。

(数名) このお祭りはキタツバラ以外の子も行きました。

(星野) 色々なお祭りがあったのですね。さて、まだお聞きすることが色々あるのですが、もう時間が来てしまいました。やはり内ヶ島には話題が多いですね。

(飯田市) そうですね。九合全部のことを合わせたよりも内ヶ島にはたくさんの方がいると思いますよ (笑) せめて何日かぶっ続けて聞き取りしなくては (笑)

(星野) ほんとに今日だけでは足りませんね。しかしこの座談会は全体を見渡すことに焦点を置きたいと思います。皆様、もう少し延長してもいいですか。

(一同) どうぞ。

(星野) ありがとうございます。ところでいま飯田さんがおっしゃったことと関連して、九合村の歴代村長 9 人のうち、内ヶ島の方が 5 人も占めていますね。これにはどういう背景があったのでしょうか。

(飯田市) 内ヶ島は一口に「財閥村」などと呼ばれ裕福な家が多く、また学のある人が多かったのではないのでしょうか。そもそも昔は税金を納めていないと選挙権がありませんでしたし。

(星野) なるほど。では次に神社についてお聞きします。九合の他の町内では、明治末の一村一社の方針で、小さい神社は村の大きな神社に合祀されている例が多いのですが、内ヶ島には何だかたくさんありますよね。これはどういうことでしょうか。

(飯田市) これにはわけがあるんです。内ヶ島でもやはり明治末に伊勢神社に他の神社も合祀したわけです。しかしその後、よくないことが起こって、タタリだ、というような話が出て、また元に戻したという話です。

(加島) キタッパラには稲荷様があるのですが、まさにそういう話を聞いています。最初伊勢神社に合祀しましたが、後で流行り病が出て、これは稲荷様のタタリだ、ということでクルワの人が担いで元に戻したとのこと。戻したのは大正の頃だと思います。

(飯田市) ヒガシングルワの八幡様も同じだそうです。

(星野) 天神山古墳の上にある天神様もそういう経緯だったのでしょうか。

(一同) さて、あれはどうなのでしょう。合祀したのかどうか、よく分かりません。

(飯田市) ところで私が若い頃、昭和 10 年代だったと思いますが、天神山に表札が立ちました。私は歴史等が当時から好きだったので覚えているのですが、それには崇神天皇の第一皇子の墓と書いてありました。

※飯田さんの見た表札というのは昭和 16 年に天神山が史跡指定を受けた際のものである可能性がある。

(星野) なるほど、現在は天神山に葬られた人が誰だか特定されていませんが、当時はそう考えられていたのですね。また現在天神山にある天神様と、古墳に葬られた人とは別物なわけですね。

(数名) 当然です。天神様は学問の神様の菅原道真を祀る神社ですから。

(星野) さて、三重の伊勢神宮が内宮と外宮に分かれているように、内ヶ島の伊勢神社

もかつては東宮^{ひがしのみや}と西宮^{にしのみや}があったそうですね。

(飯田市) これは確かにありました。やはり明治の末までですが、東宮は太田飛行場の敷地に引っかかって土地が取られてしまいました。私の子どもの頃は境内の名残があって、池などもありました。西宮は蓮光寺の南西、現在ガソリンスタンドのある辺りにありました。東宮が内宮で天照大神をまつり、西宮が外宮で豊受大神をまつっていました。

※太田市史民俗編下巻 p.47,73 参照

(星野) それは貴重な証言ですね。ではお寺、蓮光寺について、何か特筆すべきことがありますでしょうか。

(数名) 内ヶ島ではお寺はあまり目立つものはありません。住職もいませんし。

(星野) では次に皆さんが子どもの頃の遊びについてお聞きしたいと思います。まず、どこか子どもたちが集まって遊ぶ場所というのがありましたか。

(飯田市) 本郷の子は、うちの近くに道の広くなったところがあって、別に今みたいに自動車も通りませんから、そこで遊ぶことが多かったですね。

(家泉) キタツパラの子は先ほどの地藏様の境内ですね。「頭なぜっこ」なんかよくやりました。

(数名) 陣取りなどといって、基地を作って遊び回ったり。あとは水浴びですね。「堰の上」という堰があって、そこにはいつも子どもがたくさんいました。

(加島) 牛にやる草を刈りに行って、カゴ一杯草を刈ったら、そのカゴを置いて水浴びをするんです。

(星野) 十日夜のワラデッポウを皆さんやったと思いますが、その時隣村とケンカをした、などということがありませんでしたか。

(家泉) 目塚の連中とやりましたね。その時新島町のN君が目塚に加勢して、その人が強かったんです(笑)

(飯田ヤ) おぼろげですが、その日に兄にくっついて房塚山を抜けて飯塚に行ったような気がします。それがそのケンカだったのかどうか分かりませんが。

(数名) そのケンカというのはほんとのケンカではなくて遊びの中でのものです。また村を挙げて、というのではなく、近場の子たちがやったものでしょう。家泉さんのキタツパラは目塚と近いし、ヤス子さんはニシグルワで飯塚と近いですね。これは大人はやらず、子どもだけです。大人の目を盗んでやるのがハラハラしていいわけです。

(星野) 昔は自転車に乗って紙芝居屋が来たとのことですが。

(一同) 内ヶ島にも来ましたね。

(飯田市) 本郷の方は先ほど言った子どもの遊び場だった道端です。

(家泉、鹿島) キタツバラは地藏様の境内です。要は子どもの遊び場に来たわけですね
(笑)

(数名) 昭和初期は1 銭払うと見せてくれました。黄金バットやノラクロなど覚えています。紙芝居はしかし、いつもちょうどいいところで「次回に続く」、になったものです
(笑)

(星野) では次に、戦争のことをお聞きします。内ヶ島にも空襲があったそうですが、
(飯田市、家泉、鹿島) 私達は戦争に行っていたため直接は経験しておらず、帰ってから聞きました。

(数名) 落ちたのは中島飛行機に近い目塚地区です。昭和 20 年 2 月 10 日、中島飛行機が狙われた時で、西風にあおられて内ヶ島にも落ちたようです。

(飯田市) うちの田んぼにも爆弾が落ち、大きな穴があきました。耕すための牛が入らなかったし、耕運機もその穴に落ちてしまいそうになったり、とにかく大変でした。

(家泉) 女体山(古墳)の南西にあった借家がやられ、死亡者も出ました。

(飯田ヤ) 戦争の思い出というと、昭和 16 年の開戦当時、私は九合小学校に通っていましたが、意味も分からず提灯行列で伊勢神社に集まった記憶があります。あと、九合小に兵隊さんが駐屯していて、私が 1 年生のとき、舌切り雀の劇を見せた覚えがあります。

(星野) 戦争というと神社が関係するのですね。やはり出征するときは伊勢神社から出たのでしょうか。

(飯田市) そうですね。私もここでバンザイをして、みんなに見送られ太田駅へと向かいました。

(星野) 最後に養蚕のことをお聞きします。農家が収穫した繭というのはその後どこへ行くのでしょうか。

(飯田市) 各大字、または農事組合ごとに養蚕組合があつて、その組合ごとの裁量で、どこの製糸会社へ売り渡すかを決めます。製糸会社は繭が欲しいわけで、農事組合は大きな権力がありました。私も内ヶ島第 1 農事支部の養蚕組合長を務めました。神戸製糸か新田製糸かに売ったのですが、昭和 30 年代頃は養蚕が盛んだつたので、どっちに売るかで色々ともめたものです。その後養蚕が^{すた}廃れるにつれ、今度は無理に繭を買ってもらうようになってしまいました。現在、九合で養蚕農家は内ヶ島に 1 軒あるだけです。

※平成 24 年中にその 1 軒もおやめになり、九合地区から養蚕農家がなくなった。

(星野) そうですか。みなさん今日は長時間にわたり、ありがとうございました。

大正インタビュー：目塚編

語り手：町田安子さん（昭和4年生まれ）、石川勝威さん（昭和19年生まれ）、
石川幸宏さん（昭和22年生まれ）

聞き手：星野雅範

場所：目塚子供会館

日時：平成24年9月8日15時～16時

（星野）それでは始めさせていただきます。さて今日は目塚地区の地理、お祭り、神社、お寺、子どもの頃の遊び、戦争、養蚕という順でお話を伺っていきたいと思います。まず地理ということですが、目塚は内ヶ島町内にありながら独立した町会組織を持っているわけですが、その区域の区切りは小泉線から北側ということでしょうか。

（一同）はい、そうなっていると思います。

（星野）どうして目塚という名前がついているのでしょうか。

（町田）さて、昔から目塚でしたので、理由は知りません。

（石川幸）ちなみに正式な小字名としての目塚は女体山の南東の一部分だけを指します。私の家もここにありますが、この辺りが目塚地区の旧の中心集落になると思います。その他に、天神山の東に何軒かあり、またさらにその北西に、ここにいる町田さんの家が1軒ありました。

（町田）ですからうちは、目塚の他の家から「女体んち」と呼ばれていました。

（星野）小泉線は昭和16年に開通したそうですが、その工事のことなどご記憶にありますか。

（町田）よく覚えていませんけど、九合小へ行く時は天神山の西を通って行きましたが、何もなかったような気がしますね。

（星野）目塚といえばなんといっても天神山古墳が有名ですが男体山と女体山とありますけども、地元の方はそれぞれ何と呼んでいたのでしょうか。

（町田）大きいほうは「天神山」、小さい方は「女体山」と呼んでいました。ちなみに2つの天神山の間を通る道を館林県道と呼んでいますが、私が子どもの頃にできました。また、それ以前の館林へ行く旧道が今でも途切れ途切れで残っています。館林県道と七か村堀の交わる交差点を北東へ入る道がそうで、一度途切れて、その後女体山の南からまた現れて東に向かいます。

（石川勝）昔、嫁入り行列がこの旧道を通って来るとよくないことが起こるといわれ、わざわざ遠回りして避けて通ったそうです。

（星野）確かに、地図をみるとその名残がよく分かりますね。やはり大きな古墳2つの

間ということで、人々が恐れを抱いたというのも分かる気がします。ところで天神山と女体山は昔から今のように木が生えていたのですか。

(町田) そうです。また天神山にはいつからあるのか知りませんが、天神様がまつってありました。

(星野) 天神様へお参りする道の、山に向かって右手に池がありますね。前々からこれは何だろうと思っていたのですが、ご存知ですか。

(石川幸) これはうちの土地なのですが、父が釣堀をやりまして、その名残です。昔からあった池というわけではありません。

(町田) それとは別に、山を登る手前のところに径数mの小さな池がありました。これはお手洗い池で、神社にお参りするときにはこの池で手を洗って清めてから行きました。

(石川勝、石川幸) ああ、池がありましたね。

(星野) そうでしたか。神社と関係した池なのですね。この池で魚をとったりなどということがありましたか。

(町田) そういう記憶はありません。お腹の赤いイモリがたくさんいました。

(星野) では次にお祭りについてお聞きします。目塚内でのお祭りというとなんかありましたか。

(町田) 天神様のお祭りが年に3回ありました。お正月と2月と11月です。正月の祭りのことを^{はつてんじん}初天神、11月のお祭りのことを^{しま}終い天神ともいいました。今でも続いています。目塚の中で総代や役員を選んで執り行います。お菓子や赤飯を買ってきたりしますね。また、子どもはお菓子がもらえるので楽しみでした。1日のうちに2回も3回も行ったものです(笑)

(星野) 内ヶ島全体ではなく、目塚独自のお祭りがあるのですね。それぞれのお祭りでは何か特別な行事があるのですか。

(町田) 行くとお宮の中でお茶を飲んだりサカキを上げたりするくらいですね。2月の祭りは針供養といって、裁縫をする人がお参りに行きました。行くと針を何本かくれました。また神社の参道の右手側、山に登り始める直前のところに昔土俵があり、お祭りのときに奉納相撲ということで相撲取りを呼んだそうです。私は覚えていないのですが親がいうには、私は体が弱く、その時お相撲さんにわっしょいわっしょいと担いでもらい、それ以来元気になったということです。だから今でもこうして元気なのではないか(笑)

(星野) きっとそうですね。相撲取りを呼んだのは3回のうちどのお祭りだったのでしょうか。

(町田) ちょっと分かりませんが、お正月では相撲取りも忙しいでしょうから、秋祭り

ではないでしょうか。

（石川幸）小学校の頃は学校から帰るとお菓子がもらえるのが楽しみでお祭りにかけてきたものです。にぎやかでしたよ。

（石川勝）天神様ですが、これはその昔、石川家の大本家にあったものを、山の上に移したものだと聞いています。25日というのが全国の天神様の縁日なわけですが、その石川家の天神様は9月25日が本祭りだったそうです。しかし、ある時喪中でお祭りができなかったことがあり、その年は天神様の怒りか、秋に霽ひょうが降って、大変な目にあったそうです。それでその9月の祭りの代わりに翌年の2月25日にお祭りをを行い、それ以来2月25日が本祭りになっていると聞いています。ですから現在でも2月のお祭りのことを霽祭りともいいます。それと、お宮はかつてもっと北にあったのを、明治8年に今の位置に移したそうです。昔登った道の名残が今でもありますよ。江戸時代、8代将軍吉宗の時、石川大本家に大岡越前より天神山は盗掘されていないかと調査の書状が届き、されていないと返書したそうです。

（星野）さすが、石川家ならではの貴重な言い伝えですね。では続けてその天神様についてお聞きします。内ヶ島全体としては伊勢神社があり、目塚地区としては天神様をまつているわけですが、目塚の人も伊勢神社のお祭りには参加したわけですよ。みなさんの感情としては、伊勢神社と天神様とどちらが親しくお感じですか。

（町田）伊勢神社までよく行きましたよ。神社はどちらも大切ですが、やはり近くにあって慣れ親しんだ天神様の方が身近に感じますね。どうして古墳という昔のお墓の上に神社を建てたのだろう、と子ども心に思ったりもしましたが、でもありがたいなあと思っています。天神様は学問の神様ですので、家族がよく勉強ができるように、とお参りしています。

（石川勝）私はどちらの神社も同じように親しく感じます。子どもの頃、伊勢神社の弓引きという行事にも参加しました。

（石川幸）私も同様ですね。弓引きといえば、なぜか分かりませんが私は泣いてしまっただけなくて、帰ってから親に怒られた覚えがあります。

（町田）弓引き、懐かしいですね。私は女だからやりませんでした。射た弓を拾って帰ると縁がある、というので拾った覚えがありますよ。

（星野）それぞれ感じ方は違うのですね。ところで先ほどもお話に出ましたが、天神様と石川一族は特別な関係があるようですが、他に何かそういうことがありますか。

（石川勝）いつから続いているかは分かりませんが、私の祖父の時代からはお正月に天神様にお餅とシメ縄をお供えしてしまして、今でも私が引き継いで奉納しています。

（全員）天神山と女体山、A陪塚の土地は今でも石川一族で持っています。

(星野) 興味深いですね。さて、次にお寺のことですが、目塚の人も本村にある蓮光寺を利用するのでしょうか。

(町田) 昔は目塚にも浄土寺という浄土宗のお寺があったのですが、火事になってしまって、それ以来同じ村にある蓮光寺にお世話になっています。今でも蓮光寺のお堂の中に浄土寺と書いたものがありますよ。あまり他の人はそのことを知らないみたいです。ただ、石川家だけはそのときに蓮光寺ではなく、太田の町にあった受楽寺の檀家になることを選択して、今でもそうになっています。

(星野) なんと、そういう経緯があったのですか。確かに、内ヶ島の市営住宅近くに墓地がありますし、浄土寺という名前も聞いていますが、本当にお寺だったのですね。

(町田) 今でもうちの墓地はこの浄土寺跡（現在は共同墓地と呼ばれている）にあります。ただお坊さんがいないので、形としては蓮光寺の檀家ということになっています。

(星野) その火事というのはいつ頃の話なのでしょう。

(町田) さあ、言い伝えで聞いているだけなので、いつのことかは分かりません。ですが昔は相当盛んだったそうですよ。

(石川勝) ここには立派な宝篋^{きょう}塔もありますしね。この塔を拜むと罪が消える、と聞いています。しかし、浄土寺という名前は聞いていますが、そういう経緯は初めて聞きました。確かに私たち石川家は現在受楽寺にお世話になっています。また、その昔受楽寺が困窮したとき、石川家の本家が本尊様を奉納したそうで、現在でもその本尊様は残っていて、石川家の家紋（表紋、裏紋の両方）が入っているとのこと。

(星野) 受楽寺は浄土宗ですか。

(石川勝) そうです。

(星野) そうすると町田さんがおっしゃるように、かつて目塚の方々は浄土宗の浄土寺を利用していましたが、火事のため廃寺となってしまう、その際に村内ですが他宗派（真言宗）の蓮光寺の檀家となるか、村外ですが同宗派の受楽寺の檀家となるかという選択を迫られ、石川家は受楽寺を、町田家や他の家は蓮光寺を選んだ、というのが妥当な予測になりそうですね。確証はありませんが、ところで、浄土寺として今でも何か続いているお祭りや風習のようなものはありますか。

※文化三年（1806）発行の中仙道例幣使道分間絵図（太田市立図書館で閲覧可能）には当地に浄土寺が描かれている。

(町田) はい。4月12日に薬師様のお祭りがあり、今でも続いています。目にご利益があるといわれています。役員で団子を作って、来た人に配ります。子どもはもらうのが楽しみでして、うちは近くに畑があったので、一度団子をもらってから畑に行って少し仕事をして、またもらいに行ったりしたものです（笑）

(石川幸) 昔ほどにぎやかではありませんが、今でもお参りに来る人がいますよ。またお堂の中には薬師様が祭られています。そして役員や長老たちはそこで一杯やるわけですね。

(星野) 大変貴重な風習が残っているのですね。

(石川勝) ところでお寺というわけではありませんが、天神山の南に聖天しょうてんという地名があり、私が子どもの頃には小さいお宮がありました。年寄りの話に、妻沼の聖天様と関係があると聞いています。

(星野) 次は遊びについてお聞きしますが、目塚の子が集まって遊んだような場所がありましたか。

(石川勝) やはり天神山は遊び場でしたね。チャンバラをしたり、また栗の木が多かったので栗を拾って食べたり、夜に天神山と女体山の二つの山の間で陣取りをしたりしました。

(石川幸) 私は家が離れていましたしそういうことはしませんでした。ただ、南斜面に防空壕があって、そこに入って遊んだ覚えがあります。あとは、先ほど話に出た共同墓地の周りに昔は竹などが生えていて寂しい感じでした、そこに夜何人が集まって肝試しをしたことがありました。

(町田) 私は、天神山に椿の木があって、登ってその花を取って落とし、下で待っている子に取らせてたくさん集める、なんていう遊びをしました。あとは内ヶ島のキタッバラ地区の柴宮さんちに同級生がいて、その家にケンブンナシ(ケンボナシ)の木があって、その枝が食べられるので学校帰りにわざわざ遠回りしてそれを食べに行き、それから家に帰ったこともありますね(笑)

(星野) 昔の子はよくそれを食べたそうですね。さて、皆様十日夜とおかんやのワラデッポウで遊んだかと思いますが、この時に隣村の子と戦争ごっこをやったということがありましたか。

(町田) 「十日夜ワラデッポウ、朝はソバキリ昼団子、夕飯食ったらぶったたけ♪」なんて歌いながら叩いて遊びましたが、私は家でやったくらいですね。男の子たちはどうか分かりませんが。

(星野) 色んな歌があったそうですが、面白いですね。これだけはっきり覚えてらっしゃる方は初めてです。

(町田) 十日夜ではありませんが、内ヶ島の本村にゲエドン橋という橋があって、そこで月夜の晩に年中本村の若い衆と竜舞の若い衆がケンカしていた、という話は聞いています。

(星野) ゲエドン橋、いわれのある有名な橋ですね。

※外道橋 太田市史民俗編下巻 p.659 参照（昔不幸があったので嫁入りの時に渡ってはいけない等の言い伝えがあった。）

（石川勝、幸）ワラデッポウでは遊びましたが、よその村の子たちとやり合うというのはなかったですね。

（石川勝）ただ、普段のときは小舞木や新島の子と戦争ごっこをしていましたよ。

（石川幸）私は休泊堀の東岸の下小林の子たちとよくやり合いました。川の向こうに野球のグラウンドがありまして、そこをめぐってケンカをしました。

（星野）昔は地区同士でまとまっていたのですね。さて、では次に戦争についてお聞きます。目塚には高射砲部隊が置かれたとのことですが。

（町田）はい。女体山の北にありました。またうちの屋敷の中に見回りのためのテントを張っていましたので、兵隊さんがまわりにたくさんおり、守られて安心に思ったものです。うちのすぐ東の川の端には弾薬庫もありました。

（星野）その高射砲部隊というのは実際に大砲を打ったわけですか。

（町田）そうですよ。B29 が来た時、ものすごい音でドカンドカンと打ち上げました。でも B29 の高さまでは届かないで、下のほうではねているだけでしたが。また、もっと東の休泊橋の近くに、中島飛行機を護衛するための兵隊さんの陣地がありまして、たくさん兵隊さんが中島飛行機とその陣地を行き来していました。「勝って来るぞと勇ましく〜♪」と歌を歌いながら行進していました。うちはその間にあるので頼もしく見ていましたが、さながら戦場のようでしたよ。

（星野）さて、そして目塚地区には空襲があったとのことですが。

（町田）あの時はそれはもう大変でした。昭和 20 年 2 月 10 日の中島飛行機がやられた空襲でしたが、私はその時、足利の女学校に通っていました。その日は帰りの電車がなかなか動かないで、夜 9 時になってやっと家に着いたのですが、目を疑いました。住み慣れた家がまったく別の様相になっていたのです。爆弾がうちのすぐそばに数発落ちて、爆風で家はボロボロになり、また蓄えておいた米も、衣類も、鍋釜も、学校の本なども、お金も何もかも吹き飛んでどこかへ行ってしまいました。家族は防空壕へ入っていて無事でしたが、生き埋めになってしまったのを兵隊さんに助け出されたとのこと。それまで不自由ない暮らしをしていたのに、一瞬にしてどん底に突き落とされました。おまけに井戸を爆弾が直撃し水もないし、料理をするための火もありません。またうちは近くに家がなく、助けを求めることもできず、本当に苦労しました。2 月で寒い時でしたから余計大変でした。畑に残っていた大根の下の食べられる部分だけを煮て食べたりしました。（上は寒さで傷んでしまっていた）その後、母屋は取り壊しとなり、住むところがないので新井に新築された中島飛行機関係の住宅に一時住んだりもしました。（当時）太

田町から見舞金として 1000 円が支給され、少し暮らしの足しになりました。高射砲部隊の兵隊さんたちとは懇意にしていたのですが、隊長さんがとてもいい方で、終戦後、お世話になりましたと挨拶に来て、そして部隊の土地ですぐに野菜を作っておきなさい。そうすれば農地解放で町田さんの土地になるから、と教えてくれました。(農地解放では耕作している人に農地を所有する権利が発生したため、そのことを知っていた隊長さんからのアドバイスだったと思われる) 部隊がここになれば町田さんちが被害を受けなかったかもしれない、ということだったのかもしれないですね。その後、土地を耕作して、取得することができました。

(全員) また同じ日の空襲で、天神山と女体山の間にあった防空壕に爆弾が直撃し、逃げ込んでいた人が何人も亡くなったそうです。逆に逃げ遅れた人は助かったとのことですよ。

(石川勝) 亡くなった人の中には結婚したばかりの人もいて、親が家財道具を取りに来たなどという話も聞いています。

(星野) ところで、出征兵士は地区の神社で戦勝祈願をしてから出発するわけですが、目塚の人は伊勢神社と天神様とどちらから出たのでしょうか。

(町田) 内ヶ島全体の神社ということで伊勢神社から出ました。

(星野) さて、最後に養蚕のことをお聞きしたいのですが、なにか思い出がございますか。

(町田) うちも養蚕をしていましたが、1つ笑い話のような話があります。昔、東長岡でうどんを打ってくれる店があって、そこへ頼んで打ってもらったうどんを、家に持って帰ってきて少し乾かしたのですが、そこへその時飼っていた蚕が這い出して紛れ込んでしまいました。知らずにゆでてさあ食べようと思ったら麺の中に蚕がそのままの形で入っていてびっくりしてしまいました。私はその時からうどんが嫌いになり、今でも食べません。先日も孫達とイオンに食事に行った時、みんなはうどんを食べましたが私は食べないので、「どうしておばあちゃん食べないの?」と聞かれましたが、本当の理由はいません(笑)

(星野) それはそれは。今に至るまで蚕が影響しているのですね。

(石川勝、幸) 我が家でも養蚕をしていましたが、桑摘みとって、指に金属の爪をつけて桑の葉を一枚ずつ摘まされて、それでよく指を切ってしまったものです。

(星野) そうでしたか。本日はありがとうございました。

大正インタビュー：新島編

語り手：中島儀雄さん（昭和3年生まれ）、岡庄次郎さん（昭和8年生まれ）、木村秀雄さん（昭和12年生まれ）

聞き手：星野雅範

場所：新島町公民館

日時：平成24年6月29日13時半～15時過ぎ

（星野） それでは始めさせていただきます。今日は新島の区画や道路、子どもの頃の遊び、お祭り、戦争、新島の特徴、という順でお話を伺っていきたいと思います。まず区画・道路についてですが、ここに拵げてある現在の新島の地図を見て明らかなように、道路が大分斜めに走っていますよね。同時期（昭和30～40年代）に区画整理の行われた飯田、飯塚、小舞木は南北に基盤目状になっているのに。私など新島に入るとすぐ方角が分からなくなってしまいます。これは一体どういうわけなのでしょう。

（岡） 私は当時区画整理の審議委員をやっていたのではっきりとお答えできます。当時の区画整理の決まりとして、新しい道路を作る場合は既存の（大きな）道路に対して直角に作るべし、というのがあったんです。そして新島には当時としては珍しく大きな、「専用道路」があった。つまり、この専用道路が曲がっており、これに対して新しい道が直角に通されたため、今のような斜めの道ができたというわけです。

（星野） なるほど！確かにそういう目で見てみると専用道路からほぼ直角に道路が延びています。長い間の謎が解けました（笑）

（岡） 同時期に行われたほかの地区では専用道路のような大きな、かつ曲がった道路がなかったということだと思います。それと、実は専用道路より北は区画整理の対象になっていません。

（星野） なるほどなるほど。ほんとですね。北側部分は区画整理された形跡がありませんね。さて、道路のことでもうひとつ。小泉（現在は大泉）へ続く小泉道というのがかつてあったそうですが、それは今でも残っていますか。

（中島） それは多分この道ですね。（専用道路を西に平行移動した位置）これも昭和8年か9年頃に真っ直ぐにしたんです。それまではもっと入り組んでいたのを。

（星野） そうですか、でも基本的には今でも残っているんですね。小舞木に入ると消えてしまっているの、貴重な道ですね。

（中島） そう。そしてこの道が小舞木の地蔵様につながっていたんだと思います。

（星野） 小舞木の地蔵様とは？その地蔵様は小舞木の円養寺とは別なのですか。

（中島） 別ですね。新島と小舞木の村境あたりの辻にあったんです。今はどこへ行っ

やったのか。

※区画整理に伴い、円養寺山門脇に移動されています。「右八古戸道・左八館林道」と刻まれた道標の地蔵様だったようです。

(星野) さて、先ほども話に出た専用道路についてですが、これは資料によると昭和 15 年に、中島飛行機太田工場で作られた軍用機を太田飛行場へ移動させるための道路として作られたそうですが、みなさんの中でこの道路が作られたときの記憶をお持ちの方いらっしゃいますか。

(中島) さて、覚えてないですね。

(星野) では実際に軍用機が移動していくのはご覧になっていますか。

(中島、岡) 見ました。

(木村) 私はお 2 人より年下で、専用道路の方は記憶が定かではありませんが、それとは別に私の家の近くにもう 1 本軍用機を運び出す道が作られ、ここを軍用機が引かれていくのは見ました。(この道がいつ頃作られたかは定かではありません) その道は、現在開かずの扉となっている現富士重工の東武線西側の門から東長岡の方を回ってくる道で、(新島町の信号より少し東の南北の通り) 今でも残っています。うちなんか、この道を造成するときに田んぼの土を取られてしまいました。ただ、この道はいくらも使いませんでしたけど。そして戦後、土は自分たちで掘って取り返しましたよ。終戦直後はその道に置き去りにされたその軍用機の中が子どもの遊び場でした。専用道路にしても、この道にしても、新島の農家の農地を買収して作ったわけですが、有無をいわず、多くの貴重な農地がつぶされました。

(岡) あとは区画整理といえば、江文神社には南の方へ延びる参道があって、道に沿って桜の木が植えられていたんですが、区画整理によって大分様子が変わってしまいました。

(星野) 色々なエピソードがありますね。もう 1 つ、新島の全体的なこととして、現在は町内全域に住宅が散在していますが、かつては集落が 2 つに分かれていたそうですね。

(岡) そう。専用道路のあちら側とこちら側に集落が分かれていて、お互いにもう片方の集落のことを「むこう新島」と呼んでいました(笑) もちろん専用道路ができるずっと昔からそのように分かれていましたが。

※明治初期の絵図でもはっきりと分かれています。

(星野) 面白いですね。さて、次の話題に移ります。みなさんの子どもの頃の遊びについてなのですが、新島では子ども達が集まって遊ぶ決まった遊び場のようなところはありませんでしたか。

(中島) 特にそういう場所はなかったと思います。大きい農家の庭とか、田んぼや川で

遊びました。かくれんぼや縄跳び、女の子は花いちもんめ、とか。私の頃はまだなかったけど戦後の子はベーゴマとか。あとはドドメ食いですね。

(星野) やっぱり食べましたか。「ドドメ食い」という名称があるくらいなのですね(笑)

(中島) おいしいのとまずいのがありましてね。紫色のがおいしかったですよ。

(岡) あとこれは遊びではないかもしれませんが、小学校には今みたいに並んで行ったのですが、遅れてくる子がいると、神社の松の木(現存)にしぼりつけて、「ピンタ(ピンタ)授与式」といってピンタをしてお仕置きするんです。

(星野) 随分厳しいですね。それはだれがピンタするのですか。

(岡) まあガキ大将みたいのがいたわけですよ。

(木村) 私はケガリ(搔掘り:魚取りの方法)ですね。昔は今みたいに水路が三面コンクリじゃなかったから色々魚が取れて。ナマズだって取れたんですから。

(中島) 魚取りは、秋口に田んぼの水口にウケというのを仕掛けて取ったりもしました。

(岡) セカ村堀で水浴びなんかもやりました。専用道路の下を通るのに度胸がいりました。

(木村) あと、葦川の子ども達と随分戦いましたよ。私たちが葦川地区に行くと捕まえられてぶたれたりなんだりするし、あっちの子がこっちに来れば同じようにしてやりました(笑)特に新島の子は接していた東長岡とよく争っていて、「長岡征伐ヤーレコ♪」って罵りながらやったもんです。田んぼを境にして石を投げあたりもしました。

(星野) はあ、今では考えられませんが、歌まであって随分本格的な争いだったんですね。

(岡) あと、天神山の男体山と女体山をそれぞれ陣地にして戦争ごっこをしました。それぞれの山に親分がいて、親分は出て行かずに下っぱを先にやらせるんです。それで敵に捕まえられると叩かれちゃう。あくまでも遊びですが、あれは子ども心にドキドキしましたね。

(岡) 太田の町でもそうなんです。大体子ども達っていうのは自分の地区の子かどうかというのが分かるんですね。それで私達が太田に行くと、よそ者が来たぞっていうことで伝令か何かで伝わって、帰りに待ち伏せされて捕まえられちゃうんですよ。だから本町通りは危ないから通らず、北裏通りか南裏通りを通ったものです。

(星野) なんだか争ってばかりで、今より危険な気がしますね、

(岡) 最近よく、昔はいじめなんてなかったなんて言われますが、昔だっていじめっことはいたし、いじめられっこもいたんです。

※現代の陰湿ないじめとはまた質が違うと思われる。

(星野) そうですか。ところで遊びのことで、みなさん十日夜のワラデッポウとおかんやというの

を作って遊んだかと思えます。この十日夜の日には他の地区の子と戦争ごっこをする、というのが大体の地区の定番なのですが、新島ではいかがでしたか。

(岡) 確かに作って地面を叩いて遊んだけど、そういう戦いというのはなかったですね。新島の子は品行方正だから (笑)

(星野) さきほどいろんな戦いごっこの話が出ていましたが (笑) そしてその日はよその家の縁側に上げられている果物や団子を公然と取ってもいいという形でしたでしょうか。

(中島) それは十五夜の日です。十日夜の日はワラデッポウだけです。

(星野) なるほどその辺は地区によって違うみたいですね。さて話は尽きませんが、次の話題へ。新島では神社などの地区のお祭りというのはありましたか。

(木村) 答えは「ナシ」でしょうね。昭和3年生まれ私の姉なんかは新井の八幡様のお祭りや、内ヶ島のお祭りを楽しみにして出かけていたようですが、もともと新島にはそういう子どもが楽しみにしていたお祭りというのはなかったと思えます。江文神社にぎわったのは、出征する兵隊さんを送り出すときくらいではないでしょうか。

(星野) そうですか。色々な地区で話を聞いてきましたが、それは初めてですね。しかし観音様の縁日というのがあったそうですが。

(岡) それは役員だけです。11月に各家からもち米を集め、それで赤飯を蒸かして食べたんですが、子どもが集まるというようなことはありませんでした。

(中島) あとこれは昭和の始め頃までかと思えますが、毎月1日が江文神社にある稲荷様の縁日で、太田(本町通り周辺)や浜町の芸者さんが来て、商売繁盛のために稲荷様にお賽銭やら油揚げやらを上げていきました。それで油揚げを私達が下げて頂くんです (笑)

※この稲荷は今では他界した古老によると一配^{いっばいもり}森稲荷と呼ばれ、現在江文神社境内にあるが、かつては町内の別の場所にあったとのこと。

(星野) それは珍しい風習ですね。ところで太田に芸者がいたんですか。

(中島) 浜町の^{しんかいち}新開地^{しんかいち}辺りじゃないでしょうかね。中島飛行機の関係で労働者がたくさんいたし、軍人さんもいましたしね。

(星野) では次は戦争についてお聞きしたいと思います。新島は九合の中でも最も激しく空襲を受けた地域ではないかと思えます。2月10日の空襲では大変な被害があったそうですが、その辺を教えてください。

(中島) その空襲の何年も前からね、B29が1機毎日飛んで来てたんです。お昼になると。だからB29が来るとああお昼だなんて分かったくらい (笑) それがその日だけは大編隊^{こうば}でやってきたんです。軍需工場である中島工場^{こうば}を狙って。その時私はまさに中島工

場（新島からすぐ西）で働いていました。従業員はみんな山の方へ逃げたんですが私は自衛班だったため逃げずにその編隊を見ていました。そしたらそのうちドドドと空襲が始まって黒煙がモウモウと上がったので慌てて防空壕に入りました。その日、冬の大きな西風が吹いて、その煙がどんどん東隣にある新島の方へ来てしまったんです。それで上空を飛んでいる B29 としては、煙が上がっているところが中島工場だと思うわけで、それで新島にどんどん爆弾を落としてしまった。

（星野）なんとなんと。どれくらいの数の爆弾がどの辺りに落ちたのでしょうか。

（岡）どの辺りも何も、新島全体に渡って 100 発以上落ちました。まあ中島工場に近い北西部の方が数は多かったでしょうが。穴は 8 畳間くらいの広さで、底は人間の背より深いんです。

（中島）私の田んぼにも何発か落ちて、親父と 2 人で何年もかかって埋めましたよ。でも何年もかかったのが水がたまって池みたいになって、放したわけでもないのに魚がわいてそこで魚釣りができるようになりました（笑）

（木村）そう。鳥の足に魚の卵がくっついて運ばれるのかなんだか、自然と魚がわくんです。空襲に関連して、当時、今イオンのあるあたりに高射砲陣地というのが置かれて、上空の B29 の編隊めがけて高射砲を撃ったわけですが、それが B29 までなんて全然届かないで、下のほうでバカリバカリ昼間の花火みたいにはねて、いかにも頼りなかったですね。その時、私は九合小の 2 年生だったんですが、学校から早く返されて家でベッタン（メンコ）をやっていたんです。それで空襲になった。台所につくった防空壕に避難しましたが、爆弾が落ちてくる時のヒュルヒュルヒュルという音は今でも耳に残っています。

（星野）被害としてはどうだったのでしょうか。死人も出たそうですが。

（中島）正確に何人亡くなったというのは分かりませんが、かなりの数だったのではないのでしょうか。もともと新島に住んでいた農家だったら誰がどこに住んでいる、というのが分かりましたが、亡くなったのは新しく移り住んできた方が多かったんです。

※九合小学校の児童も 5 人死亡。「戦渦に生きた子どもたち」（小林ふく著）参照

（中島）うちは爆風で家が柱を残して雨戸やら障子やらみんな飛んでいって、壁も落ちてしまいました。ですからそれから鳥山に疎開しました。

（木村）私はまず母の実家の竜舞に疎開しましたが、その近くにあった兵隊屋敷というところにまた爆弾が落ちて燃え上がり、今度は毛里田まで疎開です。その時牛の引く車に乗っていったんですが、そののろいこと。なんだか毛里田が大変遠く感じたのを今でも覚えていますよ。

（星野）東京などの都会から田舎へ疎開というのは聞きますが、同じ太田の中でも疎開

があったのですね。確かに中島工場のすぐ近くですから、危険を感じるのも無理はないですね。さて、それ以降の空襲はどうだったでしょう。

(中島) 2月15日、25日に艦載機による機銃掃射がありました。この時は大きな被害はありませんでした。でも私は自宅の防空壕に入っていました。機銃掃射といえど地面が揺れるのを感じましたよ。その後4月4日の未明、太田駅のガソリン缶がやられ、立派だった太田駅舎が炎上してしまいました。

(岡) あの駅舎はもったいなかったですね。当時東武線沿線で太田駅が一番乗降客が多かったそうですよ。

(木村) 夜なのに昼間みたいに明るくなりましたよ。まあこの日の空襲は新島に直接の被害はなかったわけですが、中島工場近くの私の家の田んぼの端には色んなガラクタが捨てられていました。爆発した破片などでしょうね。

(中島) あれ、星野さん新井が燃えたのは8月の何日でしたか。

(星野) 終戦前夜の14日です。

(中島) そうでしたか。その日、新島はやられなかったんですが、新井が燃えるのがよく見えました。そして翌日おもちゃのために焼夷弾を拾いに行きましたよ。しかし大分ひどく焼けていました。

(星野) では、空襲はこのくらいにさせていただいて、中島飛行機と新島の変化についてお聞きします。当時中島の労働者たちが、便のいい新島に住居を求めたそうですね。

(岡) 住宅を作ればすぐ借手がつくという状況で、建築基準法も何もあったものではなく、小さい長屋みたいなのがどんどんできていき、人口も膨れ上がっていきました。まさに中島飛行機によって異常な活気に満ちていました。

(中島) 昭和12、13年頃から商店も立ち並ぶようになって、新島銀座なんていう名前も生まれました。さっき話に出た旧小泉道の沿道にね。新島湯もその1つです。新島全体に渡って住宅が出来ていきました。新島はイ・ロ・ハ・ニの組に地区内を分けていますが、私が物心のついた昭和1桁の頃はハ組はうち1軒だけだったんです。それが今は200軒以上あります。昔はずっとこの辺りは平地林が広がってたんですから。そういう意味で、中島飛行機のおかげで空襲を受けたりもしましたが、発展したともいえます。

(星野) なるほど。それだけ中島飛行機の存在は新島にとって大きかったんですね。

(木村) ところでその平地林の一部でカンペヤマなんて呼ばれていたところがあって、カンペイというのはクワガタムシのことなのですが、よくとれたと古老から聞いたことがあります。

(星野) 子どもにはいいですね。平地林に名前が付けられているというのはよくあるケースですね。さてでは最後に、九合地区の中で新島の自慢、特徴といったところを伺い

たいのですが。

(岡) さっきの話とつながりますが、そうやって戦争中に新住民が入ってきたおかげで、新島には排他性というのがあまりないですね。私達先住の農家の肩身が狭いともいえませんが、新しい人たちが多数派を占めてきたから、ヨソモノを排除するような雰囲気にならないのでしょうか。また、農村とは違った風が吹いていたともいえます。例えば、戦前までは新島の集会施設として寮というものがあつたんですが、これを新しくしようということで戦時中に施設を作ったのですが、その名前が「公会堂」ですよ。当時全国から人間が集まっていた中で、そんなハイカラなネーミングが出てきたんですね。ただその公会堂も出来てほんの数年で、例の2月10日の大空襲で全壊してしまいました。また話が逸れますが、その施設を作るのに活躍した青年団の先輩達5人が出征していきましたが、ただ1人生きて戻って来ませんでした。

(星野) そうですか。公会堂とはすごい名前でしたね。さて、新島の特徴の1つとして、九合で唯一お寺がない地区ですよ。

(木村) そうですね。でもかつてはあつたらしいですよ。証拠はいくつかあつて、まず古老の言い伝えに、江戸の中期に火事に遭って、それ以来は寺がないということ。それと、小字名に「寺屋敷」というのが残っています。さらに、区画整理前まではこの寺屋敷の辺りに新島地区の共同墓地がありました。お寺はないただの墓地。おそらく、この辺りに寺があつたのではないかと考えています。ちなみに区画整理に伴って、共同墓地は小舞木の円養寺墓地の西の一角に新島共同墓地として移動しました。

(星野) なるほど、興味深い話ですね。ところで今日の話の中に「観音様」という名前が出てきましたが、この観音様とかつてあつた寺は関係があるのでしょうか？

(岡) 観音様は今では大吉庵という庵の中に安置してありますが、この建物はごく新しいもので、かつては先ほど話した寮の押入れの中に納まっていたそうです。また、11月の縁日というのはずっと昔から続いていたわけで、昔から新島の人たちの信仰の対象となっていたことは確かです。

(木村) しかし、「寺屋敷」とは別の小字名に「観音」と名のつく地名があります。

※文化3年(1806)発行の「中仙道例幣使道分間絵図」(太田市立図書館で閲覧可能)には当地に観音堂及び大吉庵の両方が描かれている。

(岡) 観音様について、その寮があつた土地は昔から観音様の土地とあって、新島住民の共有地でした。これを売って現在の公民館と江文神社の社殿ができたんです。住民から寄付を募ることなしに。新島町民はそのことを忘れてはいけないと思います。それと新島の誇りということで、江文神社の境内に数本生えている松の古木がありますね。これは歴史の古さを物語っています。区画整理前からここにあるものです。

(星野) 確かなかなかない立派な松ですよ。木を切ってしまう神社が多い中でよく残しましたね。あと市の文化財に指定されている追分の地蔵様もかつては新島の土地にあったそうですね。これを新島の人たちが供養したとかそういうことはあったのでしょうか。

(中島) 新島の人たちで供養、ということは記憶にありませんが、確かに地蔵様は新島の栄町にありまして、日光例幣使の日光への道標として重要な役割を果たしていました。中島飛行機工場ができた関係で今は違っていますが。

(星野) 新島には色々な特徴がありますね。今日はありがとうございました。

大正インタビュー：小舞木編

語り手：清水 旭^{あきら}さん（大正 8 年生まれ）、岡部宗平さん（昭和 6 年生まれ）、松本幸晴さん（昭和 25 年生まれ）

聞き手：星野雅範

場所：小舞木町集会所 日時：平成 24 年 8 月 5 日 13 時半～15 時半

（星野） それでは始めさせていただきます。さて今日は小舞木地区の地理、お祭り、神社、お寺、子どもの頃の遊び、戦争、養蚕という順でお話を伺っていきたいと思います。ちなみにこの大正インタビューシリーズの語り手の中で、清水さんは九合全地区を通して最高齢ということで、どんなお話が飛び出すか楽しみです。まず地理ということで、ここに小舞木の明治初期と現在の地図を広げてありますが、昭和 40 年代の区画整理で大きく変わりましたね。

（清水、岡部） 小舞木が九合で 1 番変わったのではないのでしょうか。見ての通り、碁盤目のように縦横に道路が走り、整然と整理されました。それまではほとんど道がありませんでした。飯塚へ行く道と、大泉方面へ至る県道の 2 本くらいなものです。

（星野） 今おっしゃった 2 本の道が小舞木の北端で重なり辻となっていますね。ここにお地蔵様があったと聞いていますが、これについて何か特別な呼称はありましたか。

（一同） 確かに地蔵様がありましたが、特別な名前は聞いていません。

（星野） このお地蔵様について、お祭りのようなものがありましたか。

（清水） 毎月 24 日がお祭りで、青年団が管理しており、団子を作ってお参りに来た人に配りました。特に何月が盛んということはなく毎月やっていました。道標にもなっていて、「右～、左～」と刻まれていました。区画整理に伴い辻がなくなってしまったので、現在は円養寺の山門前に移動されています。

（岡部） 私はその 24 日のお祭りを知りませんから、昭和初期くらいまでの話のようですね。

（星野） 実に貴重な証言です。さすがは大正 8 年のお生まれですね！

（清水、岡部） 地蔵様には 1 坪くらいの上屋もありました。また庭もあり、そこで八木節をしたり、踊りを踊ったりしたものです。

（星野） それだけ小舞木の人にとって大切な地蔵様だったのですね。さて、その 2 本の道は飯塚へ至る道と県道とのことですが、前者には何か名前がありましたか。またその 2 本の道が今でも名残があるそうですね。

（一同） 特に名前はありませんでした、残っています。県道はほんの一部ですが、高

沢畳店の前の斜めの道がそうです。また飯塚への道はそのまま残っていて、「小舞木町西」の信号の1本西の南北の道がそうです。

(星野) 昔をしのぶ貴重な道筋ですね。これは区画整理のときに意識的に残されたのでしょうか。

(一同) そういうわけではなく、偶然だと思います。

(星野) ところで、その県道の南側の区画が三角形になっていてここだけ碁盤目ではないですが、これには何か理由があるのでしょうか。

(一同) これは高圧線の通り道です。内ヶ島から来て、九合小の学校道路へと続きます。

(星野) なるほど。納得です。もう1つ小舞木で有名な道路に専用道路がありますね。

(清水、岡部) これは中島飛行機工場から飛行場へと軍用機を運ぶための飛行機「専用」道路なわけですが、ひどいものでした。国策ですから、土地は強制的に買い上げで、反対運動などできません。また、飛行機を運ぶ時は通行止めになってしまい、道路の向こう側に農地がある家は大変不便をしました。

(星野) さて、小舞木にはかつて平地林があったと聞いていますが。

(清水、岡部) 内ヶ島との境(旧フランスベッドなどの辺り)、円養寺の裏、新島との境にありました。

(星野) その林には名前がついていましたか。

(清水) 内ヶ島との境の林は坊塚山ぼうづかやまといいました。その他は聞いていません。坊塚山は広くて、寂しいところでした。昭和8年頃、この坊塚山の泥を運んで、救済道路といって、不況下の雇用創出のため各村から九合小へと至る道を造成しました。私も小遣い稼ぎに仕事に出ましたが、リヤカーを持ち込みで行くと1日働いて40銭もらえました。小舞木から新島へ行くのも大変でした。夜などは林を抜けて、桑原の間を抜けて行くので恐ろしかったです。

(星野) なんといいですか、清水さんの話はこれまでの語り手の方の話とはひと時代違っているというか、一言一言が本当に貴重だと思います。例えば他の方の話ですと「昭和初期に救済道路を作ったらしいです」という言い伝えなのですが、清水さんはそれに実際に携わっていらっしゃる(笑) さて、飯塚などには池があったそうですが、小舞木にはそういうものはありましたか。

(一同) ありませんでした。

(松本) 飯塚のまつぼの池は私も知っています。子どもの頃魚取りに行きましたよ。

(星野) 古地図を見ますと、小舞木は北部が畑地、南部が水田で、家は畑地の中にそれぞれ離れて散らばっているように見えますがいかがでしたか。

(一同) その通りでした。

(清水) 私が子どもの頃、小舞木は 40 戸しかありませんで、九合でも一番小さい村でした。その 40 戸はほとんどが農家でしたが、今でも頭の中に全ての家の位置がはっきり入っています。

(星野) すごいですね。また、家々が離れているというのは小舞木の特徴のように思います。

(岡部) その後、中島飛行機が盛んになると、そこへ勤める人が小舞木に住むようになります。

(清水) 行政から指名で、お宅は何人住ませてくれ、と達しが来ました。それで農家はどんどん貸家を建てたのです。うちなど 13 人も住んでいました。秋田の人たちでしたね。小舞木は小村ということで、消防団の人数を確保するのが大変でした。消防は九合の中で、各地区から何人出す、というのが決まっていたから。

(星野) では次に、祭りについてお聞きします。小舞木にはどういうお祭りがありましたか。

(清水、岡部) お祭りというお祭りがなかったのです。神社がありませんから。神社は飯塚の長良神社と合併して飯塚へ移転していますからそこでの祭礼はあり、参加しますが、小舞木の中ではありませんし、心が盛り上がるという風にはいきませんね。

(星野) そうでしたか。では神社の合併についての話に移らせていただきますが、小舞木の神社はどのような経緯で飯塚と合併したのでしょうか。

(岡部) 小舞木の神社は賀茂神社といいます。飯塚の神社にその由来を記した石碑があり、それを抜粋してきたのですが、当時国から小さい神社は合併を推奨されたのですね。そして明治 42 年 5 月に飯塚の長良神社と合併しました。そのとき、賀茂神社の所有していた山林などの土地を持参して合併したということです。古老によると、東別所の神社も合併する話が出たのですが反対があって独立を保ったそうです。また賀茂神社には広い境内があつて、大きな松がたくさん生えていたと聞いています。要は小舞木というのは小さい村ですから、神社の維持が大変だったわけです。

(清水) 私が子どもの頃はまだ境内地がそのまま残っていました。現在高草木不動産がある辺りです。石塔などもたくさんありました。その大きな松というのは私の頃には既にありませんでした。伐採した木を祖父が購入して材木にして、うちに置いてありました。うちの建て替える前の家はその材木を使って立ててありました。大きなケヤキの板があり、堅いので大工泣かせでした。

(松本) その敷地はその後どうなってしまったのでしょうか。

(清水、岡部) 専用道路によって道路のあちらとこちらに分断されてしまいました。また、賀茂神社跡という石碑がその場所に立っていましたが、区画整理によりそれも飯塚

の神社へ移動され、今はなんの跡もありません。

(清水) 区画整理のときに、ほんの少しでも場所をとって、その石碑だけでももとのところへ残すべきだったと思います。残念です。ところで私が子どもの頃は九合の他の地区の子から、小舞木は神社がないといって馬鹿にされました。当時は神社というものが今より重視されていたので、そういうことをいったのですね。

(星野) なるほど、生きたエピソードをまじえた、実に分かり易い変遷の過程です。明治末の神社合祀令、昭和初期の専用道路造成、そしてその後の区画整理と、3段階で神社が消えていったわけですね。しかし合併当時、小舞木の村人から反対意見など出なかったのでしょうか。

(清水、岡部) それを決定したのは当時の神社総代をしていた人たちと思われませんが、やはり小村ということで神社を維持するのに経済的負担が大きかったのではないのでしょうか。

(星野) そういうこともあるのですね。ちなみに現在、神社総代の人数などはどうなっていますか。

(清水、岡部) 飯塚6人、小舞木4人です。氏子の戸数が違いますから。よって修繕などの経費の分担もその割合です。

(清水) 以前、費用負担は半々だったのですが、私が総代の時にそれはおかしいといって今の割合にしてもらいました。実際、小舞木の住人は神社をほとんど使用しないのですから。

(星野) 賀茂神社のお社は長良神社の中に残っているそうですね。

(一同) 長良神社の社に向かって右手側の屋根の中に2つお宮がありますが、その南の方です。

(松本) 神社ということで、清水さんちの畑にある神社の話をも是非聞いておかれるといいですよ。

(星野) そうでした。あのお社はなんなのでしょう。

(清水) あれは当家個人でおまつりしている金比羅様こんびらさまです。いつからあるのか分かりませんが昔からあります。言い伝えによると、お侍が建てたもので、そのお侍は全国へ遊説に歩いて、熊谷まで来てもう少しで帰ってくるというところで亡くなってしまったそうです。父の代まではお宮に日本刀が上がっていて、父などはそれでチャンバラごっこをして遊んだということです。昔から当家では金比羅様の本家のある四国へ巡礼する習慣があり、今でも5年に1度行っています。

(星野) それは不思議な神社ですね。金比羅様のお祭りというものはあるのですか。

(清水) 旧暦の10月10日です。今は11月になりますが、新井の若旅宮司にお願いし

ています。

(星野) 旧暦 10 月 10 日という十日夜とおかんやの日ですね。

(清水) そうです。十日夜で餅を搗いて、それをお供えます。現在も上げています。当家が喪中の時は、ここにいる岡部さんちに祭礼などをお願いしたものです。

(星野) 清水家以外の人はお参りしないのでしょうか。

(清水) 今はしませんが、戦前は結構お参りに来ました。鉄の鳥居を上げてくれた人もいました。また、修繕などがあると、小舞木の人が自主的にお金を出してくれたものです。おそらく、小舞木には村の神社というものがいないため、その代わりとして心の拠り所となっていたのでしょうか。

(星野) そうですか。小舞木ならではの村人の気持ちはあったのかもかもしれませんね。

(清水) また、私が戦地に赴く際、大分お宮が傷んでいたのですが、生きて帰ってきたら建て替えます、と誓っていきました。そして幸運にも帰ってくる事が出来ましたが、戦禍も影響して既につぶれていました。そこで中島飛行機からリヤカーで材料を調達してきて、職人に頼んで新築しました。それが終戦の年でした。現在のお宮は 5 年ほど前に新築したものです。

(星野) さて次にお寺、円養寺えんようじの事をお聞きしますが、何か特徴的なことはありますか。

(清水、岡部) 小舞木は神社はありませんでしたが、お寺は大したものなのですよ。経蔵きょうぞうの中に一切経いっさいきょう様というお経がたくさんありまして、これを 8 月 16 日に村中の人がお寺に集まって、拵いっさいきょうげて虫干しをするという行事がありました。人々が(豊の)薄縁うすべりを必ず新しく購入し、それを持って寺に集合し、お経を並べます。そして団扇で扇ぐのです。6 畳 3 間がいっぱいになりました。円養寺は昭和 10 年代まで無住寺で、細谷きょうおうじの教王寺の和尚を頼んでいたのですが、和尚さんがそのお経を村人の頭にかざしてくれ、そうしてもらおうとご利益があるといわれました。全部漢字で私達には読めませんでした。

(松本) 私もうっすらとその行事が記憶にあります。

(星野) そうすると昭和 30 年頃までは行われていたようですね。お経そのものに「様」がついて地域の人から敬われているとは珍しいですね。

(清水) もう 1 つ、お盆の時は子どもたちにとって楽しみなことがありました。円養寺は山門に釣鐘が下がっていたのですが、1 年の中でお盆の時だけ、子どもたちがこれを鳴らすことが許されていたのです。山門は 2 間 4 間くらいでしたが、この上に泊まりこんで、夜通し鐘を打ったものです。そうすると山門がぐらぐらと揺れました。そんないたずらばかりしていたのです(笑) いたずらといってもこれは公認でしたが。

(星野) 面白い風習ですね。しかも子どもが、というのがいいですね。その釣鐘はいま

でもあるのですか。

(清水、岡部) 戦争中の金属供出でなくなってしまいました。現在円養寺にある釣鐘よりもっと大きく、大人2人で抱えるほどありました。九合でも釣鐘のあったのは円養寺だけだったと思います。

(星野) なるほど。しかしこのお盆の行事はお祭りのようなものですね。

(清水、岡部) そうですね。また会議とか、人が集まるのは何でもお寺でした。消防団も暮れには寺に詰めたものです。

(星野) 神社がない分、寺への依存というのが他の地区よりも強いような気がしますね。ところで太田市史に小舞木に「ほうぎょうさま」というものの供養碑があるとあるのですがご存知ですか。

※太田市史民俗編下巻 p.170 参照

(清水、岡部) 「ほうぎょうさま」ではなく、「おぎょうさま」と記憶しています。言い伝えによりますと、その昔和尚さんがいて、自分で穴を掘って、生きながらそこへ入って、チーンチーンと鉦かねをならし、それが聞こえるうちは生きている、といったそうです。その供養の石塔が坂庭家にありました。決まったお祭りがあったというわけではないですが、信仰する人が結構いました。昔はおぎょうさまの敷地というのがある程度ありましたが、区画整理後は坂庭家のブロック塀の隅を切って、そこに置かれていました。現在では円養寺に納められています。

(清水) お寺関係ということで話しますが、小舞木には墓地が3か所ありました。1つは円養寺に隣接して、もう1つはその西部に、もう1つは北東部。円養寺に隣接した墓地は掘るとすぐに水が出て、私も実際にやったのですが、埋葬が大変でした。これらの墓地は区画整理に伴い円養寺に統合されました。

(星野) さて、では次にみなさんが子どもの頃のあそびについてお聞きします。小舞木では子どもたちのたまり場のようなものがありましたか。

(清水、岡部) やはりお寺の庭ですね。お寺に行けば子どもたちがいました。またお寺の東に古墳があり、子どもが登ったりして遊ぶのにちょうどいい大きさでした。お寺の裏は杉林でしたね。

(清水) そこでよく木登りをして遊んだのですが、これが軍隊で役に立ちました。私は中国の後南方へ行っていたのですが、私の中隊にまともに木登りができる者を含め3人ほどしかいませんでした。そして、椰子の木に登って椰子の実を取るのですが、2本登ればよくやったということで1日遊んでいてもよかったのです(笑) ちなみに、椰子の実というのはむくのが難しいんです。私は現地人に教わり、今でもできますよ。

(星野) 円養寺のおかげで鼻が高かったのですね(笑) その他に遊び場がありましたか。

(一同) 坂庭の本家のところに七ヶ村堀の大堰がありまして、ここが深くなっていて子ども達が水遊びをしました。水もきれいでした。この堰は小舞木の用水の要で、ここから分水して南部の田んぼに水を供給していました。

(星野) みなさん十日夜とおかんやのワラデッポウで遊んだと思いますが、この時に他の村の子と戦争ごっこをしたということはありませんか。

(清水、岡部) やりましたよ。飯塚や内ヶ島とやったものです。田んぼ中を走り回りました。

(星野) そうですか。勝敗的にはどうでしたか。

(清水、岡部) やはり小舞木は小さい村でしたから人数が少なく、そんな時は青年団の人たちが加勢してくれました。まあ勝ち負けがつく、というものではなかったですね。

(松本) 私はそういう戦いというのはなく、行事として家の周りを叩いたくらいでしたね。

(星野) さてでは次に戦争についてお聞きします。昭和 20 年 4 月 4 日未明のとき、爆弾が落ちたとのことですね。

(清水、岡部) 町内北東部に落ちました。そこで一家 5 人が爆弾の直撃で亡くなっています。その隣の家も大変な被害を受けました。

※この空襲については「日本の空襲 二」p.216 に体験者の手記あり

(清水) このすぐ近くに墓地があり、近くにあったうちの田んぼまで墓石が飛んできました。またその田んぼにも爆弾が落ちて穴が開き、そこでは稲を植えられませんでした。

(松本) 私が子どもの頃にも池となって穴が残っていて、魚釣りができました。

(星野) 清水さんは戦争に行かれたとのこと、出征兵士は神社から駅へ向かうようですが、飯塚の神社まで行ったのですか。

(清水) そうです。その日は赤飯を炊いて、親戚や村の人が集まり、駅まで送り出してくれました。また、無事帰ってきたときも、皆が駅まで迎えに来てくれ、神社にお礼参りをし、赤飯を炊きました。

(星野) やはり駅への道は小舞木と飯塚を結ぶ例の道を通ったわけですか。

(清水) もちろんです。他の道はないのですから。軍歌を歌いながら歩きました。その後、高崎の十五連隊に入り、わずか 1 週間で中国へと赴き、実弾を持たされました。

(星野) ではほとんど訓練無しということですか。

(清水) いえ、中島飛行機の青年学校へ通ってしまして、そこでは昼間働いて、夜は軍事訓練を行いましたから、基礎はできていました。中島の青年学校というのは全国から若者が集まって、盛んだったのですよ。ところで九合から同じ部隊へ 3 人が入隊しましたが、1 人は途中でチフスにかかって亡くなりました。もう 1 人は銃弾が腕を貫通し、

化膿してウジ虫がわいてしまい、ひどいもので軍医が金ノコで腕を切断しました。その時は命をとりとめたものの、結局どこかで戦死され、また九合へ戻ることはありませんでした。

（岡部）戦争のことというと、小舞木には高射砲陣地が置かれました。まさにここ、集会所の周辺がそうで、1町分（1ha）以上の広さはあったと思います。砲台が何台も据え付けられ、建物もありました。敵の飛行機が来るとここから発射するわけですが、高度1万mを飛ぶB29には全然届かないで下の方で虚しくはねてしまうのです。そしてB29は悠々と飛び去っていきます。これを見て日本はもうだめだな、と思いました。

（清水）この砲撃は相当地響きがし、周囲の家はその衝撃で大分傷んでしまいました。敵には損害を与えられず、自分たちが損害を被り、自滅ですね。

（岡部）円養寺の裏の杉は、この高射砲陣地から視界の邪魔になるということで伐採させられました。

（清水）戦争から帰ってきて駅から小舞木を見たとき、見慣れた円養寺の杉林がなくなっていたので、小舞木はどうなってしまったのかと驚いたものです。杉というと我が家の金比羅様にも大きな杉が5本ほどありましたが、これも供出させられました。

（松本）我が家は犬を供出させられたそうで、毛皮や食料にしたのだらうと親達から聞いています。

（星野）最後に養蚕についてお聞きします。皆さんの家では養蚕をやっていましたか。

（一同）小舞木の農家でやっていない家はなかったのではないのでしょうか。古地図を見ても分かるように、小舞木は比較的畑が多く、また畑地のほとんどは桑原でした。

（星野）その他思い出などありますか。

（清水、岡部）後には桑の枝を切って蚕に与えるようになりましたが、それまでは1枚1枚葉を摘んでいました。桑摘みというのは大変な仕事でした。そして蚕さままで、蚕優先だったので、人間の寝るところがなかったですね。

（清水）養蚕は現金収入をもたらし、そのお金で田んぼの肥料を購入したものです。とにかく昔の農家は現金収入が乏しかったですから。

（星野）本日は貴重なお話をありがとうございました。

第3章 各地区7つの秘密の物語

各地区物語共通の序文



昔々、今から125年ほど前(1889年)のこと、飯塚、飯田、新井、西矢島、東矢島、東別所、内ヶ島、新島、小舞木の9つの村が合わさって、九合村ができました。九合村はその後50年ほど続きましたが、約75年前(1940年)、太田(町)と合併したので、その名前はなくなりました。でも、かつての九合村は今でも九合地区として残っています。その後、内ヶ島から目塚地区が、新井から南新井地区が分かれ、現在九合には11の地区があります。

九合村ができた約125年前、飯塚に九合小学校ができました。当時はまだ中央小や旭小はできておらず、九合の子たちは皆ここに通いました。

ところでいま九合小学校には、古いせんだんの木があります。この木は多分、九合小ができた頃からずっとあって、子どもたちを見守ってきました。

放課後、九合小学校のせんだんの木の前でチュート(男)とアーサ(女)は遊んでいました。遊び疲れ、木の陰で休んでいると、11個の巻物とメガネが2つ空から落ちてきました。

びっくりした2人が上を見上げると・・・

「やあ、こんにちは。わたしはせんだんさん。それは、この九合11地区の秘密の地図じゃよ。そしてそのメガネはセンダンメガネといって、かけると不思議なことが起こるんじゃ。みんなは知らんと思うが、この九合地区にはたくさんの秘密が隠されておる。九合に生まれた2人には、ぜひとも知ってもらいたいじゃ。この地図とメガネを持って探検してごらん。お伴にこの子をつけよう。」

「やあ、ぼくは九合の妖精くーたん。九合のことならなんでも知ってるよ。いっしょに探検に出かけよう!!!」

こうして2人は、探検に出かけました。

※登場人物の年齢は平成25年末時点でのものですので、適宜加算してください。

77の秘密 (各地区7つの秘密リスト)

飯塚町

- ①国宝武人埴輪
- ②九合村役場跡
- ③正泉寺の天井絵
- ④飯塚の幹線道路
- ⑤飯塚の3つの池
- ⑥ナカクルワ墓地の古椿
- ⑦九合小学校

南新井町

- ①緑町と住吉町
- ②幻の稲塚山
- ③市営住宅と県営住宅
- ④南新井町という名称
- ⑤富士重工矢島工場
- ⑥九合最大の焼夷弾被害
- ⑦南新井町集会所

東別所町

- ①長良神社裏の古墳
- ②奇祭、獅子頭まわし
- ③往還道路
- ④国貞寺の八木節祭りと道具一式
- ⑤太田飛行場
- ⑥掩体壕
- ⑦アメリカ村の区画

新島町

- ①専用道路
- ②九合最大の空襲被害
- ③新島銀座と小泉県道
- ④観音堂と大吉庵
- ⑤江文神社の松
- ⑥一配森稲荷
- ⑦追分地藏

飯田町

- ①雷電神社の雨降り石
- ②旧熊谷県道の道筋
- ③飯田の崖
- ④祇園祭りの女神輿
- ⑤祇園祭りの獅子回し
- ⑥霊雲寺のお釈迦様像と花祭り
- ⑦中央小学校

西矢島町

- ①赤城神社のムカデ伝説
- ②大杉の切り株
- ③祇園祭りのケンカ神輿
- ④神輿のふるさと元屋敷
- ⑤原山と三和工場
- ⑥紫雲塚古墳
- ⑦不倦舎のあった安楽寺

内ヶ島町

- ①2つの伊勢神社
- ②伊勢神社の弓引き
- ③稲荷様と八幡様
- ④カンカンナイド
- ⑤孫左衛門の観音堂
- ⑥県道の名残
- ⑦開文学校のあった蓮光寺

小舞木町

- ①2本の古い道
- ②小舞木の地藏様
- ③幻の賀茂神社
- ④円養寺の一切経様
- ⑤円養寺の2つの梵鐘
- ⑥金比羅様
- ⑦小舞木の高射砲陣地

新井町

- ①八幡宮本殿の三つ葉葵の紋
- ②八幡宮の獅子舞
- ③十輪寺の地藏堂
- ④幻の天神様
- ⑤御庵稲荷古墳
- ⑥夜泣き様
- ⑦川の曲がり

東矢島町

- ①長良神社の獅子舞
- ②獅子舞の万灯
- ③お寺のふるさと元寺
- ④葉王寺の宝篋印塔
- ⑤葉王寺の抜け出し地藏
- ⑥南矢島町と末広町
- ⑦旭小学校

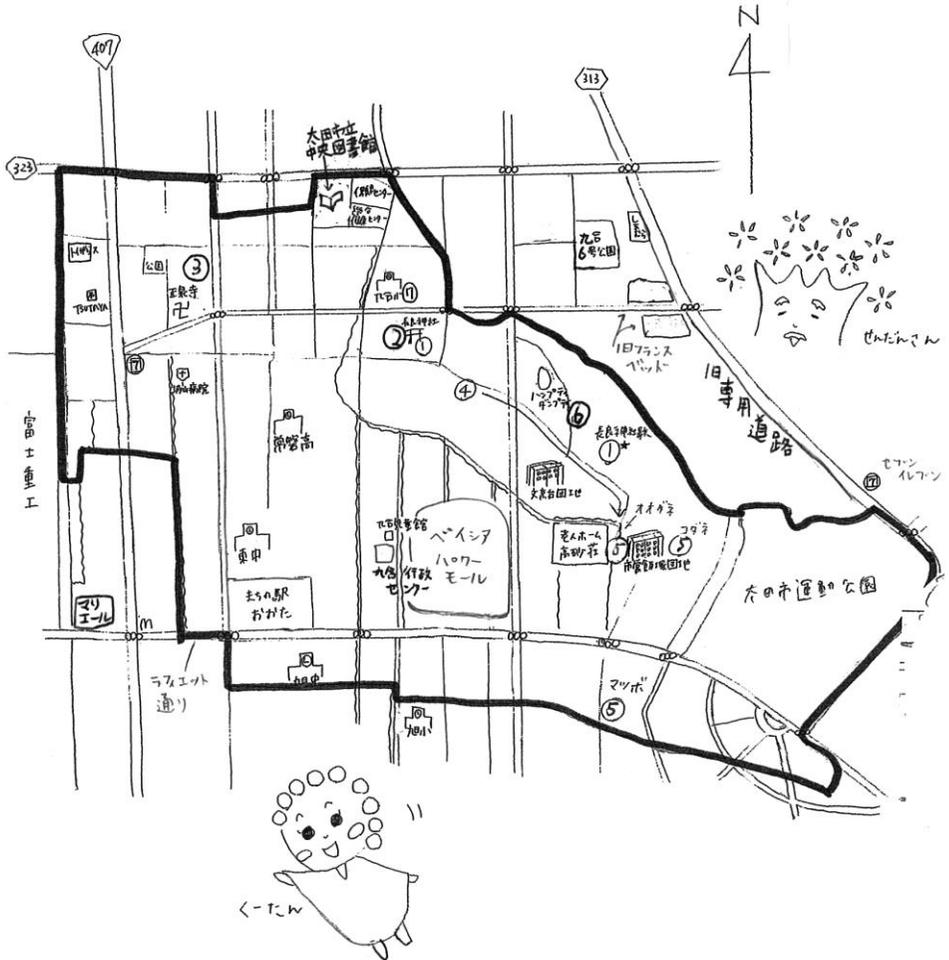
内ヶ島町目塚

- ①天神山古墳
- ②女体山古墳
- ③天神様
- ④天神山古墳A陪塚
- ⑤目塚の高射砲陣地
- ⑥幻の浄土寺
- ⑦旧館林県道

飯塚町

7つの秘密の地図

- ① こくほうぶじんはにわ 国宝武人埴輪
- ② くあいむらやくばあと 九合村役場跡
- ③ しょうせんじ てんじょうえ 正泉寺の天井絵
- ④ いいづか かんせんどうろ 飯塚の幹線道路
- ⑤ いいづか いけ 飯塚の3つの池
- ⑥ ほち ふるつばき ナカクルワ墓地の古椿
- ⑦ くあいしょうがっこう 九合小学校



飯塚町物語

今日は飯塚町の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ——！！

① 1つ目の秘密「^{こくほうぶじんはにわ}国宝武人埴輪」：地図の①の所を見てく ださいね。

くーたん：2人とも、埴輪って見たことあるかな？

アーサ：テレビで遺跡^{いせき}のこととかをやっているのを見たことがあるわ。

チュート：人間とか、動物とかの形の焼き物でしょう？

1つ目の秘密はそれなの？

く：そうだよ。ほら、^{ながら}長良神社に到着だよ！九合小のすぐ近くだね。神社の入り口立っているこの埴輪が、飯塚町1つ目の秘密、武人埴輪さ。

ア：あっ！どこかで見たことあったよ！！

く：うん、武人^{ぶじん}というのは武器^{ぶき}を持ったり、よろいを着たりしている人だよ。本物は東京にある国立博物館^{こくりつはくぶつかん}に飾^{かざ}られているんだ。国宝^{こくほう}とって、国の宝物^{たからもの}に選ばれているんだよ。

チ：へー、でもどうして武人埴輪がここに立っているの？

く：実は、国宝となった武人埴輪は飯塚町で発見されたんだ！

ア：えー、飯塚町で！？

く：そうだよ。しかも、国宝の埴輪^{はにわ}というのは、日本中でこの武人埴輪^{ぶじんはにわ}だけなんだつまり、日本一の埴輪^{はにわ}といってもいいんだよ！

チ：えー、すごい！一体飯塚町のどこで見つかったの？

く：ふふふ、もう1つの^{ながら}長良神社から発見されたのさ。

チ：もう1つの長良神社？え、飯塚の中に長良神社なんて他にあったっけ？

く：今はないんだけどね。飯塚はカミ、ナカ、シモ、マツバラと4つの区域^{くいき}に分かれていて、今みんながいるここはナカの長良神社なんだ。そして、もう1つの長良神社はマツバラにあったんだよ。だけど今から100年くらい前、^{めいじじだい}明治時代の終わりころに国からの命令^{めいれい}でマツバラの長良神社はナカの長良神社と合わさって、なくなってしまったんだ。

ア：へー、100年前までは長良神社がもう1つあったんだね。それで、どうやって埴輪が発見されたの？

く：まああせらないで。じゃあここでせんだんさんにもらったセンダンメガネをかけ

てみて！

シャキ————ン

チ：あれ、何かたくさんの方がスコップを持って工事をしているよ。山みたいになっているところを掘っているね。

ア：あ、誰かが叫んでる！「みんな来てくれー、すごい物が出てきたぞー！」っていつてるよ。なんだろう？行ってみよう！

チ：あ、武人埴輪だ！土の中から武人埴輪が出てきたよ！確かによくできている埴輪だなー。こんなものが山の中から出てくるなんて！周りの工事をしている人たちもみんな驚いてる！

く：はい、2人とも、メガネを外して！

シャキ————ン

く：今2人が見たのは、今から80年ほど前（1930年頃）のマツバラの長良神社の場所だよ。ここからは、現在85才（1928年生まれ）の中庭武男さんに教えてもらおうね。

中庭武男：こんにちは、中庭です。私はマツバラの長良神社のすぐ隣に住んでいた岡田銀太郎さんが生きていたときに、武人埴輪発見の話聞かせてもらいました。今から80年ほど前、岡田さんが若い頃、飯塚の道を整備する工事があって、岡田さんはその手伝いをしたそうです。当時もうマツバラの長良神社はナカの長良神社へ行ってしまうと神社自体はなかったのですが、神社のところにあった古墳という小さな山はそのまま残っていました。そして、道を整備するためにその山を崩して、土を使ったんですね。その時に山の中から武人埴輪が出てきたんだそうです。それ以外にもたくさん埴輪が出てきたそうですよ。でも、それが大事なものは知らないで、「こんなもの！」とポコッと叩いて壊してしまった人もいたそうです。

ア：え～、もったいない！それがさっきセンダンメガネで見た場面だったんだね！

チ：でもどうしてたくさん埴輪の中で武人埴輪だけが国宝になったんだろう。

く：多分、武人埴輪は、数ある埴輪の中でも飛びぬけてすばらしい作りだからじゃないかな。みんな、今度は是非東京の国立博物館に見に行ってみてね。本物は、これが1000何百年も前に作られたとは思えないほど本当にすごいんだよ！ガラスケースに入っていて、ちゃんと群馬県太田市飯塚町から見つかったって書いてあるんだ！

ア：見に行きたーい！武人埴輪のこと、この九合に住んでいる私たちは絶対に知っておきたいね！！

クイズ①：国宝武人埴輪はどのように発見されたのでしょうか？（正解は物語の最後にあります）

② 2つ目の秘密「^{くあいむらやくぼあと}九合村役場跡」：地図の②の所を見てく ださいね。

く：ねえ、2人とも、九合地区ってどうして九合っていうか覚えてる？

ア：えーと確か、9つの地区が合わさったからだったよね。

く：よく覚えてたね。その合わさった時というのは今から125年くらい前（1889年）なんだけど、^{とうじ}当時九合地区は、^{じったぐん}新田郡九合村と^よ呼ばれていたんだ。

チ：へー、今ここは太田市だけど、^{むかし}昔は九合村だったんだね。

く：うん。太田はまだ太田市にはなってなくて、太田町という名前だったんだけど、とにかく太田とは別の、1つの村だったんだ。だから役所も別だったんだよ。今、太田には太田市役所があるけど、当時の九合村には九合村役場という役所があったんだ。

ア：そっかー。太田じゃないんだもの、太田市役所じゃないよね。じゃあくーたん、九合村役場ってどこにあったの？

く：ふふふ、それは今2人が見ている所だよ。

チ：え、ここは長良神社のすぐ南の、^{しょうぼうだん}消防団の^{たてもの}建物だよ。

く：じゃあこんなときはセンダンメガネをかけてみよう！

シャキ————ン

ア：わあああ！昔にタイムスリップしたみたい！^{りっぽ}立派な建物があるね。

ん？九合村役場って書いてあるよ。わー、本当にこの場所に役場があったんだね。

く：今から75年ほど前（1940年）に九合村が太田町と合併するまで、ここが九合の人にとっての役場だったんだよ。みんなのおじいちゃんおばあちゃんや、その上のおじいちゃんおばあちゃんたちは、きっと色々な^{ようじ}用事でここに集まったりしていたはずだよ。

チ：へー、九合小のすぐ近くにそんな大切な場所があったんだね、知らなかったなー。

クイズ②：九合小や長良神社のすぐ南、現在消防団の建物があるところには昔、何があったでしょう？

③ 3つ目の秘密「^{しょうせんじ}正泉寺の^{てんじょうえ}天井絵」：地図の③の所を見てく ださいね。

く：さあ、ここは飯塚町の西はじにある、正泉寺だよ！

チ：くーたん、ここに秘密があるの？

く：うん。この^{ほんどう}本堂に飯塚町3つ目の秘密があるんだ。

ア：へー、新しい建物^{たてももの}みたいだけど。

く：じゃあセندانメガネをかけてごらん！

シャキ————ン

チ：わ——、古いワラ屋根^{やね}の建物になったよ。

く：これは、今の本堂をつくる前の本堂だよ。中に入ってみようか。

ア：すてき！！！！天井にたくさんの絵が描いてある！

く：すごいでしょ！正泉寺の前の本堂の天井^{てんじょう}には、全部で70数枚の板に描いた天井絵^{てんじょうえ}があったんだよ。

チ：え————！70数枚も？すごい数だね！

ゴゴゴゴゴゴゴゴ————

ア：わ——、何の音！？怖いよ————！！！！

ドス————ン

ドス————ン

チ：うわー、何か落ちてきた！助けて————！

く：はい、2人とも、もうメガネを外して！！

シャキ————ン

ア：あー、恐かったー。くーたん、今のは何だったの？

く：ここからは現在74才の大澤宏敬和尚さん（1939年生まれ）にお話を聞こうね。
大澤さん、よろしくお願ひします。

大澤：こんにちは、大澤です。くーたんのいうように、正泉寺の前の本堂の天井には花や鳥などを描いた貴重^{えびら}な天井絵^{きわう}がありました。しかし、今から約70年前、日本がアメリカなどと戦争をしているとき、1945年4月4日夜明け前にアメリカ軍^{ぐん}がこの近く^{びくどん}に爆弾を落とし、本堂はその爆風^{ほんどう}により建物^{ぼくふう}が傾^{たてもの}いてしまうほど大変な被害^{かたむ}を受けました。そのときにこの天井絵の板^{いた}の多くも2枚や3枚に割れてしまったのですよ。

チ：さっきの怖い音は爆弾の音だったんだね。

大澤：あの時は大変でしたよ。もう二度と戦争はいやですね。ところで、天井絵^{うら}の裏に絵の描かれた年数が書いてありまして、今から200年以上前のものということが分かりました。

ア：へー、200年以上前だなんて、すごいなー！

大澤：現在^{げんざい}は、戦争のときに割れてしまったままになっていますが、貴重なものだから、いつか直^{なお}して、みなさんに見てもらえるようにしたいと思っています。

く：天井絵は、古いだけじゃなくて、戦争の恐ろしさも教えてくれる、大切な宝物だね。

クイズ③：天井絵はどうして割れてしまったでしょう？

④ 4つ目の秘密「飯塚の幹線道路」：地図の④の所を見てく ださいね。

く：さあ、ここは飯塚町の東の方だよ。ふたりともこの道知ってる？

チ：うん！知ってるよ！！何度か通ったことある！運動公園に行く道でしょ？

ア：私も知ってる！道がカクンと90度に曲がってるんだよね。

く：じゃあ、ここでいつものセندانメガネをかけて見て。

チ：よ——し、今度は何だろう！

シャキ————ン

ア：ん？あれ？

チ：なんだこれ！風景は違って大分昔の様子になっているけど、道がカクンと曲がっているところは今と同じだね！

く：そう！そこが大事なところなんだ。今2人が見ているのは、100年以上前の明治時代だよ。なんとこの道は、当時からずっとそのままの形なんだ！これが飯塚4つ目の秘密だよ。

ア：へーえ。今まで見てきたものは昔と今との違いにびっくりしたけど、こうやって変わらないものもあるんだね！！

く：うん。90度に曲がったところから西へ向かってずーっと伸びていて、飯塚町の中心となる幹線道路だったんだよ。さっき出てきたナカの長良神社やマツバラの長良神社も、この道とつながっていたんだ。飯塚や東別所の子どもたちが九合小学校に通うのにも、みんながこの道を通っていったんだ。たくさんの人の思い出が詰まっているんだろうね。

チ：むかーしむかしから飯塚の人たちの大切な道ってわけか！

く：いいこと言うね、チュート！

クイズ④：飯塚の中心となる道は、どれくらい前から変わらずにあるのでしょうか？

⑤ 5つ目の秘密「飯塚の3つの池」：地図の⑤の所を見てく ださいね。

く：じゃあ5つ目の秘密を教えようね。さあここだよ。

ア：え、この草も生えっぱなしで荒れているところに何かあるの？

く：この場所、ただの荒地じゃないんだよ。今からは想像もつかない景色が見えるから、さあ、2人ともセندانメガネをかけてごらん！！

チ・ア：よ——し！

シャキ————ン

く：ほらほら、見えてきたでしょ？

ア：わあ————！！池だ————！！

チ：見て、見て！魚もいるよ！！！！

く：フフフ！！実はここ、昔は「オオダネ」っていう、池があったんだよ！このオオダネはね、今はなくなってしまった、こくほうぶじんはにわ国宝武人埴輪の出たマツバラの長良神社にお参りする道の入り口にあって、神社にお参りする前に、手を清めるためにも使われていたんだ。その名の通りオオダネは大きな池で、魚もたくさんいたんだって。その魚を売って、飯塚町のだんたい団体のお金にもしていたそうだよ。じゃあメガネを外して。

シャキ————ン

中庭和夫：そうそう！なつかしいなあ。

く：あ、現在 84 才（1929 年生まれ）のなかにわかずお中庭和夫さん！

ア：わ！！びっくりした！おじさんはここが池だった頃ころを知っているの？

中庭和夫：ああ、知っているとも。私も魚を捕っていた人の 1 人だよ。魚をとるには、水を一いっしょうけんめい生懸命くみ出して捕るんだけど、水をなくすとね、池の底そこから花火が出てくるんだ。

チ：ええええ！？花火？花火が出てくるの？

中庭和夫：そうだよ。花火といっても花火の筒つつなんだけどね。私のおばあさんの話によると、飯塚町はこの花火にお金を使いすぎてびんぼう貧乏になってしまったそうだよ。はっはっは。

ア：へ————。ということはたくさんの花火の筒つつが埋まっていたのね。

く：今でも掘れば出てくるってさ。

ねえねえ、実は飯塚町にあった池はこのオオダネだけじゃないんだよ！

チ：え？まだ他にもあったの？

く：うん！あと 2 つあるんだ。オオダネのすぐひがしがわ東側にあった小さな「コダネ」っていう池と、3 つの中で一番大きくて、飯塚の南端みなみはしのちょうど東別所ひがしべつしょとの境さかいにあった、「マツボ」っていう池だよ。コダネは魚もいない小さな池だけど、マツボはウナギやナマズもたくさんいたとっても大きな池だったんだよ。しかもこのマツボには人間が入れるくらい大きな横穴よこあなが空いていて、ず————とむこうまでつづいてたんだ。面白いでしょ？

チ：へ～、この飯塚町にそんな大きくて面白い池があったなんて信じられない！僕もこの池で魚釣さかかつりやってみたかったなあ。

く：どの池も昔の人たちにとって大切なものだったから、いつの間にか埋め立てられてしまっ、昔の姿すがたを知っている人たちはとても残念ざんねんに思っているそうだよ。

クイズ⑤：飯塚にあったオオダネ、コダネ、マツボの3つの池のうち、掘ると花火の筒が出てくるのはどれでしょうか？

⑥ 6つ目の秘密「ナカク ルワ墓地の古椿」：地図の⑥の所を見てく ださいね。

く：さあ6つ目の秘密はこちら。飯塚の真ん中へん辺にあるお墓にあるんだよ。

チ：へー、こんなところにお墓があったんだ。気づかなかったなあ。

ア：あたし、来たことある。お墓の入り口のところで、赤いきれいな花を咲かせる大きな椿の木を見たことがあるわ。椿の横に6人のお地蔵じぞうさんがいるのが、なんだか記憶きおくに残のこっていたの！

く：よく知っていたね！それが飯塚町6つ目の秘密なんだ！

チ：確たしかにおっきいね！！すぐそばのお地蔵さんも木の下で気持ち良さそう！

く：どれくらい古いのか、中庭和夫さんに聞いてみよう。

中庭和夫：こんにちは、また中庭です。私は現在84才（1929年生まれ）ですが、私が子どもの頃から同じ大きさですよ。椿というのは成長せいちょうするのに時間がかかる木ですから、もしかしたら何百才なんびやくさいにもなっているかもしれませんねえ。なかなかこれだけの椿の木はないですよ。

チ：何百年も生きてるなんてすごいなあ！お墓というみんなが通う場所にあったから、たくさんの方がこの椿を見てきたんだろうね。

く：そうだね。中にはお葬式そうしきとか、悲かなしい気持ちで見た人もいただろうけど、昔から変わらないこの大きな椿の木が、もしかしたら心をなぐさめてくれたかもしれないね。

ア：きつと椿はみんなに愛されていたのね！！帰ったらおじいちゃんやおばあちゃんにも、椿のこと聞いてみようっと！！

クイズ⑥：大きくて古い椿の木の横に並んでいるお地蔵さんは何人でしょうか？また椿は何色でしょうか？

⑦ 7つ目の秘密「九合小学校」：地図の⑦の所を見てく ださいね。

く：じゃじゃーん、飯塚7つ目の秘密はここです！

ア：待ってました！私たちの九合小学校！

チ：うれしい！なんで九合小が秘密なのか早く知りたい！！

く：九合小は、今から 125 年ほど前（1889）に 9 つの地区が合わさって九合村ができたときに誕生した小学校なんだ。本当はもっと昔から別の名前で別の場所に学校があったんだけどね。36 年前（1977）に中央小、29 年前（1984）に旭小ができる前は、九合の子はみんな九合小に通っていたんだよ。

ア：へえ。じゃあすぐたくさんのお友達がいたんだろうね。

く：校舎は初め木造だったんだけど、建てかえられて鉄筋コンクリートになったんだ。昭和の初めまではみんな着物に下駄で登校していたし、この九合小は戦争という時期もくぐりぬけているんだ。学校内に兵隊さんがいたこともあったし、爆弾が落とされて校舎につきかけた火を先生たちが必死に消し止めたなんていうこともあったんだよ。

ア：すごーい。そんなに歴史のある小学校にいるなんてなんだか誇らしいね。

チ：確か、2013 年で創立 140 周年だったよね？あれ、さっき 125 年前ってくーたん
いってたけど。

く：よく気づいたね。九合小ができる前、別の場所で別の名前で学校があったって
ったでしょ。その時から数えると 140 年ということなんだ。

ア：なるほど！140 年も経ってる学校なんてすごいや。

く：ところで 2 人とも、校庭にあるせんだんの木は知ってるよね。

チ：もちろん！

くーたんとせんだんさんに出会った場所だもん。

く：そうだったね。100 年以上経って様子は大きく変わったけど、校庭に植えられて
いるせんだんの木は、昔からずっとそのままなんだ。いつからあるのか明治時代生
まれの人でも分からないとっていたくらい古い木で、たぶん九合小ができた頃
からずっと子ども達を見守ってきたはずだよ。九合小の校歌にも「古い歴史の柁
は 祖先の訓そのままに かおるよ 九合小学校～」と歌われているよね。

ア：そうだね！

チ：九合カルタにも載ってるよ！

「せんだんの 歴史は古し 九合小」。

ア：本当だ！せんだんの木は九合のシンボルツリーっていえるね。

クイズ⑦：九合小は戦争のとき、どんなことがあったでしょうか？

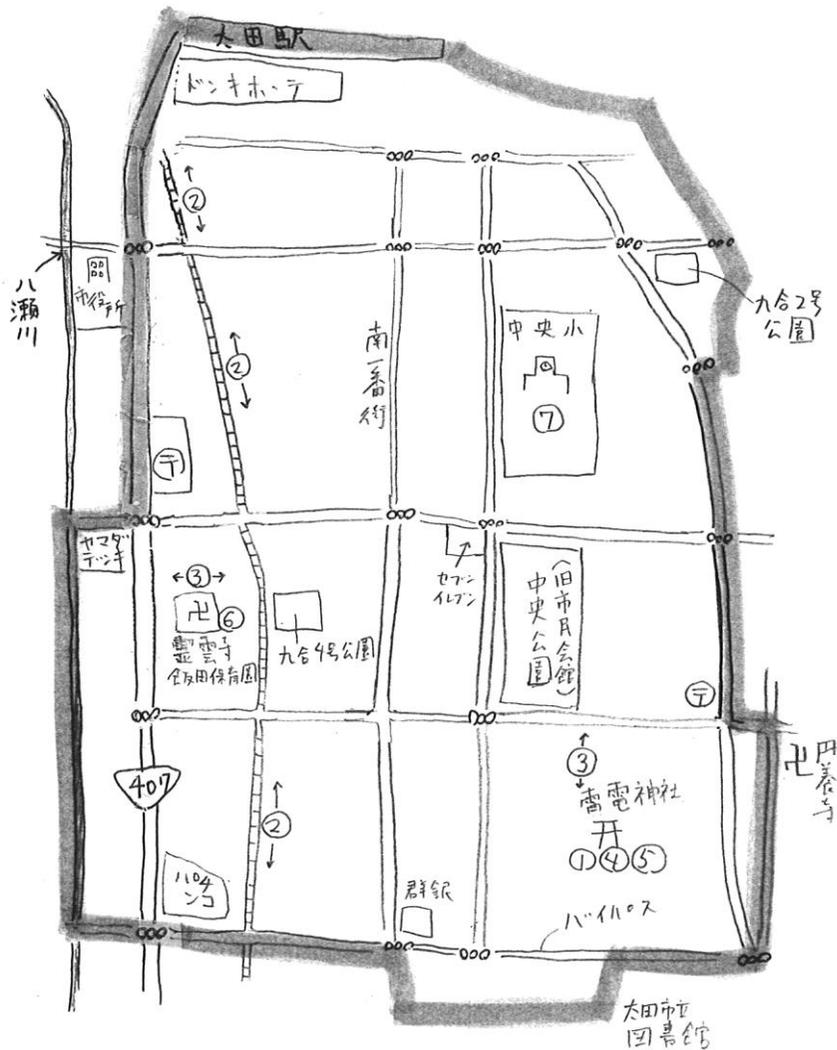
☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。

昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということ
を感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

飯田町

7つの秘密の地図

- ① 雷電神社の雨降り石
らいでんじんじゃ あめふ いし
- ② 旧熊谷県道の道筋
きゅうくまがやけんどう みちすじ
- ③ 飯田の崖
いいた がけ
- ④ 祇園祭りの女神輿
ぎおんまつ おんなみこし
- ⑤ 祇園祭りの獅子回し
ぎおんまつ ししまわ
- ⑥ 霊運寺のお釈迦様像と花祭り
れいうんじ しゃかさまぞう はなまつ
- ⑦ 中央小学校
ちゅうおうしょうがっこう



飯田町物語

今日は飯田町の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ——！！

① 1つ目の秘密「雷電神社の雨降り石」：地図の①の所を見てく ださいね。

くーたん：飯田町1つ目の秘密はここ雷電神社にあるんだ。2人とも来たことあるかな？

アーサ：あるよー！確か九合カルタにも「願いごと かけて詣でる 雷電神社」ってあったよね。

く：アーサ、よく知っているね。雷電神社はその名の通り、雷の神様なんだよ。そして、雷電神社の入り口右側にある、この高さ1mくらいの石の塔が1つ目の秘密さ。

チュート：え、何かどこにでもありそうな普通の石の塔に見えるけど、、、
正面には雷電宮って書いてあるね。

く：ふふふ。この石には不思議な力があるといわれているんだ。じゃあ現在74才（1939年生まれ）の清水日出男さんに聞いてみよう。

清水：やあこんにちは。清水です。この石はすごいんですよー。むかし日照りが続いて雨が降らないとき、父親から「神社に行って石塔を揺すってこい！」といわれたものです。

ア：えー、石塔を揺ると雨が降るの？

清水：いやー、それが、本当に雨が降ったこともあります。

チ：へー、すごいなー！でも、石塔ってとっても重いんだろうから、揺ることなんてできないんじゃないの？

清水：ほっほっほ。ちょっとやってみて御覧なさい。

ゴロゴロゴロ ゴロゴロゴロ

チ：ええええ！揺れた！！

ア：すごい！本当に揺れた！

チ：びっくりしたー！本当に揺れるなんて思わなかったよ！

これは雨も降らせられちゃいそうだなあ！

清水：はっはっは。そうでしょう。そしてもう1つ興味深いのが、飯田には私の知る限

り、一度も雷^{かみなり}が落ちたことがないんです。周りの地区には落ちているんですがね。飯田に雷電神社という雷の神様があるから、雷がよけて行くのでしょうかねえ。

ア：へ——、不思議！その秘密も気になるなあ！！

クイズ①：雷電神社の入り口右側にある石塔を揺ると何が起こるといわれているでしょうか？（正解は物語の最後にあります）

② 2つ目の秘密「旧熊谷県道の道筋」：地図の②の所を見てく ださいね。

く：ヤマダ電機^{でんき}や市役所^{しやくしよ}のある、この広い道知ってる？

ア：国道407号線^{こくどうごうせん}でしょ！有名だよ。

く：そうだね。ところでこの道っていつごろできたと思う？

チ：えー、そんなの全然^{ぜんぜん}分からないよ！

く：今みたいに真^ま直^ちぐに広^{ひろ}くなったのは今から70年くらい前(1943年頃)、戦争中^{せんそうちゆう}のことなんだけど、それよりずっと前、300年以上も前から今の元となる道があったんだ。

ア：へー、300年以上も前から！すごいなー。

く：じゃあここで、せんだんさんにももらったセندانメガネをかけてみよう！

シャキ————ン フワッ

チ：わー、体が浮^ういたよ。このメガネすごーい！

く：さあ、空から見た飯田町はどうか？

ア：おうちがいっぱいだねー。それとやっぱり国道407号線は大きな道だねー。南の方へずーっと続^ついてるね。

く：そうだね。じゃあここでもう一度メガネをかけ直^{ただ}してみて！

シャキ————ン

チ：わー、さっきまでのおうちがほんの少しになっちゃって、田んぼばかりだー！

く：これは100年前の飯田町の様子^{ようす}だよ。全然^{ぜんぜん}違うでしょ。さて、国道407号線はどうなったかな？

ア：なくなっちゃって見えないね。あれ、でもさっき407号線のあったところの近くに、細^{ほそ}い道が見えるよ。

く：よく分かったね。これがさっきいった407号線の元となる道だよ。太田^{さいたまけん}と埼玉^{さいたまけん}の熊谷^{くまがや}を結^{むす}んでいるから、熊谷県道^{くまがやけんどう}といわれていたんだ。

チ：確かに南の方へずーっと続^ついてるねー。へー、熊谷県道ってこんなに細い道だった

んだー。

く：じゃあ、この細い道をよく見ながら、もう一度メガネをかけ直してみて！

シャキ————ン

ア：わー、またまたおうちばかりの今の飯田町に戻ったよ。あれ、でもくーたん、さっきの細い道が残ってるよ！

く：そう！これが飯田町の2つ目の秘密だよ。昔の熊谷県道の道筋が、実は今でも残されているんだ。飯田町は50年くらい前に、区画整理とって、縦横まっすぐに道をきれいに整えたんだけど、その時に古い道は大体消えてしまったんだ。でも、運がいいことに、この昔の熊谷県道の道は、そのまま残されたんだ！だからちょっとこの道だけ真っ直ぐじゃなくて、東にカーブしているでしょ？

ア：ほんとだ！なんだか、他の道とは違う進み方をするってわくわくしちゃう！お母さんと車で走ったりしたいな！！

く：いいね！南からいくと、「飯塚町」の信号の1つ東の十字路から始まって、九合4号公園の西を過ぎ、太田郵便局の少し東を通過して東武線の手前で国道407に合流するんだ。昔は広い道というのは少なくて、飯田町やその南に住んでいた人たちが太田の町まで行くのに、みんなが通っていた道なんだよ。太田駅から戦争に行く兵隊さんもこの道を通って太田駅に向かったし、有名な金山の松茸も、この道を通って江戸の将軍に送られたんだよ。金山には赤松がたくさん生えていて、かつては松茸がとれたんだよ。今はとれないんだけどね。

チ：そっかあ。今は大きな道はたくさんあるけど、昔は熊谷県道がみんなにおなじみの道だったんだね。

クイズ②：昔の熊谷県道は今でも残っているのでしょうか？また昔はどんな人が通ったのでしょうか？

③ 3つ目の秘密「飯田の崖」：地図の③の所を見てく ださいね。

く：2人とも、ちょっと飯田町の中を散歩してみようか。

チ：お散歩楽しいなー。あれ、くーたん、ここは雷電神社のちょっと西のところだけど、ここから中央小学校の方を見ると、なんか結構な下り坂になってるよ。おもしろーい！

く：チュート、よく気づいたね。実は、飯田町というところは、坂の多いところなんだ。

ア：へー、でもどうして坂なんだろう？

く：じゃあまたセンダンメガネをどうぞ！

シャキ————ン

フワッ

チ：わー、また空を飛んだよー。

ア：やっぱり飯田町はびっしりと建物が立っているねー。ほとんど田んぼや畑なんて見当たらないね。

く：そうだねえ。じゃあここで、もう一度メガネをかけ直して100年前を見てみよう！

シャキ————ン

チ：わー、今度は田んぼばかりだー！

く：2人とも、よーく田んぼと家の位置を見てみて。何か感じない？

ア：あ、なんかドーナツみたいに、飯田町の真ん中が田んぼで、その周りに家が建っている感じ？

く：よく分かったね。その通りなんだ。じゃあメガネを外して！

シャキ————ン

く：ここからは現在74才（1939年生まれ）の伊藤^{としじ}智治さんに教えてもらおうね。

伊藤：はいこんにちは。伊藤です。飯田町は大変変わった地形なんです。簡単^{かんたん}に言うと、外側が高くなっていて、真ん中は池のようなものです。太田駅の南口のある北部や、雷電神社^{らいでんじん}や霊雲寺^{れいうんじ}のある南部は高くなっていて、そこに農家の家があり、真ん中は低くなっていて、ほとんど田んぼになっていたのです。中央小があるところも昔は田んぼだったのですよ。

チ：へー、だからさっき神社の西から中央小の方を見たら下り坂になっていたんだね。

伊藤：そうです。そして高いエリアと低いエリアの境目^{さかいめ}が結構はっきりしていて、中にはちょっとした崖のようになっているところもありました。いまみんなの見た場所もそうでしたし、また飯田町の西の方にある霊雲寺^{れいうんじ}の裏側^{うらがわ}も大分急^{だいぶんきゅう}な坂道^{さかみち}になっていますよ。今度見てみてください。

チ：わーーほんとだ！！昔^{あと}の土地^{とち}の跡^{あと}が残っているなんてすごい秘密だね！今度みんなに教えてあげようっと！

クイズ③：飯田町に坂道が多いのは、飯田町がどんな地形だからでしょうか？

④ 4つ目の秘密「祇園祭りの女神輿^{ぎおんまつり}」：地図の④の所を見てく ださいね。

く：さあ2人とも、楽しいお祭りの話をしよう！

チ：わあ！たのしみ！！

く：飯田の祭りは天狗が登場するって知ってる？

ア：えー！なにそれおもしろそう！！

く：でもね、昔は天狗だけじゃなくともっと盛大にお祭りが行われていたんだ！

清水：祇園祭りだね。

く：わ！清水日出男さん！

清水：そうとも。飯田の祭りは昔々から7月25日に行われてきました。シンプルな作りで黒色のお神輿を担いだんだよ。

飯田の神輿は女神輿とって静かで、ワッショイワッショイと掛け声をかけたりはしないで、静かに進んだんです。西矢島の神輿はケンカ神輿で激しかったんだけど、これとはもう、正反対。時代劇でおかごにお姫様を乗せて運んでいるイメージかな。男4人で楽々担げます。

神輿の通る道というのがあって、天王道と呼ばれていました。神輿、幣束という神様の白い紙、太鼓、榊の枝の順に並んで、一番前には天狗が先導をして、飯田の中をまわっていたんですよ。

く：2人とも、メガネをかけて！！

シャキ————ン

チ：わあ本当だ！祭りっていうのにぎやかなイメージだけど、静かだね。でも、色んな人が行列を組んでいて、面白いなあ。

ア：これも飯田のオリジナルなんだろうな。

く：はい、メガネを外して。

シャキ————ン

く：この神輿は現在では担ぐことはしないけど、7月中旬頃のお祭りのときに出して飾るんだ。いつからあるのか大正生まれの人もわからなかったくらい古いんだよ。

ずっと昔から飯田に伝わる神輿、これこそ宝物でしょう？

チ：うん、すごいすごい！古いお祭りってなくなってしまったものが多いけど、飯田のはずっと神輿と天狗を守り続けてるんだもんなあ。

清水：この天狗はね、猿田彦という鼻の高い神様のことを表していて、昔のお話をもとに、天の神様である神輿を地の神様の猿田彦が先導する形になったんだそうです。私も昔の人に教えてもらったんですよ。

ア：お祭りには意味があるのね。

清水さんに教えてもらったように、私たちも子どもが生まれたりしたら教えてあげたいな。

クイズ④：飯田町のお神輿の特徴はどんな所でしょうか？

⑤ 5つ目の秘密「^{ぎおんまつ}祇園祭りの^{ししまわ}獅子回し」：地図の⑤の所を見てく ださいね。

く：さて5つ目の秘密も、この祇園祭りのことだよ。神輿を担ぐのは大人の^{しごと}仕事だけ
ど、実は飯田の祇園祭りには、子どもにも仕事があったんだ！

チ：えー、子どもの仕事？なんだろう？

く：それがこれさ、さあメガネを！！

シャキ————ン

ア：あっ！お獅子が町の中を回ってる！うわー、私はおいしくないから食べないで～！

く：はははは！アーサ、大丈夫だよ。よく見て！

ア：なんだ、中には子どもが入っているのね。

く：そう。これが祇園祭りでの子どもの仕事、獅子回しだよ。

チ：かっこいいい！この獅子回し、今もあるの？

く：実は、もう大分前から行われていないんだ。ちょっと皆さんに聞いてみようか。
はい、メガネを外して。

シャキ————ン

く：現在 74 才（1939 年生まれ）の伊藤さん、清水さん、獅子回しをやりましたか？

伊藤、清水：いや、私たちは見たことはありますが、獅子回しをやる^{ねんれい}年齢になる頃にはもうやらなくなっていましたね。だからお獅子の中に入ったことはありませんねえ。

く：じゃあ現在 85 才（1928 年生まれ）の岡野幸男さん、獅子回しをやりましたか？

岡野：いやあ、私も、見たことはありますがやったことはないですねえ。

小川：ほっほっほ。私はやりましたよ。

く：わっ、現在 88 才（1925 年生まれ）の小川二郎さん！さすがは^{たいしょうじだい}大正時代生まれ！

ア：ねえ小川さん！獅子回し、どんな感じだったの？

小川：獅子回しはね、1 人が^{ししがしら}獅子頭を持って、何人かが獅子頭にとりつけられている
大きな^{ふうろしき}風呂敷の中に入って、飯田町の^{ぜんぶ}全部の家を回ったんですよ。家に行くとお
こ^{こづか}遣いをもらえたと、とっても楽しかったですよ！神輿も^{むらじゆう}村中を回るんだけど、
獅子は神輿より先に行くんです。

伊藤：うちでは父が子どもたちを家に上げさせたので、家の中を獅子が^か駆け^{まわ}回ったの
を覚えています。

チ：楽しんでお小遣いももらえるなんて、そんないいことが・・・！

いいないないないな——！！

伊藤：あと、太鼓を叩いて祭りが始まることを村中に知らせるのも、子どもたちの役割でしたね。

そういえば、1952年（昭和27年）頃には子ども神輿も作りました。

ア：飯田の祭りは子どもたちが大活躍だったというわけね！

貴重なお話を聞かせてくれて、おじいさんたち、どうもありがとう！

クイズ⑤：獅子回しをした子どもには何かいいことがありました。それは何でしょう？

⑥ 6つ目の秘密「**霊雲寺のお釈迦様像と花祭り**」：地図の⑥の所を見てく ださいね。

く：飯田にはもう1つ祭りがあったんだ！

チ：えっどこどこ？

く：ここ、霊雲寺で花祭りがあったんだよ！九合カルタにも、

「霊雲寺 花まつりは 釈迦如来」って読まれているね。

花祭りというのは、お釈迦様の誕生日を祝って行われるお祭りなんだ。

お釈迦様の小さな像を花で飾り、それにアマチャというアジサイの仲間の植物でつくった甘いお茶をかけ、また頂いて飲んでお祝いする、というお祭りで、飯田の霊雲寺ではこの花祭りが特に盛んだったんだ。

ア：お釈迦様の誕生日っていつなの？

く：4月8日だよ。でも飯田では昔のカレンダーの日付に近い5月8日に行っているよ。この日には、霊雲寺のお釈迦様の像がしまっている囲いの扉を開いて、みんなにお披露目するんだ。

この像は、おそらく今から500年ほど前の室町時代に作られたもので、太田市の重要文化財に選ばれているものなんだよ！

チ：そんなに昔に作られたものがまだ大切にされているなんてすごいや！！

く：うん！ここの花祭りは本当に有名だったから、昔は人がたくさん来たんだって。祭りのときには五色団子を作るんだけど、隣の新井の子たちももらいに来たって話さ。

ア：へえ！なんだか地区と地区をつなぐお祭りって感じね！たのしそう！！

く：本当にそうなんだ！ちょっと、メガネをかけてみてよ！

シャキ——ン

チ：わああ！にぎやかなお祭りだね！

五色団子おいしそ——う！！ 橙、黄、赤、白、緑の五色なんだね！

く：今は住職さんと役員の人で作っていて、祭りの日にお寺の総会も行われるから、来た人に配られるし、飯田保育園の園児にも配られるんだよ！

ア：昔からの行事が今も続いているなんて素敵ね！！

有名なお釈迦様もいるし、こんな立派なお寺があって飯田の人は幸せね！

クイズ⑥：霊雲寺の花祭りでは、どんなことが行われたでしょうか？

⑦ 7つ目の秘密「中央小学校」：地図の⑦の所を見てく ださいね。

く：さあ、飯田町最後の秘密はここだよ！

ア：わー、私たちの中央小学校が秘密なのね！楽しみ！

く：そうだね。中央小は九合カルタに、「花いっぱい のびゆく町の 中央小」と読まれているね。それに、チュートの名前は中央小学校から取ったんだもんね。

ところで2人とも、中央小学校は九合小学校の弟だってことは知っているよね？

ア：もちろん！

九合地区の全ての子どもが九合小に通っていたんだよね！

チ：そうそう！だけど人数が多くなってきたから、中央小を作って、子どもたちを分けたんでしょ。

く：よく知っているね。そう。中央小は今から36年前(1977年)にできたんだけど、それによって新井町(北部)、飯田町、内ヶ島町(北部)、小舞木町(北部)、新島町の子どもたちは中央小へ通うことになったんだ！

く：ちなみに九合小にせんだんの木があるのは知っているでしょ？

ア：うん。せんだんさんでしょ。くーたんと出会ったのはせんだんさんの前だもんね。

く：そうだったね。実はここ、中央小学校にもせんだんの木があるんだ！！

ア：え、どこにあるの？

く：ほら、玄関前のこんないいところに植えられているんだよ。

ア：ほんとだー。元気に育ってるね！

く：このせんだんの木は、実は中央小が出来たときに九合小からプレゼントされたものなんだ。

九合小で大切にされてきたせんだんさんの子どもなんだよ！

チ：へー、せんだんの木があることで、中央小は九合小ときょうだいの学校なんだよっていう目印になっているみたいだなあ！中央小と九合小がつながってる感じがする！中央小のせんだんの木がこんなに大きくなってせんだんさんもうれしいだろうね！！

く：そうだね。

中央小にはもう1つ大きな木があって、^{たいいくかん}体育館のそばにあるケヤキの木が、学校のシンボルツリーになっているよね！このケヤキも中央小ができたときに植えられたもので、今ではこんなに大きくなって、子どもたちに^{すず}涼しい^{こかげ}木陰を作ってくれているんだ！

ア：いいなあ！このケヤキの木の陰で読書をしてみたい！

チ：ぼくはお昼寝——！

く：ははは、それいいね！

中央小では^{せんぱい}先輩たちもみんなこの木に見守られて育っていったんだよ！
そして^{せいじんしき}成人式には中央小に^{あつ}集まることになっているんだ！

ア：その時に、ずっと見守ってきてくれた木に^{せいちよう}成長した^{すがた}姿を見せてあげたいね！！

チ：うん、あと、ぼくはね、せんだんの木は5月頃、うすむらさきのきれいな花を^き咲かせるっていうことと、秋に落とす黄色い実は、むくと中にかわいい^{かたち}形の^{たね}種が入っているっていうことをもし中央小のみんなが知らなかったら教えてあげたいな！
だって、すごくかわいいんだよ！！

く：2人とも、本当に^{やさ}優しいなあ！2人の思いが^{とど}届くといいね！！

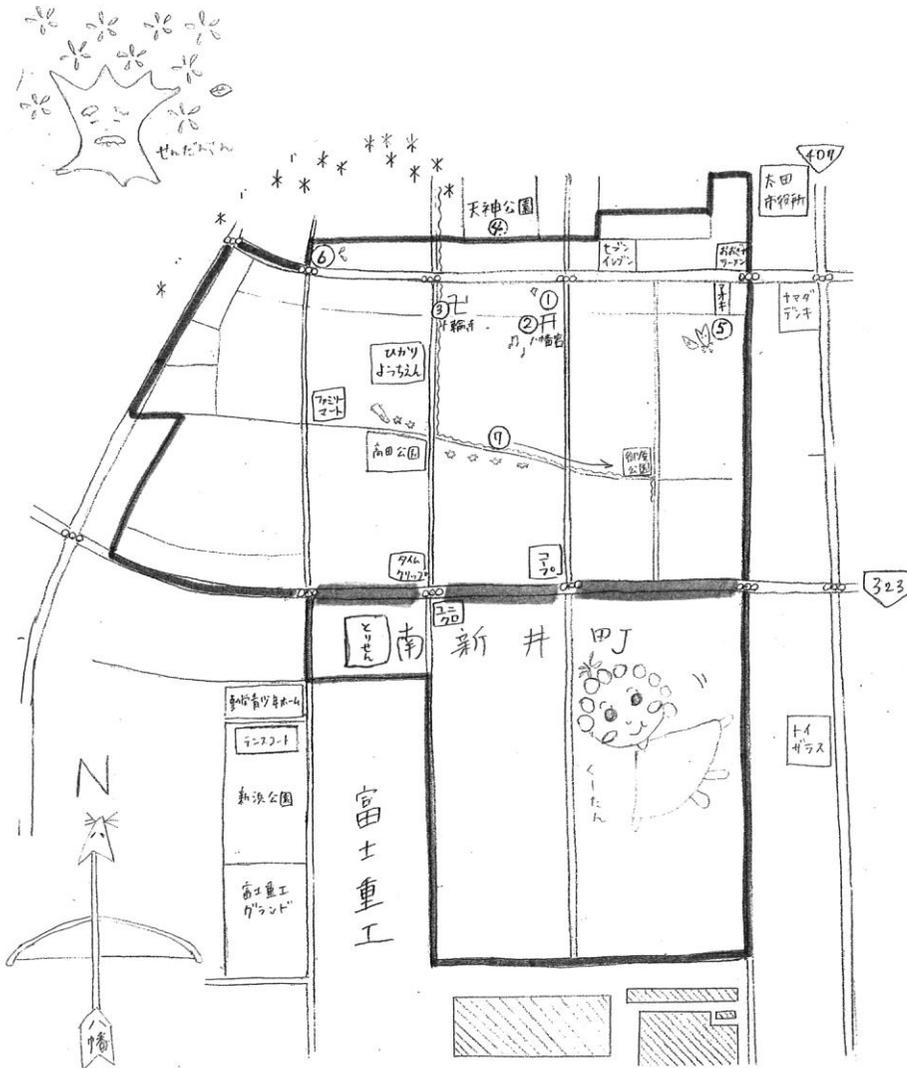
クイズ⑦：中央小の玄関前にあるせんだんの木は、どこから来たのでしょうか？

☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということを感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

新井町

7つの秘密の地図

- ① はちまंगうほんでん み ぼ あおい もん
八幡宮本殿の三つ葉葵の紋
- ② はちまंगう し し まい
八幡宮の獅子舞
- ③ じゅうりんじ じぞうどう
十輪寺の地蔵堂
- ④ まぼろし てんじんさま
幻の天神様
- ⑤ ごあんいなり こふん
御庵稻荷古墳
- ⑥ よ な さま
夜泣き様
- ⑦ かわ ま
川の曲がり



新井町物語

今日は新井町の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ——！！

① 1つ目の秘密「八幡宮本殿の三つ葉葵の紋」：地図の①の所を見てく ださいね。

くーたん：さあ2人とも、新井町の秘密の1つ目は、ここ、八幡様にあるよ。

アーサ：私、ここで遊んだことあるよ。

市川：おやおや神社に遊びに来たのかい？

く：あ、現在88才（1925年生まれ）の、市川千和気さん。

いえ、ちょっと秘密を探しに。ところで市川さんにとって八幡様ってどんなところなの？

市川：私にとって八幡様は宝物ですよ。私は大正時代の終わりにここ新井町に生まれましたが、この神社の庭でいっぱい遊んで、いろんなことを学び、ここで育ったのです。この神社があって今の私があるといってもいいくらいですよ。

チュート：へー、市川さんにとって、それだけ大事なことなんだねー。

市川：私だけじゃなく、私くらいの年代の新井町の人にとって、八幡様は、本当に心のふるさとなのですよ。

ア：へー、八幡様ってすごいなあ。ところでくーたん、秘密って何のことなの？

く：うん、八幡様の奥にあるこの赤い建物に秘密があるんだ。これは、神様がいらっしゃる大切な建物で、本殿っていうんだけど、本殿の正面、屋根のちょっと下のところに白く丸があるのがわかるかな？

チ：うん、見える見える！

く：これはよく見ると葵という植物の葉っぱが3枚ある、三つ葉葵のマークなんだけど、これは、江戸時代に日本で一番力のあった徳川家のマークなんだ。今で言えば総理大臣みたいな感じかな。

ア：え、どうしてその徳川家のマークが新井の八幡様についているの？

く：うん。八幡様は江戸時代よりずっと前からある歴史の古い神社なんだけど、徳川家はそのご先祖様の新田一族が住んでいたところに近く、また戦いの神様であったためか、この八幡様のことを特別に大切にされていて、お米を届けたりもしてくれたんだ。その証拠として徳川家の三つ葉葵のマークがついているんだよ。

チ：へー、総理大臣みたいな人から大切に思われていたなんてなんだか誇らしいね。

く：そうだね。そしてこの建物はとっても古くて、150年ほど前に屋根を新しくしたっていう記録が残っているんだ。

ア：じゃあ建物自体はもっと古ってことだよ。すごーい！私たちも八幡様を大切にしていきたいな。

クイズ①：八幡様が江戸時代に一番力のあった徳川家から特別に思われていた証拠のマークは何でしょう？（正解は物語の最後にあります）

②2つ目の秘密「八幡宮の獅子舞」：地図の②のところを見てく ださいね。

く：2人とも、2つ目の秘密もここ八幡様にあるんだよ。ほら、八幡様のお庭に看板があるでしょ。

チ：あ、獅子舞だ！ぼく前に八幡様のお祭りで見たことある！かっこよかったな。

く：よく知っているね。新井八幡宮の獅子舞が2つ目の秘密だよ。九合カルタにも「幟旗 立てて獅子舞 八幡宮」とあるね。

ア：くーたん、獅子舞の何が秘密なの？

く：じゃあ、せんだんさんにもらったセندانメガネをかけてごらん！

シャキ————ン

チ：わー、お祭りだ！人がいっぱいいるなー。でもみんな時代劇みたいな服を着ているよ。

ア：あれ？なにか聞こえない？（耳を澄ます）

ピーヒャラピーヒャラ ドンドンドン

チ：あ！笛や太鼓の音が聞こえる！！行ってみよう！

ア：わー、獅子舞をやってるよ！本当のお獅子が踊っているように迫力満点！

く：今みんなが見ているのは、江戸時代の八幡様の秋祭りの様子だよ。

チ：だからみんな昔の服を着ているんだね。と、いうことは、獅子舞ってそんなに昔から続いているの？

く：そうなんだ。実はね、この獅子舞は約500年前に京都から伝えられたものだといわれているんだよ！

ア：わー、そんなに昔から！

く：当時の新井を代表する人物が京都の石清水八幡宮にお参りに行ったときに、この獅子舞を見て、とっても感動したもんだから、わざわざ京都からその師匠を新井に呼び寄せて、村の人たちに教えさせたんだって。実はね、このとき、京都から来た師匠がプレゼントしてくれたといわれるとっても古い獅子頭が今でも八幡宮

の建物の中に飾^{かざ}ってあるんだよ。

チ：へー、その時の獅子頭が今でもとってあるなんてすごいなー！

く：うん。秋祭りの時には中に入って見ることができるから是非来てね。そして新井の獅子舞のすごいところはそれだけじゃなくて、踊^{おど}りや笛^{ふえ}、衣装^{いしやう}、獅子頭などすべてが他の所^{ほかところ}にはない新井だけのオリジナルってところなんだ！この獅子舞は昔から秋祭りに行われていて村の人たちに親^{した}しまれていたんだよ。江戸時代のおわりに生まれた星野おみつあんといい人なんて、獅子舞の曲を全ておぼえちゃってたくらいなんだ。

チ：長い間新井で親^{おもちか}しまれている獅子舞は、新井の人たちにとって、とっても身近で、大切なものなんだね。

く：じゃあメガネを外して。

シャキ————ン

く：現代に戻ってきたよ。ちょっとここで獅子舞に詳しい現在 83 才 (1930 年生まれ) の城代幸太郎^{きのしろこうたろう}さんにお話しを聞いてみようか。

城代：こんにちは、城代です。私は若い頃^{わかころ}から何十年も獅子舞の笛を吹いています。八幡様の獅子舞は、新井町民の自慢ですよ。ところで、昔の人は今の人よりずっとお祭り好きでした。今は夜 9 時頃にはお祭りは終りになりますが、昔は夜 12 時を過ぎてもまだ獅子舞を踊^{おど}っていたんです。若い頃、お祭りの日に家に帰^{かえ}って寝ていると、夜中にドンドンと戸^とを叩^{たた}いて起こされ、「城代君、また神社に来て笛を吹いてくれ」なんて呼び出されたこともありました。とにかく、昔の人は心の底からお祭りが大好きだったんです。

ア：へー、ほんとにお祭りが楽しくて仕方がなかったんだな～！

クイズ②：新井の獅子舞のすごいところはどんなところでしょうか？

② 3つ目の秘密「十輪寺^{じゅうりんじ}の地蔵堂^{じぞうどう}」：地図の③の所を見てく ださいね。

く：3つ目の秘密は八幡様から少し西にある、この十輪寺というお寺にあるんだ。さあ、2人とも、十輪寺にはいくつも建物^{たてもの}があるけど、どれが1番古そうかな？

ア：えーと、大体新しそうだけど、あ、これかな？

く：正解！門をくぐって左手側にある木の建物、これは地蔵堂^{えぞじぞう}といって、江戸時代に建てられた貴重なものなんだよ。

チ：江戸時代かー、随分古いんだねえ。地蔵堂^{じぞうどう}っていうことは、中にお地蔵様がいるのかな？

く：そうだね。でも秘仏^{ひぶつ}、つまり秘密の仏^{ひみつ}とあって、普段は囲いの中に入っていてお姿を見ることはできないんだ。

枝井：わたしは見たことがありますよ。

ア：あ、枝井秀榮和尚^{えだいしゅうえい}さん！

枝井：お地藏様の入っているお厨子^{ずし}という囲いを新しいものに交換^{こうかん}したときに1度だけ見たことがあります。とってよいお顔をしていらっしゃいました。ところで戦争^{せんそう}の時には、九合小まで行くのは危ないですから、新井町の子は学校の代わりにこの地藏堂で授業を行うなんてこともあったそうですよ。

チ：へえ、すごいな。

じゃあ昔の子どもはこの地藏堂で遊んだりすることもあったのかな。

く：そうだね。ここからはまた市川さんにお話を聞こうか。

市川：こんにちは、市川です。昔は十輪寺^{じゅうりん}の周辺^{しゅうへん}は子どもの遊び場でした。裏^{うら}には森がありましたし、西の川でもよく遊びました。

ところで地藏様について、とても懐かしい思い出があります。十輪寺では毎年春のお彼岸^{ひがん}に地藏様の祭りがありました。出店^{でみせ}が出たり、プロの踊り手^{おど}を呼んだり、若者^{わかしゅ}たち手作りの踊りをしたり。それはそれはにぎやかで、境内^{けいだい}が人で埋まるほどでした。私が小学生の頃は、九合小で先生方がこの地藏様の祭りのための劇^{げき}を指導^{しどう}して下さったものです。

ア：素敵^{すてき}ね、すごく楽しそう！

市川：それともうひとつ、このお祭りは、区長さんや年寄りの人たちではなく、新井町の若者^{わかしゅ}たちが計画を立て、行っていたんです。私が子どもの頃は、その先輩^{せんぱい}たちの姿^{すがた}がかっこよくてねえ、早く大きくなりたいなあと考えたものですよ。

チ：へー、お祭りを若い人だけでやっちゃうなんて、すごいなー！

く：今は時代の流れ^{じゅうしゅう}で、任職^{やくいん}さんと役員^{やくいん}さんで地藏様^{おが}を拝むだけになっているのは、少し残念^{ざんねん}だけだね。

クイズ③：地藏堂は、十輪寺の門を入れて右でしょうか、左でしょうか？

③ 4つ目の秘密「幻^{まぼろし}の天神様^{てんじんさま}」：地図の④の所を見てく ださいね。

く：ここは新井町と浜町^{はまちょう}との境^{さかい}にある、天神公園^{てんじんこうえん}だよ。広い公園だね。ところで2人とも天神様って知ってる？

チ：天神様？

ア：なあに、天神様って？

く：天神様っていうのは、^{がくもん}学問の神様とされている、^{すがわらのみちざね}菅原道真をまつる神社のことを言うんだ。現在新井町にこの天神様はないんだけど、^{じつ}実は昔はあったんだよ。

ア：へー！！どこにあったの？

く：実はここ、天神公園にあったんだ。さあ、セندانメガネをかけてみて！

シャキ————ン

チ：うわー、森になっちゃったよ！

く：みんなは今から約70年前に来ているよ。この辺りは^{たいへいようせんそう}太平洋戦争が終わる頃まで、森だったんだ。さあついてきて。

ア：わー、森の中に小さな山があるよ！

く：この山は^{こふん}古墳とって、昔の^{えら}偉い人のお墓^{ほか}なんだけど、この^{ちようじょう}頂上^{せいり}に天神様のお宮があったんだよ。でも時が流れて明治時代の終わりにになると、国から神社を整理するようになって^{めいけい}命令^{めいけい}が出て、小さな神社の天神様は、大きな神社の^{あらいはちまんぐう}新井八幡宮^{せいら}に合わさったんだ。それからもっと時が流れて、40年くらい前（1975年頃）にここに^{こうえん}公園^{こうえん}が作られることになって、昔天神様があったとても大切な場所だったことで、「天神公園」という名前になったんだよ。

チ：へー！いつも遊んでる天神公園の「天神」にはそんな^{いみ}意味^{いみ}があったんだね。

クイズ④：どうして天神公園という名前がつけられたのでしょうか？

⑤ 5つ目の秘密「^{ごあんいなりこふん}御庵稲荷古墳^{ごあんいなりこふん}」：地図の⑤の所を見てく ださいね。

く：5つ目の秘密は、^{きのしろ}城代^{きのしろ}さんの家のお庭にあるんだよ。城代さん、^{ねが}お願い^{ねが}しまーす。

城代：はい、こんにちは。どうぞついてきてください。

チ：わー、広いお庭。

ア：あ、おうちの裏に山があるよ！山の上には神社がある！

城代：はい。これが新井町の5つ目の秘密、御庵稲荷古墳です。高さは5mほどでしょうかね。山の上には御庵稲荷という^{いなりさま}稲荷^{いなりさま}様がまつってあります。

城代：わたしが知っている、この御庵稲荷の面白い話をしてあげようね。

チ：なになに、知りたい！！

城代：ほほほ、この御庵稲荷はね、キツネとの^{えんが}縁^{えんが}が深い古墳で、こんな話を聞いています。

御庵稲荷には^{たいしやうじだい}大正時代^{たいしやうじだい}までキツネが来た。秋になると親子2人でやってきて、鳴いて家の者に来たことを知らせた。そして、古墳の^{よこあな}横穴^{よこあな}に入る。そうすると^{きんじよ}近所^{きんじよ}の人が^{こうたい}交代^{こうたい}で赤飯を蒸かして^{じゆうぼこ}重箱^{じゆうぼこ}に入れ、穴の前に置いてあげる。するとキツネた

ちはきれいに赤飯をたいらげ、また重箱を穴の前に戻しておいたという。重箱には少しも傷がつかなかったそうだ。

また、私のお父さんはキツネと相撲をとったそうだ。また家のものが町まで買い物にでかけるときにはキツネがついてきて送り迎えをしてくれた。昔はさびしい道だったが、そのために少しも不安がなかったという。そのように人間とキツネがよく交流していた。ただ大正時代のあるときに鉄砲打ちがキツネの1匹を撃ち殺してしまい、それ以来キツネは秋になってもやってこなくなってしまった。その鉄砲打ちは1週間したら亡くなってしまったそうだ。

ア：キツネとお友達だったなんて、信じられない！不思議なことがあるんだねえ。

チ：僕もキツネとお友達になりたーい！

く：2人とも、ここでセンダンメガネをかけてみようか。

シャキ————ン

ゴゴゴゴゴ————

ア：え、なにに、なんか怖い音が聞こえるよ。戦争・・・？あ、御庵稲荷古墳に穴が空いていて、人がたくさん中に入っていくよ！

く：はい、メガネを外して！

シャキ————ン

城代：日本がアメリカなどと戦争しているとき、この御庵稲荷に、50人も入れるような大きな横穴を掘りました。この穴は防空壕といって、アメリカ軍の飛行機から落とされる爆弾から身を守るための穴です。1945年、今から約70年前の4月4日夜明け前の空襲では、家族や近所の人がこの防空壕に避難しましたが、私のお父さんだけは入らなかったんです。そして、爆弾が破裂した爆風がもとで亡くなってしまったんですよ・・・。

チ：この御庵稲荷には、悲しいお話もあるんだね。

でもいろいろなことが知れてよかったな。これからはこの古墳をみるたびに、今日のお話を思い出すだろうなあ。

く：そうだね。ところでこの古墳は城代さんちの中にあるから、勝手に入ってはだめだよ。でも道路から十分見られるからね。紳士服のアオキのすぐ南だよ。

クイズ⑤：御庵稲荷古墳は、戦争の時にはどんな役割をしていたのでしょうか？

⑥ 6つ目の秘密「夜泣き様」：地図の⑥の所を見てく ださいね。

く：6つ目の秘密はここ、新井町北西部にあるディスカウントショップのジャパンの駐^{ちゆうしやじょう}車場にあるんだよ。

ア：あ！ここママとよく来る！

チ：ぼくも来たことあるよ！どこに秘密があるの？

く：何か不思議なものがあるから探してごらん。

ア：えーと…あ、これだ！信号のそばの角^{かど}のところに、なんだか古い石の神様みたいなものがあるよ！これまで気づかなかったなあ。

く：正解。ではセンダンメガネをかけて50年前に行ってみよう！

シャキ————ン

ア：あ！赤ちゃんを抱っこしたお母さんが見えるよ。

チ：ほんとだ！赤ちゃんが泣いているよ。なにか石に向かって拝^{おが}んでいるね。

く：そうそう。この石碑^{せきい}は現在新井町に残るただ1つの道祖神^{どうそじん}なんだよ。道祖神というのは道ばたにある神様のことだよ。そしてこの道祖神には不思議な力があると信じられていたんだ。

ア：えー、どんな力なのー？

く：「夜泣き地藏」、「夜泣き観音」、「夜泣きの神様」なんて呼ばれていて、夜泣きをして眠^{ねむ}らない赤ん坊を連れて行くと、夜泣きがやんだそうだよ。

ア：へー！！すごいなー。だからこうやってお母さんがお参りに来てるんだね。そんな言い伝えがあったなんて知らなかったよ。

チ：ただの石じゃなかったんだね。今度友達に教えてあげようっと！

クイズ⑥：ディスカウントショップジャパンの駐^{ちゆうしやじょう}車場の隅^{すみ}にある石にはどんな力があるといわれているのでしょうか？

⑦ 7つ目の秘密「川の曲がり」：地図の⑦の所を見てく ださいね。

ア：ねえねえ、この高田公園^{たかだこうえん}の東の道、さっきからなんだか川に沿^そってゆっくり曲^まがっているように感じない？

チ：確かに、道がまっすぐじゃないね。

く：よくわかったね。そう、ここが新井町7つ目の秘密、川の曲がりだよ。

ア：どうしてここが秘密なの？

く：新井町は今から40年くらい前（1975年前後）に、区画整理^{くかくせいり}という工事をして、それまでの曲がりくねった道が縦横^{たてよこ}にまっすぐの道に整備されたんだ。

でもちょっとこれを見て！

チ：わー、古い絵図だ！もしかしてこの絵図に描いてあるカーブが、ここなの？

く：そう、これは100年以上前、明治時代初めに描かれた新井村の絵図なんだけど、このカーブは今も変わらずに残っているんだ。

この川のカーブに沿った道は、区画整理まで新井町の中心道路だったんだ。それまではこの道の他には大きな車が通れる道は何本もなかったんだよ。

ア：へー、昔はとっても重要な道だったってことなんだね。

く：さて2人とも、ちょっと心の準備をして、センダンメガネをかけてみて。

シャキ————ン

ゴゴゴゴゴ————

ヒュ——ドンドン！

チ：え、爆弾・・・？

く：1945年、今から70年くらい前の4月4日夜明け前の新井町空襲のとき、高田公園のすぐ北東に、この川に沿って十数発の爆弾が落とされたんだ。3人が防空壕に生き埋めになって、2人が飛んできた爆弾の破片にあたって、1人が後日の片付け作業中に爆風でもろくなって倒れてきた木にあたって亡くなっているんだよ。この中には九合小学校の児童もいたんだ。

ア：私たちと同じ小学生まで犠牲になっていたなんて、知らなかった。この川の曲がりには、そんな秘密が隠されていたのね。悲しい思い出だけど、大切なことだから、伝えていきたいな。

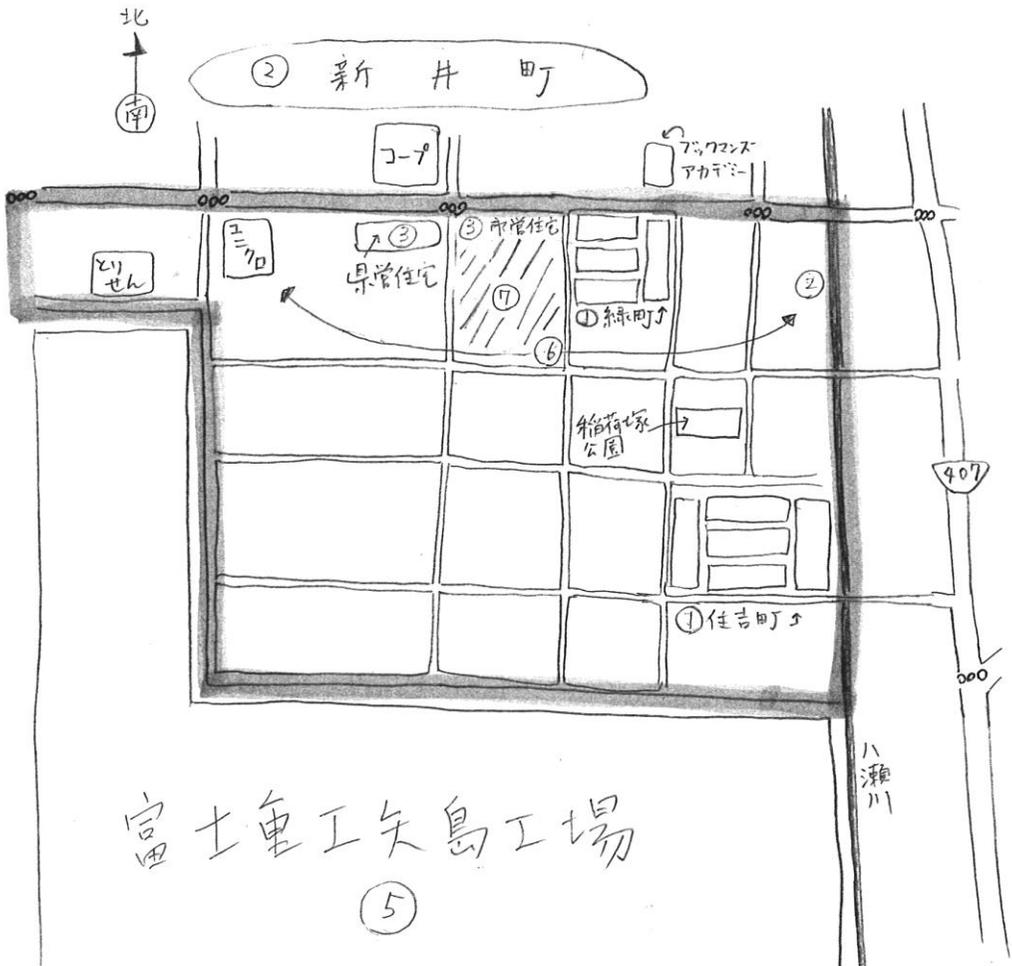
クイズ⑦：川の曲がりにはどんな歴史があったでしょう？

☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということを感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

南新井町

7つの秘密の地図

- ① 緑町と住吉町
みどりちょう すみよしちょう
- ② 幻の稲塚山
まぼろし いなづかやま
- ③ 市営住宅と県営住宅
しえいじゅうたく けんえいじゅうたく
- ④ 南新井町という名称
みなみあらいちよう めいしょう
- ⑤ 富士重工矢島工場
ふじじゅうこうやじまこうじょう
- ⑥ 九合最大の焼夷弾被害
くあいさいだい しょういだんひがい
- ⑦ 南新井町集会所
みなみあらいちようしゅうかいじょ



南新井町物語

今日は南新井町の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ——！！

① 1つ目の秘密「^{みどりちょう}緑町と^{すみよしちょう}住吉町」：地図の①の所を見てく ださいね。

くーたん：さあ南新井町の^{ひみつ たんけん}秘密を探検に行くよ。ところで2人とも、^{みなみあらいちよう}南新井町は九合の中でも^{とくしゆ れきし}特殊な歴史を持っているんだ。

チュート：どういうこと？教えて、くーたん！

く：うん。今の南新井町ってどんな感じかな？

アーサ：えーと、田んぼや畑もちよっとあるけど、^{だいたい}大体がおうちだよ。

く：そうだね。じゃあここで、せんだんさんにもらったセンダンメガネをかけてみよう！

シャキ————ン

チ：うわー！なんだこりゃー！今まであったおうちがぜんぜんなくなって、ほとんど田んぼになっちゃったー！

く：そうなんだ。これは100年前の南新井町の姿なんだけど、その頃はなんと家が^{いっ}1軒もなく、ほとんどが田んぼだったんだ。^{いちぶはたけ}一部畑や林もあったけどね。当時は^{しぜん ゆた}自然が豊かで、^{ほたる}蛍はたくさん飛んでいたし、川ではナマズやウナギが取れたんだってよ。

ア：へー、信じられない！^{すてき}蛍が飛んでたなんて素敵！^{ぜんぜんちが}今とは全然違ったんだね。

く：うん。九合のほかの地区は、何百年も前から農家の人たちが住んでいて、そこにだんだんと家やお店が増えてきたんだけど、南新井町だけはそれに比べて新しい町なんだよ。

チ：じゃあいつから人が住み始めたのかな？

く：ではセンダンメガネをかけ^{なお}直してみよう！

シャキ————ン

ア：おー、さっき田んぼだったところにたくさん家が建ってるー！

く：これは戦争中（1944年頃）、今から70年くらい前の様子だよ。少し土地が高く、畑だったところに、どかーんと急に100軒以上の家が建ったんだ。

ア：へー、どうしてそんなにたくさん？

く：当時、太田には、戦争のための^{ひこうき}飛行機を作る、^{なかしまひこうき}中島飛行機という大きい会社があったんだ。そして中島飛行機はどんどん会社が大きくなって、^{はたら}働く人も増えて、

全国から集まってきて、その人たちの住むところが足りなくなってしまったんだ。

チ：それでこの南新井町に住宅を建てたってわけだね！

ア：ピンポーン、するどいね。チュート。南新井町の北には新井町があって、昔々から農家の人たちが住んでいたんだけど、新井町の人たちはこの中島飛行機の住宅ができたときは「田んぼの中に急に中島飛行機の住宅ができた」って言って、とってもびっくりしたそうだよ。

ア：^{たし}確かに、これだけの住宅が急にできたらびっくりするだろうね。

く：中島住宅は2か所に分かれているのが分かるかな。

チ：あ、ほんとだ。あっちとこっちに分かれてるね。

く：うん。今の^{いなづかこうえん}稲荷塚公園から見て、北西にあるのが^{みどりちょう}緑町。南東にあるのが^{すみよしちょう}住吉町と
いったんだ。いまでも緑町と住吉町は形が残っているんだよ。

ア：え、どういうこと？

く：今いった稲荷塚公園の北西と南東なんだけど、南新井町のほかの場所と比べて区画が細かくなっているんだ。じゃあ歩いてみようか。

チ：あ、ほんとだ！道が細くなってる！なんか昔からある町って感じがする。

く：そうだね。この道は、戦争に関係するものとして、貴重なものだといえるね。それとね、南新井町は現在、1丁目、2丁目、3丁目、5丁目と分かれているんだけど、当時の緑町が1丁目、住吉町が3丁目になっているんだ。

ア：へー、戦争中にできた町の形が、今でもそのまま引き継がれてるんだね。

クイズ①：緑町と住吉町はどんな人たちのために作られたでしょう？

(正解は物語の最後にあります)

② 2つ目の秘密「^{いなづかやま}幻の稲塚山」：地図の②の所を見てく ださいね。

く：さあ2つ目の秘密は、一気に^{おおむかし}大昔の話だよ。2人とも^{こふん}古墳って知ってる？

チ：古墳って、^{てんじんやま こふん}天神山古墳みたいなお山のこと？

ア：あ、^{たし}確か昔の人のお墓^{はか}なんですよ。

く：アーサ、よく知ってるね。そう。太田では内ヶ島にある天神山古墳が有名だけど、昔の偉い人のお墓で、山のようにになっているものなんだ。

チ：でもくーたん、南新井町にはどこを見ても古墳なんてないよね。

く：今はね。じゃあ2人とも、センダンメガネをかけて100年前の姿をどうぞ！

シャキ————ン

ア：おー！大きい山だねー！これが古墳なのかー。森のようになってるね。

く：これが稲塚山いなづかやまと呼ばれた古墳だよ。南新井町の北東部。八瀬川やせがわぞ沿いにあったんだ。かつては木が繁しげっていたんだよ。九合地区には古墳が77個あったことが確認かくにんされているんだけど、稲塚山は大きさが50mほどもあって、大分大きい方の古墳だったんだ。そして、中を掘ほって見たところ、刀や玉などが出てきたそうだよ。

チ：へー、宝物が出てきたんだね。

く：そしてね、新井町の言い伝いえで、この稲塚山いなづかやまにはキツネが住んでいるといわれていたんだ。中には稲塚山からキツネの行列ぎょうれつがゾロゾロ出てくるのを見たという人もいるんだ！

ア：へー、面白い！

く：ではここでもう一度メガネをかけ直してみよう！少し新しい時代へ飛ぶよ

シャキ————ン

チ：あれー、さっきは森のようだったのに、木が全然なくなってハゲ山になっちゃったね。そして山の上に何か建物があるよ！

く：これは今から70年ほど前、戦争中の様子だよ。あれは防空監視哨ぼうくうかんししやうといって、戦争中に稲塚山の木を切り払はらって、山の上に建てられたんだ。

ア：くーたん、あの建物はなんのためにあるの？

く：うん、戦争中にはアメリカの飛行機がこの辺りにもやってきて爆弾ぼくだんを落としたりしたんだけど、その飛行機を監視する施設しせつなんだよ。だから、高いところにあったんだ。

チ：そうだねー。現代げんだいと違って、辺りに高い建物なんてないもんねー。

ア：でも、今はなくなっちゃったんでしょ。残念だなー。登って遊んだりしたかったな。

く：そうだね。戦後せんごに削けずって、その土を埋め立てに使ったそうだよ。ただ、今でも名残なごりがあるんだ。

チ：え？どこにあるの？

く：南新井町にある稲荷塚公園いなりづかは知ってるかな？

ア：うん。お祭りをやったりするところだよ。

く：そう。昔、稲塚山から今の稲荷塚公園の辺りのことを「稲荷塚」っていったんだけど、あの公園は稲荷塚にあるからその名前がついたんだよ。

チ：そっかー。稲荷塚公園は稲塚山の名前を受け継いでるんだね！

クイズ②：稲塚山はもうありませんが、その名前はどこに残っているのでしょうか？

③ 3つ目の秘密「市営住宅と県営住宅」：地図の③の所を見てく ださいね。

く：次は3つ目の秘密だよ。ところで2人とも、市営住宅と県営住宅って知ってる？

チ：知ってる！南新井町にあるよね！

く：チュート、よく知ってるね。南新井町には広い市営住宅があるね。道の西側には県営住宅もあるよね。じゃあどうして市営住宅、県営住宅っていう名前がついてるか知ってる？

チ：そんなの分かんないよ。どうしてなの？くーたん。

市営住宅というのは、太田市が運営しているから市営住宅、県営住宅というのは群馬県が運営しているから県営住宅っていうんだよ。

ア：なるほどねー。

く：さて、その市営住宅と県営住宅が4つ目の秘密だよ。

チ：えー、この住宅に秘密なんてあるの？どうみても普通の住宅だけど。

く：じゃあセンダンメガネをかけてみようか。

シャキ————ン

ア：ん、なんだー？今とは違う建物がたくさんある。あれ、中からお姉さんたちがたくさんでてきたよ。

く：ここは今から70年ほど前（1945年）の市営住宅、県営住宅の土地だよ。どうしてこんなにお姉さんたちがたくさんいると思う？

チ：旅行か何かで来たのかなあ？

く：じゃあここからは、現在82歳（1931年生まれ）の高久昭さんに教えてもらおうか。

高久：こんにちは、高久です。私は緑町ができた当時からずっと住み続けています。このお姉さんたちは女子挺身隊といって、山形県や栃木県の女学校から集まった学生さんたちで、さっきいった中島飛行機で戦争のための飛行機を作るお手伝いに来ているんですよ。今2人が見ている建物は、お姉さんたちが暮らしていた寮です。この土地にはいくつもの寮が建てられ、何百人という人たちが暮らしていたんですよ。朝、出勤していくときなど、ぞろぞろと列をつくって、威勢のいい戦争の歌を歌いながら中島飛行機へむかって歩いていきましたよ。

ア：へー、この場所にそんなにたくさんのお姉さんたちがいたんだね。にぎやかだったろうなー。あ、今度はみんなが1つの建物に入っていきよ。

高久：この建物は仕事帰りにお姉さんたちが汗を流す共同のお風呂です。私は当時子どもだったのですが、結構広いお風呂で、学生さんたちが帰ってくる前に、プール替わりに入って遊ばせてもらったこともありますよ。

チ：へー、いいなー。そんなに大きなお風呂もあったんだねえ。

高久：お風呂だけでなく、病院びょういんや食堂しょくどうも建設中でした。

ア：建設中っていうことは、完成かんせいしなかったの？

高久：はい。完成する前に日本が戦争に負けてしまい、戦争のための会社だった中島飛行機がなくなってしまったのです。

チ：じゃあこのお姉さんたちはその後どうしたの？

高久：もちろんもう仕事がないわけですから、それぞれのふるさとへ帰って行きました。帰るときに、もういらぬからといって私に文房具ぶんぼうぐをくれた方もいました。

ア：へー、何百人ものお姉さんたちがいなくなったら、一気にさびしくなっただろうね。

高久：そうですね。そして、さらに「ある大事件だいじけん」が起こり、しばらくこの場所は空き地になっていました。

チ：「ある大事件」？

それは6つ目の秘密ですので、あとでお教えしましょう。とにかく、この空き地のところに、後になって市営住宅や県営住宅ができたわけです。

ア：そっかー。全然知らなかったよ。この市営、県営住宅が戦争かんけいと関係していたなんて。

クイズ③：いま市営住宅や県営住宅があるところには戦争中は何かあったでしょうか？

④ 4つ目の秘密「南新井町という名称」：地図の④を見てく ださいね。

く：4つ目の秘密は、「南新井町」という名前だよ。この名前はいつ頃ころできたか知ってる？

チ：え、町の名前っていうのはずっと前からあるんじゃないの？

く：いや、ほんの最近さいきん、2011年のことなんだよ。

ア：そんなに新しいんだ。じゃあその前はなんていう名前だったの？

く：じゃあここからは、現在73歳（1940年生まれ）の酒井健次郎さかいけんじろうさんに教えてもらおう。

酒井：こんにちは。私は南新井町という名前ができるときに区長くちょうをやっていましたから、お教えしましょう。その前は、錦町にしきちょうという名前でした。

チ：あ、聞いたことあるよ。でもどうして名前が変わったの？

酒井：それを説明せつめいするには先ほど出た中島飛行機の住宅の時代までさかのぼります。

ア：えー、そんな昔にまで？

酒井：はい。まず、南新井町地域には田んぼや畑ばかりだったわけです。そこに戦争中に中島飛行機の住宅である緑町と住吉町がドカーンとできました。

チ：うん。田んぼの中に、2つ離れてできたんだよね。

酒井：よく知っていますね。そしてその2つの町は、別々の町として活動していたのです。区長さんやお祭りも別でした。

ア：へー、同じ南新井町の地域なのにねえ。

酒井：当時の人たちは同じ町、という感覚はなかったのではないのでしょうか。さらに、戦争が終わってから市営住宅ができたわけですが、そこに住んでいる人たちはまた別の町として活動したのです。ですから南新井町地域に3つの町があったわけです。

チ：へー！

酒井：ですがその3つの町をまとめて呼ぶ名前というのがなく、とりあえず「新井住宅」などと呼ばれていました。

ア：えー、でも町の名前が「新井住宅」じゃあなんか変だね。

酒井：そうですね。そこで、ちゃんとした名前をつけようということで、今から40年ほど前（1975年）に錦町という名前がつけられました。

チ：そっかー、でも錦町という名前はどこからきたの？

酒井：名前を決めた人がもういないのではっきりしたことは分かりませんが、錦というのは色々な色が合わさった美しい模様などを表すので、もしかしたら3つの町が合わさっていい町ができる、ということで選んだのかもしれないね。

ア：あー、なるほど。

酒井：しかし、もともとあった名前ではないので、錦町という名前ができてから30年が経っても、いまいち他の地域の人に知ってもらえませんでした。そこで、私が区長のときに、歴史のある新井町の南にある町ということで、南新井町にしようということを決めました。ただ、町の名前を変えるには、住んでいる人の署名を集めなければならず、みんなで手分けして署名を集め、なんとか新しい名前に変えることができた、ということです。

チ：そっかー。色々なことがあって、今の南新井町という名前があるんだね。

クイズ④：どうして錦町から南新井町へ、町の名前を変えたのでしょうか？

⑤ 5つ目の秘密「富士重工矢島工場」：地図の⑤を見てく ださいね。

く：さて2人とも、富士重工矢島工場って知ってるかな？

ア：知ってるよ。南新井町のすぐ南にある犬^{おお}～きな工場でしょ。

く：そうだね。自動車^{じどうしゃ}をつくる富士重工という会社の工場なんだけど、これが5つ目の秘密だよ。この工場ができる前、ここはどんな様子だったか知ってるかな？

チ：ぼく分かるよ。ほとんども田んぼだったんでしょ。さっき言ってたもん

く：よく覚えてたね。そう。今工場があるところは、見渡す限りの田んぼで、工場のむこうの西矢島町^{にしやじま}の家々が、南新井町から見えたんだ。九合カルタにも「なつかしい 八丁^{はっちょう}田んぼは今 富士重工」と読まれているよ。八丁田んぼというのは、ここに広がっていた広い田んぼのことだよ。

ア：へー、今からじゃ想像もつかないね。

く：うん。ところで、この工場はもとの新井町、西矢島町、下浜田町などの田んぼを合わせてできたわけなんだけど、事情により、その中の西矢島町の名前をとって、矢島工場という名前になったんだ。でも実は西矢島町よりも新井町の田んぼの方が多かったんだよ。

ア：へー、じゃあもしも工場がなかったら南新井町はもつとずーっと広がったかもしれないんだ。

く：ふふふ、そういうことになるね。

クイズ⑤：いま富士重工矢島工場があるところは、昔は何だったのでしょうか？

⑥ 6つ目の秘密「九合最大の焼夷弾被害」：地図の⑥の所を見てく ださいね。

く：じゃあ南新井町6つ目の秘密を教えようか。

チ：さっき高久さんがいった「ある大事件」のことでしょ。くーたん、早く教えてよ！

く：うん。ただこの秘密はとても恐^{おそ}ろしいことなんだ。心の準備をして、センダンメガネをかけてみてね。

ア：え、恐ろしいだなんて、何だろう？

シャキ————ン

ゴゴゴゴォ————

ヒュ———— ヒュ———— ヒュ————

チ：あれ、夜になったよ。うわー！恐い音！なんだー！？

ア：あー、空から何かたくさん降ってきたよ！あ、それが家に落ちたら、火がついちやった！

チ：あー、どんどん火が広がっていく！大火事だー！家がどんどん燃えていく！大変だー！

く：はい、2人ともメガネを外して！

シャキ————ン

ア：あー、恐かったー！くーたんさっきのは一体何だったの！？

く：あれは戦争の時の空襲くうしゅうというものだよ。アメリカのB29びーにじゅうくという飛行機が、空から南新井町にたくさんの焼夷弾しょういだんを落としたんだ。焼夷弾というのは家々を燃やすための爆弾のこと。ここからはまた高久さんに教えてもらおう。

高久：こんにちは。また高久です。あの日のことは今でもはっきりと覚えています。戦争が終わったのが今から約70年前（1945年）の8月15日なのですが、その前日、8月14日の夜のことでした。敵の飛行機が来ることを知らせる空襲警報くうしゅうけいほうというサイレンが鳴り、私たちは現在の富士重工の敷地の中にあつた川に非難しました。その途中とちゅう、雨が降ってきまして、あ、雨が降れば焼夷弾が落ちてても家が燃えずにすむからよかったと安心したのです。

チ：うん、そうだよな。

高久：しかしそれは今思うと、雨などではなく、焼夷弾で家が燃えやすくなるために、飛行機によって空からまかれた石油せきゆだったのです。

ア：えー！じゃあ雨どころか、余計燃えやすくなっちゃうってこと？

高久：そうです。私たちはその川から自分たちの家を見たら、ゴウゴウと燃えていました。それ大変だということで急いで家に戻りましたが、ものすごい勢いで燃え上がって、とても消せる状態じょうたいではなく、ただただ燃えるのを見ていることしかできませんでした。私の家は幸運こううんにも燃えませんでした。すぐ隣の家まで燃えてしまいました。結局けつぎ、何十軒なんじゅうけんという家が燃えました。おそらく焼夷弾による被害としては九合地区で最大の大火事だったと思います。あと1日経てば戦争が終わるといふときだったのに、残念ざんねんでなりません。

チ：じゃあさっきいっていたお姉さんたちの寮りょうはどうなったの？

高久：寮はほとんど燃えてしまいました。また住吉町には被害はなかったようですが、緑町も大分焼けました。ですからお姉さんたちや、その他の人たちは、一夜いちやにして住むところを失い、近くの空き家にとりあえず住んだり、ふるさとに帰ったりすることになったのです。

ア：大変なことがあったんだねえ。

く：南新井町の歴史は、戦争とすごく深い関係があるんだ。是非今度ぜいひこんどおうちで話したり、友達にも教えてあげたりしてこの歴史を伝えて、二度と戦争が起こらない世

の中をつくってね。

クイズ⑥：どうして戦争が終わる前日の夜に南新井町で大火事が起こったのでしょうか？

⑦ 7つ目の秘密：「南新井町集会所」：地図の⑦の所を見てく ださいね。

く：ところで2人とも、集会所って分かるかな？

チ：みんなが集まってお話をしたりする建物のことですよ。

く：チュート、よく知ってるね。それぞれの地区では、みんなが集まるために、集会所はなくてはならないものなんだよ。ところで、九合の各地区には集会所が1つずつあるんだけど、南新井町はどこにあるか知ってる？

ア：集会所ってよく神社のお庭の中にあるよね。

チ：でも南新井町には神社はないしねえ。どこにあるんだろう。

く：ふふふ。じゃあついて来て！

ア：あれ、ここは市営住宅の土地の中だよ。あ、あったー！「南新井町集会所」って書いてある。わあ、きれいな建物だね。

チ：でもここは神社じゃないよねえ。

く：そうなんだ。九合の他の地区では大体神社のお庭に作られているんだけど、南新井町には神社はないからね。ところで、小舞木町も神社がないんだけど、そこでは6号公園という公園の中に集会所が作られているんだよ。

ア：じゃあどうして南新井町では公園の中じゃなくて、市営住宅の中に集会所があるの？

く：実は、南新井町も稲荷塚公園の中に集会所を作ろうとしたんだ。でもね、小舞木町の6号公園は広い公園だからよかったけど、稲荷塚公園はそんなに広くないから、もし集会所を作ると狭くなってしまふ、という問題があったんだ。

チ：えー、公園が狭くなるなんてやだよー。思いっきり走ったり、ボール投げしたりもできないなんて。

く：そうだよ。さあちょうどそのとき、太田市が市営住宅を新しく建てかえることになって、それと一緒にこの土地の中に市営住宅の人たちのための集会所を作るという計画を立てたんだ。

ア：そっかー、それが南新井町の集会所になったんだね。

く：いや、すぐそうなったわけじゃないんだ。その太田市の計画した集会所は、みんなのためのものじゃなくって、市営住宅の人たちだけのためのものだったんだ。

それでね、当時の区長さんはすごくいいアイデアを思いついたんだ。

ア：え、どんなアイデア？

く：公園の中に集会所を作ると、公園は狭くなっちゃうし、お金はかかるし大変だけど、どうせ市営住宅の中に集会所を作るなら、それを市営住宅の人だけじゃなくて、みんなのための集会所にしたらいいじゃないか、ってね。

チ：うん、そうだよー。どうせ作るんだもんね。

く：そこで、区長さんは当時の太田市長さんに、みんなが使えるような集会所にしてくださいってお願いしたんだ。そしてついにそのお願いが受け入れられて、もともとの計画より大きな建物を建て、今のような集会所になったってわけさ。

ア：わー、すごーい。とってもラッキーだったんだ。区長さんナイスプレーだったね！そうだよー。なかなかこんなラッキーな集会所はないと思うよ。ところで2人にもう1つ教えたいことがあるんだ。はい、セندانメガネをかけて。

シャキ————ン

チ：わ！市営住宅が今と違って背も低いし、何だか古そう。それと、目の前に大きな木が1本立ってるよ。

く：今みんなは40年ほど前、市営住宅を建て替える前の時代に来ているんだ。だからここにあるのは古いバージョンの市営住宅だよ。そしてこれはポプラという木なんだ。実はこのポプラは、今みんなのしている古い市営住宅があったときからここに生えていて、新しい市営住宅ができてもずっとそのまま生きていたんだよ。

ア：へー、すごいねー。生き残りポプラだ。

く：そうだね。じゃあメガネを外してみて。

シャキ————ン

く：現代にもどってきたよ。ほら、集会所のすぐ前の、ポプラの木のあったところを見てみて。

チ：あれ、ポプラさんいなくなっちゃったよ！どうして？

く：うん。残念ながら、今から10年ほど前（平成15年頃）に枯れてしまったんだ。でも、ポプラがいた跡が残っているよ。分かるかな？

ア：あ、ポプラさんがあったところになんかまるく^{わく}杵があるよ。

そうなんだ。この杵のなかに、生き残りポプラがいたんだよ。

チ：そっかー、ポプラはいなくなっちゃったけど、ここにちゃんと跡^{あと}が残っているんだね。ポプラさん、会いたかったよ。

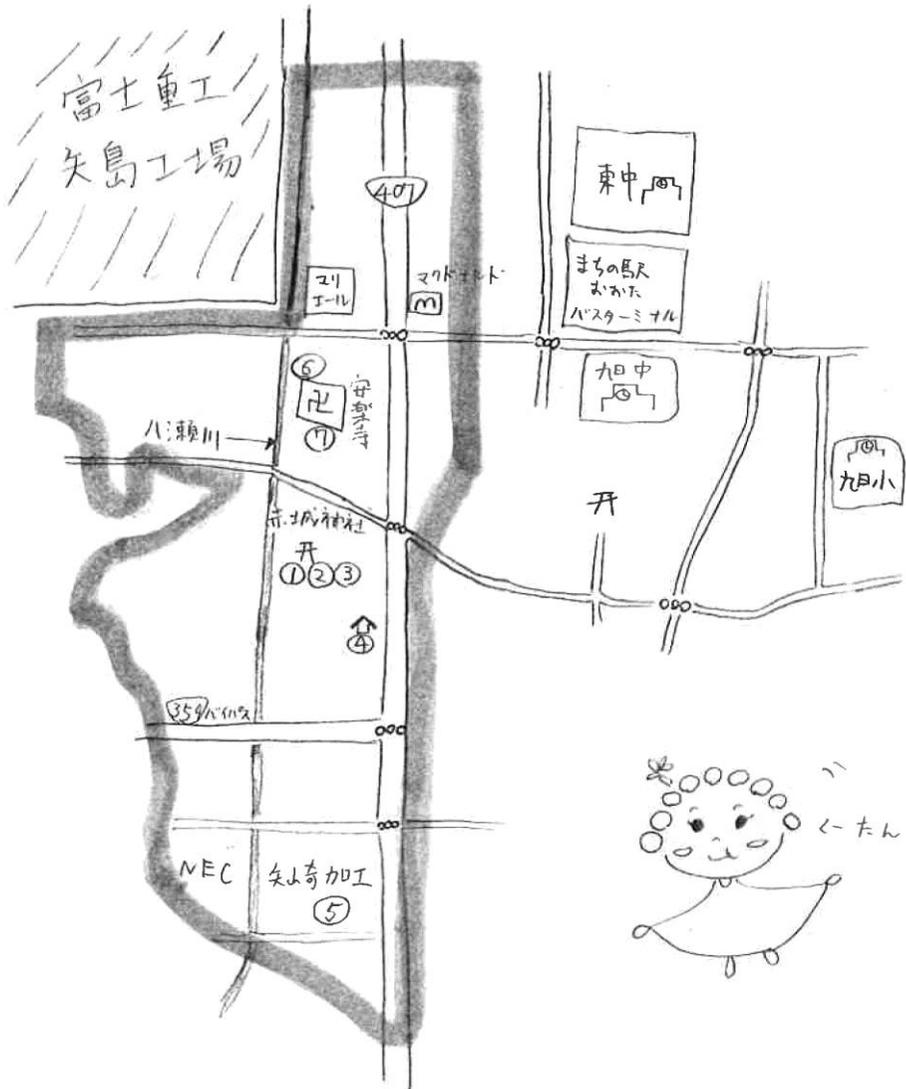
クイズ⑦：南新井町の集会所はどうして市営住宅の土地の中にあるのでしょうか。

☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。
昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということ
を感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

西矢島町

7つの秘密の地図

- ① ^{あかぎじんじゃ}赤城神社の^{でんせつ}ムカデ伝説
- ② ^{おおすぎ}大杉の^き切り^{かぶ}株
- ③ ^{ぎおんまつ}祇園祭りの^{みこし}ケンカ神輿
- ④ ^{みこし}神輿の^{もとやしき}ふるさと元屋敷
- ⑤ ^{はらやま}原山と^{みわこうば}三和工場
- ⑥ ^{しうんづかこふん}紫雲塚古墳
- ⑦ ^{ふけんしゃ}不倦舎の^{あんらくじ}あった安楽寺



西矢島町物語

今日は西矢島町の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ——！！

① 1つ目の秘密「赤城神社のムカデ伝説」：地図の①の所を見てく ださいね。

くーたん：では2人とも、西矢島町の秘密を探検に行くよ。まずはここ、赤城神社だよ。

アーサ：ここ、来たことある。前にお祭りをやってたよ。

く：うん。西矢島町の集会所もあるしね。さて、赤城神社の「赤城」って何のことだか分かる？

チュート：えーと、赤城山のこと？

く：そうそう。群馬県にある有名な赤城山のこと。この赤城神社は、赤城山と関係する神社なんだ。ところで、ムカデっていう生き物知ってる？

ア：写真で見たことある！なんかニョロニョロしてて、足がたくさん生えている虫でしょ。

く：よく知っているね。大きいものだと10cm以上にもなってグロテスクで、毒をもっていて、あまり人気のある虫ではないよね。ところで赤城山には、大ムカデがいるとか、赤城山の神様がムカデになったとか、ムカデに関する伝説が多くあるんだよ。

チ：へー。じゃあ西矢島の赤城神社もムカデと何か関係があるの？

く：チュート、鋭いね。実は、西矢島の赤城神社の本殿には、2匹のムカデの絵が描かれているんだ。本殿は囲いに覆われているので残念ながら普段は見る事ができないんだけど、これは相当古い、貴重な絵なんだよ。

ア：へー、面白い！やっぱり西矢島の赤城神社もムカデと関係があるんだね！

く：それだけじゃないんだ。現在86歳の高草木みつ江さん（1927年生まれ）が貴重な言い伝えを知っているんだよ。

高草木みつ江：こんにちは。高草木です。私が西矢島に嫁に来てから、夫の父に、「西矢島はムカデの神社だからムカデは殺すな」といわれたんですよ。

チ：へー！やっぱり、西矢島ではムカデは特別な生き物なんだね。

く：うん。今では知る人が少なくなったけどね。是非みんなには知っていてほしいな。

クイズ①：西矢島とムカデはどんな関係があるのでしょうか？

(正解は物語の最後にあります)

② 2つ目の秘密「大杉の切り株」：地図の②の所を見てく ださいね。

く：2つ目の秘密もここ赤城神社にあるんだよ。ついて来て。

ア：えー、何だろう？ん、ここは神社の建物の裏側だね。ここに何があるの？

く：さあ、足元を見てみて！

チ：わー！でっかい切り株だー！すごーい！

く：これは、かつて西矢島の人たちの自慢だった、赤城神社の大杉の切り株だよ。

ア：すごい大きさだねー！一体何歳くらいだったんだらう！？

く：どれくらいだと思う？

チ：100歳くらいかな？

く：いやいや。

ア：じゃあ200歳くらいかな？

く：まだまだ！

チ：えー、じゃあ300歳くらい？

く：じゃあ正解をいみましょう。木の年齢というのは、切り株にある、年輪という輪の数を数えると分かるんだけど、以前調べたところ、なんと500歳以上だったんだって！

ア：えー！！そんなに古いものなの！すご〜い！

関口：そう。すごいんです。

く：あ、現在82歳（1931年生まれ）の関口喜好さん！

関口：赤城神社の大杉は、九合でも1番だったのではないのでしょうか。大人が2人か3人でかかえるような木が神社の建物の前と後ろに5本ずつくらいありました。

かなやま ちょうじょう
金山の頂上からもこの杉の木が見えたんですよ。中でも1番大きな杉は途中で
ふたまた
二股に分かれていまして、風が吹くとゴウゴウと割れるように揺れたものです。

チ：へ〜、すごかったんだねー。見たかったなー！

く：ふふふ。こんなときこそ、せんだんさんにもらったセンダンメガネをかけてみよう！

シャキ————ン

ア：うわ~~~~！でか~~~~い！なんだか森の中にいるみたいだー！

チ：それに、なんか杉の木に神様がいるような気がする！

く：そうだね。枯れてしまったり、色々な事情で全て切ってしまったそうだけど、で

も切り株が残っているだけでもかつての杉のすごさが想像できるし、赤城神社が古い歴史を持っていることが分かるよね。

クイズ②：赤城神社の大杉は何歳くらいだったでしょう？

③ 3つ目の宝「祇園祭りのケンカ神輿」：地図の③の所を見てく ださいね。

く：西矢島にはまだまだすごいものがあるんだよ。3つ目の秘密はこの中にあるんだ。

ア：ん、さっきの杉の切り株の隣、ただの倉庫みたいだけど、、、

高草木貴一：この中には西矢島の宝物が入っているんですよ。

く：あ、現在89歳（1924年生まれ）の高草木貴一さん！よろしくお願ひします。

高草木：こんにちは。高草木です。ここに入っているのは明治時代からあるといわれる古いお神輿です。昔は西矢島の神輿といえば、九合で知らない人はいないくらい有名だったんですよ。7月にお祭りがあるのですが、もう西矢島中がお祭り気分になって、嫁に行った娘も帰ってくるし、西矢島の外からも見物客が来て、それはそれは盛り上がったんです。私も若い頃は担ぎましたが、楽しかったですよ～！

チ：へー、そんなにすごかったの？

高草木：それはもう！九合で昔からの神輿があるのは西矢島町と飯田町だけなのですが、飯田町のは女神輿などといって、静かに担ぐんです。それに比べて私たち西矢島の神輿はケンカ神輿で、男たちが力任せにわっしょいわっしょい、激しく担いだんですよ。ああもうこうやって思い出すだけでワクワクしてきちゃいましたよ！

ア：へ～。でも「担いだ」ってことは、今はもう担がないの？

高草木：残念なことに、交通規制の関係や、また担ぎ手が少なくなってしまった関係で、今はお祭りの日に倉庫から外に出して飾るだけになっています。

チ：そっかー、残念だなー。見たかったよー。

く：さあそんなときは、センダンメガネをかけてみよー！高草木さんも一緒にタイムスリップお願ひしまーす！

シャキ————ン

エッサ！エッサ！エッサ！エッサ！

く：これは100年前の西矢島のお祭りの様子だよ。

ア：うわー！白い着物を着た男の人たちが重そうな神輿を勢いよく担いでる！楽しそー！

チ：あれー、神社から出ていっちゃったよ！

高草木：そうです。神輿は神社から出て、西矢島の中をぐるっとまわるんです。

ア：ん、今度は誰かの家の庭に入っていっちゃったよ。

高草木：途中、何軒かの家に寄って、そこで休憩しながら何かを食べたりします。そしてなんといいても、

チ：あー、みんなお酒を飲んでる！大分酔っ払ってるみたいだよ！

高草木：そうなんです。このお祭りはお酒がなくては始まりません。みんなお酒を飲むのを楽しみに、ぐてんぐてんに酔っ払いながら担いでいるんですよ。昔、お酒は貴重でしたから、こういう特別なときくらいにしか飲めませんでしたしね。

ア：あっ、また立ち上がって担ぎ始めたよ！ん、担いでいる人たち、肩から血が出てるんじゃない！

高草木：そんなことはよくあることです！もう担ぐのに夢中で、みんな少くらのケガなんて気にしませんよ。次の日に医者に行く人が何人もいたんですから。

チ：すごい！あれ、今度はみんながお神輿の上に登り出しちゃったよ！

高草木：これはお祭りのクライマックスです。「セリアガリ」というんですが、10人も15人も大人たちがお神輿の上に登り上がってしまいます。もう、みんな興奮して最高の気分になっているんですよ！

く：じゃあメガネを外して現代に戻ろうか。

シャキ————ン

ア：わー、楽しかったー。西矢島にはすごいお祭りがあったんだねー。高草木さん、ありがとうございました。

クイズ③：九合地区で昔からのお神輿があって、しかも激しいケンカ神輿だったところは西矢島以外にあったでしょうか？

④4つ目の秘密「神輿のふるさと元屋敷」：地図の④の所を見てく ださいね。

く：4つ目の秘密は神社から離れるよ。ついて来てね。

ア：この広い道路は、国道407号線だね。

く：うん。国道からちょっと西に入ったこの畑の一角にあるんだけど、さあどれでしょう。

チ：なんか小さなお宮があるけど。これかな？

高草木貴一：こんにちは。また高草木です。当たりです。この場所は元屋敷と呼ばれています。ちょっと話が難しくなっていますが、よく聞いてくださいね。お

神輿というのは、本当は赤城神社ではなく、^{やまか}八坂神社という別の神社のお祭りなのです。ですが、現在は西矢島町に八坂神社という神社はなく、お神輿も赤城神社の中にあります。そして言い伝えによると、ここ元屋敷に昔、八坂神社に関するものがあったということです。ですから、お祭りのお神輿が町内をまわるとき、必ずここに立ち寄ったんですよ。

ア：へー。みなさんお酒をのんで酔っ払っているのに、ここに立ち寄ることは忘れなかったんだねえ。こんな自立^{めだ}たない小さなお宮なのに。なんだか不思議～。昔は何があったんだろう？

く：それだけ大切な場所なんだね。それでね、この前、その元屋敷の言い伝えが本当だったと分かる記録^{きろく}が発見^{はっけん}されたんだ！

チ：え、なににに！

く：太田市立図書館にある古い本を調べたらね、「明治 10 年（1877）、今から 130 年くらい前に、西矢島町の南東にあった八坂神社は、赤城神社に合わさりました」と書かれていたんだ！

ア：へー！南東といえば、元屋敷は赤城神社の南東だよ！もしかして、、

く：その通り。たぶん、明治 10 年までは、赤城神社とは別に、元屋敷に八坂神社とお神輿があったと考えられるんだ。

チ：だからここがお神輿の「もともとあった屋敷」ということで「元屋敷」なのかー！

く：そう。その可能性^{かのうせい}が高いよね。だからお祭りのときのお神輿は必ずここに立ち寄ったんだろうね。

ア：わー、面白いね。今度友達に教えてあげよー。

クイズ④：どうしてお祭りのお神輿は必ず元屋敷に立ち寄ったのでしょうか？

⑤ 5 つ目の秘密「^{はらやま}原山と^{みわこうば}三和工場」：地図の⑤の所を見てく ださいね。

く：じゃあ 5 つ目の秘密へ案内するよ。ついてきてね。

チ：407 号線を南に行くんだね。どこに行くんだろう。

く：はい。着きました。

ア：ん、これは何かの工場だよ。いつも見てはいるけど。

く：これは^{やぎまかこう}矢崎加工という会社の工場だよ。西矢島町の南はじになるんだ。

チ：くーたん、この工場の何が秘密なの？

く：では 100 年前のこの場所はどうかだったか、センダンメガネをどうぞー。

シャキ————ン

ア：わー、森だー！広いなー！

く：そうなんだ。この矢崎加工とその周辺^{しゅうへん}は、原山^{はらやま}（「ハ」にアクセント）という広い森だったんだ。

チ：へー、西矢島にこんなに広い森があったなんて。カブトムシがたくさんいそうだなー。どうして森があったんだろう。

く：昔はガスや電気^{でんき}がないから、お料理^{りょうり}をしたり、お風呂^わを沸かすのに薪^{たきぎ}を燃やしていたんだよ。そのためにはたくさん^なの木が必要だったから、九合でも各地にこうやって森があったんだよ。

ア：あー、そうなんだねー。

く：ではもう1度センダンメガネをかけ直^{なお}してみて。少し新しい時代に飛ぼう！

シャキ————ン

チ：ん、たくさん^なの人が木を切ってる。そして工場ができ始めたよ。今ある矢崎加工とは違う工場だね。

く：これは今から約70年前、戦争中の様子だよ。戦争中^{はらやま}、原山の木が切られ、三和工場^{みわこうば}いう、戦争の飛行機の部品を作る工場が建てられたんだよ。

ア：へー。戦争の飛行機かー。あれ、夜になったよ！

ゴゴゴゴォ————

チ：わー、恐^{こわ}い音！何だー！

ドカ————ン！ ドカ————ン！

ア：うわー！何だー、何が起こったのー！こわーい！

く：はい、2人ともセンダンメガネを外して！

シャキ————ン

チ：わかったよ～。くーたん、あれは一体何だったの？

く：それは現在86歳（1927年生まれ）の高草木右兵^{うひょう}さんに教えてもらおうか。

高草木右兵：こんにちは。高草木右兵です。あれは戦争の終りの年のある夜でした。

ゴーッというアメリカの飛行機の音がして、そのあと、ドスーンというものすごい音と揺^ゆれで爆弾^{ぼくだん}が落とされました。落ちた場所は私の家から100mくらいなのですが、朝になって見に行ってみたら、何メートルもある大きな爆弾の穴が開いていて驚^{おどろ}きました。幸^{さいわ}い怪我^{けが}人^{にん}はいなかったのですが、私の家にも爆風^{どろ}で泥^{どろ}が飛んできましたし、家に生えていたケヤキの木には爆弾^{はへん}の破片^{さく}がいくつか刺^ささっていました。それはそれは恐ろしかったですよ。

く：近所^{ちかところ}の家では、爆弾^{はへん}の破片^{さく}が牛^{うし}にささって、その牛は痛^{いた}くて1日中モーモーと鳴いて、そして死んだそうだよ。

ア：そうなんだー。西矢島にも戦争のとき爆弾が落とされたんだねー。でもどうしてここに落とされたんだろう。

高草木右兵：確かなことは分かりませんが、三和工場で戦争の飛行機の部品を作っていましたから、この工場を狙ったのが、住宅地の方へ反れて落ちてしまったのではないか、といわれています。

チ：そっかー。敵としては、戦争の飛行機がどんどん作られちゃったら大変だもんね。

く：今は矢崎加工になっているこの場所に、森があり、戦争の工場があり、そして爆弾が落とされたということ、是非知っていてね。みんな、戦争のない世の中を作ってね。

クイズ⑤：どうして西矢島に爆弾が落とされたといわれていますか？

⑥ 6つ目の秘密「紫雲塚古墳」：地図の⑥のところを見てく ださいね。

く：じゃあ6つ目の秘密ヘレッツゴー。

ア：今度は国道407号線をどんどん北に戻るんだね。

く：はい到着。西矢島のお寺、安楽寺だよ。

チ：ここに秘密があるんだね。

く：うん、ここからすぐ近くにね。ほら、お寺の建物のちょっと西、あれは何でしょう？

ア：富士重工矢島工場の近くだね。ん、こんなところに山がある！気づかなかった！

く：結構高い山でしょ。これは紫雲塚古墳という古墳なんだ。古墳というのは、ずーっと大昔、1000年以上昔の人のお墓のことだよ。

チ：へー、西矢島に古墳があったなんて、知らなかった！なんだかお椀をひっくり返したような、きれいな形のお山だねえ。

く：そうだね。なかなかこんなきれいな形の古墳はないよね。今はちょっと上れないけど、上には稲荷様があって、稲荷様のお祭りの時には、山の上でみんなにお団子を配ったりしたそうだよ。

ア：へー、山の上でお団子がもらえるなんて、おもしろーい！

く：それにね、昔は周りに高い建物がなかったから、隣町で火事があったときなど、この山に登るとよく見えたんだってさ。とにかく、この古墳はずっと昔からある、西矢島の宝物だね。

クイズ⑥：紫雲塚古墳はどの辺にあるでしょう？

⑦ 7つ目の秘密「不^ふ倦^{けん}舎^{しゃ}のあつた安^{あん}楽^{らく}寺^じ」：地図の⑦の所を見てく ださいね。

く：では最後の7つ目の秘密を教えようね。

チ：何だろう？

く：2人とも、旭小学校は今から30年くらい前（1984年）にできたんだけど、その前って、この辺りの子どもたちはどこの小学校へ通っていたか知ってる？

ア：え？どこへも行かないで遊んでたとか？

く：そんなことあるわけないでしょ。旭小から1キロくらい北、飯塚町にある九合小学校に通っていたんだよ。

チ：へー、知らなかった！

く：それで、九合小学校は今から125年くらい前（1889年）に現在の場所にできたんだけど、それまで子どもたちはどうしていたでしょう？

ア：やっぱり遊んでいたのかな？

く：ではここでセンダンメガネをどうぞー。

シャキ————ン

チ：あー、安楽寺の建物の中に時代劇のような昔の服を着た子どもたちがたくさんいるよ！なにか勉強しているみたい。

く：ふふふ。これは100数十年前の安楽寺の様子だよ。どうしてこんなに子どもがいるのかな？ではメガネを外して！

シャキ————ン

く：ここからは現在83歳（1930年生まれ）の野口幸男^{きちお}さんに教えてもらおうね。

野口：こんにちは。野口です。九合小学校ができる前は、この安楽寺が学校だったのです。ですからこの辺りの子どもたちはここに来て勉強していたんですよ。

ア：へー、お寺で勉強していたんだー。なんか楽しそう。

野口：私のひいおばあさんは実際にここ安楽寺で授業をしているのを見たそうですよ。そして安楽寺の本堂^{ほんどう}は、その当時のまま残っていて、とても古くて貴重な物なんです。

チ：へー、すごいねー。

野口：ところで、安楽寺の本堂に向かって右手側に大きな桜^{さくら}の木があるでしょ。その木のふもとに黒い石碑^{せきひ}が建っているね。何て書いてあるか読めますか？

ア：えーと、「開校百年記念、、、」そのあとは何て読むんだらう？

野口：「不^ふ倦^{けん}舎^{しゃ}跡^{あと}」と読みます。不倦舎というのは、九合小がここにあった頃の名前です。この石碑は、九合小ができて百年を記念して、もとあったこの安楽寺に建てられたものです。この石碑を見ても、ここが九合小のふるさとってことが分かり

ますね。九合カルタにも「開校の^{かいこう}礎^{いしづえ} 不倦舎・蓮光寺^{れんこうじ}」と読まれているんですよ。

チ：うん。それに九合小は旭小のふるさとなんだから、安楽寺は旭小のふるさとでもあるんだね。野口さんありがとう。

ア：ああ楽しかった。西矢島には色々なすごい秘密があるんだねー！

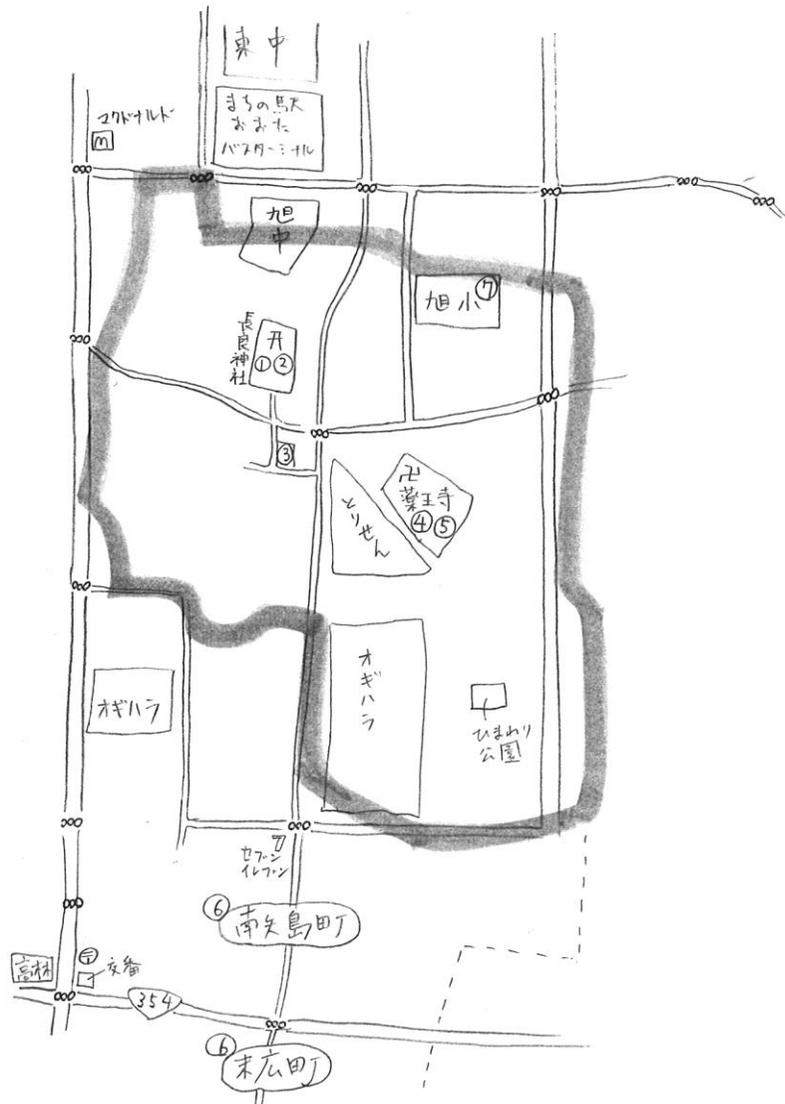
クイズ⑦：九合小ができる前は、子どもたちはどこで勉強していたでしょうか？

☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということを感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

東矢島町

7つの秘密の地図

- ① ながらじんじゃ ししまい 長良神社の獅子舞
- ② ししまい まんどう 獅子舞の万灯
- ③ てら もとでら お寺のふるさと元寺
- ④ やくおうじ ほうきょういんとう 薬王寺の宝篋印塔
- ⑤ やくおうじ ぬ だ じぞう 薬王寺の抜け出し地蔵
- ⑥ みなみやじまちょう すえひろちょう 南矢島町と末広町
- ⑦ あさひしょうがっこう 旭小学校



東矢島町物語

今日は東矢島町の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ————！！

① 1つ目の秘密「^{ながらじんじや ししまい}長良神社の獅子舞」：地図の①の所を見てく ださいね。

くーたん：さあ2人とも、東矢島町の秘密を探検しに行こう！ついて来てね。

アーサ：あ、ここは旭小に近い、東矢島の^{ながら}長良神社だね。

く：そうだね。みんな見て、この^{かんばん}着板。

チュート：「東矢島長良神社獅子舞」って書いてあるよ。なんでここに獅子舞の看板があるの？

く：そう。この獅子舞が1つ目の秘密。ここ長良神社ではね、4月と11月に^{ちやうない}町内の人たちが神社のお庭で獅子舞を行うんだ。九合カルタにも、「ささら舞 ^{まい}昔なつかし ^{ふえだいき}笛太鼓」と読まれているんだ。「ささら舞」というのは獅子舞のことだよ。

ア：へ～。知らなかった。^{ふだん}普段はこんなに静かなのにねー。どんな獅子舞なんだろう？

く：見たい？

チ：見たい見たい！

く：じゃあせんだんさんにもらったセンダンメガネをかけてごらん！

シャキ————ン

ア：お～、太鼓を叩きながら3匹の獅子が踊ってる～！

く：これは今年のお祭りの様子だよ。長良神社の獅子舞は、^{おす}雄2匹、^{めす}雌1匹の3匹の獅子が、^{なか}笛の音色に合わせて、お腹につけた太鼓を^{たた}叩きながら踊るんだ。

チ：うわ～かっこのいい！それに、すごく不思議な動き方をするね～。こんな踊り初めて！

く：この獅子舞は、とっっても古くから行われていて、貴重な物だということで、太田市の^{じゅうようむけいぶんかざい}重要無形文化財というものにも選ばれているんだよ。それに、獅子舞というものは全国色んなところにあるけど、東矢島の獅子舞は、踊り方も、笛の曲も、衣装も、他のどこのところとも違う、東矢島オリジナルのものなんだよ！

ア：へ～、すごいんだねー！

く：そう。神社のお祭りといったら東矢島の一大イベントで、昔はもっとたくさんの人が集まったんだよ。それに、東矢島で育って、他のところへ^{よめ}嫁に行ったり、仕事で移り住んだりした人も、お祭りの時にはふるさとに帰ってきて、お祭りを楽

しんだんだ。

清水：そうなんですよ。

く：わ、現在 86 歳（1927 年生まれ）の清水かず江さん！

清水：こんにちは。清水です。私は東矢島で生まれ育ち、他の場所にお嫁に行きましたが、獅子舞の出る神社のお祭りのときは実家に帰ってきて、ゆっくり過ごしたんですよ。今と違って昔はお嫁さんというのは、何か理由がないと実家に帰ることはできなかつたんです。ですから嫁にとってお祭りはとっても楽しみな日でしたよ。この日には家で赤飯を作ったり、お餅をついたり、神社に獅子舞を見に行ったり、それはそれはにぎやかで、心がウキウキとしたものでした。

チ：へ～。お祭りってすごいんだね！でも本当にそんなに昔からあるの？それに昔はもっとたくさん人が集まったって本当？

く：あれ、疑ってるのかい？じゃあもう一度メガネをかけてごらん！

シャキ————ン

ア：あれ、またお祭りだ！でも獅子の様子はさっきと同じだけど、周りにいる人たちがみんな時代劇みたいな格好をしているよ。

く：これは江戸時代のお祭りの様子だよ。みんな洋服ではなくて、着物を着ているでしょ。こうやって、ずっと昔から受け継がれてきたんだよ。今から 300 年近く前から続いているといわれているんだ。それと、獅子舞を見ているお客さんの数はどうかな？

チ：そういえば、さっきよりずっとたくさんの人が見てる！なんだかとってもにぎやかだね！やっぱり東矢島のお祭りってすごいんだね！

うわ～～～！いきなり獅子^おが追いかけてきた～！助けて～！！！！

く：ふふふ。がんばって逃げてね～！東矢島の獅子舞はとっても面白くて、途中で獅子が見ている人を追いかけてたりもするんだよ。みんな、4 月と 11 月にお祭りをやってるから、ぜひ神社に見に来てね！

クイズ①：どうしてお嫁さんはお祭りの日が楽しみだったのでしょうか？

（正解は物語の最後にあります）

② 2 つ目の秘密「獅子舞^{まんどう}の万灯」：地図の②の所を見てく ださいね。

く：さて 2 人とも、獅子舞はどうだったかな？

チ：くーたん、ひどいよ！獅子が急に追いかけてくるんだもん、びっくりしちゃった！

く：ごめんね。先にいっておかなくて。あれは獅子からみんなへの歓迎の印だよ。さて、2つ目の秘密もこの獅子舞と関係するものなんだ。さあ、中へどうぞ。

ア：これは神社にある東矢島の集会所だよ。誰もいないよ。

く：ではセンダンメガネをどうぞ。

シャキ————ン

チ：わー、集会所の中にたくさんの方がいる！みんな、竹や色紙で何かを作っているよ！

く：これは今年のお祭り準備の様子なんだけど、今日は東矢島のみなさんで、「万灯」というものを作っているんだ。万灯というのは、大きな花笠のことなんだけど、神社のお祭りで獅子舞を舞うとき、神社の庭の右と左にペアで立てるものなんだよ。

ア：へー、さっき見たとき気づかなかったなあ。くーたん、見たいよー。

く：それじゃ、またセンダンメガネをかけ直して今年のお祭りの様子を見てみよう！

シャキ————ン

チ：あ、ほんとだ！獅子が踊ってる両側に、すごく大きくてきれいな花笠が立ってるね！

ア：うわー、きれいな花のような紙が飾られて、豪華だね〜。

野村：そうですね。

く：わ、現在82歳（1931年生まれ）の野村英男さん！

野村：こんにちは。野村です。私は昔、東矢島の獅子舞をやっておりまして、色々な他の獅子舞も見てきましたが、これだけ立派な万灯を作るところは見たことがありませんよ。この万灯は東矢島の人々の自慢なんです。

チ：へ〜、そんなにすごいものなんだね。

野村：そして、この万灯はお祭りの前に住民が集まって、協力して製作するんです。それも昔からの伝統なんですよ。

ア：そうなんだね。今度私も万灯作りやってみたい！

く：うん。それと、万灯についてはさらに秘密があるんだよ。

チ：え、なにに？教えて！

く：万灯の笠はたくさんの方の骨組みでできているんだけど、昔はこの竹を毎年新しいものと取り替えていたんだ。だからお祭りが終わるとその年に使った竹はいらなくなるわけなんだけど、その竹をもらって家に飾っておくと、幸運が訪れるといわれているんだ。

ア：えー！欲しい！今度もらいに行こう！

く：うん。ただ最近竹が手に入りづらくなって、毎年竹を取り替えることはなくなっているから、必ずもらえるとは限らないんだけど、ぜひ行ってみてね！

クイズ②：東矢島の万灯はどんな特徴があるでしょうか？

③ 3つ目の秘密「お寺のふるさと元寺」：地図の③の所を見てく ださいね。

く：さあ、3つ目の秘密は少し神社から離れるよ。参道を歩いて南に向かおう。

チ：くーたん、参道ってなに？

く：参道というのは、神社やお寺にお参りするための道路のことで、今みんなが歩いているところさ。

ア：ああ、ここがそうなんだね。確かに、神社に向かってまっすぐ伸びているね。

く：さあ着いたよ。ここが3つ目の秘密、元寺だよ。

チ：参道の1番はじっこだね。なんか、お墓みたいになってて、不思議な感じ。

く：うん。東矢島のお寺は薬王寺というんだけど、この場所は元寺と呼ばれていて、もともと薬王寺のあった場所といわれているんだ。

ア：今の薬王寺はもうちょっと南西だよな。

加賀谷：それは私が説明しましょう。

く：あ、現在79歳（1934生まれ）の加賀谷光輝和尚さん。

加賀谷：こんにちは。薬王寺住職の加賀谷です。言い伝えによると、昔薬王寺はこの元寺のところにありましたが、ある時火事になって燃えてしまい、現在のところに移ったそうです。いま、元寺のところにたくさん墓石が並んでいますが、これはかつてお寺がここにあったときの名残だと思われます。

チ：加賀谷和尚さん、火事っていつ頃のことなの？

加賀谷：ずっと昔ということだけで、どれくらい前なのかは分かりませんが、200年以上前だと思われます。

ア：へ～、200年以上昔の火事のことを言い伝えで残っていて、今でもお寺の名残があるなんて、なんだかすごいねー。

クイズ③：どうして薬王寺は元寺のところから今のところへうつったといわれていますか？

④ 4つ目の秘密「薬王寺の宝篋印塔」：地図の④の所を見てく ださいね。

く：加賀谷さん、4つ目の秘密に案内していただけますか。

加賀谷：分かりました。ではみなさんついて来てください。

チ：あ、薬王寺だね。

加賀谷：さあ、お寺の門をくぐって、まっすぐ歩いてきて参道のすぐ左にあるこの石塔が4つ目の秘密です。

ア：わー、立派な石の塔だねえ。和尚さん、これにどんな秘密があるの？」

加賀谷：これは難しい名前ですが、宝篋印塔と呼ばれる石塔で、今から200年以上前(1776年)に建てられたものです。

チ：ー、200年以上前かー。随分古いんだねー。

加賀谷：この塔を10年ほど前(2000年)に直したときに、中から書類がでてきたのです。それを見ると、なんと当時の薬王寺の和尚さんだった常海さんが、全国を旅して歩いた記録が書かれていました。

ア：へー！でもその常海和尚さんは、何のために旅して歩いたの？旅行？

加賀谷：いえ。全国のお寺をめぐるって、お金を集めてまわったようです。

チ：どうしてお金を集めてまわったの？

加賀谷：はっきりしたことは分かりませんが、もしかしたら、先ほどいった、薬王寺の火事で本堂が焼けてしまったために、それを建て直すためだったのかもしれない。この本堂がそのお金で建てられたのかどうか証拠はありませんが、相当古いことは確かです。

ア：へー、常海さんに聞いてみたいなあ。

加賀谷：当時は自転車も車も、もちろん電車もないですから、きっと歩いてまわったはず。約4年半をかけて全国の600近くのお寺をまわっています。北は東北地方、南は四国、九州まで行っているんですよ。

チ：わー、東北から九州まで歩いて！？すごーい！

加賀谷：そうですね。それと本堂についても1つお伝えしたいことがあります。戦争のとき、東矢島地区にもアメリカの飛行機から爆弾が落とされ、その衝撃でこの本堂の戸板が倒されたりしたんですよ。怖かったですねえ。

ア：へー、東矢島にも爆弾が落ちたんだねえ。この本堂は色んな歴史を見てきたんだね。

クイズ④：宝篋印塔の中に入っていた紙にはどんなことが書いてあったのでしょうか？

⑤ 5つ目の秘密「^{やくおうじ}薬王寺の^{ぬだ}抜け出し地蔵」：地図の⑤の所を見てく ださいね。

く：5つ目の秘密もここ薬王寺にあるんだ。じゃあ加賀谷和尚さん、ひきつづきお願いします。

加賀谷：分かりました。ついて来てください。先ほどの^{ほうきやういんとう}宝篋印塔から本堂にむかって左手に10歩ほど歩くと、ほら、いくつか石塔が並んでいますね。その真ん中にあるこのお地蔵様が5つ目の秘密、「抜け出し地蔵」です。なんかこのお地蔵様、ほかのものとは^{ちが}違うと思いませんか？

チ：あれー、そういえばなんか体が半分土の中に埋まってるよー。どうしちゃったんだろう？

加賀谷：こういう風に、土に埋まっているお地蔵様というのは大変珍しいんです。普通お地蔵様というのは台の上に乗っかっていらっしゃるのですが、こうやって地面に足が着いているということは、人々と近いところにいてくださる^{した}親しみ深いお地蔵様だということだと思います。そしていい伝えによると、このお地蔵様をお願いをすると、土から抜け出してきて、願いをかなえてくださるんだそうです。だから抜け出し地蔵というんですね。

ア：へー、ありがたいお地蔵様だね。

く：他のお友達にも^{ぜい}是非^{ひおし}教えてあげてね。

クイズ⑤：抜け出し地蔵さんはどんなところが普通のお地蔵様と違うのでしょうか？

⑥ 6つ目の秘密「^{みなみやじま}南矢島町と^{すねひろ}末広町」：地図の⑥の所を見てく ださいね。

く：さて、6つ目の秘密はお寺から^{はな}離れるよ。ちょっとお散歩^{さんぽ}しよう。

ア：どんどん南に向かっていくね。あれ、ここはもう東矢島町じゃなくて南矢島町だよね。

く：よく分かったね。今、南矢島町は家がたくさん^た建っているね。じゃあもつと南に行こうか。

チ：くーたん、どこまで行くの？この広い道は^{こくどう}国道354号線^{ごうせん}だよ。ここも越えていっちゃうの？

く：ふふふ。国道354号線を越えたこの場所は何町っていうか知ってる？

ア：えーと、^{すねひろほいくえん}末広保育園とかがあるけど、、

く：そう。末広町だよ。ここも南矢島町と同じように、家がたくさんでしょう。じゃ

あ 100 年前の姿を見せてあげるね。センダンメガネをどうぞー！

シャキ————ン

チ：あれっ！さっき末広町があったところに、家が全然なくて、小さい木がたくさん生えているよ。

く：そうだね。今度は、南矢島町があった方を見てみて！

ア：んっ！何軒か大きな家があるけど、あとはほとんど田んぼになっちゃったよ！

く：そうなんだ。末広町は、かつて東矢島町の農家の人たちの桑畑だったんだ。桑というのは、糸を作ってくれる蚕という虫の餌になる葉をつける木のことだよ。そこに戦争中（1941 年）に、太田市にあった中島飛行機という戦争の飛行機をつくる大きな会社の社員のための住宅が作られたんだ。そして南矢島町は、昔からの農家もあったけど、ほとんどは東矢島町の農家の人たちの田んぼだったんだ。だから、かつては南矢島町も末広町もなくて、両方とも東矢島町の一部だったんだ。

チ：へー、東矢島町はそんなに広がったんだ。それに、よくまあこんなに大きく変わったもんだねえ。今からは想像もつかないね！

く：そう。この南矢島町と末広町の大きな変化が 6 つ目の秘密なんだよ。ぜひ覚えていてね。

クイズ⑥：南矢島町と末広町は、それぞれ昔はどんなところだったのでしょうか？

⑦ 7 つ目の秘密「旭小学校」：地図の⑦の所を見てく ださいね。

く：じゃあ最後の 7 つ目の秘密へ行こう。みんなのおなじみのところだよ。

ア：あー、旭小学校！！旭小が秘密なの？うれしいな！

く：うん。そういえばアーサの名前は旭から取ったんだよね。九合カルタには「朝日うけ 笑顔輝く 旭小」と読まれているね。ところで、2 人とも、旭小は今から 30 年くらい前（1984 年）にできたんだけど、旭小ができる前はこの辺りの子どもはどこに通ってたと思う？

チ：えー、どこだろう。もしかして学校へは行かないでずっと遊んでたとか？

く：チュート、そんなわけないでしょ。それまでは、みんな飯塚町にある九合小学校へ通っていたんだ。ちなみに飯田町にある中央小学校も、旭小の何年か前にできたんだけど、やっぱり中央小ができる前は、その辺りの子はみんな九合小学校に通っていたんだ。だから、九合地区の子はみんな九合小に通っていたんだ。

ア：へー、知らなかった！九合地区には九合小学校しかなかったんだね。

く：そうだね。旭小学校は九合小学校の子どもというか弟や妹のような学校なんだ。
ところで、旭という名前にはどういう意味があるか分かる？

チ：え、「あさひ」だから、朝に日が昇るって意味なんじゃないの？

く：そうなんだけど、もう1つ秘密の意味があるんだよ。漢字をよく見ると、漢数字の
「九」の右側にお日様の「日」があるでしょ。これは、

ア：あ、分かった！旭小学校は九合小から出た小学校だから、九合の「九」から「日」
が出てるんじゃない？！

く：ピンポーン、その通り！当時の人たち、よく考えたよねー。その他に、「せんだん
小学校」はどうか、という意見もあったんだよ。

チ：え、せんだん小学校？どうして？

く：2人とも、九合小学校の古いせんだんの木は知ってるでしょ。

ア：もちろん。せんだんさんでしょ！

く：そっか、せんだんさんがセندانメガネをくれたんだもんね。そのせんだんさん
は、ずっと昔から九合小学校の校庭にあって、子どもたちを見守り続けてきた、
九合小の宝物の木なんだ。だから、旭小もその宝物の名前をとって、せんだん小
学校にしたいっていう人がいたんだよ。

チ：なるほどねー。それもいいアイデアだね！

く：うん。さて、旭小にはもう1つ秘密があるんだよ。旭小の西門から入ったところ
の塀ぎわに、せんだんの木が2本植えられているのに気づいたかな？

ア：え、分からなかったなあ。

く：じゃあ冬になると、指の先くらいの大きさの黄色っぽい実がたくさん落ちてい
るのを覚えていないかな？

チ：あー、覚えてる。なんだかたくさん落ちてたね！

く：それがせんだんの実だよ。それでね、このせんだんの木は、もしかしたら旭小学
校ができたときに、九合小から贈られたプレゼントかもしれないんだ。

ア：え、どういうこと！？

く：旭小のちょっと前にできた中央小は、学校ができるときに、九合小のせんだんさ
んの子どもが記念に贈られて玄関前に植えられ、今では大きく繁っているんだ。

チ：じゃあ旭小ができたときにもプレゼントされたんだね！

く：それが、、、中央小のせんだんの木は確かにプレゼントなんだけど、旭小のせんだ
んの木については、謎なんだ。それがプレゼントだという記録がどこにもないん
だ。それに初代のP T A会長さんに聞いても分からなくて。当時の校長先生はも

う亡なくなってしまったし。

ア：じゃあ偶然ぐうぜん植えられただけなのかな？

く：でもよく見ると、旭小の2本のせんだんの木のうち北側きたがわの1本は、ちゃんと石の圃かこいがしてあって、いかにも大切に植えられた様子ようすがあるんだよね。だから、ぼくとしては、九合小からのプレゼントじゃないかなー、と思うんだよ。

チ：そうだね。それに、もしプレゼントじゃなかったとしても、せんだんさんと同じ、せんだんの木であることには変わりないもんね。

く：そういつてくれるとうれしいな。せんだんの木は、旭小は昔、九合小から分かれてできたということをみんなに教えてくれるね。せんだんは5月頃、きれいなうすむらさきの色の花を咲かせるんだよ、今度こんど見てみてね。それとね、さっきいったせんだんの実、まわりの皮をむくと、中にとってもかわいい形かたちの種たねが入っているんだ。ぜひ拾ひろって遊んでみてね。

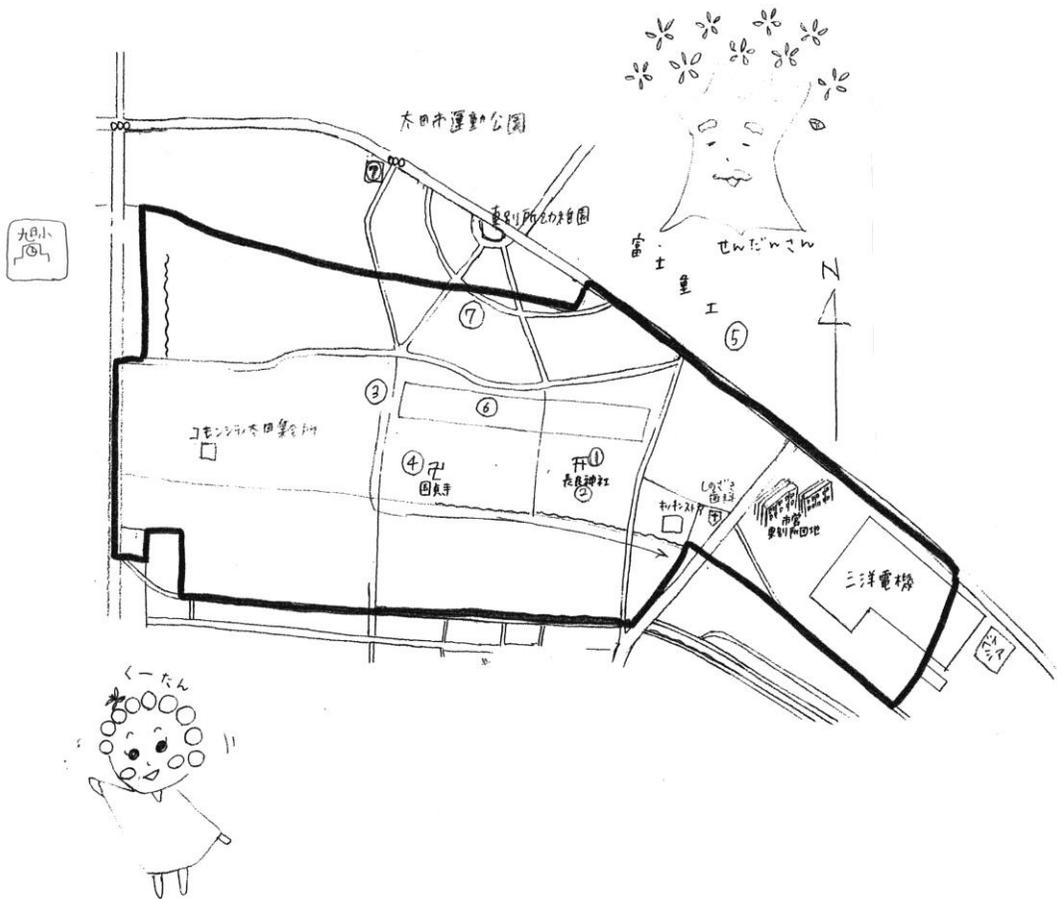
クイズ⑦：旭小学校のせんだんの木はどこにあるでしょうか？

☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということを感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

東別所町

7つの秘密の地図

- ① ながらじんじやうら こふん 長良神社裏の古墳
- ② きさい ししがしら 奇祭、獅子頭まわし
- ③ おうかんどろう 往還道路
- ④ こくじょうじ やぎぶしまつ どうぐいっしき 国貞寺の八木節祭りと道具一式
- ⑤ おおたひこうじょう 太田飛行場
- ⑥ えんたいごう 掩体壕
- ⑦ むら くかく アメリカ村の区画



東別所町物語

今日は東別所町の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ——！！

① 1つ目の秘密「^{ながらじんじやうら}長良神社裏の^{こふん}古墳」：地図の①の所を見てく ださいね。

くーたん：1つ目の秘密は東別所の長良神社の裏にある古墳だよ。

アーサ：私、長良神社知ってるよ！おじいちゃんが昔よくここで遊んだって言ったよ。

チュート：へえー！！僕は来るの^{はじ}初めてだよ。

ア：神社の裏に古墳・・・あっ！

チ：石がたくさん並んでるね！

ア：その^{うしろ}後ろのもっこりしてるのが古墳かな？くーたん！

く：よく気付いたね。

そう、この小さな山みたいなのが古墳なんだよ。

古墳というのは、昔の^{えら}偉い人の^{はか}お墓のことをいうんだ。

チ：そうなんだあ！！でもどうして神社の裏に古墳があるの？

く：それはね、古墳はずっとずっと昔からあるもので、それより後になって神社を^た建てたんだ。古墳をシンボルにして、ここは山になっていて、いい場所だから神社を建てようってなったんだよ。

ア：そっかあ。じゃあこの石たちもこの場所がいいねってここに並べたの？

く：うーん、この石たちはもともとここにあったわけじゃないんだ。

もとは東別所の道にあったんだけど、道を^{せいり}整理したりする時代の^{なが}流れでここに^{あつ}集められたものなんだよ。

今では知ってる人は少なくなってしまうけど、この小さな石には神様がいて、1つ1つが^{れきし}歴史を持ち、村の人々に大切にされてきたものなのさ。

チ：じゃあ僕は今^し知ったから、その^{かずすく}数少ない知っている人の1人なんだね！
よーし、みんなに伝えるぞー！！

ア：そうだ！！せんだんさんにもらったセンダンメガネ、かけてみようよ！

シャキ———ン

チ：ああ！古墳の^{うら}裏がさっきまでは空き地だったのに^{はやし}林になってる！

しかもちゃんばらみたいな^{あそ}遊びをしてる人もいる！

く：あれは、現在 78 才（1935 年生まれ）の森尻桂司さんの子どもの頃の様子だよ。
昔はこの林でかくれんぼやちゃんばらをして遊んだって教えてくれたんだ。
林の中にウルシの木があって、その木を切ったら体中ががゆくなってしまった
という経験もあるんだって！

ア：ふふふ。昔の子どもたちはやんちゃだったのね！

チ：僕だって林で遊びたいよ！

昔の人は遊ぶところがたくさんあって、楽しかったんだろうなあ。

クイズ①：古墳と神社、先にできたのはどっちでしょう？（正解は物語の最後にあります。）

② 2 つ目の秘密「奇祭、獅子頭まわし」：地図の②の所を見てく ださいね。

く：2 人とも、東別所の獅子頭まわしを知っているかな？九合カルタにも「獅子頭
町内めぐる 春祭り」とあるんだよ。

チ：知らな—い！！

く：やっぱり今の子どもたちは知らないんだねえ。

ア：え？？どうということ？

昔は子どもたちもみんな知ってたの？

チ：今はそんなのないんじゃない？

く：違うんだよ。今もあるんだけど・・・

よ—し、センダンメガネをかけて 70 年前の様子を見てみよう！

シャキ—ン

ア：わあ—！神輿が家々をまわってるよ！

あれ、神輿の下をみんなでくぐってるみたい！

なんだか楽しそう！！あれ、担いでいる人、酔っ払っているんじゃない？

く：はい、メガネを外して！

シャキ—ン

く：昔は 4 月 18、19 日がお祭りだね、神輿の棒の下に獅子頭の入った木箱が取り付
けられたものを担いで、町内の家を一軒一軒まわったんだ。その獅子頭をくぐる
とよいことがあるといわれていて、みんなありがたがってくぐったのさ。

担ぎ手にはお酒などでもてなして、盛り上がったそうだよ。

チ：自分の家にお神輿が入ってくるなんて楽しそう！！今はどうなってるの？

く：今では 4 月の第 3 日曜日に車で借りに行っ、そのまま獅子頭を降ろさず車で町

内をまわるだけで、家に寄ることはないんだよ。

ア：こんなににぎやかなお祭りがなくなっちゃうなんて寂しいね。

大谷：本当に、さみしいよ。

チ：わあ！びっくりした！！あなたはだあれ？？

大谷：驚かせてしまってますまなかったね！私は現在 89 才（1924 年生まれ）大谷芳男
といいます。私はこの獅子頭まわしを毎年楽しみにしていたんだよ。

私が子どもの頃は、獅子頭を世良田の八坂神社まで歩いて借りに行きました。本
当に賑やかで楽しいお祭りだったんだよ。まあ祭りは小さいものになってしま
いましたが、私の家では今でも、毎年玄關に八坂神社からもらってくるお札を飾っ
ているんだよ。

チ：へ——！！今度見に行きたいな、大谷さん！

ア：わたしも行きたい！！

大谷さんはお祭りが本当に好きだったのね！他の人もみんなそうだったんだろ
うね！！

クイズ②：獅子頭回しのとき、獅子頭のぶら下がった神輿が家に来ると、みんな何を
したでしょう？

③ 3つ目の秘密「往還道路」：地図の③の所を見てく ださいね。

く：3つ目の秘密は、東別所の往還道路だよ。ちょうど今みんなが歩いているところが
そうなんだけど、往還道路というのは中心の道路という意味で、ここが昔は東別
所の1番の大通りだったんだ。

ア：じゃあ今も変わらずその道が残っているってということ？

く：そうなんだよ！100年以上前からある道なんだよ。

当時としては広い道で、車がなかった時代にあったんだから、子どもたちの遊び
場として大活躍だったってわけさ。

ア：え、今はそんなに広くなって感じないけど、昔はこれぐらいでも広い道だったんだ
ー！！

チ：今は道路で遊んでたら危ないって怒られるもんなあ。いいなあ！！

く：そうだね。町内の西の方を南に進んで、国貞寺というお寺の近くの角をカクンと
90度で左折して国貞寺、長良神社の前を通って東へ向かう道なんだけど、お寺や
神社へお参りする道もこの道につながっていたんだよ。

ア：ようするに、重要な道だったってことねくーたん！！

クイズ③：往還道路は何年以上前からあることが分かっているでしょうか？

④ 4つ目の秘密「国貞寺の八木節祭り」と道具一式：地図の④の所を見てく ださいね。

く：ここは東別所のお寺、国貞寺。この本堂の下を見てごらん。

ア：何か木の柱のようなものが置いてあるね。

く：これは、東別所の4つ目の秘密、楽しい楽しい八木節祭につかったものなんだよ！ね、大谷さん！

大谷：こんにちは。また大谷です。そうです。いやあ、懐かしいですねえ、八木節祭りは私たちの青春の思い出です。

チ：え？ どういうこと？！その八木節祭ってどんな祭だったの？

く：気になるでしょー！ さあ！ センダンメガネをかけて——！ 大谷さんも一緒にタイムスリップお願いしまーす！

シャキ————ン

ア：うわー！ おまつりだ————！！ すごい人だー！

く：これは今から70年ほど前の八木節祭りの様子だよ。じゃあ大谷さん、解説をよろしくをお願いします。

大谷：ああ、まかせておくれ。八木節祭はね、毎年8月21、22日に東別所のここ、国貞寺で行われていたのです。この祭では、東別所以外からも八木節ののど自慢、腕自慢の人たち、また見物客がたーくさん集まったんだよ。

ア：へー。あ！あの木と竹で作られたステージの上で歌ってるみたいよ！

大谷：あのステージは檜というんだよ。今でも国貞寺の本堂の下に置いてある柱などを使って組み立てたのです。あの檜で歌っているのがちょうど八木節ののど自慢大会なんですけど、じつはお寺の本堂にはちゃんと審査員もいるんだよ。そしてその審査員の評価は本堂と檜をつないだロープを伝って、審査の紙が檜に送られるようになってるんだ。

チ：へ————！ 不思議！！ いろいろな工夫がされていたんだね！

大谷：おもしろいでしょ？ それに、ほら見てごらん。さきほどいった3つ目の秘密の往還道路から国貞寺まで30～40mの参道が続いているんだけど、そこに露店がずらーっとたくさん並んでるでしょう。

ア：うわ——、本当だ。おもちゃや食べ物、お店がたくさん！ すごくにぎやかだね！ いいなあ！！

大谷：ああ！ そりゃあ楽しかったよ。それにこんなにも楽しくてすばらしい八木節祭

りを取り仕切っていたのが青年団という若者達だったんだからすごいだろう？

チ：あ、本当だ。若い人たちが司会をやったり、一生懸命仕事をしているよ。区長さんとか、大人の人がやってくれてたわけじゃないんだ！なんだか町のお祭りを若い人たちが取り仕切るなんてかっこいいね！！

大谷：そうだろう！昔は若い人が町のために一生懸命になるのが当たり前だったんだよ。このお祭りは残念なことに戦後何年か経ってやめてしまったんだけどね。

ア：そうなんだあ。なんだかとってももったいないね。本堂の下にある櫓の材料も寂しそう。

大谷さんみたいに楽しみにしていた人もたくさんいたろうに・・・

チ：僕も青年団に入って町のためにお祭りを盛り上げたかったなあ。

く：そうだね。大谷さんありがとう！

大谷：東別所の秘密はまだまだあるからじっくり見ておいで！

クイズ④：八木節祭りではどんなことが行われていたでしょう？

⑤ 5つ目の秘密「太田飛行場」：地図の⑤の所を見てく ださいね。

く：5つ目の秘密を紹介するよ！さて、ここは東別所の北東。運動公園のすぐそばだね。

広い敷地だけど、これはなんでしょう？

チ：このマーク知ってるよ。富士重工でしょ。

く：そうだね。でもここには昔、違うものがあったんだよ。

2人ともセダンメガネをかけて！今から70年ほど前の東別所を見てみよう！

ア：オッケ——！

シャキ———ン

ゴゴゴゴオオオ———

チ：うわ！！怖い音がするよ！

ア：あ、戦争の写真で見たような飛行機が飛んでいく！

く：はい、メガネを外して！

シャキ———ン

ア：さっき見たのは何だったんだろう？

森尻昭久：では私が話そう。

く：あ！現在84歳(1929年生まれ)の森尻昭久さん！ありがとう！おねがいします。

森尻：太田にはね、昭和時代の初めころに中島飛行機という会社があって、日本軍が

戦争のために使う飛行機を作っていたんだ。中島飛行機はそのころ、とても有名な会社で、働き手が全国から集まっていたんだよ。それによって、太田の町は一気に盛り上がり、人口も増えたんだ。太田駅のすぐそばには太田工場、今の太田町には小泉工場ができて、飛行機の生産をしていたんだ。

チ：へえ。でもさっきくーたんが、工場じゃなくて、飛行機を飛ばす飛行場の話をするっていったよ。

森尻：そう。それで、この2つの工場の中に、飛行機を飛ばすためにつくられたのが、今は富士重工になっている、ここ太田飛行場なんだ。東別所の面積の約3分の1に及ぶ土地が飛行場になったんだよ。

ア：そんなにたくさんの土地が飛行場になっちゃったのかあ。

森尻：そうなんだよ。それに飛行場内には幅70m、長さ1300mの飛行機を飛ばすための滑走路という道ができて、格納庫っていう飛行機をしまっておく倉庫もできたんだ。この格納庫は東別所と太田の境目くらいだから、東別所の住宅地の結構近い場所にあったんだ。

チ：ええ！？お家の近くに戦争のための飛行機があったら怖いよ！

森尻：うん。でもまあ、しょうがないんだ、その頃は反対運動は許されなかったからね。それで、敵からしたらもちろんこの飛行場の格納庫は狙い目なわけで、B29っていうアメリカの飛行機にねらわれて、東別所にもたくさん爆弾が落ちたんだよ。

ア：ええええ？！この地区に爆弾が落とされたの？

森尻：ああ、そうなんだよ。でも不幸中の幸いで住宅地には落ちなかったんだがね。この飛行場は、現在は富士重工の工場になっているね。

チ：そっか。今は普通の工場になってるから、やっぱりこうやって聞かなければ知らないで終わっちゃうよね。

ア：戦争のお話って悲しい気持ちになるけど、こういうことはここ九合に住んでいる私たちがちゃんと未来に伝えなきゃってせんだんさん言ってたよね。

クイズ⑤：東別所の北の、現在富士重工となっているところは、昔は何だったでしょう？

⑥ 6つ6の秘密「掩体壕」：地図の⑥の所を見てく ださいね。

く：6つ目の秘密は掩体壕というものだよ。

ア：くーたん、掩体壕ってなあに？

く：飛行機を隠しておく場所だよ。

チ：うーん、よくわかんないや。

こんなときは見るのがいちばん！！センダンメガネを装着ー！

シャキ————ン

ゴゴゴゴゴ————

ア：わわわ！また戦争の時代！！掩体壕って、どこかしら？飛行機も見当たらないし……。

く：掩体壕は、せっかく作った飛行機が敵に見つからないように、土を壁のように盛って囲いを作り、上には草や木などをかぶせて作った、飛行機の隠し場所のことなんだ。見つかるかな？

チ：へー。で、どれが掩体壕なの？

く：よく見てごらん。木の枝なんかがたくさんある・・

ア：あ、見つけた！ほら！！よく見たら、飛行機が見えているよ！

随分たくさんあるねー。

く：よくわかったね！そうなんだ。掩体壕は東別所内の東から中ほどまで、家は避けて、畑の部分をつぶして作られたんだ。農家の人たちにとって大切な農地をつぶして作っていったんだよ。大谷さんなんかは、戦争から帰ってきてふるさつを見たら、掩体壕などで村の中がめちゃくちゃになっていて驚いたっていったよ。掩体壕は、今は見られないけど、戦争の時代の、爆弾と同じくらい大変な被害だったといえるんだよ。

チ：飛行場ができたことで、東別所の人たちはたくさんの被害を受けたんだね。戦争ってやっぱり怖いや。

クイズ⑥：飛行機を隠しておくための掩体壕を作ったことで、東別所の人たちの大切なものが失われてしまいました。それは何でしょう？

⑦ 7つ目の秘密「アメリカ村の区画」：地図の⑦の所を見てく ださい。

く：2人とも！7つ目の秘密ここだよー！

ア：え、ここは東別所の北の方、東別所幼稚園が近くにあるけど、普通の住宅地だね。

く：そうなんだけど、2人とも、ちょっとこの辺りの道は他と違うなあと思ったことないかな？

うーん、そういえばなんかちょっと曲^まがった道が多いような。

く：フフフ。じゃあセンダンメガネをかけてみて。

シャキ————ン

フワッ

ア：え？あれ？なんか体が浮^ういてるよ？

チ：うわー何だこりゃ！！メガネにこんな力もあるのか！

く：フフフフ。すごいでしょ？さあ両^{りょうて}手を広^{ひろ}げて！お空を飛ぶよ！！

ア、チ：うわ—————ああ！！

く：ほら見て！東別所の北の方に、上から見るとおもしろい形の所がない？

チ：あ、あそこ？道が、みかんを半分に切ったようになってる！！

く：そうそう！よく気づいたね。東別所幼稚園が中心になって、住宅が面白い形に並んでるよね。道もカーブしているし。実はこれも戦争と関係しているものなんだよ。

ア：なんだか戦争^{あつ}の跡^{のこ}があちこちに残っているのね。

く：そうだね。ここはね、もとは中島飛行機のゴルフ場として作られたんだよ。その時は青々とした芝生^{あおあお}で、池や山もあったんだよ。でも戦争の後には、太田にたくさんアメリカ軍の人が入ってきて、その宿舎^{しゆくしゃ}が必要だったから、このゴルフ場をならして、軍^{えん}の偉い人たちの住宅地にしたんだって。50軒くらいあったみたいだよ。これがアメリカ村と呼ばれた、東別所7つ目の秘密さ。

チ：へ—————！なるほどね！飛行場の近くの広い土地を探していたんだね。

く：そうそう。それにね、当時^{とうじ}周りの家^{まわ}の人たちは井戸水^{いどみず}を使^{つか}って、トイレはボットン便所^{べんじょ}だったのに、ここの住宅地^{すいせん}の家にはちゃんときれいな水の出る水道があつて、水洗^{すいせん}トイレもあったから、みんな驚^{おどろ}いたみたいだよ。それにかっこいい車もね！

ア：へ——！いろんな新しいものをこの住宅地で見ることができたのね！

く：そうだね。この東別所には、当時^{がいこくじん}外国人がたくさん生活していたんだ。はじめは外国の人がたくさんいて怖いと思ったみたいだけど、そのうち、お手伝いさんとして住宅地^{じゅうたくち}へ出掛^でけたりなんかする中で、交^{こう}流^{りゅう}を持つようになったんだって。

チ：お手伝いさんって日本人がやっていたの？

く：そうだよ。お仕事としてやっていたから、仕事もできるし、英語も覚えられるしでよかったって話だよ。

ア：へえ。この東別所のおもしろい形の土地がそんな場所だったなんて想像もつかなかったよ！！東別所についてもっと知りたくなってきちゃった！！

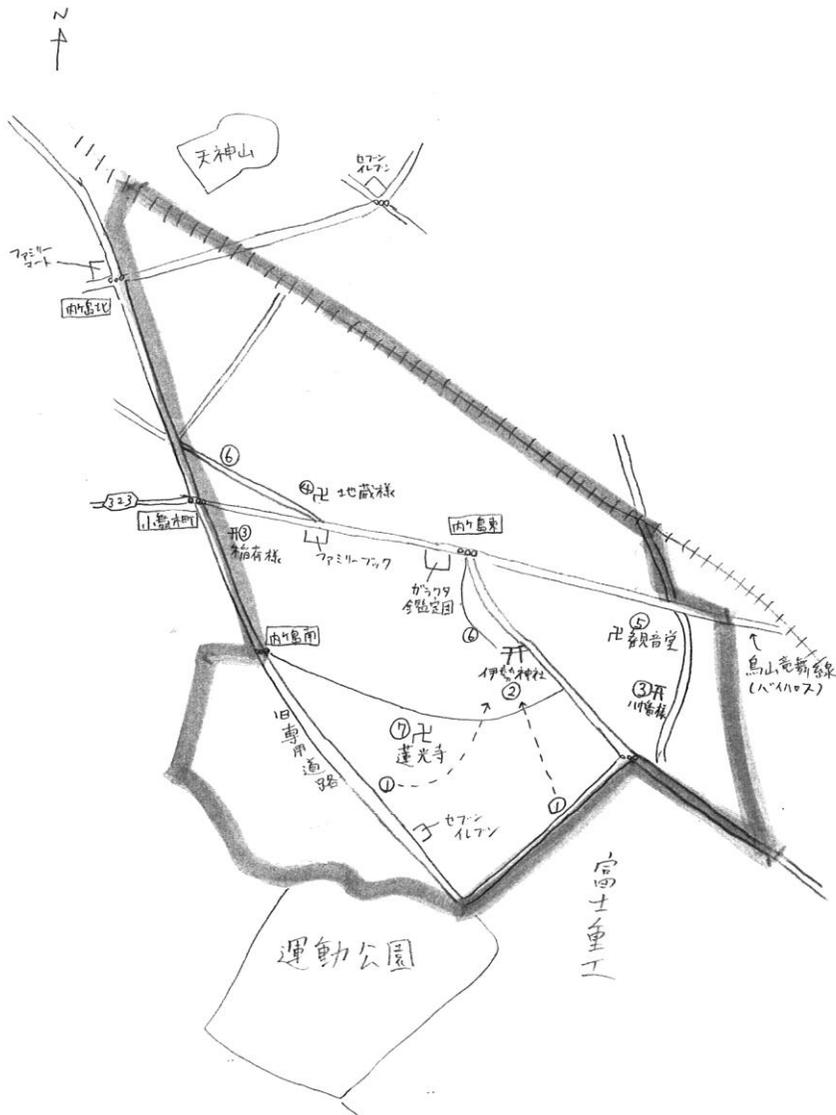
クイズ⑦：上から見るとみかんを切ったような形をしている場所は、どうしてアメリカ村と呼ばれるようになったのかな？

☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということを感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

内ヶ島町

7つの秘密の地図

- ① 2つの伊勢神社 いせじんじゃ
- ② 伊勢神社の弓引き いせじんじゃ ゆみひ
- ③ 稲荷様と八幡様 いなりさま はちまんさま
- ④ カンカンナイド
- ⑤ 孫佐衛門の観音堂 まござえもん かのんどう
- ⑥ 県道の名残 けんどう なごり
- ⑦ 開文学校のあった蓮光寺 かいもんがっこう れんこうじ



内ヶ島町物語

今日は内ヶ島町の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ————！！

① 1つ目の秘密「2つの伊勢神社」：地図の①の所を見てく ださいね。

くーたん：では内ヶ島町の秘密を探しに行こう！まず1つ目の秘密は、伊勢神社だよ。

チュート：あ、ここお祭りのときに来たことある！

アーサ：交通安全教室もここでやるよね。

く：そうだね。内ヶ島の集会所がすぐ隣だからね。ところで2人とも、伊勢神宮って聞いたことあるかな？

チ：えーと、有名な神社なんじゃないの？

く：うん。三重県にあるんだけど、日本に数ある神社の中でも中心となるとも立派な神社なんだ。その伊勢神宮は、内宮と外宮という、離れた場所にある2つの神社が合わさって、1つの伊勢神宮となっているんだよ。

ア：へー、2つで1つかあ。珍しいね。

く：そうだね。ところで内ヶ島の伊勢神社は、その名前の通り、三重県の伊勢神宮を元としているんだけど、2人とも、今内ヶ島に伊勢神社はいくつあると思う？

チ：え、ここしか知らないけど、もしかして伊勢神宮みたいにもう1つあるの？

く：今は1つなんだけどね、、、

ア：え、昔は2つあったの？

く：じゃあ、せんだんさんにもらったセンダンメガネをかけてみよう！

シャキ————ン

チ：あ、伊勢神社から何か光が2つ出てきた！

ヒュ————ン

ヒュ————ン

ア：あ、1つは神社に向かって右後ろの大泉の方角へ、もう1つは左後ろの運動公園の方角へ飛んでいったよ！くーたん、今の光はなんなの？

く：今の2つの光の行った先は、もと内ヶ島にあった2つの伊勢神社の場所を表しているんだ。ここからは現在89歳（1924年生まれ）の、内ヶ島の長老、飯田市太郎さんに教えてもらおう。

飯田：こんにちは。飯田です。そう。昔は内ヶ島に、東宮と西宮という2つの伊勢

神社があったのです。しかし、明治時代の終り、私が生まれるより 10 数年前に、国から、神社はどんどん合併して、小さい神社は大きくしなさい、という命令が出たのです。そのため、東宮と西宮は合併して 1 つになりました。そのときに今の場所へ移ってきたんです。

チ：そっかー、伊勢神社はこの場所にお引越してきたんだね。じゃあもと神社のあった 2 つの場所はそのあとどうなっちゃったんだろう？

飯田：私が子どもの頃は 2 つの場所は畑になっていましたが、ここに伊勢神社があったんだ、ということは年上の人たちから聞いて知っていました。また、他の畑とは違って、周りに木が生えていたり、池の跡があったりして、建物^{たてもの}はなくても、いかにも神社の雰囲気^{あつみ}がありました。

ア：へー、すごい！神社の跡を見て知っているなんて、さすが長老さん！

飯田：ちなみに、現在の伊勢神社の、正面^{しょうめん}にある大きな建物がもとの東宮で、その左奥にある小さめの建物が西宮といわれています。

チ：今でも建物は東宮と西宮にちゃんと分かれているんだね。なんだか面白い！

く：長老の貴重な話を聞いてよかったね。昔の内ヶ島の人たちは、東宮も西宮も、同じように大切にしていたんだらうね。是非、三重県にある本家の伊勢神宮の 2 つのお宮にもいつかお参りしてみてね。

クイズ①：内ヶ島の伊勢神社は昔、いくつあったのでしょうか？また今の建物はいくつになっているのでしょうか？（正解は物語の最後にあります）

② 2 つ目の秘密「伊勢神社の弓引き」：地図の②の所を見てく ださいね。

く：次の 2 つ目の秘密も伊勢神社に関係することだよ。みんな、弓矢^{ゆみや}を引いたことあるかな？

ア：えー、ないよー。そういうのってむかーしの人^{ひと}がするんじゃないの？

く：それが伊勢神社では、現在でも子どもが弓を引くという行事が伝わっているんだ。貴重な行事なんだよ。いつ頃^{ころ}から行われているか分からないほど古くからあるんだ。へー、どうやってやるの？

く：毎年 1 月 7 日と決まっているんだけど、この日に伊勢神社で内ヶ島町の 5～7 歳の男の子が弓を引いて、的^{のこ}を射るんだ。昔は、ちゃんとした着物^{きもの}を着てやるとか、長男^{ちやうなん}でないとできないとか、色々^{いろいろ}な決まりがあったそうだよ。今は誰でもできるけどね。

ア：でも男の子だけなんだー。私もやってみたかったなー。

く：そうだね。だけど、的^{のこ}を射抜いて落ちた矢^やはだれが拾^{ひろ}ってもよくて、それを拾っ

て帰ると何かいいことがあるといわれているんだよ。

ア：へー。じゃあ今度の1月7日に伊勢神社に行ってみたいな！

く：うん。弓を引いて的を射抜くというのは、これからその子が大変なことにも負けずに人生を生き抜いていく、というような意味があるんだろうね。この行事は、地域の子どもたちを神社に招待して行われるわけだけど、きっと昔の人が、地域の子どもが元気に育ってくれるようにって願って始めたものなんじゃないかな。いつの時代でも大人たちは、子どもたちのことを大切に思っているんだね。

クイズ②：1月7日に、内ヶ島の神社で古い行事が行われていますが、それは何でしょうか？

③ 3つ目の秘密「^{いなりさま}稲荷様と^{はちまんさま}八幡様」：^{地図}地図の③の所を見てく ださいね。

く：さあ、3つ目の秘密だよ。2人とも、伊勢神社の後ろを見てごらん。

チ：石でできた小さいお宮がいくつもあるよ。

く：このお宮たちはどうしてここにあると思う？

ア：え、どうしてだろう？飾りとして置いてあるのかな？

く：そうじゃないんだ。じゃあここで、センダンメガネをかけてみよう。

シャキ————ン

ア：あ！小さいお宮たちからさっきみたいに光が出てきた！

ヒュ————ン ヒュ————ン ヒュ————ン

チ：わー、いろいろな^{ほうこう}方向に飛んでいったよ！くーたん、今のは何？

く：さっき^{ちやうろう}長老の^{いだい}飯田市^{たろう}太郎さんの話で、昔小さい神社は合併して大きい神社になりなさいっていう国からの^{くに}命令が出たって聞いたでしょ。そのとき、2つの伊勢神社が一緒になっただけじゃなくて、内ヶ島の^{かくち}各地にあったその他の小さい神社もこの場所に合併されたんだ。それがこの小さいお宮たちなんだよ。

ア：そっか。じゃあ今の光は、この小さいお宮たちがもともとあった場所へ向かって飛んで行ったんだね。

く：そういうこと。内ヶ島だけでなく、他の地域でも、昔は小さな神社がいくつもあったんだ。それがさっきいった命令によって、^{だいたい}大体1つの町内に神社は1つになったんだ。例えば飯田町には^{らいでんじんじや}雷電神社、新井町には^{はちまんさま}八幡様、という^{ふう}風にね。

チ：へー。じゃあ今内ヶ島町には、神社はこの伊勢神社1つなんだね。

く：それが、九合の中で内ヶ島だけが特別で、^{じつ}実は4つもあるんだ。これが3つ目の秘密。

ア：えー、他の地区は1つなのに内ヶ島だけは4つも！？どうして？

く：ここからはまた長老に聞いてみようね。

飯田：こんにちは。また飯田です。内ヶ島にはその他に稲荷様、八幡様、天神様があります。天神様は目塚地区になりますが、天神山古墳の上に建っている神社ですね。そしてどうして内ヶ島だけは4つも神社があるかということなのですが、天神様については聞いていないので分からないのですが、稲荷様と八幡様について、この2つの神社も、さっきいった命令で、一度はここ伊勢神社に合併になったそうです。しかしその後、もともとその2つの神社があった場所の近くで病気がはやりたりして、よくないことが続いたそうです。なので当時の人が、これは、昔々からある神社をむやみに別の場所に動かしたから、そのタタリで、神様が怒っているのだと考えました。そのため、もう一度伊勢神社から、もとあった場所に戻したわけです。

チ：そっかー。だから今でもいくつもあるんだね！

飯田：はい。こういう例は珍しいと思います。それだけ地域の人がそれぞれの神社を大切にしていたということでもあると思いますよ。

ア：ところで市太郎さん、稲荷様と八幡様はどこにあるの？

飯田：稲荷様は、田口医院のある「小舞木町」という信号からちよっと南東に入ったところにあります。八幡様は、内ヶ島町の南東のはじっこ、休泊堀という川のほとりにあります。どちらも小さい神社ですが、鳥居が目印ですから是非探してみてください。

チ：へー、ほんとに宝探してみたいだね。今度友達と探してみよっと！

クイズ③：どうして稲荷様と八幡様は、一度伊勢神社に合併になったのに、また元の場所に戻されたのでしょうか？

④ 4つ目の秘密「カンカンナイド」：地図の④の所を見てく ださいね。

く：4つ目の秘密だよ。2人とも、内ヶ島町でバイパス、と呼ばれている道路は分かるかな？

ア：聞いたことはあるけど、どれだろう？

く：ファミリーブックやメガネの板垣、ガラクタ鑑定団などがある、東西に伸びる広い道だよ。新井町、飯田町、飯塚町、小舞木町、と通ってくるんだ。

チ：ああ、分かる分かる。よく通るよ。

く：そのバイパス沿いで、ファミリーブックの反対側に、道路に面して古そうな小さなお宮があるのを知ってるかな？

ア：あ、見たことある。なんだろうなあ、と思ってたんだ。

く：うん。これはお地蔵様なんだ。そして、4つ目の秘密はこのお地蔵様の祭り、「カンカンナイド」だよ。

チ：え、カンカンナイド？変な名前。なんのことなの？

く：ふふふ。分からないよね。じゃあセンダンメガネかけて、50年前のお祭りを見てみよー！

シャキ————ン

チ：あ、夕方になったよ。

カン！カン！カン！カン！カン！カン！

ア：あれ、何か大きな音がする！

チ：お地蔵様の前にたくさんの人が集まって、みんなで何かを持って回してるよ！

ナイドナイドナイドナイド、、、

ア：回してる人たち、呪文みたいに「ナイドナイド、、、」っていいながらやってる！何やってるんだろう！

く：ふふふ。じゃあセンダンメガネを外してみて。

シャキ————ン

く：ここからは現在88歳（1925年生まれ）の家泉彰男さんに教えてもらおうね。

家泉：こんにちは。家泉です。カンカンナイドとは、昔々から続くお地蔵様のお祭りのことです。かき氷屋さんも出だし、のど自慢をしたり、スイカ割りや花火をしたり、にぎやかな祭りでした。さて、そのお祭りでは、何メートルもの長さがある数珠を10人くらいで持って回すのです。

ア：あとう、家泉さん、数珠ってなあに？

家泉：ああ今の子は数珠を知りませんか。数珠というのはよくお坊さんなどが手に持っている、玉をつないでできた輪っかのことです。ビーズの腕輪のような感じですかね。

チ：ああ、見たことある。なんかジャラジャラいうやつだね。

家泉：そうですね。普通の数珠は今いったように手のひらサイズなのですが、カンカンナイドのお祭りでは、何メートルもある巨大な数珠をみんなで持って回していきます。そのときに、1人の人がカン！カン！カン！カン！と勢いよく鉦を叩き、またみんなが「ナイドナイド、、、」と唱えながら行うので、「カンカンナイド」という名前がついているのです。

ア：へー、なんだか不思議なお祭りだなー！でもにぎやかで楽しそう。でも家泉さん、みんなどうして数珠を回すの？

家泉：そうですね、数珠というのは何か不思議な力があると考えられているので、お

そらく、回しながらそれぞれに色々な願いを込めているのではないのでしょうか。
ある人は家族の健康を、ある人は勉強を、という風に。

チ：へー。確かに、暗い中でカンカンカンという音と一緒にみんなでナイドナイドっていいながら寄り添って数珠を回していたら、何だかお地蔵様が願いをかなえてくれるような気がするな。

家泉：現在は残念ながら参加する人が少なくなりましたが、8月1日、4日、7日の夕方に行っていますから、是非来てくださいね。

クイズ④：カンカンナイドとはどうしてその名前があるのでしょうか？

⑤ 5つ目の秘密「孫佐衛門の観音堂」：地図の⑤の所を見てく ださいね。

く：2人とも、九合カルタの「森の中 孫佐衛門の 観音堂」って聞いたことある？

ア：あるある！でも見たこともないし、なんのことだか分からないなあ。

く：そうかあ。実は、この孫佐衛門の観音堂が内ヶ島の5つ目の秘密なんだ。

チ：へー。見たい見たい！くーたん、連れて行って！

く：はいはい。じゃあついて来て！

ア：おー、大きなおうち。たくさん高い木が生えていて、ほんとに森みたいだ。

く：ここが観音堂のある、現在74才(1939年生まれ)の大槻敏明さんのおうちだよ。

チ：えー、観音堂って大槻さんちの中にあるの？

く：そう。大槻家のお庭にあるんだよ。じゃあここからは大槻さんに教えてもらおうね。

大槻：こんにちは。大槻です。みなさん、よく来ましたね。では観音堂に案内しましょう。

ア：わー、ほんとに広いおうちだなー。

大槻：はい。これが孫佐衛門の観音堂です。建物は新しく建て替えましたが、何百年も昔からこの場所にあるんですよ。

チ：おー、森の中に立派な建物！お寺みたいだ。

ア：へー、ところで大槻さん、どうして「孫佐衛門」っていうの？

大槻：大槻家の歴史は古く、私でおそらく18代目になるのですが、江戸時代には代々孫佐衛門という名前を受け継いでいたのです。なので、孫佐衛門の家にある観音堂、ということなのですね。

チ：へー、代々同じ名前なんて面白い！ところで観音堂にはどんな歴史があるんだろう？

く：じゃあ2人とも、センダンメガネをかけて昔の様子を見てみよう！

シャキ————ン

ア：おー、観音堂の前に行列^{ぎょうれつ}ができてる！何をしてるんだろう。とにかく並んでみよう！

チ：あ、みんなにお団子^{だんご}を配^{くば}ってるんだ！わーい、うれしい！

ア：順番^{じゅんばん}が来たよ！3つずつもらえるんだね！ありがとうございます。

チ：いただきまーす。もぐもぐ、、、おいしーい！

ア：あれ、今お団子^{だんご}をもらった赤ちゃんをおんぶしたお母さん、5つももらったよ。どうして？

く：じゃあ2人とも、メガネを外して現代に戻って大槻さんに聞いてみよう！

シャキ————ン

大槻：また大槻です。昔から、配る団子の数は、普通の人には3つ、小さい子をおんぶした人には特別^{とくべつ}に5つと決まっているんですよ。

チ：へー、数が決まっているなんておもしろーい！

大槻：観音堂では年に2回お祭りがありまして、そのときには来た人には誰^{だれ}にでもこうやってお団子^{だんご}をあげます。今では来る人は少なくなりましたが、欠かさずお団子^{だんご}を配^{くば}っています。ただ、お祭りに来る方は、お団子^{だんご}がもらえてうれしいという人もいるかもしれませんが、みなさん観音様^{かんのんさま}のことを大切^{たいせつ}に思う気持ちから、お参りに来ているんだと思いますよ。

ア：そっかー。観音様は昔々からみんなに大切にされてきたんだね。

大槻：そうですね。昔は、戦争^{せんそう}に行く前に、無事^{ぶじ}に帰って来れますように、とお願いをしにくる兵隊^{へいたい}さんもいたそうですよ。

チ：そうやって観音様はみんなを見守ってきたんだね。大槻さんありがとうございました。

クイズ⑤：観音堂ではお祭りのときに何をいくつ配るでしょうか？

⑥ 6つ目の秘密「県道^{けんどう}の名残^{なごり}」：地図の⑥の所を見てく ださいね。

く：さあ、6つ目の秘密は道だよ。ついてきて。

ア：道？どの道かな？

く：はい、到着^{とうちやく}。ここはさっき話に出た、田口医院のある「小舞木町^{たぐちいん}」という信号^{しんごう}から、北に100mほど来たところだよ。

チ：ああ、通ったことあるよ。

く：さあ、このポイントから、内ヶ島方面^{ほうめん}、つまり南東の方を見てみよう。

ア：おー、なんだか斜めに真っ直ぐの道だねー。

く：そうでしょ。そして今度は、またこのポイントから小舞木方面、つまり北西の方を見てみて。

チ：おー、こっちも斜めに真っ直ぐの道だー。

く：この道が6つ目の秘密、^{こいずみけんどう}小泉県道だよ。小泉というところへつながっているからその名前があるんだ。

ア：うん、^{たし}確かになんか不思議な感じがする。

く：そうでしょ。じゃあここでセンダンメガネをかけてごらん。

シャキ————ン

フワッ

チ：わー、体が空に浮かんでいくー。すごいね、センダンメガネ！

く：さあ、さっきの小泉県道を見てみて。

ア：うーん、斜めだねー。それと、小舞木町側の道と、内ヶ島側の道がつながってるように見える！

く：そうなんだ。今は広い^{せんようどうろ}専用道路という道路で切れてしまっているけど、昔はつながっていたんだよ。じゃあ、もういちどメガネをかけなおしてみて。

シャキ————ン

チ：あー、なんだか田んぼや畑ばかりになったよ。

く：ここは同じポイントの100年前の様子だよ。さあ、小泉県道は分かるかな？

ア：あ、はっきり分かるよ！だって他に広い道なんてあんまりないし。

チ：それとさっきのポイントから北西をみると小舞木よりずーっとむこうの太田駅の方まで続いているし、南東を見ると内ヶ島を通り越して、^{おおいずみ}大泉の方まで続いているよ！

く：そうなんだ。昔は今と違って広い道というのは少なかったから、小泉県道は大切な道路だったんだ。そして太田駅の方からずーっと大泉までつながっていたんだよ。

ア：へー。それが現代ではあのポイントのところだけ残っているんだね。

く：いや、実は内ヶ島の中に他にも残っている場所があるんだよ。じゃあメガネを外して。

シャキ————ン

く：さあ^{げんだい}現代に戻ってきたよ。じゃあついて来て。

チ：わー、どこにあるんだろう。

く：はい到着。ここは、さっきの小舞木町の信号からバイパスを東に進んで、ファミリーブックを通り越して、^{かんていだん}ガラクタ鑑定団というお店のちょっと先にある、「内ヶ

島東」という信号だよ。

ア：うん、通ったことあるよ。

く：さて、小泉県道はどこに残っているかというのと一、、

チ：くーたん、もしかしてこの細い道がそうなの！？

く：当たりー！この信号から南に向かう広い道と、ガラクタ鑑定団との間にある、ちょっと気づかないようなこの細い道が、かつての小泉県道なんだ。

ア：おー、面白い！なんか秘密の道って感じだね。

く：そうでしょ。町の中に、古い道が残っているっていうこと、覚えていてくれたらうれしいな。

クイズ⑥：小泉県道は、太田駅方面をスタートとすると、どこを通過して内ヶ島に来ているのでしょうか？

⑦ 7つ目の秘密「開文学校かいもんのあった蓮光寺れんこうじ」：地図の⑦の所を見てく ださいね。

く：では最後の7つ目の秘密へ行ってみよー！

チ：わー、何だろう！

く：はい、到着。ここは内ヶ島のお寺、蓮光寺だよ。

ア：え、お寺が秘密なの？

く：ふふふ。2人とも、中央小学校は今から30数年前(1979年)にできたんだけど、いま中央小学校の学区になっている内ヶ島の北部や新井町、飯田町、小舞木町北部、新島町の子どもたちは、その前はどこの小学校へ通っていたのでしょうか？

チ：え？どこへも行かないで遊んでたとか？

く：そんなことあるわけないでしょ。飯塚町にある九合小学校に通っていたんだよ。

ア：へー、知らなかった！

く：それで、九合小学校は今から120年くらい前(1889年)に現在の場所にできたんだけど、それまで子どもたちはどうしていたでしょう？

チ：今度こそ遊んでたんじゃない？

く：さあではここでセンダンメガネをどうぞー。

シャキ————ン

ア：あ、蓮光寺の建物は今と一緒にだけど、中に時代劇のような昔の服を着た子どもたちがたくさんいるよ。なにか勉強しているみたい。

く：ふふふ。これは約130年前の蓮光寺れんこうじの様子だよ。九合小学校ができる前は、飯塚町、内ヶ島町、小舞木町の子どもたちはこの蓮光寺に来て勉強していたんだ。飯田町、新井町、新島町などの子どもたちはまた別の、不みけんしや倦舎いんしゃというところなどに

通っていたんだけどね。九合カルタにも「開校の^{かいこう}礎^{いしずえ} 不倦舎・蓮光寺」と読まれているでしょ。礎というのは「もと」という意味で、不倦舎や蓮光寺が九合小開校のもとになった、ということなんだよ。

ア：へー、お寺で勉強していたんだー。なんか楽しそう。

チ：ところでくーたん、この蓮光寺の建物って、なんだかお寺っぽくなくて、ちょっと普通の家のようにも見えるんだけど、…

く：チュート、よく気がついたね。実は蓮光寺は、学校として使われている間に、一度火事になって燃えてしまったんだ。それでまた建て直すときに、どうせ学校として使うんだから、ということで教室^{きょうしつ}として使いやすいような形に建てられたんだ。(1877年再建)

ア：だからお寺っぽくない形をしているんだね。おもしろーい！

く：そうだね。では、メガネを外して現代に戻ろう！

シャキ————ン

く：蓮光寺の建物は、できてからからもう130年以上経っていて、とても貴重^{きちゆう}なものなんだよ。さて、この建物の前に黒い石碑^{せきひ}があるね。何て書いてあるか読めるかな？

チ：えーと、「開校^{かいこう}百年記念^{ひゃくねんきねん}、…」そのあとは何て読むんだろう？

く：「開文^{かいもん}学校の跡^{がっこうあと}」と読むんだよ。開文学校というのは、九合小という名前ができる前、子どもたちがここで勉強をしていた頃の学校の名前なんだ。この石碑は、九合小ができて百年を記念して、もとあったこの蓮光寺に建てられたんだよ。この石碑を見ても、ここが九合小のふるさとだってことが分かるね。

チ：うん。それに九合小は中央小のふるさとなんだから、蓮光寺は中央小のふるさとでもあるんだね。

ア：ああ楽しかった。内ヶ島には色々なすごい秘密があるんだねー！

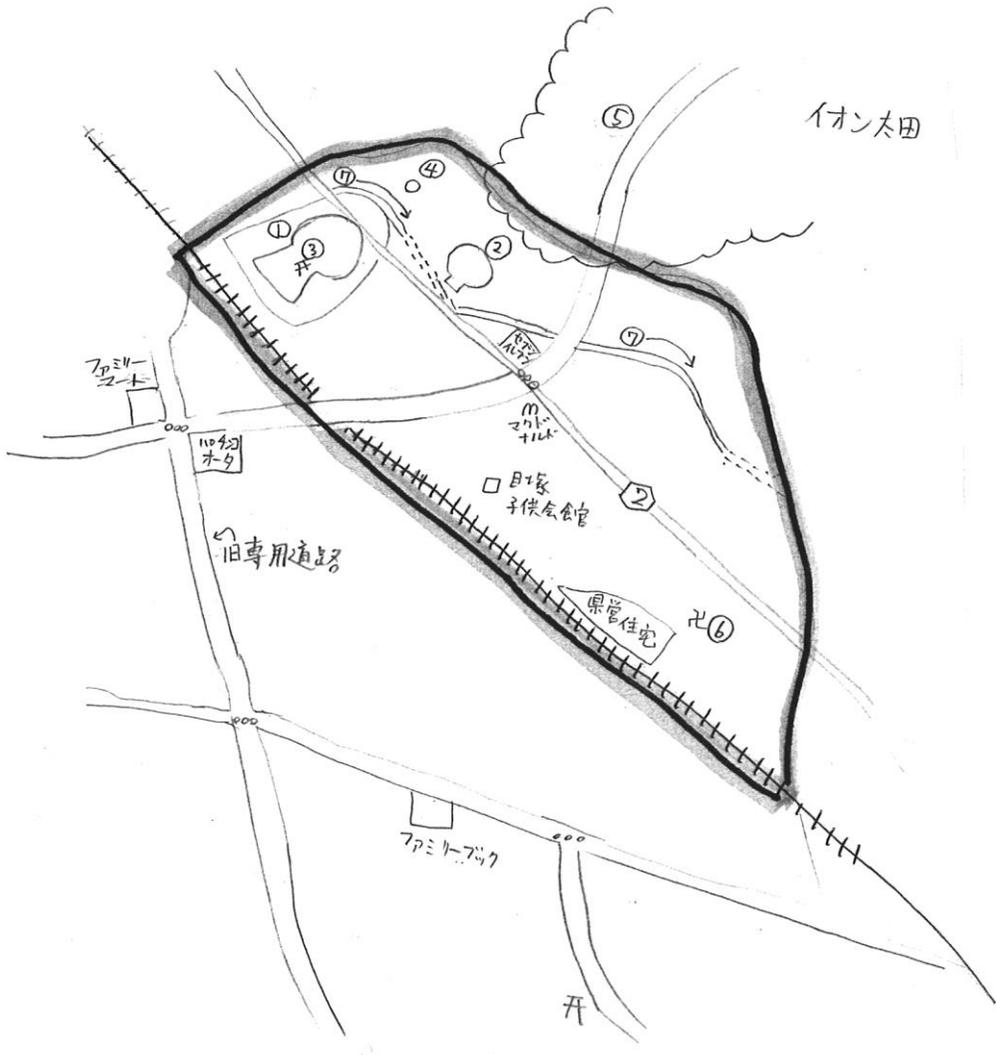
クイズ⑦：蓮光寺の建物は、お寺っぽくなくて、普通の家のように作られているのはどうしてでしょうか？

☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということを感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

内ヶ島町目塚

7つの秘密の地図

- ① てんじんやまこふん 天神山古墳
- ② によたいさんこふん 女体山古墳
- ③ てんじんさま 天神様
- ④ てんじんやまこふん ばいちょう 天神山古墳A陪塚
- ⑤ めえづか こうしゃほうじんち 目塚の高射砲陣地
- ⑥ まぼろし じょうどじ 幻の浄土寺
- ⑦ きゅうたてばやしけんどう 旧館林県道



内ヶ島町目塚物語^{めえづか}

今日は内ヶ島町目塚の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ——！！

① 1つ目の秘密「天神山古墳」^{てんじんやまこふん} 地図の①の所を見てく ださいね。

くーたん：さあ、目塚の秘密を探検しよう！

アーサ：ねえくーたん探検に行く前にさ、目塚って、どうして内ヶ島町目塚っていうの？内ヶ島町とは違うの？

く：うん。目塚も内ヶ島町なんだけど、内ヶ島町は九合地区の中でも一番広くって、人数も多いから、東武小泉線^{とうぶこいずみせん}の線路の北と南に分けているんだ。それで、線路より南はただの内ヶ島町、線路より北は内ヶ島町目塚、と分けて呼んでいるんだよ。区長^{くちちょう}さんはそれぞれ別にいるし、子ども会なども別になっているんだ。

チュート：なるほどねー。あんまり広すぎたり人数が多すぎたりしても大変だもんね。

く：さて、目塚の1つ目の秘密は、この森のような山！

ア：あ、天神山古墳！それくらいわたしだって知っているよ！この辺りで一番大きな古墳なんですよ。

く：うん。でもこの辺りどころじゃないんだよ。どのくらいの範囲の中で一番だと思う？

チ：太田市でかな？

く：もっともっと。

ア：じゃあ群馬県かな？

く：まだまだ。

チ：えー、じゃあ関東^{かんとう}地方^{ちほう}で？

く：いえいえ、日本の東半分^{ひがしはんぶん}で一番大きい古墳なんだよ！

ア：お～、そんなにすごいものがこの目塚にあるんだね！…ところでくーたん、「古墳」ってなんだっけ？

く：ちょっとアーサ、知らないなら早く聞いてよー。古墳^{こふん}っていうのは、昔の偉い人のお墓^{みほ}なんだよ。大きい古墳^{こふん}というのはそれだけ大きな力を持っていた人のお墓だと考えられるんだ。

チ：へ～。じゃあ天神山^{てんじんやま}って誰のお墓なの？

く：はっきりとは分からないけど、現在の研究^{けんきゅう}では「毛野国^{けのくに}」の大王^{だいおう}のお墓だと考えられているよ。

ア：何、毛野国って？

く：天神山のできた約 1500 年前の日本は、まだ全体が統一されていなくて、いくつかの別々の国に分かれていたんだ。そのうち、群馬や栃木あたりに広がっていたのが毛野国なんだよ。

チ：へ～。この辺りは当時、日本じゃなくて毛野国だったのかあ。その大王のお墓だなんて、なんかかっこいいね。大王様はどんな衣装を着ていたんだろうな～。

ア：ねえくーたん、天神山古墳のできた 1500 年前って機械なんてないんでしょ。一体どうやってこんなに大きな山を作ったんだろう？

く：アーサ、いいところに目をつけたね。じゃあセンダンメガネをかけてみよ～！

シャキ————ン

く：ここは 1500 年前、天神山を作っているところだよ。

チ：お～、たくさんの人が土を運んでる！トラックもショベルカーも見当たらないよ。少しずつ人が土を運んだんだねー。大変だー！あれ、石を運んでいる人もいるよ。何に使うのかな。

く：またいいところに気がついたね。ではもう一度センダンメガネをどうぞ！

シャキ————ン

ア：お～、天神山が完成してる！でもすごくキラキラと白く輝いてるよ！何だこれ？

く：天神山古墳が作られた当時は、今のように木は生えていなくて、全体に石が敷いてあって、そしてその石が太陽の光を反射して、キラキラと輝いていたと考えられているんだよ。

チ：へ～、しかも僕たちの住んでいる時代と違って周りに高い建物もないから山が目立つし、こうやって輝いていると、なんか迫力があるな～。いかにもすごい人のお墓って感じがする。

く：天神山を見る目がちょっと変わったかな。当たり前のようにあるかもしれないけど、実はとってもすごいものなんだよ。

クイズ①：天神山古墳はどんなところがすごいのでしょうか？

(正解は物語の最後にあります)

② 2つ目の秘密「女体山古墳」：地図の②の所を見てく ださいね。

く：2つ目の秘密はこの山だよ。

ア：天神山のすぐそばだね。セブンイレブンのすぐ近くだし、よく通るから知ってるよ。大きさは少し天神山より小さいけど、やっぱりこの山も古墳なの？

く：うん。女体山古墳っていうんだ。「によ」というのは「女」という意味だよ。

チ：どうして女なの？

く：さっき見た天神山古墳のことを別名で男体山なんたいさんというんだけど、「なん」というのは「男おとこ」という意味なんだ。昔の人は天神山古墳と女体山古墳を男と女というセットで考えていたんだね。

ア：なるほどねー。じゃあ今いった名前のことが秘密なの？

く：いやいや、もっと面白い秘密が隠されているんだよ。実は天神山と女体山は、同じ方向ほうこうを向いて作られているんだ。

チ：え、そうなの？でも天神山古墳は何か鍵かぎの穴あなみたいな形をしているから向きが分かるけど、この女体山古墳は丸型で、向きなんてあるの？

く：2人とも、よく見てごらん。女体山の南西、広い道路に近い部分が、帆立貝ほたてがいのようになんか出っ張ぼってるでしょ。

ア：ほんとだー。貝殻かいがらみたいだー。

く：その貝殻の出っ張りが、古墳の向いている方向なんだ。そして、この2つの古墳の先には、有名な妙義山みょうぎさんがあるんだよ。

チ：へ〜。なんか不思議〜！それで女体山は誰だれのお墓なの？

く：はっきりしたことは分からないんだけど、こんなに近くにあるし、向いている方向も同じだから、さっきいった毛野国けのくにの大王みかと深い関係かんけいのある人のお墓だと考えられているんだよ。九合カルタにも「天神は女体にょたいとともに国史跡くにしせき」って読まれているね。

ア：ふ〜ん。この2つの古墳はセットなんだねえ。

石川勝威かつい：セットといえば子どもたちもセットで遊びましたよ。

く：あ、現在69歳（1934年生まれ）の石川勝威さん！

石川：私が子どもの頃ころ、友達何人かで2チームに別れ、天神山と女体山に分かれて基地を作り、戦争せんそうごっこをして遊んだものです。昔は車の通りも少なく、危あぶなくなかったので、行ったり来たりできて、楽しかったですよ〜。

クイズ②：天神山古墳と女体山古墳にはどんな関係があるでしょう？

③ 3つ目の秘密「天神様」：地図の③の所を見てく ださいね。

く：2人とも、3つ目の秘密あんないに案内するよ。さあついて来て！

チ：くーたん、ついて来てっていうけど、ここはさっきの天神山じゃない。天神山にまだ秘密があるの？

く：ふふふ。さてここで質問。天神山は、どうして天神山っていうのでしょうか？

ア：えっ？どうしてっていったって、みんなが天神山っていつてるから天神山なんじゃないの？何か理由があるの？教えてくーたん！

く：じゃあまた石川さんに教えてもらおうか。

石川：こんにちは。石川です。ではみなさん、私について来てください。足元に気をつけてくださいね。

チ：あ、今度は天神山を登っていくんだね。

ア：おー、山を登ったところに神社が現れたよ！

石川：このお宮が天神様です。

チ：天神様？天神様と天神山って何か関係があるの？

石川：はい。この山は、天神様という神様をまつているから、天神山というのです。天神様とは学問の神様である菅原道真のことで。

ア：へ〜。でもここは毛野国の大王のお墓なんですよ。毛の国の大王と天神様は何か関係があるの？

く：多分関係はないんだ。ちょっと難しい話になっちゃうんだけどよく聞いてね。天神様がまつられたのはおそらく数百年前だけど、古墳は1500年も前。つまり、古墳ができてから長い時間が経って、もう誰のお墓だか分からないようになったとき、さあこの辺りに天神様の神社を建てよう、と考えた人がいたんだろうね。そして、ああここは山の上で見晴らしもいいし、よい場所だからここにしよう、ということで建てられたんだと思うよ。

チ：そっかー。知らなかった！ところで、天神様は他の神社みたいにお祭りがあるの？

く：じゃあ今度は、現在67歳（1947年生まれ）の石川幸宏さんに聞いてみよう。

石川幸宏：天神様のお祭りはにぎやかでしたよ〜。お祭りに行くと子どもはお菓子がもらえるので、学校が終ると急いで出かけたものです。今はお祭りに来る人は少なくなりましたが、1月、2月、11月に役員などが集まって行っていますよ。

クイズ③：天神山は、どうしてその名前がついているでしょう？

⑤ 4つ目の秘密「天神山古墳A陪塚」：地図の④の所を見てく ださいね。

く：やっぱり目塚は天神山に関係する秘密が多いね。4つ目の秘密もそうなんだ。

ア：へー、天神山は秘密だらけだねー。

く：でも今度のはちょっとだけ離れた場所にあるんだ。ついて来て！

チ：あ、こんな住宅地の中にいきなり小さな山が現れたよ！知らなかった！なんか秘密の山みたい！大きさは中央小の校庭にあるコンクリートの山より少し大きい

らいかな。

ア：くーたん、もしかして、この山も古墳なの？

く：そうだよ。この山が目塚の四つ目の秘密、^{えーばいちょう}A陪塚だよ！

チ：「エーバイチョウ？」なにその^{へん}変な名前？

く：ふふふ、わからないよね。^{むずか}難しいのでよく聞いてね。「エー」というのはABCの「A」で、「バイチョウ」というのは、大きな古墳にセットとして作られる古墳のことなんだ。天神山古墳にはA陪塚、^{びーばいちょう}B陪塚というセットの古墳があるんだ。

ア：あー、陪塚がいくつもあるからこれはA陪塚なんだね！

く：そうだね。^{ざんねん}残念ながらB陪塚はもう^{けず}削られてしまっていて^{かくにん}確認が難しいんだけど、このA陪塚はよく山が^{のこ}残っているね。そして^{おもしろ}面白いのはこのA陪塚の^{いち}位置なんだ。さあ2人とも、センダンメガネをかけてみて！

シャキ————ン

フワッ

チ：おー、体が空に^う浮かんでいくー！このセンダンメガネすごいねー。

く：さて、2人とも、よく下を見てみて。

ア：わー、やっぱり天神山古墳と女体山古墳は大きいねー。よく^{めだ}目立ってる！

く：A陪塚はどこにあるか分かるかな？

チ：うん、かわいいけど、ちゃんと見えるよ！

く：それでね、よくA陪塚のある位置を見てほしいんだ。

ア：う～ん……あっ！もしかして！天神山古墳を縦半分に真ん中でピーッと切った線と、女体山古墳を横半分に真ん中でピーッと切った線がちょうど合わさるところにA陪塚がある！

く：アーサ、よく分かったね！その通り。A陪塚は、2つの大古墳と何やら深い関係のありそうな位置に作られているんだ。だからここは、何かおまじないのようなことを行った場所ではないかとも考えられているんだよ。

チ：へ～、面白～い！

このA陪塚は見つけるのがなかなか^{むずか}難しいから、友達に教えてあげてね。

クイズ④：^{ばいちょう}「陪塚」とはなんでしょう？

⑥ 5つ目の秘密「目塚の高射砲障地」：地図の⑤の所を見てく ださいね。

く：さあ、5つ目の秘密はついに天神山以外のものだよ。ちょっとイオンに行こうか。

ア：わーい、くーたん、イオンで何か買ってくれるの？

く：ふふふ、まあついてきて。

チ：目塚に近い方だから、ここはイオンの南側だね。へー、こんな芝生の広場があるなんて知らなかった。

く：さあ到着。これが5つ目の秘密だよ。これは何でしょう？

ア：え、なにこれ？コンクリートでできてて、大きくて丸くて平べったい物体だけど。子どもが20人以上乗れそうなくらい大きいね。

く：では2人とも、センダンメガネをどうぞ！

シャキ————ン

ゴゴゴゴゴォ————

チ：うわ～、怖い音、何だー？！

く：これは今から約70年前、戦争の時代だよ。日本はアメリカと戦争をしていて、アメリカの飛行機がみんなの住んでいる九合にまで飛んできて、爆弾を落とっていたんだ。さあ、さっきのコンクリートの物体を見てみて。

ア：あ、物体の上に大砲が乗っかってるよ！周りには兵隊さんがいる！

ドカーン！　　ドカーン！

チ：あ、撃った！すごい音だ～！

く：今、みんなのしている大砲は、高いところの飛行機を射撃する大砲ということで、高射砲というんだ。そして高射砲を置いた陣地を高射砲陣地、と呼んだんだ。高射砲陣地は、アメリカの飛行機を撃ち落とすために、戦争中に日本各地に作られたんだよ。九合地区では、小舞木と目塚に作られたんだ。目塚の陣地は女体山古墳の北側からずーっと北のイオンの辺りまで広がっていたんだ。そしてずっと後になってイオンを作るときに、高射砲の台の跡が6つ発見され、貴重な物だということでそのうち1つを保存したんだ。じゃあセンダンメガネを外して。

シャキ————ン

ア：あー、怖かった！そっかあ、それが今でもこうやってイオンの中に残されているわけだねえ。

く：うん。そうだ、高射砲陣地のことを知っている、現在84歳（1929年生まれ）の町田安子さんにちょっとお話を聞いてみようか。町田さん、お願いします。

町田：こんにちは、町田です。私は女体山古墳のすぐ西で生まれ育ち、高射砲陣地もすぐそばにありました。陣地へは一般の人は入れなかったので中のことはよく分かりませんが、陣地で働いている兵隊さんの姿が見え、私たちがアメリカから守ってくれると思ひ、頼もしく感じました。しかし、いざアメリカの飛行機がたくさん飛んできた昭和20年2月10日の大空襲のとき、高射砲は全然飛行機まで届かず、たくさんの爆弾が新島や目塚に落とされました。その時、私の家のすぐそ

ばにも落ちて、私の家は壊れ、蓄えておいた食べ物も着る物も飛ばされ、井戸もつぶされて水もなく、一瞬にしてどん底に突き落とされてしまいました。2月だったので寒くて、それはそれは苦労しましたよ。

チ：町田さん本当に大変だったんだね……。目塚にも戦争があったんだ。

く：うん。高射砲陣地があったこと、そして爆弾が落とされて大変な目にあった方がいたということ、忘れないでね。イオンの高射砲の跡も、他のみんなに教えてあげてね。

クイズ⑤：高射砲陣地は何のためにあったのでしょうか？

⑦ 6つ目の秘密「幻の浄土寺」：地図の⑥の所を見てく ださいね。

く：さあ6つ目の秘密にレッツゴー！

ア：ここは東武小泉線の線路のそばだね。

く：さあ着いたよ。

チ：え、お墓だよ。これが秘密なの？

く：そうなんだ。今はお墓だけなんだけど、、、。じゃあセンダンメガネをかけてみて。

シャキ————ン

ゴォ————

ア：うわ～、火事だ～。

チ：大変だ、お寺が燃えてる！

く：はい、センダンメガネを外して！

シャキ————ン

ア：あー、怖かった。くーたん、一体何だったの？さっきの火事は。

く：じゃあまた町田さんに教えてもらおうね。

町田：また町田です。ここは今はお墓だけなんですけど、言い伝えによると、昔は浄土寺という名前の立派なお寺があったそうです。それがいつの時代かに火事で燃えてしまって、それ以来お墓だけが残ったということです。

チ：へー、確かに、すごく立派な石塔もあるもんねえ。

く：そして、言い伝えが本当だったことを示す証拠を見つけたんだ！太田市の図書館にある江戸時代に書かれたこの辺りの絵図があるんだけど、なんとその中にちゃんと「浄土寺」というお寺が書かれていたんだよ！

ア：わー、すごーい！歴史のロマンだね！それに、町田さんはよく言い伝えを覚えていてすごいね！

クイズ⑥：言い伝えによると浄土寺跡は、どうして今はお寺がなくてお墓だけなのでしょう？

⑧ 7つ目の秘密「旧館林県道」：地図の⑦の所を見てく ださいね。

く：さあ、目塚最後の秘密だよ。また天神山に戻ろう。

チ：えー、また天神山？

く：2人とも、天神山と女体山の間を通るこの広い道ってなんていうか知ってる？

ア：これって西にずーっと行くとジョイフルホンダに行くんでしょ。

く：よく知ってるね。もっと西へ行けば前橋まで行くだよ。県道2号線と呼んだり、また東へ行くと館林方面へ行くので、県道館林線と呼んだりするんだ。この道は今から80年くらい前（1934年）に、今のように広く真っ直ぐにしたんだ。当時はまだ砂利道だったんだけどね。その前は、もっとせまくて曲がりくねった道があったんだよ。昔は今のようにいい道がたくさんあったわけじゃないから、ここから館林方面へ行く人は、何百年も前から、みんなその道を通っていったんだ。

チ：ふーん。でも何百年も前の道なんて今はもうないんでしょ。

く：確かに、新しい道ができたから、あまり使われなくなってしまったんだ。でも、実はところどころに残っているんだよ。それが7つ目の秘密！

ア：えー、どれがそうなの？

く：地図でいうと天神山の上側、方角でいうと北側の道のはたに大きな榎の木が1本あるでしょ。そこのところから東側にぐるっと天神山を囲うようにまわっている道がそうなんだ。

チ：うん、確かに曲がっていてなんとなく古い雰囲気があるね！

く：そのあと少し消えてしまうんだけど、またセブンイレブンのすぐ裏に現れるんだ。そして広い道を越えてさらに東へと向かっていくんだよ。

ア：へ～、何百年もの歴史がある古い道が残されているなんて面白いねー。

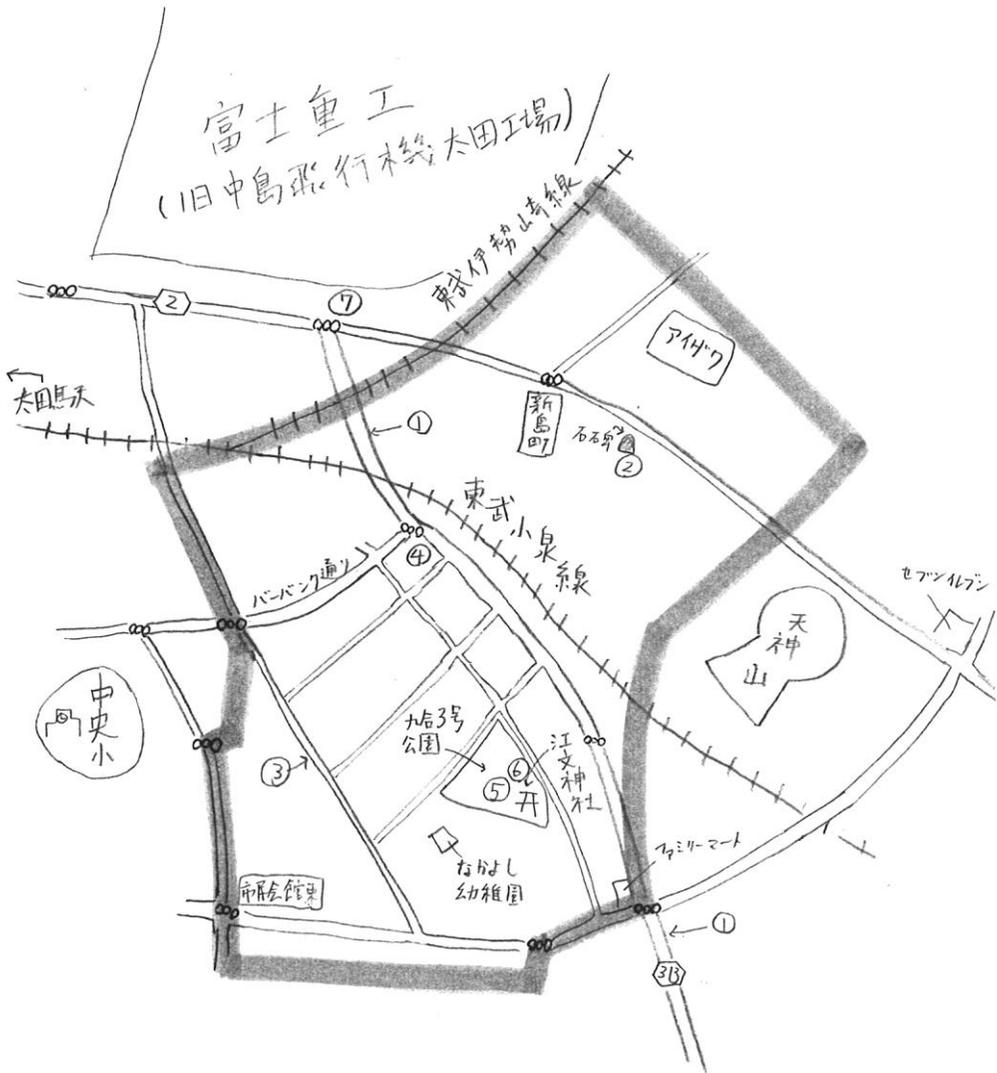
クイズ⑦：天神山と女体山の間を通る県道2号線は、今は真っ直ぐだけど、かつてはどんな道だったのでしょうか。また今でも残っているのでしょうか。

☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということを感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

新島町

7つの秘密の地図

- ① 専用道路
せんようどうろ
- ② 九合最大の空襲被害
くあいさいだい くうしゅうひがい
- ③ 新島銀座と小泉県道
にいじまぎんざ こいずみけんどう
- ④ 観音堂と大吉庵
かんのんどう だいきちあん
- ⑤ 江文神社の松
えぶみじんじゃ まつ
- ⑥ 一配森稲荷
いっばいもりいなり
- ⑦ 追分地蔵
おいわけじぞう



新島町物語

今日は新島町の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ——！！

① 1つ目の秘密「^{せんようどろ}専用道路」：地図の①の所を見てく ださいね。

くーたん：2人とも「専用道路」って聞いたことあるかな？

アーサ：知ってるよ！すごく広い道路だよ。

チュート：まっすぐ行ったらところにスバルの工場がある道！

く：当たり！この道は長さが5kmもあって、道の幅も30mくらいある、すごく大きな道路なんだ。

この道路はね、昔・・・

チ：知ってるよ！昔、^{ひこうき}飛行機が通っていたんでしょ？

ア：そうなの！？すご——い！！

く：よく知ってたねえ、チュート！九合カルタにも

「その昔 ^{ひこうき}飛行機運んだ ^{こうえん}公園通り」とあるね。

昔太田に、^{なかじまひこうき}中島飛行機という戦争のための飛行機を作る大きな会社があったんだ。そして今から75年くらい前（1941年）、中島飛行機の太田工場と小泉工場の間に、^{おおたひこうじょう}太田飛行場ができたんだ。この飛行場に2つの工場で作った飛行機を^{はこ}運ぶためにできた道が、この「専用道路」と呼ばれる道なんだ。中島飛行機の専用道路という意味で、この道をたくさんの飛行機が通っていたんだよ。

チ：おじいちゃんに写真を見せてもらったことがあるんだ。

飛行機が自動車に引かれていたんだけど、飛行機は反対向きで後ろの翼が前を向く向きで引かれていたよ！

ア：この道に飛行機かあ・・・あ、そうだ！センダンメガネ！！

シャキ————ン

ア：わああああ！おっきい飛行機！

道路で、飛行機が自動車に引かれているところを見るのなんて初めて！

チ：なんだかわくわくしちゃうよなあ！

く：うん。名前は「公園通り」に変わったけれど、今でもこの大きな道は残っているね。

作ったそのときは、こんなに大きな道路はほとんどなかったんだよ。

それでね、地図を見てもらえばわかるんだけど、新島町の道は東西南北ではなくて、斜めになっているんだよ。

ア：本当だ！道路がみーんな専用道路と同じ方向に伸びているね。

く：うん。みんな、専用道路ができたあとにそれに合わせて作った道だからね。

チ：これからこの道通るとき、飛行機のこと考えちゃうなあ。

クイズ①：「専用道路」という名前は どうして ついた の でしょう か？

(正解は物語の最後にあります。)

② 2つ目の秘密「九合最大の空襲被害」：地図の②の所を見てね。

ア：次の秘密はこの石3つ??何か文字が掘ってあるけど。

く：うん、この石碑が何で秘密なのかわかるかな？

チ：3つ石のうち左の1つが半分くらいで大きく欠けているから、えーと、えーと・・・

く：これはね、戦争の被害の恐ろしさを表しているんだよ。センダンメガネをかけてごらん。

シャキ————ン

ゴゴゴゴ————

ドカーン

ドカーン

ドカーン

ア：うわー、なんだー！こわーい！

く：はい、もうメガネを外して！

シャキ————ン

く：新島町はね、中島飛行機の太田工場のすぐそばにあったために、九合で、いや太田で一番といてもいいくらいの空襲被害を受けたところなんだ。今から約70年前の昭和20年2月10日に太田大空襲があって、そのとき100機近いB29がやってきて、太田工場を爆撃したんだ。その日は冬晴れで、また強い西風が吹いて、最初の攻撃で工場から出た煙が、東にある新島へ流れてきてしまったんだよ。後から続いた攻撃は、煙のあるところが工場だと思って煙の上に爆弾を落としたものだから、新島には数え切れないほどの爆弾が落とされたんだ。そして、たくさんの方が亡くなったんだよ。

チ：そうなんだ・・・戦争って怖いなあ。さっき、専用道路に飛行機が通るのを見てわくわくしちゃったけど、やっぱり戦争はわくわくどころじゃないね！

この石が欠けているのも、その大量の爆弾のせいってわけだよな。

く：そうだよ。すぐ近くに落ちた爆弾のために砕けてしまったんだ。

ア：石がこんなに大きく欠けちゃうんだから、すごい威力だったんだらうね。

く：うん。このすぐ近くに住んでいる現在76才の木村秀雄さん（1937年生まれ）のお宅にも、そのとき爆弾の破片が飛んできたんだ。屋根を突き破って柱をえぐり、床を突き抜けて地面に落ちたというんだ。木村さんは、家を建て替えるときにその柱の傷のある部分を切り出して、今でも歴史の証として保存しているんだって。

チ：そうなんだ。戦争のことってやっぱりみんなも興味あることだし、今度見せてもらいに行ったりしてもいいかな。

く：えらい！戦争のことは、ぼくももっとみんなに伝えていかなきゃと思う。そうだ、戦争のときの子どもたちのことを、現在82才（1931年生まれ）の森尻紀三さんに教えてもらおう。

森尻：こんにちは、森尻です。私が九合小の6年生のとき、戦争が激しくなり、学童動員といって、子どもたちも中島飛行機で働かされたんですよ。ですから勉強どころではなかったですね。

ア：そっかー、子どもたちも巻き込まれちゃったんだね。やだなあ戦争って。今こうやって学校へ行って、勉強したり遊んだりしたりできるって、幸せなことなんだね。

く：ほんとだね。新島町の空襲のこと、現在81才の倉林三江（1932年生まれ）さんにお話を聞いてみようね。

倉林：こんにちは。倉林です。

わたしは空襲のとき防空壕に非難したんだけどね、空襲が終わって外に出てみたら、ひどい光景に目を疑ったよ。地震の映像は見たことあるかい？

ア：うん。怖かった。

倉林：そうかい。あの地震の跡みたいなの、大津波に襲われたような状況だったよ。家は爆弾の爆風で突き抜かれて柱だけになっているし、電柱は倒れ、町のところどころに爆弾の大穴が開いていて、防空壕に逃げ損ねた人たちがあちこちに倒れて死んでいたんだ。

チ：うわ～。

倉林：戦争が終わってしばらくして、区画整理といって道を整理することになったけど、そのときに家の裏にあった大きな杉の木を切ることになって、製材屋さんに製材を頼んだけど、新島の木は爆弾の破片がささって、切断する機械を傷めてしまうから、だめだって断られてしまったんだよ。

それだけ新島の空襲のひどさは有名だったということさ。

く：戦争の恐ろしさを思い出しました。ありがとう、倉林さん。

クイズ②：どうして石碑は砕けてしまっているのでしょうか？

③ 3つ目の秘密「新島銀座にいしまぎんざと小泉県道こいずみけんどう」：地図の③の所を見てく ださいね。

く：じゃあ3つ目の秘密に案内あんないしようね。はい、着いたよ。

ア：この場所に、何かあるの？秘密らしきものは何もなさそうだけど・・・

チ：でも、なんだか斜ななめな道だねえ。あ、道のむこうに富士重工ふじじゅうこうの建物とマークが見える！

く：いいところに気がついたね。じゃあ、セندانメガネをかけてみて70年前に行ってみよう！

シャキ————ン

ア：ここ、さっきの場所と同じ場所だよな？

チ：そうだよ！だってこの斜めの感じが同じだ。

でも同じ場所にしては八百屋、魚屋、肉屋、洗濯屋せんたくや、お菓子屋、酒屋、豆腐屋とうふや、雑貨屋ざっかや、タバコ屋、下駄屋げた、飲み屋しよくだう、食堂せんどう、銭湯・・・ってたくさんのお店がある商店街で、今とは全然ぜんぜん違うよ！

く：そう、ここは昭和6,7年頃できた県道なんだけど、たくさんのお店が並んで東京の銀座のようだからということで、新島銀座って呼ばれていて、戦後までにぎやかだったんだ。

中島飛行機が盛んになった昭和の初めころから、中島飛行機のすぐ近くということで、新島は中島飛行機社員の住む町になったんだ。農家は物置ものおきを住居用じゅうきように貸し出したり、アパートを建てたりし、新島の人口は急に膨ふくれ上がったんだよ。その変化のスピードはものすごく、それまでは本当に農家ばかりの農村のうそんだったのが、一気に町になってしまったんだ。じゃあセندانメガネを外して！

シャキ————ン

ア：それにしても、飛行機のおかげで町まで変わっちゃうなんて、不思議ふしぎ！

岡：でしょう？

チ：え？？？

岡：ははは、こんにちは。わたしはこの新島に住む、現在80才おかしょうじろうの岡庄次郎(1933年まれ)です。この頃、もともと農家ばかりだった新島に、全国から色々な人が移り住んできたため、新しい考え方がたくさん入ってきたんだ。それまで新島には「寮りょう」という集会施設しゅうかいしせつがあって、戦時中にそれに代わる施設が建てられたんだけ

ど、その名も「公会堂」といって、新しい感じがすごくしていたんだ。それはそれは近代的な建物だったんだけど、残念なことに昭和20年2月10日の空襲で壊れてしまったんだよ。

チ：ふーん、飛行機の工場ができたり、大きな道路ができたり、新しい建物ができたり、なんだか新島はすごいスピードで変化していったっていうのがわかるよ。

岡：そうだね。とにかく新島は、中島飛行機という存在のために九合の中でも特殊な状況にあったんだよ。

クイズ③：新島銀座はどうしてできたのでしょうか？

④ 4つ目の秘密「観音堂と大吉庵」：地図の④の所を見てく ださいね。

く：ねえ2人とも、かつて九合村をつくっていた9つの地区の中で、新島だけにはお寺がないって知ってた？

ア：えー、知らなかった。どうして他の地区にはあるのに新島だけにはないんだろう？

チ：あれ、でもお寺みたいな建物見たことあるよ！

く：そうだね。専用道路とバーバンク通りが重なるところからちよっと南に、小さなお堂があるね。これは大吉庵というんだけど、建物の中には阿弥陀様と観音様という2つの仏様の像がまつてあるんだよ。そしてこの大吉庵をめぐって、不思議な秘密があるんだ。ちょっとこれを見て。

ア：ん、なんか古い地図みたいだね。

く：うん。これは江戸時代のこの辺りの地図なんだけど、新島町のところをよく見て。

チ：あ、大吉庵って書いてある！すごい、大吉庵は江戸時代からあるんだね！

く：もう1つ何かあるでしょ。

ア：あ、観音堂っていうのもあるよ。

く：そうなんだ。今は新島の中に観音堂というものはないんだけど、江戸時代には確かにあったらしいんだ。でも、今じっさいに大吉庵の中に観音様があるわけだよね。ちょっと不思議だと思わない？

チ：うん。観音堂はどこにいったんだらう？

く：ここからは木村さんに聞いてみようね。

木村：こんにちは。木村です。大吉庵と観音堂については、新島町の最大のナゾといってもいいくらいです。私の考えでは、江戸時代にあった観音堂は、いつの頃に壊れてなくなってしまって、行き場所のなくなった観音様を、同じ仏教の建物である大吉庵に入れてあげた、ということではないかと思います。

ア：じゃあもう1つの阿弥陀様はどこから来たの？

木村：おそらく、阿弥陀様は最初から大吉庵に入っていたのではないのでしょうか。

チ：なるほど一、大吉庵には最初は阿弥陀様1人だけだったけど、途中で観音堂がなくなっちゃったから2人が入ることになったんだね。

木村：私はそう考えています。ところで、阿弥陀様については分からないのですが、新島の人たちは、昔からこの観音様を大切にしてきました。毎年11月に観音様のお祭りがあり、各家から少しずつお米を集めて、赤飯を蒸かして、観音様にお供えしたり、みんなで食べたりしました。そしてこのお祭りは今でも続いているんですよ。

ア：へー。新島にはお寺はないけど、昔から観音様を大切にしてきたんだね。

クイズ④：どうして大吉庵には現在、観音様と阿弥陀様の2つが入っていると考えられますか？

⑤ 5つ目の秘密「江文神社の松」：地図の⑤の所を見てく ださいね。

ア：次の秘密はなあに？くーたん！

く：次の秘密はね、この江文神社の西側にある九合3号公園の中にあるんだよ。

チ：神社の近くで、いかにも秘密がありそうだね！

く：ふふふ、そうだね。実ね、この松の木が秘密なんだ！ほら、見て見て！

チ：うわ—————！！

ア：大き—————い！！

く：すごいでしょ！！ふたりで木の幹を抱えてごらん！

チ：うわ！アーサの手まで全然届かないよー！

ア：ほんとだ、全然届かないー！こんなに太いってことは長生きしてる木なんでしょ？

く：そうだよ！この黒松3本と赤松2本は、人間よりずっと長く生きていて、もう100歳は軽く超えているといわれているんだよ！

チ：100歳！もうおじいさん、おばあさんなんだね！

く：そうだね。昔からの木をこうやって残してある神社は珍しいんだよ。実はね、今ある江文神社の建物はもともとこの松の木のすぐ北側にあったんだよ。それが、土地をきれいに整えたときに、今の場所にうつされたんだ。

ア：じゃあこの松の木は、昔の江文神社の場所を教えてくれてるんだね！

く：そういうことになるね。

チ：昔から変わらずここにある松の木をこうやって抱えていると、不思議な気持ちになるなあ。

クイズ⑤：江文神社の松の木はどういうところがすごいですか？

⑥ 6つ目の秘密「一配森稲荷」：地図の⑥の所を見てく ださいね。

チ：くーたん、早く次の秘密を探しに行こうよ！

く：チュート、やる気満々だね！実は6つ目の秘密もここ江文神社にあるんだよ！

ア：え、この大きな松の木以外にも、まだ秘密が隠れているの？さすがは神社だね。

く：そうだよ！ほら、見て！江文神社の建物の向かって左の奥に何か見えない？

チ：うーん、、あ！ここにも神社がある！

く：うん。これが6つ目の秘密、一配森稲荷と呼ばれる神社だよ。もう少し近づいてみようか。

ア：あ、だれかいるよ！

く：あ、あれは現在85才の中島儀雄さん（1928年生まれ）だ。中島さーん、この稲荷様の秘密を教えてください！

中島：やあやあこんにちは。この稲荷様はね、とっても古くからあるんだけど、毎月1日には芸者さんたちがお参りに来たんですよ。

く：じゃあ2人とも、センダンメガネをかけてごらん！80年前の様子を見てみよう！

シャキ————ン

チ：あー、時代劇のような髪の毛で、きれいな着物を着て、顔を白くお化粧した女の子たちが稲荷様にお参りしてるね。女の子たち、稲荷様に油揚げを上げてる。

ア：ん、女の子の人が帰ったら、子どもたちが油揚げをとって食べてるよ！え、いいの！？

く：じゃあセンダンメガネを外して現代に戻って、中島さんに説明してもらおう！

シャキ————ン

く：中島さん、どういうことなの？

中島：はっはっは。それは私の子どもの頃のことですね。この女の子たちは、太田駅の近くや浜町などにいた芸者さんです。芸者さんというのは歌や踊りでお客さんを楽しませるお仕事的女性です。その方々がこの稲荷様を大事にされていて、毎月1日にその月の商売繁盛をお願いして、お賽銭や油揚げをお供えしていったんですよ。

ア：へー、芸者さんがいたんだねー。

中島：中島飛行機で働く人たちがたくさんいましたから、芸者さんたちも仕事があっ

たんですね。

チ：でもどうして油揚げをお供えするのかな？

中島：稲荷様というのはキツネと関係する神様で、キツネは油揚げが好物だと考えられているからですね。そして、そのお供えされた油揚げを、後で私たち子どもが下げて食べたものです。

く：当時は油揚げをもらうことは、悪いことではなく、上がっているものは頂いてもよかったんだってさ。みんなは他のところで真似しないだね。

クイズ⑥：毎月1日の稲荷様のお祭りにはどういう人がお参りにきたでしょうか？

⑦ 7つ目の秘密「追分地蔵」：地図の⑦の所を見てく ださいね。

く：新島町最後の秘密は、富士重工のすぐそば。こちらです。

ア：ん、道端の小さな屋根の下にいるのは、お地蔵さんかな。

く：そうだね。これは太田市指定の文化財にもなっている、追分地蔵様だよ。

チ：追分って？

く：じゃあセンダンメガネをかけてみよう

シャキ————ン

ア：あ、さっきは大きい道の端だったけど、今度はお地蔵さんが2つの道の分かれ道に立ってるよ！

く：そう。2つの道の分かれ目のところを追分っていうんだよ。そしてこのお地蔵さんは、追分に立っていたから追分地蔵様なんだ。

チ：なるほどねー。昔は追分に立ってたんだね。でもどうして今は追分じゃないの？

く：うん。今から80年くらい前（1934年）に中島飛行機の工場が広がったときに、追分がなくなっちゃったんだ。その関係で、いまお地蔵様が立っているところは東本町になっているけど、それまでは新島町だったんだよ。

ア：そっかー。ところで、お地蔵さんの隣の石に、右たてばやし、左日光って書いてあるけど、これって道案内をしてるの？

く：アーサ、するどいね！ そうなんだ。追分というのは分かれ道だから、このお地蔵様は道案内をしていたんだよ。右の道へ行くと館林へ行くし、左の道へ行くと日光へ行くということなんだ。昔はみんな歩いて旅をしたから、こうやって地蔵様が道案内してくれたら安心しただろうね。

チ：そうだねー。

く：ちなみに、左の日光へ行く道は、「日光例幣使道」という有名な道なんだ。ちよっ

と難^{むずか}しいからここでは説明しないけど、興味があったら調べてみてね。

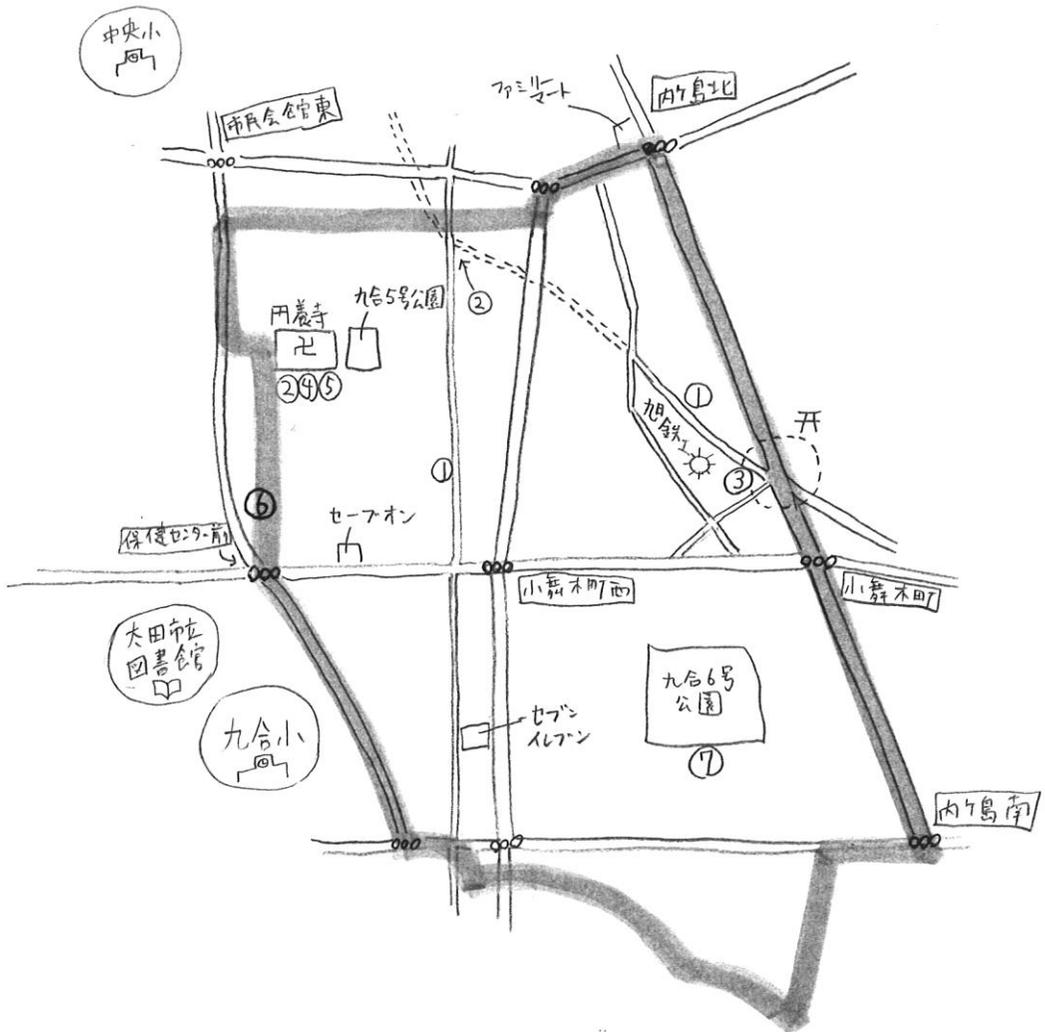
クイズ⑦：追分地藏様はどんな役割をもっていたでしょう？

☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということを感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

小舞木町

7つの秘密の地図

- ① ^{ほん ふる みち} 2本の古い道
- ② ^{こま いき じぞうさま} 小舞木の地藏様
- ③ ^{まぼろし こま いぎ じんじゃ} 幻の小舞木の神社
- ④ ^{えんようじ いっさいきようさま} 円養寺の一切経様
- ⑤ ^{えんようじ ほんしょう} 円養寺の2つの梵鐘
- ⑥ ^{こんびらさま} 金比羅様
- ⑦ ^{こま いぎ こうしゃほうじんち} 小舞木の高射砲陣地



小舞木町物語

今日は新島町の秘密を探しに行くよ！

せんだんさんにもらった秘密の地図とセンダンメガネの用意はいいかな？

それでは、レッツゴ————！！

① 1つ目の秘密「2本の古い道」：地図の①の所を見てく ださいね。

アーサ：ねえくーたん、小舞木町ってさあ、どこまでいっても真^まっ直^ちぐの道路ばかりだよ。

くーたん：そうだね。でも昔は、車が通れるような広い道は2本しかなかったんだよ。

チュート：え？今はこんなにたくさんあるのに？どうして？

く：ちょっと2人とも、センダンメガネをかけてごらん。

シャキ————ン フワッ

チ：おー、体が空に浮かんでる！センダンメガネすごいねー！

ア：くーたん、やっぱり小舞木町は空から見てもタテヨコに真^まっ直^ちぐの道だらけだね。

く：ふふふ。メガネをもう1度かけ直してみて！

シャキ————ン

チ：あれー、あんなにあつた道がたった2本になっちゃった！

く：そう。これは100年前の小舞木町の姿なんだけど、かつての小舞木町には大きな道はこの2本しかなかったんだ。1本は新島町からきて内ヶ島町へと続く斜めの道で、小泉^{こいずみ}という所へ向かう県道だから、小泉^{こいずみ}県道^{けんどう}などと呼ばれていたんだ。もう1本は特に名前はないんだけど、新島方面からまっすぐ南に飯塚町へ向かう道だよ。

ア：へー、今はあんなにたくさんある広い道が昔は2本しかなかったなんて信じられない。

く：約50年前（1965年頃）に行われた区画^{くわく}整理^{せいり}によって、新しくたくさん^の道^がができたんだよ。でも、その昔の2本の道が今でも残^{のこ}っているんだ。

チ：え、そうなの！？道^ががたくさんあり過^すぎてどれだか分からないよ。

く：じゃあメガネを外して現代へ戻ろう。

シャキ————ン

く：教えてあげるね。南へまっすぐ向かう道はほとんどそのまま残っているよ。「小舞木町西」の信号とかセブンイレブンとかゴールウェイのある広い道の1本西の道

がそうだよ。かつて子どもたちはこの道を通って九合小に通ったんだ。もう 1 本の小泉県道は区画整理でほとんど消えてしまったけど、実は一部分だけが残っているんだけど分かるかな？

ア：えーと、、、 あっ、もしかして！小舞木町の東端のところに、ここだけものすごく斜めになって内ヶ島へ向かう道がある！これでしょ！

く：ピンポーン！アーサ、よく分かったね。高澤^{たかざわ}豊店^{わたたみてん}や旭^{あさひ}鉄工^{てつこう}のある道だね。歩いてみるとよく分かるけど、他の道はタテヨコに真^まっ直^すぐなのにここは斜^{なな}めになってるね。

チ：道なんてみんな同じかと思っていたけど、実は小舞木町には 100 年以上前からある歴史^{れきし}のある道^{みち}が隠^{かく}されていたんだね！おもしろーい！

く：あともう 1 つ。これは難^{むずか}しい話^わになっちゃうからみんなに分かるかどうか。もし分かったら九合^{くあい}博士^{はかせ}だね。2 本のうちの小泉^{こいずみ}県道^{けんどう}は、新島^{しんじま}から来て内ヶ島へ向かうっていったでしょ。だから実は、新島町と内ヶ島町それぞれの 7 つの秘密^{ひみつ}の 1 つにもなっているんだ。こんど地図^{ちず}を見ながらどれが小泉^{こいずみ}県道^{けんどう}か見^みつけて、実^{じつ}際^{さい}に歩いてみてね。どの町内^{まちうち}もすごく斜^{なな}めな道^{みち}で面白^{おもしろ}いよ。

ア：へー、じゃあ小泉^{こいずみ}県道^{けんどう}が分かると、新島^{しんじま}、小舞木^{こまぎ}、内ヶ島^{うちがしま}の 3 つの秘密^{ひみつ}が分^わかっちゃうんだね。こんど友達^{ともだち}と歩いてみよーっと！

クイズ①：小泉^{こいずみ}県道^{けんどう}を探^{たず}ねするときの手^てがかりはどんなものがあるでしょうか？

(正解は物語の最後にあります。)

② 2 つ目の秘密^{ひみつ}「小舞木^{こまぎ}の地蔵^{ぢざう}様^{さま}」：地図^{ちず}の②のところを見^みてく ださいね。

ア：くーたん、ここは小舞木^{こまぎ}のお寺^{てら}の円^{えん}養^{よう}寺^じだよ。ここに 2 つ目の秘密^{ひみつ}があるの？

く：そうだよ。この円^{えん}養^{よう}寺^じの門^{かど}の左^{ひだり}側^{がわ}に立^たっている大き^{おほ}なお地蔵^{ぢざう}様^{さま}が 2 つ目の秘密^{ひみつ}なんだ。

チ：どうして？確^{たし}かに大き^{おほ}なお地蔵^{ぢざう}様^{さま}だけど、お地蔵^{ぢざう}様^{さま}は他^{ほか}にもた^たくさんあるんじゃない？

く：このお地蔵^{ぢざう}様^{さま}はね、昔^{むかし}は違^{ちが}う場所^{ばしょ}にあ^あったんだ。はい、センダンメガネ^{せんたんめがね}かけてみて。

シャキ————ン フワッ

ア：あれ、ここはさっき見た 100 年前^{じゅうきゅうねん}の小舞木^{こまぎ}町^{まち}の上^{うへ}空^{そら}だねえ。

チ：ん、さっきの 2 本の道^{みち}が交^{まじ}わっているところに人^{ひと}がた^たくさん集^{あつ}まっているみたい。降り^おりてい^いってみようよ！

ア：わっ！さっきお寺の門の前にいたお地藏さんだ！

く：そう。この2本の道の交差点こうさてんが、お地藏様のももとの居場所だったんだ。昔は今と違って大きな道が少なかったし、案内板あんないばんもそんなになかったから、道の交差点にはこうやって道案内みちあんない地藏様じぞうさまが置かれることが多かったんだよ。ほら、お地藏様の足もとをよく見てみて。

チ：あ、右とか左とかって書いてある。

く：これは右の道へ行くと現在の国道407号線ごうせんへ向かい、左の道へ行くと館林たてばやしへ向かうという意味なんだ。

ア：昔は車も自転車じてんしゃもなくてみんな歩きだったんだらうから、こうやって優しいお顔のお地藏様が道を教えてくれたら安心しただらうね！

く：そうだね。この辺あたりでは「小舞木の地藏様」っていえば有名だったんだ。さっきいった区画整理くかくせいりで昔の交差点こうさてんがなくなってしまったから今の場所に移動したんだけど、みんなにはこのお地藏様の歴史れきしを知っていてほしいんだ。しかもこのお地藏様が作られたのは1716年。今から300年も前なんだ。

チ：うわー、そんなに古いものなんだ。小舞木にはすごい秘密があるんだね！

クイズ②：小舞木の地藏様は昔、どんな役割やくわりを果たしていたのでしょうか？

③ 3つ目の秘密「まぼろしの賀茂神社かまじんじゃ」：地図の③の所を見てく ださいね。

ア：ねえくーたん、九台の他の地区にはみんな神社があるのに、どうして小舞木だけないの？

く：アーサ、よく気がついたね。飯塚町いげらじんじゃには長良神社、新井町はちまんさまには八幡様、というように、各地区にはそれぞれ神社があるんだけど、小舞木町だけは「今は」ないんだ。

チ：「今は」ってことは昔はあったってことなの！

く：それが3つ目の秘密だよ。はいセندانメガネどうぞ！

シャキ————ン

ア：あれれ、またさっきの100年前の空の上だよー？

チ：ん、今度は2本の道のうち斜めななの小泉県道こいずみけんどうの東の端っこあたりに人がたくさん集まってるよ。降りていってみよー！

ア：おー、神社だー！神社のお祭りなんだね。みんな楽しそう！でもくーたん、どうして100年前には小舞木に神社があるのに今はないの？この場所は今、普通ふつうの住じゆう宅地たくだよねえ。

く：じゃあ今度はセンダンメガネを外してみて。

シャキ————ン

チ：ん、ここはどこ？ここも神社みたいだけど。あれ、すぐ目の前に九合小学校があるよ。

く：うん。ここは昔じゃなくて、現在の飯塚町の長良神社だよ。ここに小舞木の神社の秘密があるんだ。ここからは小舞木の長老、現在 94 才 (1919 年生まれ) の清水旭さんに教えてもらおう！

清水：ほっほっほ。こんにちは。清水です。この秘密を知っている者も少なくなりました。

こっちへきてごらん。ほら、長良神社に向かって右側に並んでいる石碑の 1 つ。文字が読めるかい？

ア：んー、ちょっと難しいなあ。清水さん、なんて書いてあるの？

清水：「賀茂神社社殿遺跡」。ここに昔、賀茂神社の建物がありましたよ、という意味です。

この賀茂神社が小舞木の神社だったのです。

チ：え？ということは、飯塚の長良神社の中に小舞木の賀茂神社があったってこと？なんか変だなー。

清水：ちょっと難しくなかったかな。よく聞いておくれ。明治時代の終わり、私が生まれる何年か前に、国から、小さい神社はいくつかまとまって大きな神社になるか、大きい神社と一緒にになりなさい、という命令が出たのです。だから小さな小舞木の賀茂神社は飯塚の長良神社と一緒にになったというわけです。そのため、もと賀茂神社があった場所は空っぽになってしまいました。でもわたしが子どもの頃は、神社の建物はなかったで

すが、まだ庭がそのまま残っていて、古い石塔などがいくつも置いてありました。

この様子を覚えている人は今ではほとんどいないと思います。

ア：へー、さすが長老の清水さん！なるほど、ほんとに昔は小舞木にも神社があったんだ。じゃあ今ここにある賀茂神社の石碑は、もしかして、

清水：そうです。これは区画整理で道が変わってしまうまでは、もともと賀茂神社があった小泉県道に面して置かれていたものです。

チ：そっかー。ナゾが解けたよ。でも、神社って地域の人にとって大事なものでしょ。それがなくなっちゃうなんて、その時の小舞木の人たちは悲しかったんじゃないの？

清水：それは当時の人たちに聞いてみないと分からないですが、長い間そこにあった

地域の守り神の神社がなくなってしまうのだから、悲しい思いをした人も多かったと思いますよ。でも、実は賀茂神社は本当になくなってしまったわけじゃないんです。

ア：え、どういうこと？

清水：長良神社の正面の建物の右手側にもう1つ建物があり、この中をのぞいてみると古い木のお宮が2つありますね。このうち、向かって右側のお宮が、実は小舞木から来た賀茂神社なのです。

チ：えーっ、この古そうなお宮がそうなんだ。今でもちゃんと残っているんだね！

清水：そうです。小舞木町内にはなくなりましたが、ずっとこうして残っているんですよ。もうみんなのお父さん、お母さんたちも知らないかもしれませんね。ぜひうちに帰ったら小舞木の神社の秘密を教えてくださいね。

クイズ③：どうして今は小舞木には神社がないのでしょうか？

④ 4つ目の秘密「円養寺の一切経様」：地図の④の所を見てく ださいね。

ア：くーたん、ここはさっききた円養寺だよ。ここに4つ目の秘密があるの？

く：そうだよ。ところで、みんなはお経って知ってる？

チ：お経ってナンマイダーナンマイダーとかってお坊さんが唱えるものかな？

く：そうだね。仏様の教えを書いたものなんだけど、お経というのはものすごくたくさん種類があるんだ。そのすべてのお経を一切全部集めたお経セットのことを、「一切経」っていうんだよ。それがこの円養寺にあるんだ。

ア：へー、一切全部のお経だから一切経かあ。どれくらいの量になるんだろう。

く：じゃあここからは現在70才の磯崎和尚さん（1943年生まれ）に教えてもらおうね。

磯崎：こんにちは。住職の磯崎です。一切経は本の形になっているのですが、1000冊以上にもなります。大変な量になりますので、これがあるお寺というのは珍しいんです。しかもこの円養寺の一切経は、今から約300年も前に京都のお寺から買い取ったもので、とても古く、貴重なものです。

ア：おー、珍しいもので、しかも300年も昔のものだなんて、円養寺にはすごい宝物があるんだねー。

く：2人とも、ここでセダンメガネをかけてみようか。和尚さんも一緒にタイムスリップお願いしまーす！

シャキ————ン

チ：ん、お寺の中に人がたくさん集まって、何か本みたいなものをパタパタ団扇で扇いでるね。

磯崎：これは昔の円養寺のお盆の様子でして、皆さんは一切経を扇いでいます。小舞木の村人たちは、昔からこの一切経のことを、一切経様と読んで、お経自体を仏様のよう大切に扱っていたんです。だからこうやって毎年お盆になると、村の人が集まって、虫に食われたりカビが生えたりしないように、それぞれの本を広げて団扇で扇いで風を当て、お経がカビたり虫に食われたりしないようにしていたんですよ。

チ：へー、面白い風習だなー。あれ、今度はお坊さんが村の人の頭の上にお経をかざしているよ。あれは何をしているの？

磯崎：昔の小舞木の人たちは、一切経様にはありがたい力があって、これを頭の上にかざすとよいことが起こると考えていたのです。ですからあのようにしてもらったんですね。

ア：すごーい。でも確かに、小舞木の人たちがずっと大切にしてきた、歴史のあるお経を頭に乘せてもらったら、何かすごいパワーがもらえそうな気がする！私もやってもらいたーい！

磯崎：お経が破れたりするおそれがあるので、現在はみんなで集まって団扇で扇ぐということはしていませんが、中には今でもお経を頭にかざしてください、と頼む方もいるんですよ。みなさんもお盆のときに円養寺に来れば、一切経様をかざしてあげますよ。

クイズ④：どうして昔の小舞木の人たちは一切経を仰いでいたのでしょうか？

⑤ 5つ目の秘密「円養寺の2つの梵鐘」：地図の⑤の所を見てく ださいね。

く：さて、アーサ、チュート、5つ目の秘密もここ円養寺にあるんだ。

チ：えー、円養寺にはたくさんの秘密があるね。どれがそうなの？

く：門をくぐって右手を見ると、大きな釣り鐘がかかっているでしょ。

ア：うん、立派な鐘だねえ。

く：こういうお寺にある大きな鐘のことを梵鐘っていうんだよ。これは円養寺のシンボルで、九合カルタにも「平和への鐘の音響く 円養寺」と読まれているね。梵鐘のあるお寺というのはなかなかないんだよ。そしてこれが5つ目の秘密なん

だ。さあセンダンメガネをかけて80年前の円養寺に行ってみよう！

シャキ————ン

チ：うわー、大きな梵鐘だねえ。さっきまで見ていたものよりもっと大きいし、位置が今とは違うねえ。

ア：くーたん、どういうことなの？

く：うん。今円養寺にある梵鐘は、昔からのものではなくて、現在の磯崎和尚が造りなおしたものだ。じゃあメガネを外して現代に戻ろうか。

シャキ————ン

チ：くーたん、どうして梵鐘が昔のものと違うの？

岡部：それは私がお教えしましょう。

く：あ、現在82才（1931年生まれ）の岡部宗平さん。よろしく願いしまーす。

岡部：九合に数あるお寺の中でも、梵鐘があったお寺というのはここ円養寺だけでした。梵鐘を作るにはお金もかかり、大変なことなのです。ですから円養寺の梵鐘は小舞木の人々の自慢でした。しかし、今から約70年前（1945年）まで続いた戦争のとき、戦争のための武器や飛行機の材料にするために、大事な梵鐘を国に差し出さなければいけなかったのです。ですからそれ以来、小舞木には梵鐘がなくなってしまいました。

ア：えー、小舞木の宝物の梵鐘が、戦争のために取られちゃったの！？もったいない！

岡部：本当にもったいなかったです。しばらく円養寺には梵鐘がない状態が続きましたが、後になって今の磯崎住職の代で造りなおしたというわけです。

磯崎：こんにちは。また磯崎です。昔の梵鐘は今のものよりもっと大きかったそうで、また大変古いもので、なくなってしまったのは残念でしたが、代わりに今のものを作りました。また、梵鐘の屋根となっているこの梵鐘堂は私の手作りなんですよ。

チユ：へー、住職さんすごいねー！

磯崎：5号公園の北にある奥之院の門も私が手作りしました。ところで今の梵鐘もいい音で響きますよ。もしよかったら搗いてみますか？

ア、チ：わー、やってみたい！

磯崎：いいですよ。さあどうぞ。

ア、チ：せーの、……、

ゴォ————ン……………

ア：いい音だなー。梵鐘っていいね。円養寺のたくさんの木たちに囲まれながら、この音を聞いていると、なんだかいい気分になるなー。

く：そうだね。この梵鐘の秘密も忘れないでね。

クイズ⑤：どうして円養寺の古い梵鐘はなくなってしまったのでしょうか。

⑥ 6つ目の秘密「金比羅様」：地図の⑥の所を見てく ださいね。

く：さて、6つ目の宝は円養寺から離れるよ。すぐ近くだから歩いていこうか。

チ：あ、この「保健センター前」の信号知ってる！太田市立図書館のすぐそばだ！どこに秘密があるの？

く：信号のすぐそばの、この畑に秘密があるんだ。ほら、畑の奥をよく見てごらん。

ア：：ん、何あれ？畑の奥に神社みたいな建物があるよ！

チ：くーたん、小舞木には神社がないんじゃないの？

く：ふふふ。これが6つ目の秘密、金比羅様さ。じゃあセندانメガネをかけてみよう。

シャキ————ン

ア：ん、これはさっきの神社みたいな建物かな。その前で男の子が1人、刀を持って遊んでいるよ？

く：うん。2人は今から100年ちょっと前に来ているんだよ。じゃあ、メガネを外して現代に戻って、清水長老に聞いてみよう。

シャキ————ン

清水：こんにちは。またまた清水です。さきほどの男の子は私のお父さんです。そして神社のような建物は、我が家で代々守っている金比羅様という神様のお宮です。金比羅様は、いつからあるのか分からないのですが大変昔からここにいます。そして、不思議な言い伝えがあるのです。

チ：えー、どんな言い伝えなの？教えて清水さん。

清水：昔々、お侍がいて、そのお侍がこの金比羅様を建て、刀を1本お供えして、全国をめぐる旅に出たそうです。でもそのお侍は長い旅を終えて、熊谷まで来たところで死んでしまったそうです。

ア：熊谷って、太田と利根川をはさんですぐ隣の町だよね。もう少しで金比羅様のところに帰って来れたのに、残念！

清水：そうですね。そしてお侍のお供えした刀が私のお父さんの時代までは残っていて、それでチャンバラごっこをしたとっていました。

チ：あ、じゃあ目の前にいた男の子は清水さんのお父さんなんだね。

清水：ほっほっほ。金比羅様は、小舞木全体の神社というのではなくて、我が家個人の

神社なのですが、私が若い頃は、小舞木のほかの家の人も随分お参りに来ましたよ。

ア：え、どうして清水さんちの神社のところにお参りに来たの？

清水：昔は今よりも人々は神社を大切にしていました。しかし先ほど話した理由によって小舞木には神社がなくなってしまいました。そこで、個人の神社ではありませんが、すぐそばにある金比羅様を心の拠り所として、皆さんお参りに来たのではないのでしょうか。

く：神社のなくなってしまった小舞木ならではの秘密でしょ！ただ、金比羅様は今でも清水さんちのものだから、勝手に畑の中に入ったりしないで、道路から見てみてね。

クイズ⑥：どうして昔は小舞木の人たちが金比羅様にお参りに来たと考えられますか？

⑦ 7つ目の秘密「小舞木の高射砲陣地」：地図の⑦の所を見てく ださいね。

く：じゃあこれから最後の7つ目の秘密に案内するよ。

ア：あれ、これはよく遊ぶ九合6号公園じゃない？

く：うん。では2人とも、セندانメガネをかけてみて。

シャキ————ン

ゴゴゴゴォ————

ドカ————ン、ドカ————ン

チ：うわーっ、ものすごい爆音、それに地面が揺れてる！地震？あれ、それと兵隊さんがたくさんいるよ！

く：これは戦争中の6号公園周辺の様子だよ。今はあとかたもないけど、この辺りには戦争中、高射砲陣地というものがあったんだ。高射砲っていうのは、上空を飛んでいる敵の飛行機に向かって打つ大砲のことで、その大砲が置かれた場所が高射砲陣地なんだ。これが7つ目の秘密。はい、2人とも怖いからもうセندانメガネを外してごらん。

シャキ————ン

岡部：ここからは私が説明しましょう。

く：あ、岡部さん、よろしくお願ひします。

岡部：高射砲陣地からはドカンドカンとさかんに大砲が打ち上げられました。敵が来ないときも練習に打っていました。その音はすさまじかったですし、衝撃は本当

に地震が来たようでしたよ。ですから小舞木周辺の家々は壁が落ちたり戸が壊れたり、味方のはずの高射砲によって逆に被害を受けてしまいました。そしていざ敵の飛行機が飛んできたとき、勢いよく打ち上げるのはいいですが、ぜんぜん飛行機の高さまで届かずに、下のほうで花火のようにパカーンとはねてしまうだけでした。ですからそれを見て私は、ああ、こんなじゃ日本は戦争に負けてしまうんだろうな、と思ったものですよ。

ア：へー、この静かな公園にそんな歴史があったなんて知らなかった。こわい大砲があるところじゃ遊べないよ！ああ戦争のない時代に生まれてよかったなー。

く：そうだね。戦争はどこか遠くの話ではなくて、ここ九合の小舞木にもあったってことを知っていてほしいな。

クイズ⑦：高射砲陣地は何のために作られたでしょうか？

☆これで今日の探検は終わりです。お気に入りの秘密を見つけることができましたか。昔と今がつながっていて、みんなは歴史の積み重なりの上に生きているということを感じてもらえたらうれしいです。ではまた。

各地区クイズの正解

飯塚町クイズの正解

- ①：道路工事をするために、マツバラの長良神社のところにあった山を崩したら出てきた。
- ②：九合村役場
- ③：爆弾による爆風で本堂が被害を受け、その際に割れてしまった。
- ④：100年以上前から。
- ⑤：オオダネ
- ⑥：6人。／ 赤色で、3月頃咲く。
- ⑦：学校敷地内に兵隊がいた。爆弾が落とされて校舎に火がつきかけた。(例)

飯田町クイズの正解

- ①：雨が降るといわれている。
- ②：太田駅から戦争の地へと向かう兵隊さん、江戸に松茸を運ぶ人など。
- ③：真ん中が低く、外側が高くなっている地形のため、その境目が坂になっている。
- ④：掛け声をかけず、静かに担ぐ。天狗が先導する。分からないくらい昔からある、など。(例)
- ⑤：各家でお小遣いをもらえた。
- ⑥：貴重なお釈迦様の像をお披露目した。5色の団子をもらえた。甘茶を仏様にかけて、また頂いて飲めた。(例)
- ⑦：九合小のせんだんの木の子どもがプレゼントされた。

新井町クイズの正解

- ①：三つ葉(葵)のマーク。
- ②：500年前から伝わっていること。当時の獅子頭が残っていること。舞や笛、衣装などすべてが新井のオリジナルであること。(例)
- ③：左。
- ④：昔、天神様があった場所だから。
- ⑤：防空壕として空襲のときに爆風から命を守る役割。
- ⑥：赤ちゃんの夜泣きをやませる力。

- ⑦：100年以上前から変わらず残っている。戦争中に川に沿って爆弾が落とされ、犠牲者も出ている。など。(例)

南新井町クイズの正解

- ①：中島飛行機で働く人たちのため。
②：稲荷塚公園。
②：女子挺身隊^{ていしんたい}の寮、共同のお風呂、建設中の病院や食堂。
④：地域の歴史とは関係ない名前で、周りの人からあまり知ってもらえなかったから。
⑤：広い田んぼが広がっていた。
⑥：アメリカの B29 という飛行機による焼夷弾攻撃^{しょういだんこうげき}のため。
⑦：南新井町には神社がなく、また広い公園もなく困っていたところに、市営住宅の中に住宅の居住者用の集会施設が作られることになり、それを市長との交渉によって南新井町全体の集会所にしてもらったから。

西矢島町クイズの正解

- ①：赤城神社の本殿にムカデの絵が描かれている。西矢島ではムカデは殺してはいけないといわれている。
②：500歳以上。年輪を調べて分かった。
③：ありません。飯田町にも古い神輿がありますが、こちらは静かに担ぐ。
④：もともと昔は八坂神社とお神輿が元屋敷にあったからと考えられる。
⑤：戦争のための飛行機の部品を作る工場があり、それを狙ったといわれている。
⑥：安楽寺の西、富士重工矢島工場の近くにある。
⑦：安楽寺。

東矢島町クイズの正解

- ①：この日は、実家に里帰りして、ゆっくり獅子舞やごちそうなどを楽しめたから。
②：大きくて、豪華。骨組みの竹をもらってきて飾ると幸運を招くといわれている。
③：火事で燃えてしまったから。
④：200年以上前の薬王寺の和尚さんが全国を歩いてお金を集めた記録。

- ⑤：台座がなく、地面に体が半分埋まっていること。
- ⑥：南矢島町は東矢島の田んぼと、農家。末広町は東矢島の桑畑。
- ⑦：西の門を入れてすぐの堀ぎわに2本ある。

東別所町クイズの正解

- ①：古墳。古墳があるいい場所だから、と神社が建てられた。
- ②：獅子頭の下をくぐった。
- ③：100年以上前。
- ④：八木節のど自慢・腕自慢、出店
- ⑤：戦争のための飛行機を飛ばす、太田飛行場
- ⑥：農地。
- ⑦：戦争のあと、太田に来たアメリカ人が住む場所になったから。

内ヶ島町クイズの正解

- ①：2つの伊勢神社があり、今でも建物は2つに分かれている。
- ②：弓引き。
- ③：近くで病気がはやりして、神様のタタリだと考えられたから。
- ④：カンカンと鉦かねを叩きながら、そしてナイドナイドといいながら数珠をまわすから。
- ⑤：お団子を、普通の人には3つ、小さい子をおんぶした人には5つ配る。
- ⑥：小舞木町を通して内ヶ島につながっている。
- ⑦：学校として使用することを考えて建てられたため。

内ヶ島町目塚クイズの正解

- ①：日本の東半分が一番大きな古墳であること。毛野国けのくにの大王の墓と考えられていること。当時は白い石が敷き詰められてキラキラ輝いていたこと、など。(例)
- ②：男と女としてセットで考えられてきたこと。両方とも妙義山の方向を向いて作られていること。それぞれに埋められた人も関係があると考えられていること、など。
- ③：学問の神様の天神様を祭ってあるから。(例)

- ④：大きな古墳にセットとして作られる古墳のこと。
- ⑤：敵の飛行機を打ち落とすため。
- ⑥：火事で燃えてしまったから。
- ⑦：くねくねと曲がりくねった道だった。今でも天神山の北などに残っている。

新島町クイズの正解

- ①：中島飛行機の飛行機を運ぶこと専用の道路だから。
- ②：太田大空襲の日の爆弾によって砕けた。
- ③：中島飛行機の社員の人がたくさん住んでいて、人口が多くなったため。
- ④：観音様の入っていた観音堂が壊れてしまったため、もともと阿弥陀様だけだった大吉庵に入るようになった。
- ⑤：100年以上の樹齢があること。昔の江文神社の位置を教えてください。(例)
- ⑥：太田駅の近くや浜町の芸者さん。
- ⑦：道案内。

小舞木町クイズの正解

- ①：道が斜めになっていること。また小舞木町の東端にあること。
- ②：道案内。
- ③：昔、国からの命令で、小舞木の神社は飯塚の神社と一緒にあったから。
- ④：一切経を大切にしており、風を当ててお経がカビたり虫に食われないようにしていた。
- ⑤：戦争時の金属供出のため。
- ⑥：小舞木には神社がなくなってしまったので、近くにあった金比羅様をお参りした。
- ⑦：敵の飛行機を打ち落とすため。

第4章 各地区7つの秘密基礎データ

7つの秘密基礎データ：飯塚町

① 国宝武人埴輪

九合小のすぐ南に長良神社があるが、明治末～大正初期まではそれより数百m東にもう1つ長良神社があった。飯塚はカミ、ナカ、シモ、マツバラと4つのクルワ（「廓」等と表記する）に分かれているが、現在ある長良神社はナカの長良神社で、もう1つ、マツバラに長良神社があり、この神社の敷地内に小高い塚（古墳）があった。神社としては明治時代末にナカの長良神社と合併した（国の神社合祀令による：合併の経緯については小舞木の賀茂神社の項を参照）が、塚はそのまま残っていた。岡田安弘さん（大正13年生まれ）が子どもの頃にはまだこの塚があり、その上に登って遊んだという。昭和の初期に不況対策の公共事業で道路改修を行った際に、この塚を崩して土を工事に使用した。そのときに色々な出土品が出た中の1つが国宝に指定されている武人埴輪だった。出土品はしばらく軒下に適当に並べられていたが、価値を知らない人が叩いて壊してしまったものもかなりあったという。

その神社のすぐ東の家に住んでいた岡田銀太郎さん（故人）は実際に工事に参加して、出土するのを見たという。中庭武男さん（昭和3年生まれ）は岡田さん本人から直接その話を聞いている。その後、埴輪がどういう経緯で国の所有となったかは明らかでないが、岡田さんによるとかつては長良神社の社殿の中に帝室博物館（国立博物館の前身）からの感謝状があったそうだ。（現在は紛失）

国宝になっている埴輪は全国でもこれだけであり、甲冑やその持ち物が写實的に表現された精巧なものである。（高さ130.5cm）上野の東京国立博物館にて、ガラスケースに入って特別扱いで展示されている。その説明プレートにはしっかりと、「群馬県太田市飯塚町出土 古墳時代 6世紀」と記されている。丁寧なつくりと、何か微笑ましい顔、写真には写らないが背中にはちゃんと弓矢を背負っていたりと、是非実物を見に行き対面し、ゆっくりと観察していただきたい。群馬県には国宝が1つもないが、九合地区から国宝が出土しているということは住民としては是非知っておきたい。

マツバラの長良神社跡は今では宅地になって住宅が建っているものの、神社があった区画、また神社への参道は当時のまま残っている。神社跡にはかつて、「長良神社遺址 大正3年」という石碑が建てられていた。しかしいつの頃からかその碑はナカの長良神社境内に移動されている。

② 九合村役場跡

ナカの長良神社の南西にくっついて、九合村役場があった。昭和 15 年に九合村が太田町と合併するまで、ここが九合の人にとっての役場であり、大切な場所であった。(実際はこれの前の役場はもう少し東方にあって、昭和 11 年頃にこの位置に移転している。つまり、移転後何年もしないうちに合併、閉村により役場としての仕事を終えた) その後、農協が建物を使用していたが、取り壊し、その場所に九合公民館が建てられて九合の人々の文化活動等に利用された。現在は九合公民館も取り壊され、九合消防団の建物が建設されている。平成 24 年まで九合村役場当時の門柱(正門と通用門:東の門)がそのままの位置に残っており、正門には昭和 11 年 寄付者吉田六太郎、通用門には昭和 11 年 寄付者星野勝太郎(最後の九合村村長)の名が刻まれており、これらは往時を偲ばせる九合の宝物であったが、平成 24 年に惜しくも取り壊してしまった。

③ 正泉寺しょうせんじの天井絵

正泉寺の現本堂は昭和 55 年に新築されたものだが、それに伴って取り壊された旧本堂はワラブキ屋根の建築物だった。この天井に、70 数枚の天井絵があった。(一枚が約 70 cm 角)花鳥風月などが描かれている。現在も箱の中に保管してあるが、天明年間(1781~1789)に飯塚町内の吉田平蔵という人が寄贈したことが記されている。(吉田家は現在に続く旧家で、代々平蔵を襲名した)

この天井絵であるが、かなりの枚数が 2 枚か 3 枚に割れてしまっている。これは、昭和 20 年 4 月 4 日未明の空襲の際、すぐ近くを走る国道 407 号線に落とされた爆弾の爆風による被害である。本堂は吹きぬかれ、戸や障子などはすっとなでしまったし、建物自体も傾いてしまった。

その旧本堂を取り壊した際、棟札が発見され、それには安永 8 年(1779)築と記されていた。これは重要なことを示唆している。言い伝えによると、正泉寺はかつて、町内東端、現在運動公園の野球場のあるあたりにあったが、江戸後期に火事になり、それとともなって現在地へ移動したとされている。それとこの本堂の建築年代が一致するので、移転の時期を教えてくれるものと考えられる。また、天井絵は本堂新築の数年後に寄付されていることから、それに合わせて地域で代々続く吉田家より贈られたものと考えられる。天井絵は、寺の移転時期、そして戦争の被害を教えてくれる貴重なものである。大澤宏敬住職(昭和 14 年生まれ)としてはいつか修復してみなさんの目に触れるようにしたいと考えている。(以上、住職談)

④ 飯塚の幹線道路

地図で見ると一目瞭然だが、飯塚は東西に長い地形である。その東西を貫く幹線道路があって、家々はその道に沿って建てられていた。その道は明治初期の絵図と今でほとんど変わっていない。町内東部で2回90度に折れ曲がってクランクになっているが、それも昔のままである。この道が昔々から人々の大切な道だったということを伝えたい。マツバラの長良神社もこの道に面してあったし、ナカの長良神社はこの道から参道が北に伸びていた。この道について、特に名前はついていなかった。

⑤ 飯塚の3つの池

昔飯塚には「オオダネ」、「コダネ」、「マツボ」という住民共有の3つの池があった。オオダネは④のマツバラの長良神社の参道入り口にあった。60坪くらいの大きさで、魚がたくさんいた。毎年春の彼岸に池の魚を競売し、収入は消防の手当てとした。現在、池は埋め立てられてしまっているが、その形、区画はそのまま残っている。国の土地となっていて、草が生え、荒地になっている。オオダネにはガマと呼ばれる横穴があいていて、すぐ北の畑の真ん中まで続いていた。魚を取るにはカイ掘りといって、水をくみ出して、なくして取るのだが、そうすると池の底から花火の筒（松の幹をくりぬいたもので、径40cm、長さ200cmくらいの筒で、竹のタガがついている）が出てくる。それは昔飯塚の人たちが使用したもので、中庭和夫さん（昭和4年生まれ）のおばあさんによると、飯塚は花火に金をつぎ込んだために貧乏になったのだという。今でも掘れば出てくるとのこと。

またオオダネのあるあたりは御手洗^{みたらせ}という地名がついていて、これは長良神社にお参りする前に、手を清めるという意味で、このオオダネで手を洗ってからお参りしたという話がある。コダネはオオダネのすぐ東にあった小さな池で、魚はいなかった。現在は埋め立てられ、住宅地となっている。区画もはっきりせず、跡形もない。

マツボは一番大きな池で、飯塚の南端、東別所との境にあった。150坪くらいあって、ウナギやナマズなどたくさんいた。現在は埋め立てられてしまって一部は宅地になっているが、その名残が道の広がりのような形で残っている。（踊り場のような感じにそこだけ道が広がっている）マツボにはオオダネと同じく横穴（ガマ）があった。3つあって、真ん中が1番長くて大きい穴で、遙か北にある金山まで続いているんだ、などという人もいた。これらの横穴からは水が湧き出していて、カイ掘りをして水をくみ出しても、あとからあとから水が湧き出し、池の水がからっぽになることはなかった。中庭武男さんはここに魚釣りに来て楽しんだ。中庭さんは、池がいつのまにか埋め立てられてしまって大変残念に思っている。

⑥ ナカクルワ墓地の古椿

飯塚はカミ、ナカ、シモ、マツバラと分かれているといったが、墓地も何か所かに分かれています、そのうちナカの墓地の入り口のところに赤い花を咲かせる椿の古木があります。昭和4年生まれの中庭和夫さんが子どもの頃から形が変わらないという。椿は成長するのに時間がかかり、これだけの大きさになるには大変な年数がかかる。もしかしたら何百年という樹齢かもしれない。貴重な木である。

⑦ 九合小学校

学校創立以前の絵図を見ると、畑地となっている。田んぼは埋め立てが大変なので、埋め立ての必要がなかったためここが選ばれたのであろう。また九合地区のほぼ中央にあたることもこの場所が選ばれた理由であったろう。もとはおそらく飯塚の農家の人たちの畑だったと考えられる。2013年は創立140周年に当たるが、長きに渡り九合の子ども達の学び舎として、九合の中心的存在であった。明治6年(1873)に西矢島の安楽寺を使用して「不倦舎」として開校し、明治22年(1889)に、9つの地区が合わさって九合村が誕生したことを機に、同年現在地に移動した。昭和52年に中央小、昭和59年に旭小ができる前は、九合の子はみんな九合小に通っていた。

校舎は始め木造だったのが、昭和46年、現在の鉄筋コンクリート校舎になった。昭和初期までは皆着物に下駄で登校していた。戦争という時期もくぐりぬけている。校舎内に焼夷弾が落とされ、校舎につきかけた火を職員が必死に消し止めたなどということもあった。

様子は創立から大きく変わったが、校庭に植えられているせんだんの木は、昔からずっとそのままだ。いつからあるのか定かではないが、おそらく飯塚に学校が移った頃からずっと子ども達を見守ってきたはず。九合小の校歌にも「古い歴史の梅檀せんだんは 祖先おしえの訓おしえそのままに かおるよ 九合小学校～」と歌われている。九合カルタには、「せんだんの 歴史は古し 九合小」とある。九合のシンボルツリーである。

7つの秘密基礎データ：飯田町

①雷電神社の雨降り石

飯田の鎮守様は雷電神社（正式な登録名としては雷^{いかづち}神社であるが、通称は雷電神社）で、別^{わけ}雷^{いかづち}命^{のみこと}を祭神とする。九合カルタに「願い事 かけて詣でる 雷電神社」とあるが、その鳥居右手に、高さ約1mの石塔がある。正面に「雷電宮」、側面に明和9年（1772）と書いてある。清水日出男さん（昭和14年生まれ）は、日照りのときに父親から、「神社行って石塔を揺すって来い！」といわれて揺すった。そうすると不思議と雨が降るそうだ。また、伊藤智治さん（昭和14年生まれ）によると、飯田には知る限り一度も落雷というものがないという。気流の関係かもしれないが、当地には「雷電」神社があることは興味深い。ちなみに、昔、周辺には落雷が多くあり、例えば八瀬川をはさんですぐ隣の新井町にはこれまで何度もあった。

ところで、雷電神社と雷電石について、「九合カルタの旅」（九合地区活性化事業推進委員会：平成15年頃作成）の中に、以下のような記述がある。この伝説について、誰が語ったのか、どこかに元となる史料があるのか、稲妻地家にお聞きしたが現在では分からない。しかし、現在お聞きできる古老の言い伝えや、残された石造物などからある程度の信憑性があると思われたので、掲載した。

雷災を除けるといふ不思議な雷神社の雷電石

飯田部落のやや東方に昔から雷災除けに不思議なご利益があると言われている（雷神社が奉祭されている。第105代正親町天皇の天正10年ころ京都の武門の末裔といわれる龍蔵坊法印が山伏修験者となり東国を巡業し飯田に住居を定めた。その頃靈雲寺の西方にある小高い丘に約30センチの黒の真石があった。この石は不思議にも雷鳴が起こる前になると、水をかけてしめしたようにびっしょりと湿り雷がきつとその周辺に落ちる（※周辺とはすぐ西の新井のことか）が、有難いことに付近の住民には被害を及ぼさなかったという。そのためにこの近所の人々はこの靈妙な石を雷電石と言って深く信仰していたので、龍蔵坊法印がこの神威に感銘してここに雷電神社を奉斎祭祀したことに始まったと言われている。その後、龍蔵坊の子孫（現在の稲妻^{いなづま}地家）が代々神社の祭祀を司り奉仕してきた。

稲妻地家は雷電神社の東隣に位置しており、その墓地には、「開山龍蔵坊盛伝 文禄2年（1593）没」という墓石があり、年代的にも上記の伝説と一致する。また、「開山」とは寺院を開くことであるが、明治初期頃の飯田村の絵図には雷電神社と並んで

稲妻寺とうさいじが描かれており、かつてここにお寺があったことは確かである。

上記の伝説と関連して、稲妻地家で育った稲妻地功いさおさん（大正 14 年生まれ）は以下のような話を伝え聞いている。稲妻地家の初代となる正盛（盛伝とも記すようだ。龍蔵坊とも同一人物）は、京都から館林藩へ来た。ここで認められ、新田の方面で寺子屋を開いて子どもたちに学問を教えるようにいわれた。そして新田を旅するうちにたどりついたのが飯田の地で、村の人々が受け入れてくれた。その後、館林藩での指示に従い、寺子屋を開き、子どもたちに学問を教えたという。ところで、正盛の数代後の子孫に昌盛がいる（代々「盛」の字を襲名している）が、上記の雷電神社入り口にある雷電石の背面に「発願 別当 昌盛」と刻まれていることから、石碑の建立者であると考えられる。稲妻地家は正盛以後も館林藩と関係を保っており、昌盛は藩主松平家の孫娘を嫁にもらったという。

前述の伝説中にある「黒の真石」であるが、現在でも雷電神社本殿にご神体として祀られているという。稲妻地さんが子どもの頃、雷電神社の神主であった父上が祈禱をしているときに、ちらっと神社本殿内部をのぞいたところ、本当に 30 センチくらいの石があったという。そして、その石はいつの時代かに、霊雲寺の真西、八瀬川のそばに祀られていた稲荷様の近くにあったものを持ってきた、と聞いているそうだ。ちなみにその稲荷様は稲妻地さんが子どもの頃にはすでに雷電神社に合祀されていた（雷電神社社殿西に現存）が、元あった場所には金山石が敷いてあったり、木が少し生えていたりして、神社の面影は残っていたという。

稲妻地さんは、初代の正盛（盛伝、龍蔵坊）は「開山」とあるから寺を開き、後になって子孫の昌盛が神社としての体裁を整えたのではないかと推測する。神社入り口の雷電石の背面にある「別当」というのは寺を管理する神職のことで、神仏習合であった江戸時代には、稲妻地家が神社と寺の両方を管理していたと考えられる。ちなみに、稲妻地さんの見た、ご神体となっている雷電石と、現在神社入り口にある雷電石は別のものであるという。雷電—龍—稲妻と、明らかに密接な関係のある雷電神社と稲妻地家であるが、87 歳でかくしやく夔鑠としておられる稲妻地さんが、これまで元気に過ごしてこられたのは雷電神社の神様のおかげだと思います、とおっしゃっていたのが印象深い。

②旧熊谷県道の道筋

飯田町は昭和 30～40 年代の区画整理によって、それまでの農村から碁盤目状に整理され、整然とした太田市の中心街へと変貌した。街路も南北に引かれ、昔の面影など残っていないようにも見えるが、地図を見してみると町内西部に 1 本ゆるやかに東に

カーブした南北の道がある。これは旧熊谷県道（^{めぬま}妻沼県道、さらに古くは古戸道とも呼ばれた）の名残である。この道は古くから太田と熊谷をつなぐ道として存在していたが、戦争中にその道を拡幅、直線化して現在の道の原形ができた。その後 1982 年に国道 407 号線に格上げとなっている。

旧熊谷県道は、飯塚から飯田にかけて緩く東側に弧を描いていた。そのため、県道の拡幅・直線化工事にあたって飯田の部分を新しく真っ直ぐの道にした際、かつての弧の部分が残される形となった。その約 20 年後の九合土地区画整理において、碁盤目状の街路を作るにあたり、この旧道も消えてしまっても全くおかしくはなかった。しかし、たまたまなのか誰かが取り計らったのか、ほぼ保存されることになった。現在の道筋としては、飯塚町地内にも一部残り、飯田町内では、南からいくと、「飯塚町」の信号の 1 つ東の十字路から始まり、九合 4 号公園の西を通り、太田郵便局の少し東を過ぎて東武線の手前で国道 407 号線に合流する。

古戸道（旧熊谷県道）がいつ頃できたのかについては記録が見つからなかったが、元禄 14 年（1701）に描かれた「元禄太田金山絵図」には既に記されている。その後も小舞木の 7 つの秘密に取り上げた正徳 6 年（1716）建造の道案内地蔵、また新島の 7 つの秘密とした享和 3 年（1803）建造の道案内地蔵にも「古戸道」と刻まれており、当地の中心的道路であったことが伺われる。高山彦九郎は安永 4 年（1775）にこの道を通ったことを日記に記している。昔は広い道というのは少なく、多くの人がこの道を通して太田の町まで行った。有名な金山の松茸も、この道を通して江戸に献上された。（ちなみに金山産松茸は江戸後期で 6 回幕府に献上されている。金山には赤松がたくさんあり、かつては松茸がとれたが今はとれない）出征する兵隊もこの道を通して太田駅に向かった。300 年以上にわたり様々な往来を目の当たりにしてきた九合の古道を大切にしたい。

※参考文献：「太田地域の道とひと」（茂木晃著 p.18）

③飯田の崖^{がけ}

飯田のかつての集落は大きく 3 つに分かれていた。南部の^{ほんごう}本郷、北西の^{ざいけ}在家、北東の^{しけんいいた}四軒飯田。そして、真ん中がぼっかり空いている形になっている。これはかつての飯田の地形は大変特徴的だったことによる。すなわち、南部、北西、北東に台地があり、真ん中は低地で田んぼになっている、という形だ。（清水日出男さん所蔵の明治頃の飯田村絵地図を見ると一目瞭然）

そして、その台地エリアと田んぼエリアの境界というのが比較的はっきりしていて、小さなガケのようになっていた。それを古者は「オカゲ」と呼んだ。区画整理で分か

りづらくなつたが、現在でもオカゲの名残を見ることが出来る。分かり易いところとして、雷電神社の西から市民会館方向を見たところと、お寺の裏から東側を見たところがある。両方とも、ぐっと土地が下がっているのが分かる。つまり、台地エリアから田んぼエリアを見ていることになる。昔から土地というのは平らではなくアップダウンがあり、この辺りの農家は、低いところは田んぼとして利用し、高いところに宅地をつくったり、桑畑をつくったりと、自然の地形を利用して暮らしてきた。

④ 祇園祭りの女神輿おんなみこし

飯田でのかつてのお祭りは何が盛んだったかと尋ねると、古老は口をそろえて、祇園と答える。有名な旧尾島町の世良田祇園と同じ7月25日で、古くからあるお神輿を担いだ。シンプルな作りで、黒塗り。飯田の神輿は女神輿といって静かで、ワッショイワッショイともみこまず、静かに担ぐ。西矢島の神輿はけんか神輿で激しかったが、これとは正反対。(※九合で昔からの神輿があったのは西矢島と飯田のみ)昔お姫様を乗せたような「輿こし」の体裁をしており、男4人で楽々担げる。掛け声もないし、水をかけたりもしない。残念ながら担ぎ手不足などのため、区画整理前には担がなくなってしまった。現在はお祭りの日(かつてのように7月25日というのではなく、太田祭りの1週間前を基本とし、大体7月中旬に当たる)に出して飾るだけになっている。いつからあるのか大正生まれの古老も分からず、相当古いことは確かである。神社の境内北西にある倉庫の中にしまわれている。

西矢島と同様、神輿の通る道が決まっていて、それを天王道てんのうみちといった。村内を一巡するのだが、休むところも決まっていた。神輿と一緒に、幣束(お払いの紙)、太鼓、サカキ、天狗なども一緒にまわった。その順番も以上のように決まっていた。天狗が神輿の直前で神輿を先導する。これは猿田彦という鼻の高い神様を表していて、古事記等で、天孫降臨(天の神様のニギノミコトが地上に降り立った場面)のときに地上の神である猿田彦が道案内をした、という故事に基づいて、天の神様である神輿を地の神様の猿田彦が先導する形となっていると清水日出男さんは古老から伝え聞いている。天狗のお面も昔からの古い物(木彫り)で、祭りの時には天狗の装束を着て、高歯の下駄を履く。現在では神輿の巡行はしないが、祭典のときには役員の1人が昔ながらの天狗の格好をする。そして玉串奉奠たまぐしほうてん(サカキを神様に供えること)の際にはその天狗役の人が一番にサカキを上げる。

※太田市史民俗編下巻 p.67 参照

⑤ 祇園祭りの獅子回し

④の祇園祭りにおいて、神輿を担ぐのは大人の仕事だが、子どもたちにも仕事があった。それが獅子回しで、獅子頭の後ろに唐草模様のついた風呂敷が取り付けられたものの中に入って、飯田の全戸をまわった。1人が獅子頭を持ち、何人かが風呂敷の中に入った。神輿も村中をまわるのだが、それに先立ってまわった。天狗のように神輿と一緒にまわるというのではなく、獅子はどんどん先に行ってしまう。子どもたちにとって、各家でお小遣いがもらえる（持ち帰って分けてもらった）ので、大変楽しみな行事だった。家によっては獅子が家の中に上がり、駆けまわったりした。神輿と同じく大変古くから行われてきた行事であり、子ども主体の貴重な風習であったが、昭和29年頃には行われなくなってしまったようだ。

獅子頭は現在でも社殿内に保存されており、片手で持てるようになっていて、子どもでも扱えるほど軽いつくりである。祇園祭の日には出して飾る。

⑥ 霊雲寺のお釈迦様像と花祭り

お釈迦様の誕生日といわれる4月8日（飯田では旧暦に近い5月8日に行われる）に、花祭りという行事が広く行われてきた。お釈迦様の小さな像を花で飾り、それに甘茶あまぢあというアジサイの仲間の植物でつくった甘いお茶をかけ、また頂いて飲んでお祝いする、というお祭りである。飯田の霊雲寺ではこの花祭りが特に盛んで、飯田以外にも人が来た。大正生まれの新井町の古老も子どものとき霊雲寺に団子をもらいに行ったという。九合カルタにも「霊雲寺 花まつりは 釈迦如来」とある。

霊雲寺の花祭りで特徴的なのは、「花餅はなもち」という5色の平べったい団子を作ることである。色は昔から橙、黄、赤、白、緑と決まっているが、これは「青、黄、赤、白、黒」という仏教の世界観を表しているという。団子はお釈迦様にお供えしたあと、来た人に配った。現在でも住職と役員で作っており、その日に寺の護持会の総会も行われ、出席者に配られる。また飯田保育園の園児にも配る。この日は太田市指定文化財にもなっていて室町時代の作とされる釈迦如来像もご開帳となる。

⑦ 中央小学校

かつて、九合の子どもはみんな九合小学校へ通っていたが児童数が増加し、九合小が手狭になったため、昭和52年（1977）になって中央小学校ができ、新井町の北部、飯田町、内ヶ島町北部、小舞木町北部、新島町の子どもたちはこちらへ通うことになった。中央小の土地は、秘密③にあるように水田エリアにあたり、飯田の農家の人の耕す田んぼだった。それが区画整理によって現在のようになった。

その際に、九合小に昔から生えていて、大切にされていたせんだんの木の子どもが中央小へ贈られ、玄関先に植えられた。平成 25 年（2013）現在で開校から 36 年となるが、せんだんの木は大きく成長し、初夏には紫色のきれいな花を咲かせ、秋にはたくさんの実をつけるようになった。もうひとつ、中央小のシンボルツリーという表の校舎にむかって左手側にある大きなケヤキの木がある。これも開校当初に植えられたもので、大変大きくなって、子どもたちに涼しい木陰を作ってくれている。

子どもたちには、先輩たちもみんなこの木に見守られて巣立っていったことを知ってほしい。ところでせんだんは秋に実をつけるのだが、その実をむくと中にかわいい形の種が入っている。これを活用して、せんだんと小学校の歴史を伝える活動ができないだろうか。そして成人式には中央小に集まることになっているのだが、その時に、木に成長した姿を見せてあげてほしい。

7つの秘密基礎データ：新井町

①八幡宮本殿の三つ葉葵の紋

新井八幡宮は社伝によると寿永年間(1182～1184年)に創建されたといわれる由緒ある神社である。戦前までの神社の格を表す社格では九合で唯一、郷社であった。(その他の地区の神社は村社) その本殿(拝殿の後ろにある神様の鎮座されている建物)の屋根正面に徳川家の家紋である三つ葉葵の紋が入っている。これは新井八幡宮が江戸時代に徳川家の崇敬を受けたしるしとのこと。館林城主徳川綱吉は八幡神を崇敬した源氏の末裔として深く崇敬し、徳川五代将軍となってからも年々御供米を江戸地頭に命じ奉献したといわれる。実際、昭和の後期までは徳川綱吉が八幡宮にお米を奉納したことを現す板札があったという。(現在は行方不明) ちなみに本殿は、安政2年(1855)に屋根を板葺から銅版葺にしたという記録(神社明細帳)があるので、それ以前の建物ということが分かる。正面にある拝殿は昭和41年築。本殿をめぐる玉垣は明治11年の記録には既に見られ、大変古い建築物である。

②八幡宮の獅子舞

八幡宮に伝わる伝統芸能で、約500年前に京都から伝えられたという。現在太田市の重要無形民俗文化財に指定されている。九合カルタには「幟旗のぼりばた立てて獅子舞 八幡宮」と読まれている。伝えられた由来について、社伝によると文亀元年(1501)に新田義房の次男新井覚義二十代の末裔新井宗貞が、京都の石清水八幡宮を参拝した際、途中でこの獅子舞を目にし、感動してその師匠を新井まで呼び寄せて、村の人に教えさせたとのことである。現在、社殿(拝殿)の中に飾ってある先代の獅子頭はその時に京都の師匠からもらったものだといわれている。昔から秋祭りに舞われ、村の人たちに親しまれてきた。たとえば編集委員星野の曾々々祖母にあたる星野みつ(嘉永元年(1848))生まれは、獅子舞の曲を全て覚えており、孫やひ孫をひざの上に乗せては手をとって教えたと聞く。

新井獅子舞の誇るべきところは、舞の仕草、笛の旋律、衣装、獅子頭など、すべて新井のオリジナルで、他のところには(確認できるかぎり)ないということ。特徴としては、一般的な前と後ろに人が入ってパカパカとアゴでものをかむ仕草をする獅子舞とは異なり、3人1組で、それぞれの人が獅子頭をつけ、腹に太鼓をつけて、その太鼓を両手にもったバチで叩くというスタイル。笛の音にあわせて踊る。舞は平庭、梵前かかり、橋かかり、雌獅子かくしの4種類ある。大人だけでなく、小学生も舞や笛に参加し、伝統を守っている。

③十輪寺の地蔵堂

十輪寺の本堂に向かって左手側にある木造の建物。昭和 55 年の改築工事の際、棟札が発見され、弘化 4 年（1847）に建築されたということが分かった。貴重な江戸時代の建築物である。中には厨子の中にお地蔵様がまつられている。秘仏であり、その厨子を開いてお姿をみることはできないが、枝井秀栄和尚（昭和 27 年生まれ）によると、厨子を交換するときにお姿を見たところ、よいお顔をしていらっしやったとのこと。戦争が激しくなったときは、分散授業というものが各町内で行われ、この地蔵堂で授業が行われたこともあった。（九合小まで通うのが危険なため、それぞれ近くの神社やお寺で授業を行った）

地蔵堂について注目したいところは、毎年春の彼岸に行われていた地蔵様の祭りである。これは、新井の若者からなる青年団によって主催されていて、露店が出たり、プロの浪曲師、漫才師や踊り手を呼んだり、青年団手作りの踊りなどをやったり、小学生が劇をしたり、それはそれはにぎやかで、境内が人でうまるほどだった。現在は時代の流れで、住職と役員を中心に地蔵祭りの法要が行われている。ただ、昔の賑わいの証拠を示す板が地蔵堂内部に打ち付けられていて、これによると、青年団が長年貯めてきたお金を地蔵様の祭りのために寄付する、とのこと。若者達がいかにこの祭りを大事にしていたか、また地域活動と深く関わっていたかが分かる。

ちなみに、「地蔵十輪教」というお経があり、十輪寺の名前はここから取られていると考えられ、その寺名からも本来は地蔵様を本尊としていたと推測されるが、いつの頃からか現在の愛染明王が本尊となっている。（枝井秀栄和尚談）地蔵様の祭りが盛大に行われてきたということは、地蔵様がかつての本尊であったことと関係があるのかもしれない。

なお、日露戦争以来、数々の戦争で戦死された尊い方々と昭和 20 年 4 月 4 日未明の空襲で被爆された人達の慰霊祭が、春のお彼岸に「地蔵祭」に引き続いて遺族や寺役員によって本堂で営まれている。

④幻の天神様

天神様というのは、学問の神様とされる菅原道真をまつる神社である。現在新井町に天神様はないが、江戸時代以前から新井の人たちの信仰を集めていた。（内ヶ島の天神山古墳も、山頂に天神様がまつられているからその名がある）場所としては新井町とその北の浜町との境界にある天神公園付近である。この辺りは戦前まで、「天神山」

と呼ばれる平地林が広がっており、その木立の中に小さな古墳があって、その頂上にお宮が建てられていた。これが天神様だった。しかし、明治末に国から神社を整理せよとの指令が出て、小さい神社はその地域の大きい神社に合祀させられた。その時に、天神様は新井八幡宮に合祀されることになった。それ以来、新井の八幡宮の祭神には菅原道真が加えられて現在に至っている。

さて、昭和 40～50 年代に行われた浜町新井土地区画整理において、天神公園が作られることになったが、その名称として、地区的には浜町に入ることから「浜町公園」にしようという声が上がった。しかし、当時の新井の役員たちはよく天神様のことを知っていたので、ここは由緒ある天神様のあった場所なのだから、天神公園という名前にしたい、と訴え、その結果、今の名前がついたという。

⑤御庵稲荷古墳について

新井町東北部、紳士服のアオキの道をはさんで南側にあり、木立に覆われている。城代^{きのしろ}幸太郎さん（昭和 5 年生まれ）の敷地内にあり、高さは 5m ほどで、おわん型。よく形をとどめている。墳丘上にはお社に御庵稲荷がまつられている。御庵稲荷はキツネとの縁が深く、先代当主の城代誠一郎さん（大正 4 年生まれ：幸太郎さんの兄上）や幸太郎さんは父上から本書の物語部分に記した、キツネにまつわる話を聞いたという。

※御庵稲荷の伝説について 太田市史民俗編下巻 p.683 参照

戦争中にはこの御庵稲荷に大きな穴を掘って、50 人も入れるような防空壕を作った。昭和 20 年 4 月 4 日未明の空襲では、城代家の人らがこの防空壕に非難したが、幸太郎さんの父上だけは入らず、爆風を受け、それがもとで亡くなってしまった。

⑥夜泣き様

新井町北西部、ディスカウントショップジャパンの駐車場南西隅にある石碑。現在新井町唯一の道祖神。「庚申塔 天明五年（1785）当村」と彫られている。戦前までこの辺りは^{しんでんやま}新田山（新田とは小字名）と呼ばれる平地林だった。（「ヤマ」とは林のこと）その中にこの石碑もあって、「夜泣き地藏」、「夜泣き観音」、「夜泣きの神様」などと呼ばれていて、夜泣いて眠らない赤ん坊を連れて行くと、夜泣きがやむといわれてきた。

編集委員星野の祖母（大正 15 年生まれ）も、夜泣きの止まない子をおんぶしてここにお参りに来たという)

⑦川の曲がり

九合の各町は、江戸時代以前から稲作を中心とする農村として続いてきた。よって稲作のための水路が引かれていた。新井町ではその中心となる水路は八瀬川からきて、浜町を通過して、十輪寺の西を南に向かい、高田公園のところで東に曲がる。新井町は昭和 40～50 年代の区画整理によって、碁盤目状に、きれいに整備された。その中で、歩いてみても、地図上でもすぐにわかるのだが、この水路は高田公園から東に向かうときに、まっすぐではなく、少し南にカーブしながら進む。このカーブには長い歴史がある。明治時代初めに描かれた新井村の絵図があるが、現在とほぼ同じように南に少しカーブしている。また、この川のカーブに沿った道は区画整理前まで新井町の中心道路だった。その他は車も通れないような細い道が多かった。また区画整理前までは神社とお寺に続く長い参道があり、その参道はこの道へ接続していた。お葬式の葬列も、このカーブ道からお寺の参道を通り、寺へ入った。

また昭和 20 年 4 月 4 日未明の新井町空襲の際、高田公園のすぐ北東に、この川に沿って十数発の爆弾が落とされ、3 人が防空壕生き埋めにより、2 人が飛んできた爆弾の破片により、1 人が後日の片付け作業中に爆風でもろくなっていた木が倒れてきて死亡している。亡くなった方の中には九合小の児童もいた。

※新井町及び南新井町の歴史についての参考文献：新井町見聞記（星野雅範）

7つの秘密基礎データ：南新井町

新井町のうち、バイパスより南側が南新井町であり、北側の新井町と行政区を異にしている。

①緑町と住吉町

九合の11行政区の中で、南新井町は特殊な成立事情がある。その他の地区は江戸時代以前からの農家の集落が母体となり、それが徐々に開発されて今に至るが、南新井町だけは明治時代まで民家が1軒もなく、主に新井町の農家の農地が広がっていた。周囲は自然が豊かで、ナマズやウナギがとれ、蛸もたくさん飛んでいたという。

その後明治時代中ごろに田んぼの中にポツンと3軒の農家が立った。(正確には現在の庄屋町にあたる)。それ以来、南新井地区には半世紀余りに渡り、新たな住宅造成は見られなかったが、戦争中の昭和19年頃、隆盛を極めた中島飛行機の社員住宅が造成された。2か所に造られ、北西は緑町、南東は住吉町とよばれた。現在でも区画は当時のままであり、狭い路地で区画されている。また当時の木造の建物もわずかに残っている。緑町は小泉の海軍工場の社員用、住吉町は太田の陸軍工場の社員用に作られた。しかし緑町には、太田の1丁目から強制移住させられた一般住民も多数いた。その後、緑町は1丁目、住吉町は3丁目と呼ばれている。

②幻の稲塚山^{いなづかやま}

バイパスのすぐ南、八瀬川沿いに新井町で最大の古墳、稲塚山があった。戦前までは雑木が茂って森のようになっていた。昭和16年、木々を切り払い、墳丘上に防空監視哨^{ぼうくうかんししょう}という敵機を監視する施設が建てられた。(太田市史通史編近現代 p.715に写真あり)その後、昭和20年代になって監視哨は解体され、山も崩されてしまい、現在は面影もない。ただ、稲塚山があった場所の区画(国道407号線の「飯塚町」の信号から1つ西の信号の南東の区画)は、周囲の他の区画と比べて大きくなっている。もしかしたらこれは稲塚山があったために間に道を通せず、この大きさになった可能性がある。ちなみに稲塚山周辺の旧小字名を稲荷塚^{いなりづか}というが、現在南新井町にある稲荷塚公園はこの地名によっており、また稲荷塚の地名は稲塚山によるものであろうから、現在に影響を与えている。

稲塚山にはキツネが住んでいたといわれ、キツネの嫁入り行列が稲塚山から出てきたのを見たという人もいる。また大正時代には刀や勾玉などが発掘されたという。石室も見えて、子どもたちは中に入って遊んだという。

③市営住宅と県営住宅

現在市営住宅、県営住宅がある土地には、戦争中に中島飛行機で働く人の寮、浴場があった。また食堂と病院が建築中だった。(未完成のまま終戦を迎えた。)寮には各地から集まった女子挺身隊が生活していた。朝には100人以上と思われる挺身隊の女学生たちが、寮から中島飛行機へ軍歌を歌いながら出勤していったという。終戦後、空き地となったところに市営住宅、県営住宅が建てられた。

④南新井町という名称

前述のように、もともと新井町の農地だったところに新しく住宅ができたわけだが、新井の旧集落の農家と新住民たちは当初から別の町会組織をもっており、さらに緑町、住吉町、市営住宅がそれぞれ別の組織として活動していた。ただ、新住民側は長らく町会として正式な名称がなく、単に「新井住宅」などと呼ばれていた。その中で、昭和50年に錦町という正式な行政区名がつけられた。だが住所は旧来通り新井町のままであり、また錦町という歴史を反映しない名称でもあり、他地域からの認知が低かった。そこで、酒井健次郎区長(昭和15年生まれ)の代で町内有志が活動して署名を集め、新井町という歴史ある地名にもとづき、その南に位置するからということで、平成23年4月より町名を変更し、南新井町が誕生した。

⑤富士重工矢島工場

一面の田んぼを造成して昭和44年に完成した。565,000㎡という広大な面積を埋め立てたため、昼夜となくトラックが通行し、騒音がものすごく、近所の住民は苦勞をした。名前は矢島工場となっているが実は西矢島分よりも新井分の農地が多かった。この工場造成により、新井の景色は一変し、農地は一気に減少した。工場敷地の中には三軒の家があったが、移住となった。現在、矢島工場敷地を庄屋町というが、かつて新井の農家はその辺りをオショヤとかオショヤ田んぼなどと呼んでいた。これは同じく工場敷地となった下浜田分の土地の小字名に大庄屋があるためであろう。

⑥九合最大の焼夷弾被害

昭和20年8月14日、終戦前夜に南新井町の緑町周辺にB29の焼夷弾攻撃が行われた。(大正インタビューの高久さんの話を参照)焼夷弾攻撃としては九合でも最大の被害を受け、余りにも燃えたので、この辺りのことを戦後、「焼け跡」と呼ぶ人もいた。

⑦南新井町集会所

南新井町の集会所は昭和 58 年築であるが、九合 11 地区中で唯一、市営住宅敷地の中にある。当時の区長によると、それまで当地区では集会施設がなく、広い民家などを使用していたが、新しく作ろうということになった。はじめ、稲荷塚公園内に建てる計画だったが、稲荷塚公園は狭いので、広い集会所を作ると公園の面積が足りなくなり、法律に引っ掛かってしまう。そのため高層化しなければならない、などと考えているところに、市営住宅を建て替えるにつき、その敷地内に市営住宅居住者用の集会所を作るという話を聞いた。それならば、ということで、その集会所をもっと広く作って、市営住宅居住者だけでなく、町内みんなで使えるようにできないか、と市長と交渉した。その結果、当初 100 m²の予定だったが、150 m²の集会所ができ、幸運にも現在のようにみんなで使えるようになったという。なお、手狭になったため平成 22 年に増築が行われた。

この集会所入り口に大きなポプラの木があった。市営住宅建て替え（昭和 57～59 年）前の昭和 48 年の航空写真にはすでに認められ、シンボルともいえる木であったが、近年惜しくも枯れてしまった。しかしポプラが生えていた円形の枠はそのまま残り、忘れ形見となっている。

7つの秘密基礎データ：西矢島町

①赤城神社のムカデ伝説

西矢島の鎮守は赤城神社であるが、「なるほど赤城学」（栗原久著）によると、赤城神社は県内に末社が118社あるという。また赤城山に大ムカデがいるとか、赤城山の神がムカデに化身した、とか赤城山にはムカデに関する伝説が多い。また、赤城神社の本宮と推測されるうちの一社である前橋市の三夜沢赤城神社には、県の天然記念物に指定されている俵杉たわらすぎと呼ばれる巨木があるが、これは大ムカデ退治の伝説を持つ藤原秀郷（別名：俵藤太たわらのとうた）が献木したと伝えられている。

西矢島の赤城神社の本殿（上屋の中にあるので外からは見えない）には相当古いムカデ絵が描かれている。（太田市史民俗編下巻の口絵に写真あり：社殿は普段閉じられているが、祭りの際には開放して式典を行う）また、太田市史（民俗編下巻 p.146）に「ムカデは赤城神社のつかいだから大事にしろといった」、という記述がある。

西矢島育ちの前田元江さん（昭和3年生まれ）は、ムカデは殺してはいけない、と聞いているとのこと。また、高草木みつ江さん（昭和2年生まれ）は西矢島に嫁に来てから、義父によく、西矢島はムカデの神社だからムカデは殺すなといわれたという。

②大杉の切り株

赤城神社の境内に、大人が2、3人で抱えるような杉の大木が何本もあった。お宮の前と後ろに5本ずつくらいあった。九合でも1番大きな杉だったと古老たちは回想する。金山の頂上からも西矢島の赤城神社の杉の木が見えたという。中でも1番大きい杉は途中で二股に分かれたようになっていて、風が吹くと割れるように揺れた。この杉に雷が落ち煙が出て、大騒ぎしたこともあったという。戦争中、大杉に日照旗を掲げたこともあった。

諸般の事情で昭和58年までに大杉は全て伐採してしまっただが、現在でも神社の裏に切り株がはっきりと残っており、当時の杉の威容と赤城神社の歴史をしのぶことができる。ちなみに、町内在住の小此木栄二さんが年輪を調べたところ、樹齢500年以上に達していたという。

③祇園祭りのケンカ神輿

西矢島の神輿といえば、かつては九合で知らない者はいないくらい有名だった。（太田市史民俗編下巻 p.68 参照）西矢島から嫁に行った人、出た人も祭りのときには帰ってきたという。祇園祭りといって八坂神社のお祭りで、かつては7月15日が初祇園はつぎおん、

25日が本^{ほんぎおん}祇園であった。大人用、子ども用と2つの神輿があるが、子ども用は後になって作られた。大人用は明治時代に町内の大工によって作られたといわれている。古老たちはその先代の古い神輿も見ている。(傷んでおり、使用はされていなかった)初祇園には神輿を洗ったり、拝んだりする。そして本祇園までの10日間は卵、魚などの生臭ものは食わず、身を清めた。また喪中の家の人は祭りに出られなかった。これらのことは各家が徹底していた。毎年お祭りにあたって1反の布を半分に分けて、半反で神輿担ぎの装束を新調したという。

村の中をもみこんで歩くが、通る道や途中で休憩する家が決まっており、その休憩した家では必ずお神酒が出された。昔は酒というのはこのような特別な時でないといえなかった。西矢島の神輿は暴れ神輿で有名で、激しく担ぐので、終わると肩は血だらけ。酒を飲んでいるからこそできたのだという。酒を飲みたいがために神輿を玄関先に降ろしてしまい、酒を出してもらわなければまた動かさなかったこともあったとのこと。

最後は大久保というお店の近くで「セリアガリ」というものをした。これをやらないと祭りが終わりにならない。安全のために神輿の周りに麦ワラをしき、そして神輿の屋根の上に10~15人も乗って、組体操のように高く組みあがり、これがお祭りの最高潮となる。

なお、当時の道は砂利道だったが、お金のない時代で足袋をはける人は半分くらいで、裸足でやる人も多く、爪をはがす人がいた。そのため肩やら足の怪我で翌日は何人もが医者通いをした。

この神輿は平成7、8年頃まで担いでいたが、交通規制等の関係からやめることになった。また担ぎ手も少なくなっていた。ある時、西矢島町内に工場がある某企業に、担ぎ手の若者を出してくれるように頼んだことがあり、上役が祭りを下見に来たが、あまりに暴れ神輿で揺すったりぶついたり危ないので、こんな危ないところにうちの社員は出せないということで断られてしまったという。

④神輿のふるさと^{もとやしき}元屋敷

赤城神社から南東、国道407号線から少し西に入ったところの畑の一角に小さなお宮があるが、(407号線から見える)ここを元屋敷と呼んでいる。③の神輿は、赤城神社境内に保管されており、赤城神社から出て西矢島を練り歩いてまた神社に戻っていくわけだが、必ず元屋敷に寄ってから戻った。昔、神輿は「元屋敷によってからでないと神社に帰れない」といった。(大正13年生まれ：高草木貴一さん談)この元屋敷というところは、祇園祭りの神社である八坂神社と関係があるといわれている。ちな

みに現在八坂神社は赤城神社の境内末社の1つになっている。

今回、太田市立図書館所蔵の「上野国神社明細帳 16 p.202」に、八坂神社は赤城神社境内へ、「明治10年3月、該村字東口より移転」という記述を確認した。「東口」というのはまさに元屋敷の位置する旧地名であり、明治10年まではここに八坂神社及び神輿があったため、「八坂神社及び神輿の元の屋敷」という意味で名前がつけられ、その後も祇園祭りのたびにここに神輿が立ち寄ってきたものと考えられる。

⑤^{はらやま}原山と^{みわこうば}三和工場

西矢島の南端に原山（「ハ」にアクセント）と呼ばれた広い平地林があった。北は新しい国道354号から南は高林のラブのところあたりまでであったらしい。この林は西矢島の人が所有していて、薪をとったりするのに使用していたようだ。戦争中にこれを切り払って、軍需工場の三和工場ができた。工場は終戦とともに閉鎖され、しばらくは放置されていた。その敷地は現在の矢崎加工にそっくり引き継がれている。

昭和20年4月4日、太田駅が狙われたのと同じ日、西矢島にも爆弾が落とされた。三和工場を狙ったらしいが、集落の方へずれ、複数発落ちた。（数については7～30発と証言にバラつきがある）すぐそばにあった高草木貴一家では爆弾の破片が牛に当たって、痛くて1日モーモー鳴いて、死んだ。麦わらの屋根に火がついたが、近所の人と一緒に消し止めたという。

やはり近所の高草木右兵さん（昭和2年生まれ）は、朝になって爆弾が落ちたということで行ってみたら大きな穴が空いていて、池のようになっていたという。田んぼの中だったので怪我人などはいなかったが、100m以上離れた高草木家にも土砂が飛んできた。また家のケヤキの大木に2つ3つ爆弾の破片がささっていたという。

⑥紫雲塚古墳

安楽寺のすぐ西に紫雲塚^{しうんづか}という古墳がある。直径約35mの円墳で、比較的よく形が残っている。西矢島にはかつてたくさんの古墳があったが、現在原型をとどめているのはこれだけである。頂上には稲荷様が祀っており、かつては初午の祭りのときにそこで団子を配った。シウンヅカでなくスクモヅカという名前を聞いている人もいる。（漢字で書くと紫雲塚だからとのこと）その形状から、タカンドヤマと呼んでいた人もいる。当時は周りに高い建物もなく、隣村の新井で火事があったときなどはその山に

のぼると周りに建物がないためよく見えたという。

⑦不^{ふげんしや}倦舎のあった安楽寺

かつて九合小学校が出来る前、学校はどうしていたかという、明治6年(1873)に西矢島の安楽寺に不倦舎ができ、九合地区では飯塚、新井、西矢島、東東矢島、東別所、内ヶ島、小舞木の子たちがここに通った。またその分校という形で明治8年(1875)に内ヶ島の蓮光寺に開文学校が置かれ、飯塚、内ヶ島、小舞木の子たちがこちらに通うことになった。そして明治22年3月に現在の土地に九合小学校の校舎ができるまで、教育が行われた。安楽寺、蓮光寺の両寺境内に、昭和48年(1973)九合小開校100年を記念してそれぞれ、「不倦舎の跡」、「開文学校の跡」の碑が建てられた。現在の安楽寺本堂は、不倦舎として使用された建物そのものである。九合カルタにも「開校の礎 不倦舎・蓮光寺」とある。

西矢島の関口喜好さん(昭和6年生まれ)の祖父(明治17年生まれ)は安楽寺の寺子屋をのぞいたことがあるといていたそうだ。

7つの秘密基礎データ：東矢島町

①長良神社の獅子舞

太田市指定重要無形民俗文化財になっており、長良神社の春秋のお祭りで舞われる。九合カルタにも「ささら舞 昔なつかし 笛太鼓」とある。(ささら舞とは獅子舞の古称) 起源は定かではないが、一説には徳川吉宗の治世(1716-1745)から続くという。また、先代の獅子頭が現存し、その塗料から鎌倉時代のものだと推定されている。お祭りはにぎやかで露天が何軒も出て、綿菓子やアメなどが売られた。このお祭りは一大行事であったので、東矢島から外へ嫁に行った娘なども、この日には堂々と実家に帰ってゆくりできた。(昔は何か理由がないとなかなか嫁は実家に帰れなかった) 東矢島から嫁いだ清水かず江さん(昭和2年生まれ)もこの日は楽しみに里帰りしたという。各家では餅をついたり赤飯をふかしたり、晴れの日であった。

九合地区に獅子舞は東矢島と新井に伝わっているが、新井のところにも記したように、舞の仕草、笛の旋律、衣装、獅子頭など、すべて東矢島のオリジナルである。雄2匹、雌1匹の3匹で、獅子頭をかぶり、おなかに太鼓をつけて、笛の音色に合わせて舞う。舞は平庭、梵前かかり、橋かかり、雌獅子かくしの4種類ある。東矢島の獅子舞はユーモラスで、舞いの途中で獅子が客を追いかけたりする。そのような動きや支度(外見)が面白かったという。頭から外した獅子頭で頭をかんでもらうと子どもが健やかに育つといわれた。

東矢島の獅子舞の特徴の1つは、宿があることである。その年の役員の中から一軒選ばれて、そこで獅子舞の準備をし、ひと舞い舞ってから出た。行列を組んで、笛に合わせて太鼓を叩きながら神社へ向かった。宿から神社に来るのは夕方だが、踊りが終わって宿に帰るのは夜の10時頃になった。昔は街灯など少なく、行灯に火を入れて、提灯を下げて行列した。

※太田市史民俗編下巻 p.330 参照

②獅子舞の^{まんどう}万灯

春秋の祭りの獅子舞において、境内の両側に一対立てる大きな花笠状のものである。年ごとに隣組をいくつか割り当てて、お祭りの1週間前くらいから作業を行う。竹を7尺、5尺、3尺に切って、7尺、5尺のものは横の傘の骨になる部分、3尺のものは上の飾りとなる。7尺のものには紙花を7つ、5尺のものには5つつける。今でも昔ながらのやり方で作っている。この竹をもらってきて、家に飾っておくと、蚕(の飼育)が当たるといわれた。かつて獅子舞を舞った野村英男さん(昭和6年生まれ)は

色々な獅子舞を見てきたが、これほど立派な万灯はなかなかないという。新井の獅子舞にも万灯はあるがこれほど手の込んだものではない。

かつては春秋のお祭りごとに新しい竹で作直したが、現在は春のお祭りのときだけ作っている。また、竹も入手が難しくなったのでそのまま用い、紙花だけをつけ替えるという形になっている。

③お寺のふるさと元寺^{もとでら}

長良神社の参道の南端にある。現在は墓石だけがたくさん並んでいる。言い伝えによると、東矢島の寺である薬王寺がかつてここにあったのが火事になって、現在の場所に移動したという。いつの時代かは定かではないが、江戸時代ではないかと考えられている。現在はこの場所は元寺と呼ばれている。東矢島の獅子舞は前述のように宿から村を練り歩いて神社に向かうが、その笛の音色が、ここ元寺に差し掛かったところで変化する。それがここに寺があったことと関係があるのかは不明であるが、大変興味深い。

④薬王寺の宝篋印塔^{ほうきょういんとう}

宝篋印塔とはお経を書写してこの中に納め供養をすれば功德を得られるとして建てられたもの。薬王寺本堂と山門の間、参道の少し左にある高さ 2.5m ほどの立派な石塔がそれであり、「安永 5 年 (1776) 建造、願主寛仙常海敬白」とある。平成 12 年にこの石塔を改修した際に、中から書物が出てきた。それは東矢島村薬王寺の僧侶である常海和尚が、全国を行脚して勸進^{かんじん}して歩いた納経帳 (お経を書いて納めることで、お金をいただいた記録:薬王寺に現存)であった。明和 2 年 (1765) 正月～明和 6 年 (1769) 7 月までの 4 年半をかけて、578 もの社寺を回っている。以下、納経帳の記録をもとに、常海和尚がどのようなルートをたどったか、現在の都道府県名に直し、有名社寺等を加えて書き出してみる。

※ルートは概略とご理解いただきたい。

(明和 2 年) 薬王寺→明王院 (新田触不動:太田市内) →世良田長楽寺 (太田市内) →埼玉 (吉見、川越等) →東京 (浅草寺、目黒不動尊等) →神奈川 (鎌倉八幡宮、長谷寺等) →静岡 (伊豆地域等) →山梨→静岡 (駿河、遠江地域等) →愛知 (熱田神宮等) → (明和 3 年) →岐阜→滋賀→三重 (伊勢、志摩地域等) →和歌山 (熊野三山、高野山等) →奈良 (長谷寺、興福寺等) →大阪→京都 (石清水八幡宮、清水寺等) →滋賀 (延暦寺等) →兵庫 (淡路島等) →岡山→ (明和 4 年) →香川→徳島→高知→愛

媛→広島→山口→福岡（大宰府天満宮等）→佐賀→長崎→熊本→鹿児島→宮崎→大分（宇佐八幡宮等）→（明和 5 年）→島根（出雲大社等）→鳥取→兵庫→京都→福井→石川→富山→新潟→長野（善光寺、諏訪大社等）→群馬（榛名山、水沢観音等）→埼玉（秩父地域等）→栃木→茨城（鹿島神宮等）→千葉（香取神宮等）→埼玉→栃木→（明和 6 年）→宮城（仙台、松島等）→山形（出羽三山等）→新潟（佐渡等）→群馬（沼田・迦葉山） 記録ここまで。

この全国行脚の理由について、言い伝えの薬王寺火事で消失した本堂を再建するための資金集めとも推測されるが、平成 6 年にワラ葺きを銅版葺きに改修した際に棟札（建築年等を記した板）が出てこず、確証はないそうだ。ちなみに現在の本堂は戦争中の空襲で戸板が爆風で倒されるなどの被害を受けた。（以上、昭和 9 年生まれ：加賀谷和尚談）

宝篋印塔の南面に漢文で字が刻まれている。ここに常海和尚勸進の由来などが書かれている可能性がある。読み取れない箇所、理解できない箇所があり、また誤っている点もあるかもしれないが参考までに記す。（「○」は不明な文字を表す）

順国供養塔銘並序

願主常海者産上毛新田東矢嶋也姓間
々田字惣右衛門昔日依三宝善縁発順
国志願進歩也中謁和○長谷寺寛伝師
剃髮染衣焉爾来修頭陀行不懈終拜
扶桑国裡之靈場帰場千故邑矣余欲奉
謝四恩洪徳建塔医王山下備其法則矣
海也使予作碑銘予感其津梁之功猥與
之也銘曰

素人ながら内容の解説を試みると、

願主である常海は上州新田の東矢島に生まれ、本名を間々田惣右衛門という。昔日仏縁に恵まれ全国仏道修行行脚を発願した。（旅の途中）長谷寺の寛伝師のもとで剃髮、出家して僧侶となり、それ以来頭陀行（^{ずだぎょう}托鉢行）を続け、日本全国の霊場を怠けることなく礼拝してまわった。そして四恩（父母の恩、三宝の恩等）に感謝し、故郷の医王山（薬王寺）に石塔を建てることを欲した。彼の仏徳に感動し、私はこの文章を記すのである。

⑤薬王寺の抜け出し地蔵

宝篋印塔のすぐ北にある二股に分かれた大ツゲからまっすぐ左（西）に10歩ほど歩くといくつか石塔などが並んでいる。その真ん中にある地蔵様。体が半分土の中に埋もれている。普通の地蔵様は蓮華座という台にのっているが、こちらは地に足がついていて、民衆の目線にあり、願をかければ地面から抜け出してすぐに願いをかなえてくれると伝えられている。

⑥南矢島町と末広町

現在南矢島町、末広町として独立している2つの町の土地は、かつてほとんどが東矢島に属していた。平成8年に、東矢島と高林の一部が合わさって南矢島町ができ、同年、東矢島と古戸の一部が合わさって末広町ができた。かつて東矢島は面積が広く、南は古戸と接していた。現在南矢島町となっているところには古くから、^{なかしんでん}中新田と^{とおしんでん}遠新田の2つの集落があり、ひとまとめに^{しんでん}新田と呼ばれていた。多くは田んぼだったのが、だんだんと開発されて住宅地となった。町名を決定する際に、昔からの呼称である新田をとって「^{しんでんちやう}新田町」にしようという案もあったが、隣の「^{にったまち}新田町」と紛らわしいので、東矢島の南ということで現在の名前がついた。

末広町は主に、現在の南矢島町、すなわち東矢島新田の農家の人たちが所有する桑畑だった。しかし戦争中（1941年）に強制的に買い上げられ、中島飛行機の工員住宅として一気に開発された。末広町という名称ができる前は、「東矢島住宅」などと呼ばれていた。

⑦旭小学校

かつて、九合の子どもはみんな九合小学校へ通っていたが、児童数の増加に伴い、昭和59年に東別所、東矢島、西矢島、飯塚町の一部の子どもが通う小学校として旭小が開校した。九合小を表す「九」の東から「日」が昇るということで旭小学校と付けられた。九合小のシンボルツリーのせんだんの木からとって、せんだん小学校という案もあったという。

ところで、中央小が九合小から分かれた際にはせんだんの木が贈られ、玄関前に植えられて現在にいたっている。旭小にも西門に入ってすぐの塀ぎわにせんだんの木が2本あるのだが、初代PTA会長の森尻桂司さんやその他関係者に聞いても、学校沿革史を見ても、このせんだんの木に関する情報は得られない。ただ、2本のうち北側の木は石の囲いの中に植えられていて、いかにもそれらしい感じがする。旭小の子どもたちに、九合小と旭小の関係、それをつなぐせんだんの木について、伝えたい。

7つの秘密基礎データ：東別所町

①長良神社裏の古墳

長良神社の裏にあり、上毛古墳総覧（太田市立図書館蔵）によると、九合 61 号墳と名づけられ、刀、鐙^{つば}、馬具が出土とある。神社の社殿は古墳を削る形で建てられている。古墳というのは神社ができるよりずっと前からあるものであるが、後の人が神社を立てるとき、古墳という山をシンボルのようにみなして、ここはいい場所だから神社を建てよう、と思わせたのだらうと考えられる。いわば、ご神体に近いイメージがあったのかもしれない。古墳の手前に神社を作るという例は各地で見られる。九合では新井町の八幡宮もその例であったが、もはや道で削られて古墳はない。その意味でも今、ここに古墳が残っていることは貴重なことである。

現在、墳丘上には色々な小さな石の神様が集められて並んでいる。これらはかつて、東別所地区の辻や道端にまつられていたものだが、時代の流れと共にここに集められた。今では知る人は少なくなったが、その 1 つ 1 つが歴史をもち、人々の崇敬を受けてきたものである。

古墳の上、そしてその裏の現在空き地のようにになっているところは昔杉林だった。森尻桂司さん（昭和 10 年生まれ）はかくれんぼをしたり、ちゃんばらをしたりとこの森でよく遊んだ。林の中にウルシの木があって、その木を切ったら体中がかぶれてしまったという経験もある。

②奇祭、獅子頭まわし

非常にユニークな祭りで役員が太田市西部、世良田地区（旧尾島町）の八坂神社から獅子頭と獅子頭の入った神輿を借りてきて、かついで町内の家々を 1 軒 1 軒まわった。九合カルタにも、「獅子頭 町内めぐり 春祭り」と読まれている。

昔は 4 月 18、19 日がお祭りだった。神輿は、獅子頭が入った木箱が 2 本の担ぎ棒の下に取り付けられた形になっており、箱神輿などと呼ばれ、獅子頭自体は外から見えない。家々では、役員がそれを担いでくると、その獅子頭（木箱）の下をくぐらせてもらう。そうするとご利益があるといって、みんなありがたがってくぐった。そして担ぎ手をごちそうでもてなす。多くは酒を出し、担ぎ手たちはその酒が楽しみだった。（当時酒は貴重品で、このようなときくらいしか飲めなかった）酒を出さない家では、なかなか帰らず酒を催促するなどという場合もあったというし、酒をたくさん出してくれた家では余計にワッショイワッショイともみこんだそうだ。

大谷芳男さん（大正 13 年生まれ）が子供の頃は、世良田の神社まで歩いて借りに行

った。その後は自転車にリヤカーを接続して借りに行く形となり、現在では4月の第3日曜日に車で借りに行っており、そのまま獅子頭を降ろさず車で町内をまわるのみで、各家に寄ることはない。八坂神社に獅子頭を借りに行く際にお札を受けてきて、氏子はこれを頂くが、祭りの形は変わっても、大谷さん宅では毎年八坂神社のお札を玄関に飾っている。

尾島町誌（通史編下巻 p.769）によると世良田八坂神社から獅子頭を借りてきて区内をまわる、という行事は各地で行われており、旧尾島町内はもとより、前橋、伊勢崎、群馬郡、県外では狭山、本庄方面まであったとのこと。

③往還道路^{おうかんどうろ}

往還道路というのは東別所の幹線道路で、町内西部を南下し、お寺の南西で90度右折し、東へ向かう道で、この道に沿って家々が並んでいた。（明治5年頃発行の^{じんしん}壬申地引絵図をみるとはっきり分かる）お寺や神社への参道もこの道に接続していた。東別所の住宅地はかつて、^{にしはら}西原（ニシッパラ）、^{ほんごう しんてん}本郷、新田と3つに分かれていて、往還道路の東と西が西原と本郷の境界となっていた。ちなみに神社の東の道が本郷と新田の境界である。（現在はそれ以外の場所にも住宅が建ち、上記の3つに^{あとはら}後原、市営住宅、コモンシティを加えた計6地区に分かれており、それぞれから区長代理を1名選出する。正区長は別に1名選ぶ。）昔はこの道くらいしか広い道がなかった。また昔は車も通らないので、この往還道路のちょっと広がっているところなどは子供の遊び場だった。森尻桂司さんもそこで遊んだ。また昔はこの道より南は畑と田んぼだけで、（東別所内に）家は1軒もなかったが、いまはたくさん立っている。この往還道路の道筋は今でもそのまま残っている。

④国貞寺^{こくじょう}の八木節祭り^{やぎふし}と道具一式

かつて、東別所は国貞寺の八木節祭りといえば、近在でも有名であった。毎年8月21、22日に行われ、東別所以外からも八木節の喉自慢、腕自慢、また見物客が集まって、お寺の境内は人でいっぱいになり、とにかく賑やかだった。後述する往還道路から国貞寺まで30～40mの参道が続いているが、そこに露店がひしめき、子どものおもちゃや食べ物などが売られた。

祭りでは境内に木と竹を組んで櫓（やぐら）を建て、演奏者はこの上で八木節を行う。この祭りはただ演技を見せ合うのではなく、八木節大会であり、審査員により優秀者を選んだ。審査員たちはお寺の本堂に座っているが、櫓の上と本堂が滑車でつながれており、演奏者の情報などが滑車を伝って上から審査員席までスーッと降りてく

るユニークな仕組みになっていた。機械のない時代の工夫である。

もう 1 つ大切なことは、この八木節祭りが、青年団という東別所地区の若者達が組織する団体によって主催されていたことである。現代では地域社会において若者の影は薄い、当時は地域を盛り上げるのに大切な役割を担っていた。大谷さんや森尻昭久さん（昭和 4 年生まれ）は若い頃青年団員として祭りを行った。（青年団が祭りを主催するというのは当時各地で行われていた。新井町の地藏様の祭りもしかり）祭り自体は戦後何年かして終わりとなってしまったが、この櫓を組んだ骨組み一式が今でもお寺の床下（縁の下）に残っている。

⑤太田飛行場

昭和初期、太田には中島飛行機という会社があって、軍が使う飛行機を生産していた。中島飛行機は当時、大変な優良企業で、働き手が全国から集まり、太田の町は一気に活気付いて、人口も増えた。太田駅のすぐ北西に昭和 9 年に太田工場ができ、陸軍、海軍両方の飛行機を作っていたが、昭和 15 年、現在の大泉町に小泉工場ができて、海軍の飛行機を作ったため、太田工場では陸軍の飛行機を作ることになった。この 2 つの工場の間、生産された飛行機を飛ばすための飛行場が昭和 16 年に完成した。同時に工場と飛行場をつなぐ専用道路も作られた。（これは新島町の秘密になる）東別所の面積の約 3 分の 1 に及ぶ土地が飛行場として使用された。そこはキタツパラと呼ばれ、大体が薪をとるための平地林であった。壬申地引き絵図を見るとすぐ分かるが、東別所は北東がぼこんと突き出た形になっていた。この突き出しがキタツパラで、これがそのまま飛行場に取られた。当時は反対運動など許されず、強制買い上げだった。飛行場の広さは 40 万坪（130 万㎡）。（東別所だけでなく、周辺地域から土地が買い上げられた）敷地内には幅 70m、長さ 1300m の滑走路や、格納庫ができた。この格納庫は東別所と大泉の境目辺り、つまり東別所の住宅地と遠くないところにあった。

その後昭和 20 年 4 月 4 日未明の空襲において、飛行場の格納庫が B 29 に狙われた。東別所区域にも爆弾が落ちたが、幸いにも住宅地には落ちなかった。この飛行場は、昭和 44 年まで米軍の接收状態が続き、群馬県で一番最後まで返還されなかった施設であった。現在は富士重工大泉工場になっている。（太田市史近現代通史編 p.567 参照）

⑥^{えんたいごう}掩体壕

戦争中、太田飛行場には前項で述べたように太田工場、小泉工場で作られた飛行機が集まってきたが、その飛行機を隠しておくための土手のような土盛りがこの掩体壕であった。三方を高さ 2～3m の土手とし、一方が出入口で、上には網をかけ、その上

に木の枝などを乗せてカモフラージュした。7つの秘密写真のところに掲載した、森尻紀三さん（昭和6年生まれ）が当時を思い出して描いた図を参照されたい。太田飛行場から東別所の住宅地にかけて作られた。森尻昭久さんはこの土手を作るのを手伝わされた。東別所内の東から中ほどまで、家は避けて、農家の人たちの貴重な農地を問答無用でつぶして作った。大谷さんが戦争から帰ってきてふるさつを見たとき、掩体壕などで村の中がめちゃくちゃになっていて驚いたとのこと。森尻桂司さんの家の畑にも2つの掩体壕が作られた。現在その痕跡は見られないが、戦争と関係する大変大きな被害だった。

⑦アメリカ村の区画

航空写真などで見ると一目瞭然だが、東別所北部に東別所幼稚園を中心に、半円型、放射状に区画整理された住宅地がある。これも戦争と関係したひとつの戦争遺跡である。

最初は戦前に中島飛行機のゴルフ場として整備されたが、戦後進駐軍が太田に入ってきてその宿舎を必要とし、目に留まったのがこの土地だった。水道、水洗トイレ、電動ミシン、自動車などの進んだ生活様式を目にした住民は大変衝撃を受けた。詳しくは大正インタビューなどを参照。

※太田市史近現代通史編 p.758 にアメリカ村の写真あり

7つの秘密基礎データ：内ヶ島町

①2つの伊勢神社

日本の神社の中の中心的な位置にある、三重県伊勢市の伊勢神宮は、内宮と外宮に分かれている。内ヶ島の中心となる神社は伊勢神社で、この伊勢神宮を源としている。現在、内ヶ島の伊勢神社は1か所しかないが、かつては伊勢神宮と同じく2か所に分かれていた。1つは東の宮または内宮、もう1つは西の宮または外宮と呼ばれていた。それが明治末の神社合祀令により、現在の場所に統合、移設された。

神社明細帳原簿によると、東宮 832 坪、西宮 514 坪となっている。飯田市太郎さん（大正 13 年生まれ）が子どもの頃には東、西宮とも跡地が畑となっていたが、まだ名残があり、敷地としてはそのまま残っていた。ただの畑とは違い、周りに木が生えていたり、また両方とも池の跡があったりして、建物こそなかったが、なんとなく神社っぽい面影がただよっていたという。東の宮の跡地は飛行場用地に引っかかり、大分小さくなってしまったが、現在でも場所は特定できる。西の宮の区画はほぼそのまま残っていて、蓮光寺の南西、道で三方を囲われた区画。ここも立ち木などそれらしい雰囲気だった。また、南部には 40～50 坪の池の跡があった。これは神社へお参りするのための手洗いの池だと推測される。

現在の伊勢神社は、正面にあるのが東宮、その左後ろにある小さいものが西宮となっている。どうして現在の地に移動したかについて、飯田さんはもともと何かあったのだろう、という話は聞いているが、確かなことは聞いていない。ただ、神社明細帳原簿（太田市立図書館蔵）に、小字ナカ（現在伊勢神社がある場所）に八幡様があることから、この場所に移し、そして八幡様は裏にならんでいる石の神様の中のどれかなのではないかとのこと。

伊勢神社は、春、秋、1月、2月と、年に4回のお祭りがあった。春、秋は内ヶ島の外からも人が集まってにぎやかで、綿菓子や飴などの露店も出た。1月には次の秘密である弓引きが行われた。伊勢神社の祭りで特徴的なことは、春、秋、1月の祭りにおいて、甘酒が出されることだ。（近年は2月の祭りでも出している）釜番（その年の役員）の記録によると、昭和50年まではサシヨセといって各農家からお米を少しずつ集めて、麴から手作りしていた。現在は酒粕を購入して作るが、昔の名残で甘酒は必ず出される。

②伊勢神社の弓引き

伊勢神社に昔々から伝わる伝統行事で、1月7日、5～7歳の子が弓を引いて的を射

抜く神事。昔は紋付羽織袴で行う神聖なものだった。ウツギの木で弓を作る。全ての子が弓引きができるわけではなく、農家の長男でないとできないし、また両親が健在でない子、喪中の家の子も引けないなどの決まりがあった。飯田さんは、5歳の時は引くことができたが、その後母親が亡くなったため、7歳のときは引けなかった。的を射抜いた矢は誰が拾って持ち帰ってもよく、縁起物とされた。

※太田市史民俗編下巻 p.72 参照

③稲荷様と八幡様

明治末の神社合祀令で、日本中の小さい神社は大きい神社に合祀された。それまでは、地域にもっとたくさん神社があった。一村一社ということで、内ヶ島では伊勢神社に統合された。この稲荷様と八幡様も一度合祀されたのだが、周辺で悪いことが起きたため、人々はこれは神社を動かしてしまったことによるタタリだと考えた。そこで、また改めて元あった位置に戻した。このようなケースは九合では内ヶ島だけでしか確認していない。

稲荷様は内ヶ島西端、田口医院のある「小舞木町」という信号からちょっと南東に入ったところにある。八幡様は、内ヶ島町の南東の端、休泊堀のほとりにある。どちらも小さい神社だが、鳥居を目印にすれば見つかるはずである。これら2つの神社は、内ヶ島全体の神社というのではなくて、周辺の人々によって守られている。

④カンカンナイド

バイパス（県道烏山竜舞線）沿い、ファミリーブックの反対側、農家の敷地の隅に小さな祠がある。これは古くから信仰された地藏様である。バイパスが出来る前は地藏様の敷地が広くあって、子どもたちの遊び場にもなっていた。この地藏様にはお祭りがあり、かつては8月1～7日の毎日、現在では1、4、7日となっている。

そのお祭りはカンカンナイドまたはナイドナイドなどと呼ばれていて、1人が鉦かねをカンカン叩き、10人くらいの方が何メートルもある大きな数珠（木製の玉）を綱引きのように持ち、「ナイドナイド、、、」と唱えながら反時計回りに回していく。数珠はとても古い物で、木でできている。数珠の玉の中にたまに大きなものがある、その玉が自分のところに来た時は、それを少し高く上げて、お祈りする。各人が思い思いの願いをかけてきたのだろう。ひとしきり回すと次の人と交代していく。内ヶ島全体の行事というのではなく、内ヶ島内のキタツパラ地区の責任で行われてきた。

大変貴重な民俗行事であるが、今は参加者が大分少なくなってしまった。かつては大変にぎやかで、氷屋などの露店も出たし、のど自慢やスイカ割り、花火なども行っ

た。建物も今のように多くなかったし車も少なかったので、カンカンと鉦を叩く音は内ヶ島中に響き渡った。飯田市太郎さんは天神山の近くに田んぼがあり、その季節はちょうど田んぼの草を取る時期で、草取りをしているとカンカン音が聞こえてきて、ああやってるな、と思い、家に帰る途中に地藏様の祭りに寄っていったそうだ。

⑤孫佐衛門の観音堂

九合カルタに「森の中 孫佐衛門の 観音堂」とあるが、観音堂は一般の寺院と異なり、個人の所有となっており、大槻敏明さん（昭和 14 年生まれ）の敷地内にある。観音堂は宝暦 4 年(1754)に整備された準西国 33 番札所の第 10 番札所（11 番は蓮光寺）になっている。

お堂の中には観音様がまつられていて、毎年旧暦の 3 月 18 日と 7 月 10 日（現在の暦で 4 月と 8 月頃）にお祭りが行われる。この日には観音様に団子（通常の墓参り等を作る団子よりちょっと大きめ）や季節の収穫物をお供えする。そしてお参りに来た人にその団子を配るのだが、普通の人には 3 個ずつ、小さい子をおぶって来る人には 5 個ずつと昔から決まっており、今でもかかさず行っている。

お祭りはお坊さんと呼ばず大槻家を中心に行うが、近所の人、信心家も集まる。親戚ではないあるおばあさんは、亡くなる直前まで来ていた。かつては信心する人が多く、行列ができることもあったそうだが、現在は 15 人くらい集まる。子どもがお団子ももらってから学校に行くということもあったとのこと。

お堂の扉に葵の紋が入っているのは、徳川家から石（米）をもらっていたからであり、その石でお坊さんをまかなっていたという。（以上、大槻敏明さん談）

⑥県道の名残

昔の小泉県道が途切れ途切れ残っている。「小舞木町」の信号から 100m くらい北にいったところから南東にむかって斜めに真っ直ぐの道がある。この道、なんだか斜めだなあと考えたことのある人はいないだろうか。この道は途切れながらも現在でも新島、小舞木と通ってきて、内ヶ島にまでつながっている。同じ場所から小舞木側を見てもみると、北西にむかって伸びているのがわかる。内ヶ島では南東に向かった後、バイパス（県道鳥山竜舞線）とぶつかり一時消えてしまうが、「内ヶ島東」の信号南、広い道と店舗（ガラクタ鑑定団）との間に細い歩行者用道路として残っていて、その後伊勢神社につながっている。この細道が実は昔の大切な道だった、ということを知る人は少ない。その後、道は大泉（旧小泉）へ向かっていくわけだが、太田飛行場ができた関係でしばらく消失している。

⑦開^{かいもん}文^{ぶん}学校^{がっこう}のあつた蓮^{れん}光^{こう}寺^じ

かつて九合小学校が出来る前、九合地区の子どもたちはどこに通っていたかという
と、明治6年(1873)に西矢島の安楽寺に不倦舎ができ、飯塚、新井、西矢島、東矢
島、東別所、内ヶ島、小舞木の子たちがここに通った。またその分校という形で明治8
年(1875)10月に内ヶ島の蓮光寺に開文学校が置かれ、飯塚、内ヶ島、小舞木の子た
ちはこちらに通うこととなった。(飯田、新島の子については太田町の東光寺へ通っ
た。)だが蓮光寺はわずか2ヶ月余り後、同年12月に出火し、燃えてしまった。その
後しばらく民家を借りて学校としていたが、明治12年(1877)、ようやく再建された。
その時、蓮光寺はお寺でありながら、学校として使用する目的で建設したため、寺院
らしからぬたたずまいとなった。現在でも建物は当時のままである。

蓮光寺では明治22年3月に現在の土地に九合小学校の校舎ができるまで、教育が行
われた。安楽寺、蓮光寺の両寺境内に、昭和48年(1973)九合小開校100年を記念
してそれぞれ、「不倦舎の跡」、「開文学校の跡」の碑が建てられた。九合カルタにも「開
校の 礎 不倦舎・蓮光寺」とある。

※「百年のあゆみ」(太田市立九合小学校) p.47~50 参照

7つの秘密基礎データ：内ヶ島町目塚^{めえづか}

内ヶ島は九合地区の中でも一番面積が広く、東武小泉線よりも北側を目塚地区として行政区を分けている。

①天神山古墳

5世紀中ごろ築造といわれる。全長 210m、後円部直径 120m、前方部前端幅 126m、堀まで含めると東西 285m、南北 350m、高さは 16.8m、古墳の占める土地は 9万㎡に及ぶ、東日本最大の前方後円墳。全国でも 26 位の規模で、国指定史跡になっている。九合カルタには、「天神は^{じよたい}女体とともに 国史跡」と読まれている。

被葬者は当時、ヤマト王権と強い結びつきをもっていた「毛野国^{けのくに}」の大王と考えられている。古墳から見つかった 3m以上ある石棺は、天皇の墓と同じレベルの大きさで、「王者の石棺」であり、そのことはこの毛野国はヤマト王権の服属者ではなく同盟者であったことを示すといわれる。

現在は森のようにになっているが、築造当時は 6 キロ以上離れた渡良瀬川の川原石が古墳の表面全体に敷かれており、光によって古墳が白く輝いて、特別な視覚効果があったという。また、高さも当時としては周囲に高いものがなく、平野の中に高層ビルが建った様なものだったという。

※参考文献：「上毛新聞（2012.9/23,10/7）の太田天神山古墳特集」、「太田市の文化財」（太田市文化財課）

②女体山古墳^{じよたいさん}

天神山古墳のすぐ東にある帆立貝形古墳（帆立貝の形のように、円墳にちょこんと造り出し部がついている）墳丘の全長 106m、天神山古墳とほぼ同一時期、5 世紀中ごろ築造と考えられている。天神山古墳と同じく国指定史跡となっている。ちなみに両古墳は同一方向を向いて作られており、その延長上には妙義山がある。また築造時期も近いので、両古墳の被葬者には密接な関係があると考えられている。

天神山も女体山も、子どもたちにとっては格好の遊び場だった。栗の実を拾って食べたり、花を採集したり、天神山と女体山に分かれて陣地を張り、戦争ごっこをしたりして遊んだ。

③天神様

天神山古墳の名前は、墳丘上に天神様が祀られていることによる。天神様とは菅原

道真のことで、学問の神様といわれる。いつからあるかは定かではないが、少なくとも江戸時代からある。ただ、古墳はもっと昔、1500年くらい前からあるので、古墳の上に後になって神社が建てられたことになる。(新井の八幡宮や、東別所の長良神社もその例)そこで、天神様がある山だということで、天神山と呼ばれるようになった。

普通、地区に神社は1つなのだが、内ヶ島地区にはいくつかの神社がある。内ヶ島全体の神社は伊勢神社であり、この天神様は、内ヶ島の中でも目塚地区の人によって守られている。お祭りは年に3回あって、正月、2月、11月。今では役員たち中心で、子どもたちが集まるということはないが、昔は大変にぎやかだった。子どもはお祭りに行くとお菓子がもらえたため、石川^{としひろ}幸宏さん(昭和22年生まれ)は学校が終わると楽しみに出かけた。天神様のそばに土俵があり、昭和の初め頃まではお祭りのときにお相撲さんが来てそこで相撲を披露したそう。町田安子さん(昭和4年生まれ)が親から聞いた話では、町田さんは幼いとき体が弱かったので、元気になるようにとお相撲さんにわっしょいわっしょいと担ぎ上げてもらったという。

④天神山古墳A^{ネーバいちろう}陪塚

陪塚とは、大きな古墳に付属して作られた古墳のこと。天神山古墳にはA陪塚、B陪塚とある。B陪塚は古墳南西部に位置するがもう削られてしまったようで、確認が難しい。一方A陪塚はよく形が残っている。場所は天神山のすぐ北東なのだが、天神山を縦半分に切る線の延長と、女体山を横半分に切る線の延長が交わる場所にある。なんとも意味がありそうな場所だ。かつては木が生えていたが近年伐採して、現在は草が茂っている程度で、また狭い道を入ったところにあり、見つけづらいだろう。高さは約3m、直径約30m。何か儀式を行った場所とも考えられるという。天神山と女体山はよく知られているが、この古墳はあまり知られていない。

⑤目塚の高射砲陣地

高射砲とは上空を飛んでいる敵機に向かって打つ大砲のことで、それが備えられた場所が高射砲陣地であり、戦争中、全国各地に作られた。九合地区では、中島飛行機の二大工場と、太田飛行場の防御のため、小舞木と、ここ目塚の女体山北に陣地があり、目塚の陣地は昭和19年に設置された。といってもここの陣地は目塚におさまるわけではなく、女体山の北からイオン太田ショッピングセンター辺りにかけて広がっており、一般的には下小林の陣地とされる。この部隊はB29を2機とグラマン1機を撃墜している。(太田市史通紙編近現代 p.716 参照)

陣地のすぐそばに住んでいた町田安子さん(昭和4年生まれ)は、近くを兵隊さんがたくさん往来しており、さながら戦地のような感じだったと回想する。

砲台の基礎が 1 基、イオンの敷地の中に保存されている。イオンの建物の南側にあり、説明板も建てられている。それによると、直径約 4.5m のコンクリート製で、6 基が扇形に配置されており、そのうち 1 基を保存したとのこと。

⑥ 幻の浄土寺

目塚地区に現在お寺はないが、当地区で生まれ育った町田安子さんが古老から聞いている言い伝えによると、かつては浄土寺という立派なお寺があったが、あるとき火事になってしまって、以来その場所はお寺のないただの墓地として使用されてきたという。現在は共同墓地と呼ばれている。浄土寺の存在を示すものがなかなか見つからなかったが、文化 3 年（1806）に作られた中山道例幣使道分間絵図（太田市立図書館所蔵）にはちゃんと描かれていた。また、敷地内には立派な宝篋印塔^{ほうきょういんとう}が建てられており、これには宝暦 8 年（1758）、蓮華山西蔵院浄土寺、中興法印現證と刻まれており、ここからも浄土寺の存在が知れる。

場所は内ヶ島県営住宅の東、東武小泉線の線路から少し北にある。またここには薬師様（薬師如来）が祀られていて、目にご利益があるといわれる。そのお祭りが現在でも毎年 4 月 12 日に行われ、役員が団子を作ってお参りに来た人に振舞う。昔は多くの人がお参りに来た。おそらく浄土寺があった頃から続く貴重な行事である。

⑦ 旧館林県道

天神山と女体山の間を大きな道路が通っている。県道 2 号線と呼ばれ、西に行けばジョイフルホンダ、さらに伊勢崎、前橋へと続き、東へ行けば館林へ至る。この道は昭和 9 年に今のように直線化、拡幅されたが、それまでは細い曲がりくねった道であった。その名残が現在でも残っている。それは 2 号線の、天神山のすぐ北、大きなカシの木があるところから東へカーブして入っている細い道である。その後少し消えるが、また女体山古墳の南西、セブンイレブンのすぐ北に出現し、さらに東へと至る。何百年も昔からある貴重な道筋である。本書巻末の町田安子さんの寄稿にある行人様もこの道沿いにある。ちなみに天神山の北の部分は、天神山の二重堀の中堤であるらしい。

※「太田地域の道とひと」（茂木晃著）p.20 参照

ところでこの旧道には言い伝えがある。昔、結婚式の時、お嫁さんは嫁入りの行列を作って歩いて嫁ぎ先の家に行ったわけだが、その行列がこの道を通ると縁起がよくないといわれ、わざわざ遠回りして行ったという。やはり大きな古墳の間を通るといふことで、何か恐ろしさのようなものを感じたのだろうか。

7つの秘密基礎データ：新島町

①専用道路

太田工場と小泉工場の間に、昭和16年に太田飛行場ができた。この飛行場へ、両工場から飛行機を輸送するための道が中島専用道路、通称「専用道路」である。新島地区を横切るこの道は、太田工場から飛行場へ運ぶためのもので、全長5キロ、道幅約30m、昭和15年に開削された。

当時としてはこれだけ大きな道路はほとんどなかった。この道を幾多の軍用機が自動車に引かれて通って行った。現在でも道はそのまま残され、「公園通り」に改称されている。九合カルタにも「その昔 飛行機運んだ 公園通り」と読まれている。

また現在、地図を見れば明らかだし、少し新島の中を移動してみれば分かるが、新島の区画は東西南北ではなく、斜めになっている。これは昭和30～40年代の区画整理において、もともとあった専用道路に対して直角に道路を敷いたため、(専用道路自体が斜めであるため)このようになっている。

※「太田地域の道とひと」(茂木晃著) p.28 参照

②九合最大の空襲被害

新島は、中島飛行機の太田工場と接していたため、九合で、または太田で一番といってもいいくらい空襲被害を受けた。昭和20年2月10日の太田大空襲において、100機近いB29がやってきて、太田工場を攻撃した。しかし、その日は冬晴れで、また強い西風が吹いていたので、最初の攻撃で工場から出た煙が、東にある新島へ流れてきてしまった。後からの攻撃は、煙のあるところが工場だと思って煙の上に爆弾を落としたものだから、新島には数え切れないほどの爆弾が落とされ、たくさんの人が亡くなった。

倉林^{さん}三江さん(昭和7年生まれ)は、そのとき防空壕に非難したが、空襲が終わって外に出てみたら、ひどい光景に目を疑った。大津波に襲われたような状況で、建物は爆風で突き抜かれて柱だけになっているし、電柱は倒れ、ところどころに爆弾の大穴が開いていて、防空壕に逃げ損ねた人たちがあちこちに倒れて死んでいた。倉林さんは、区画整理に伴い家の裏にあった大きな杉の木を切ることになり、製材屋に製材を頼んだが、新島の木は爆弾の破片がささっていて、切断する機械を傷めてしまうからだめだと断られた。それだけ新島は空襲がひどく、製材屋の間でも評判になっていたということだ。

現在、空襲の被害を示すものはほとんど見当たらないが、「新島町」の信号から県道

2 号線を天神山の方向へ向かって少し行ったところの右手側に江戸時代に建てられた石碑が 3 つあり、そのうちの 1 つは上部が大きく欠けている。これは、すぐ近くに爆弾が落とされ、その破片が当たって砕けたもので、爆弾の威力を感じさせ、空襲の被害を示す貴重な史料だ。また、この石碑のすぐ近くに住む木村秀雄さん（昭和 12 年生まれ）のお宅にも当時爆弾の破片が飛んできて、屋根を突き破って柱をえぐり、床を突き抜けて地面に落ちたという。木村さんは家を建て替えるときにその柱の傷のある部分を切り出して、今でも歴史の証として保存している。

③新島銀座と小泉県道

中島飛行機が盛んになった昭和初期から、中島飛行機太田工場と目と鼻の先という場所のよさにより、新島は中島飛行機社員のベッドタウンとなった。農家は物置を住居用に貸し出したり、アパートを建てたりし、新島の人口は膨れ上がった。その変化のスピードはものすごかった。それまではほんとうに農家ばかりの農村だったのが、一気に町になってしまった。

中島儀雄さん（昭和 3 年生まれ）によるとそれまで、新島には小泉道などといって南東の小泉（現在の大泉）へ続く道があったが、この道のすぐ南に新しく、広い県道が新設された。おそらくそれが昭和 6、7 年頃だった。この道に沿って、商店が立ち並ぶようになった。八百屋、魚屋、肉屋、洗濯屋、お菓子屋、酒屋、豆腐屋、雑貨屋、タバコ屋、下駄屋、飲み屋、食堂、銭湯、と生活に必要なあらゆるお店が立ち並んだ。これがいつの頃からか新島銀座と呼ばれるようになって、戦後まで盛んであった。

時代の流れで商店はだんだんと姿を消し、現在その面影は乏しいが、旧県道の道筋はそのまま残っており、県道から太田駅側を見やるとその延長上に旧中島飛行機である富士重工の工場が見え、当時をしのぶことができる。

当時の新島の様子を岡庄次郎さん（昭和 8 年生まれ）は、「異常な熱気に包まれていた」と回想する。また、もともと農家ばかりだった新島に、全国から色々な人がうつり住んできたため、進んだ考え方や気風というものも取り入れられた。それまで新島には「寮」という集会施設があり、戦時中にそれに代わる施設が建てられたが、その名も「公会堂」といい、進取の雰囲気の間々現われた。近代的な建物であったが、残念なことに昭和 20 年 2 月 10 日の空襲で全壊してしまった。当時、中島飛行機という存在のため、新島は九合の中でも特殊な状況にあった。

④観音堂と大吉庵

こちらは謎に包まれている。まず、九合村を構成した 9 つの地区のうち、新島だけ

はお寺がない。(小舞木だけは神社がない)でも、お寺というか仏教と関係するものとして、観音堂と大吉庵というものが出てくる。確認できる記録の初出は文化3年に描かれた絵図(中山道例幣使道分間延絵図:太田市立図書館蔵)で、新島村に観音堂と大吉庵の両方が描かれている。しかし、現存しているのは大吉庵のみである(建物は数年前に建て替えられた。その前の建物は昭和27年築だったという)。大吉庵は小さなお堂で、専用道路とバーバンク通りがぶつかったところから少し南にある。そして、大吉庵には現在、観音様と阿弥陀様の2つの仏像が入っている。このことをどう解釈するか。木村さんの推測としては、おそらく、絵図にあった観音堂というものが、いつの時代かに何かの理由でなくなってしまい、観音様は行くところがなくなってしまった。(岡さんは、観音様はかつて、前述の寮の押し入れの中にあったと伝え聞いている。)そこで、同じ仏教の建物である大吉庵に入れてもらったのではないか。ということは、大吉庵のもともとの主は阿弥陀様であるが、今は後から入居した観音様とお2人で仲良く同居していらっしゃるということだと考えられる。

観音様について、色々なエピソードがある。木村さんが今は亡き古老に聞いた話では、館林城主徳川綱吉公の頃に、年貢米の取立てが厳しく生活に困窮した農民の代表の名主の夢枕に仏様が現れ、観音様を作り拝みなさい、そうすれば命は苦しいがそのうちきっと良いことがあるとお告げがあり、作ったそうだ。

また木村さんが伝え聞いたところによると、この観音様は一本杉観音と呼ばれていたという。これは、観音堂があったところに一本杉があったということを示していると考えられる。また、新島地区を細かく分割している昔の地名(小字)の中に、「観音」と名前がつくものが実在している。そして、昔から11月に観音様の縁日というものがあり、農家の人たちがもち米を出し合い、赤飯を蒸かしてみんなで食べるという行事が行われてきた。またこのときお坊さんと呼んで観音様の法要を行った。この法要は現在でも行われている。とにかく、新島の人たちは昔から観音様を大切にしてきたことは事実である。阿弥陀様についてはそのような縁日や法要は行われていない。

大吉庵は③に記した公会堂のすぐ隣にあり、空襲により公会堂は全壊してしまったが、幸いなことに観音様と阿弥陀様は無事だった。しかし、倉林三江さんによると、大吉庵も被害を受け、仏像の手が1本欠けてしまったという。(2体のうちどちらかは不明)しかしそのあと幸運にも手が発見され、つなぎ直したそうだ。

現在大吉庵にむかって右手側に墓石がたくさん並べられているが、これは、もともとあった新島の共同墓地(お寺のない、ただの墓地)から区画整理に伴い小舞木の円養寺へ墓地を集団移転した際に出た無縁仏たちである。また、墓石がたくさんあり、新墓地に入りきらないものをここにまつた家もある。最初に戻るが、新島には現在

お寺がないが、木村さんが古老に聞いたところでは、かつてはお寺があり、火事で燃えてしまったのだという。そして、小字名に「寺屋敷」があり、区画整理前の共同墓地の辺りになる。したがって、この共同墓地がお寺の名残ではないだろうか、と木村さんは考えている。ちなみに内ヶ島町目塚の共同墓地も、かつてはお寺があり、火事で燃えたために墓地だけが残っているという経緯があるので、その推測は十分信憑性がある。

⑤^{えぶみ}江文神社の松

新島町の鎮守様は江文神社で、九合カルタにも「らんまん と 桜咲き競う 江文神社」とあるが、その社殿の西側、九合 3 号公園内に、大きな松の木がある。黒松が 3 本と赤松が 2 本。区画整理に伴って、または暗くなるなどの理由から、昔からの木を切ってしまう神社が多い中、江文神社の松はよく残った。樹齢 100 年は軽く越えているであろう貴重な木である。最も太い黒松は、大人 2 人で抱えるほどある。もしかしたら、昭和 20 年 2 月 10 日の新島空襲の際の爆弾の破片も、幹の中に呑み込んでいるやもしれない。また江文神社の社殿は区画整理にともなって少し東に動いたのだが、松はかつての社殿の位置を教えてくれる。というのも、これらの松の位置は変わっておらず、社殿はその北側に位置していたのである。

⑥^{いっばいもり}一配森稲荷

江文神社の社殿にむかって左奥にある木造の小さなお社。現在も 2 月の二の午に祭事が行われている。このお社は、区画整理前は江文神社と同じくもう少し西、松の古木があるあたりにあった。歴史は古く、前述の絵図（中山道例幣使道分間延絵図）にも書かれている。

（以下中島さん談）毎月 1 日に、太田の町中や（太田に隣接した）^{はまちょう}浜町にいた芸者さんが来て、その月の商売繁盛を願ってこの稲荷様にお賽銭や油揚げ、キツネの置物を上げていった。なぜかはわからないが、当時芸者さんから信仰を集めていた。芸者さんは日本髪を結び、着物で、オシロイをぬっていた。新島の子ども達は、そのお供えの油揚げを下げて（そっととって）食べた。別に悪いことではなかった。

芸者さんが太田にいたということはそこに遊びに行く男たちがいたということで、やはり中島飛行機により人口が増加したこととつながる。

⑦追分地藏

お地藏様のある場所は、現在は新島町ではなく東本町にあたるが、中島飛行機太田

工場ができて区画が変わってしまう前は新島地区内であった。地蔵様は太田市の重要無形文化財に指定されている。日光例幣使道^{れいへいしどう}という古い道があり、この道と館林につづく古河道（目塚の秘密の 1 つになっている）との分岐点にあって、道案内の地蔵様であった。

例幣使とは、京都の朝廷から、日光の東照宮まで毎年お供えものを送り届ける使いのことで、行列を組んで何日もかけて歩いていく。太田には太田宿が置かれていた。1646 年から 1867 年まで休まず続いた。地蔵様は享和 3 年（1803）に建てられたもので、地蔵様の隣に石塔があり、右館林、古河道、左日光道と書いてある。当時、自転車も車も電車もない時代、人々はみな自分の足で歩いて移動したが、その人たちの大事な道案内であり、また旅をなぐさめてくれたことであろう。

7つの秘密基礎データ：小舞木町

①2本の古い道

昔は、今のように車の通れる道が縦横にたくさん走っている、というわけではなく、多くの道は人間だけが通れるような細い道で、大きい道路はわずかしかなかった。よって、人が遠出するときというのは、抜け道を通る、というのではなく、その広い道をみんなが歩いて通った。そのためそういう広い道は重要で、道の分かれ目には道案内の石碑や地蔵様が置かれたりした。小舞木にはそのような大きい道が2本あり、これらは現在でも名残をとどめている。

1本は小舞木のほぼ中央を南北に貫く道。特に名前はないが、飯塚へ至るにはみんなこの道を通っていった。小舞木の出征兵士は小舞木には神社がないため、この道を通って1度飯塚の長良神社へ行って戦勝祈願をし、またこの道を通って太田駅へと向かった。「小舞木町西」の信号のある大きな道の1本西の通りである。かつてこの道の脇に火の見やぐらがあった。区画整理の際に取り壊されたが、現在でもその場所の地下に防火用水が設置してあり、古道の名残といえる。位置としては円養寺の真東から少し南である。なお、火の見やぐらに下がっていた半鐘は現在でも保存されている。

もう1本は新島町から続いてきて、さきほどの述べた飯塚へ至る道と小舞木町の北端で交わっていて、南東へ進む。この道は小泉街道とか小泉県道と呼ばれて、旧小泉（現在の大泉）へと続く重要な道だった。小舞木周辺の人が小泉へ行くにはこの1本道を歩いていった。途中森を抜けなければならず、夜は怖くてあるけなかったという。小泉には有名な祭り（暴れ神輿が有名な夏祭りや社日様の縁日など）があって、九合地区の人も出かけていった。小舞木町内の小泉道のほとんどは土地区画整理（以下、区画整理と記す）で消えてしまったが、かろうじて町内東端にちょっとだけ残っている。旭鉄工の北、高澤豊店などがある、新島方向の北西から内ヶ島方向の南東に斜めに向かって専用道路につながる道だ。他の道に比べて実に斜めになっている。

②小舞木の地蔵様

小舞木周辺で、「小舞木の地蔵様」といえば有名だった。現在は円養寺の山門脇に移されているが、これがもとはどこにあったかという、お寺にあったわけではなく、①の2本の道が交わるところに立っていた。（県立図書館蔵の壬申字引絵図を見ると一目瞭然）そして、道案内役を担っていて、石の台座に、右に行けば古戸道（現在の国道407号線）、左へ行けば館林道と刻まれている。正徳6年（1716）、300年も前に建てられており、立派な造りである。歩いて移動した昔の人々は、この地蔵様に励まされ

れ、目的地へと向かっていったのではないだろうか。区画整理前は上屋もあった。また清水旭さん（大正8年生まれ）によると、毎月24日が地藏様の縁日で、昭和初期までは小舞木の青年団（若者グループ）が団子を作って、お参りに来た人にふるまったという。

③幻の賀茂神社

小舞木は、かつて九合村を構成した9つの地区の中で、唯一神社がない。神社が今よりも大切にされていた戦前には、「小舞木には神社がない」と学校で他の地区の子から馬鹿にされた、という古老もいる。しかし、かつては賀茂神社というれっきとした神社があった。場所としては、小舞木の東部、小泉県道の南に面していた。それが明治末の神社合祀令により、飯塚の長良神社と合併することになった。小さい神社は合併することを余儀なくされたからだ。現在でも飯塚の長良神社の社殿にむかって右手側にある上屋の中に賀茂神社の社殿がそのまま移転されて残っている。（上屋の中に2つお宮があるが、その南側の方が賀茂神社）よって、賀茂神社は、小舞木にはないが、現存しているといえる。お祭りも飯塚と合同で行われている。

賀茂神社には大きな松やケヤキが生えていたという。また清水旭さんが子どもの頃には賀茂神社の境内地がそのまま残されていて、石塔などがたくさんあった。その後、昭和初期に境内を中島飛行機の専用道路（新島町の秘密参照）がつきぬけ、道路のあちらとこちらに分断されてしまった。その後、昭和30～40年代の区画整理によって跡形もなくなってしまった。神社が飯塚に移転した当時、「元村社賀茂神社社殿遺跡」と刻まれた石碑がその場所に建てられたが、残念ながらそれも区画整理とともに飯塚の長良神社境内へ移動してしまった。

合併の経緯について、前述の移転された賀茂神社社殿の隣に「神社合併記念碑」が建てられている。高さ3mほどもある立派なもので、当時の人々がいかに神社の合併を重大なものにとらえていたかが伺われる。碑文を以下に記す。不明な部分は○で記す。（間違いがあるかもしれない、参考までとして頂きたい）

〈神社合併記念碑〉

国幣中社貫先神社宮司正六位六等高橋邦弘題額

古語曰神依人之尊崇而添威徳人依神之威徳而享福祉是觀之国家安康者神人相待相護也可想矣明治四十年二月二十二日我群馬県以甲第九号訓令○神社維持方法其畧曰不至年收入金八十円以上者為無各社而不許為鎮守之資格矣新田郡九合村大字飯塚村鎮座長良神社従来所有財産不過山林反別八反五畝沓歩及び田三畝二十九歩所謂無各社矣衆憂

之不止及氏子総代吉田治平等誠意日夜孜孜謀之補填提起同村無各社長良神合併之議衆可之乃ト明治四十二年五月二十五日行合併式以社地壹反六畝十歩充當長良神従来財産而尚不足其成規財産乃同総代吉田文四郎之篤志不忍坐視之奉納己之所有財産田二反九畝四歩以補之始為収入金八十円以上財産衆心因以安矣獨協兼務社掌堀口貞以為至神社尊嚴維持之道不如財産之多矣因叩同村大字小舞木村鎮守賀茂神社氏子懇々奨該神亦為合併長良神之利衆議紛々左支右牯不決先請之神託神託許之衆議乃決乃ト明治四十四年十二月五日吉日挙其合併之典而以社地三反四畝二十二歩田壹反二歩供長良神社財産之一斑矣至此長良神社財産總計為壹町七反九畝八歩其基維持方法大備而無可復憂者衆心因以安矣嗚呼神德尊嚴愈增加而国家安康亦可期亦期矣両村人士胥謀將○神託合併之顛末於石樹之長良神祠之側以伝不朽索文千余々沐浴叙其梗○云

如山清水英敦撰并書 赤羽寿栄○

碑文の概要を古老の話と合わせて推測すると

明治 40 年に県から出された神社維持方法に関する訓令により、年収 80 円以下の神社は地区の鎮守として認められないことになってしまった。このとき、飯塚のナカ、マツバラの両長良神社は財産が足りないため、まずは明治 42 年に両神社を合併した。しかし、なお財産が不足し、氏子総代の吉田文四郎氏が自身の田んぼを長良神社に寄進した。その後、小舞木の賀茂神社も同様の理由で窮地に立たされ、村人は「衆議紛々左支右牯不決」とあるように、大変に悩んだ末、明治 44 年に財産を持参のうえ長良神社に合併した。これにより十分な財産を確保した長良神社は、鎮守（村社）として存続することができるようになった。この顛末を「石樹」と表現するこの朽ちない石碑に刻む。

という内容であると考える。

④円養寺の一切^{いっさいきよう}経様

一切経とは大蔵経とも呼ばれ、数ある仏教の聖典の一切を集めた、いわばお経全集である。膨大な量に及ぶが、これが小舞木町のお寺、円養寺の新本堂に保管されている。（山門をくぐって正面が旧本堂、右側の大きい方が新本堂）本の形に綴じられていて、1000 冊以上に及ぶ。一切経があるお寺というのはなかなかなく、さらに円養寺の一切経は大変古く、正徳 6 年（1716）に京都のお寺から購入されたものである。そして、小舞木町の人々は、昔からこのお経そのものを「一切経様」と呼んで、あたかも神様や仏様であるかのように大切に扱ってきた。送り盆の 8 月 16 日には各家から新しいゴザを持ってお寺に集合し、そのゴザの上に一切経を並べ、虫干しといって、団扇

で扇いで風を当て、お経がカビたり虫に食われたりしないようにしていた。また、その時に和尚さんから一切経様を頭にかざしてもらおうとご利益があるといっ、みんなそうしてもらっていた。お経自体は全て漢字で書かれていて、読むことは難しかったが、とにかく一切経様の存在は小舞木町の人たちの宝物だった。現在この虫干しは行っていないが、今でも 8 月 16 日には一切経様を頭にかざしてほしい、と住職に願い出る人がいる。平成 25 年 8 月 16 日に実際にかざして頂いたが、ずっしりと歴史の重みを感じ、何か不思議な力を授かった気がした。

ところでこの一切経様を 300 年前に購入した人は、円養寺の 7 代目の住職、快弁和尚である。この方は円養寺を大変盛んにした人で、石像が本堂に向かって右手に建てられている。墓石は旧本堂向かって左手、布袋尊と福祿寿尊の間を入った正面のひときわ高いものだ。旧本堂にむかって右手にある大きな地蔵様も、この和尚さんの時代に建てられたものである。

⑤円養寺の 2 つの梵鐘

梵鐘とは寺院にある大きな釣鐘のこと。九合のお寺の中で、昔から梵鐘があったのは円養寺だけであったが、大変大きなもので現在ある梵鐘の倍くらいあった。古い梵鐘は今はないのだが、なぜかといえば戦争中の金属供出で惜しくも供出させられてしまったのだ。当時は山門が鐘楼になっており、梵鐘は鐘楼からぶら下がっていて、階段で 2 階に上がって搗く仕組みになっていた。それをお盆の 8 月 13 日から 16 日までの間だけ搗けた。子ども達が泊り込みで、搗いて遊んだ。何かをもらえるわけではないが、搗くと鐘楼がゆさゆさ揺れるのが面白かった。(清水旭さん談)

現在の梵鐘は昭和 40 年代に新たに迎え入れたもの。鐘楼は山門入って右手にあるが、昭和 50 年代に住職が手作りしたもの(参考：住職は本堂北東にある奥之院の結界門も手作りしている)で、茅葺に銅板をかぶせたもの。九合カルタには「平和への 鐘の音響く 円養寺」とある。現在でも九合地区でこれだけの鐘楼があるところはない。

⑥金比羅様

「保健センター前」の信号から北に入るとすぐ右手に小さな畑があり、その畑の奥にあるお宮であり、清水旭家個人でおまつりしている金比羅様。個人のものなので畑の中に入ってすぐ近くまで行くことはできないが、道路から見る事ができる。現在のお宮は近年新築したもの。

いつからあるのか分からないが、おそらく江戸時代以前からある。言い伝えによると、お侍が太刀を 1 本上げて、建てたもので、その侍は全国周遊の旅に出て、熊谷ま

で来てもうすぐ小舞木まで帰ってくる、というところで亡くなったといわれ、清水さんの父上の代まではその刀があって、それでチャンバラごっこをしたという。昔から清水家では金比羅様の本元のある四国へ巡礼する習慣があり、今でも5年に1度行っている。

旧暦の10月10日がお祭りの日となっている（今は11月にあたる）新井の若旅宮司にお願いして祝詞を唱えてもらう。この日は十日夜^{とおかんや}で、十日夜の餅をついて、それをお供えする。

現在は清水家の人しかお参りしないが、戦前は小舞木の人たちがお参りに来た。鳥居を寄付してくれた人もいた。また、お宮の修繕などがあると、小舞木の人があたかも村の神社であるかのように自主的にお金を出してくれた。清水氏いわく、おそらく小舞木には当時村の神社というものがなかったため、心の拠り所としての意味があったのかもしれないとのこと。現在は区画整理によって飯田町区域となっているが、本来は小舞木町区域であったこと、また所有する清水家は小舞木に代々続く家であることから、小舞木の秘密とした。

⑦小舞木の高射砲陣地

高射砲とは上空を飛んでいる敵機に向かって撃つ大砲のことで、それが備えられた場所が高射砲陣地であり、戦争中、全国各地に作られた。九合地区では、目塚地区とここ小舞木にあった。B29が襲来したときにはここからドカンドカンと大砲を撃ったが、B29ははるか上空を飛んでいて、それに届く前に花火のように跳ねてしまって、1機も撃ち落とすことができなかったという。その頼りなさを見て、岡部宗平さんは、ああ日本はもうだめだな、と思ったという。小舞木地区の高射砲陣地は現在跡形もないが、そういうものがあつたという記憶を宝物としたい。場所としては、現在の九合6号公園の周辺だが、この公園よりずっと広く、さらに東西南北100mほどはこの敷地だった。大砲が備え付けられていたほか、兵隊の住む宿舎や弾薬庫もあった。

空襲の時以外も演習を行っていて、大変な騒音と、地震のような振動で、付近の家は壁が落ちてしまったり戸が壊れてしまったり、大迷惑だった。ちなみに目塚の高射砲陣地は現在のイオンショッピングセンターの辺りにまで広がっており、イオンの造成の際に砲台の台座が発見され、現在でも1基保存してある。

その他資料

語り手の皆様からの寄稿

語り手の皆様に、もし他に追加の情報等があれば是非お寄せくださるようお伝えしたところ、2名の方から文章をいただいた。大変貴重な内容であるのでここに掲載させていただきます。

市川千和気（大正14年 新井生まれ）

新井というとまずはなんといっても八幡様です。私の家は八幡様と地続き（実家が八幡様の裏）ということもあって、八幡様こそが自分の育ったところみたいです。広場というか遊び場というか、ある意味では学びの場でもありました。お寺でも遊びましたがやっぱり八幡様でした。ところで、当時の新井の子どもの多くは農家の子弟でしたから、家の手伝いもよくやりました。特にゴガツ（旧暦5月？この季節の農繁期を表す言葉）の麦刈り、田植え（は同時）の時期、秋の稲刈り、麦まき（は同時）、さらには蚕を飼う（年に1～3回）家もありました。これらの時期は農家にとっては「猫の手も借りたい」という言葉があるくらい忙しい時期ですから子どもたちはよく手伝いました。これらの農繁期は別として、学校から帰ると勉強や家の手伝いはそこそこに八幡様に飛んでいきました。そこには友達がいました。その日の学校での出来事を話したり、時には勉強の話もありました。鬼ごっこやゲーム、コマまわし、いろいろな遊びを通して助け合いの大切さを知りました。八幡様があって今の私がいるとっていいです。

また八幡様は村の人々の心の拠り所でもあったようです。私たちが遊んでいると、時々村の青年（先輩）が遊びに来て、自分の歩んできた子どもの頃の話をしたり、勉強の事や色々な生活体験（例えば中島飛行機に勤務した経験など）を話してくれました。私たちは胸をわくわくさせながらその話を聞いていました。

また秋になると母校九合小学校の運動会が近づきます。八幡様は出場する青年たちの練習の場でもありました。ランニング姿の青年たちがハチ巻きをして、スタートやバトンタッチの練習をする姿を見ていると、私たちまでが将来の自分を夢見て、興奮やあこがれを覚える程でした。

また八幡様には神楽殿（大祭の時お神楽を舞う建物）がありました。神楽殿は境内の南西寄りに南北に長い東向きの建物でした。当時は地区に集会所というものはなく、

この神楽殿がいろいろな行事に使われていました。村の方々の会議、行事、新井の男女青年会の方々の寄り合いの場でした。ですから、私は今でも現在の新井の住民センターのことを神楽殿なんていってしまうことがあります（笑）

九合村（旧制度）には9つの大字がありまして、そこにはそれぞれ鎮守様があります。その中で新井の八幡様だけが郷社といって格が上だったんです。昔は（終戦まで）神社に格付けがあって、普通、地区を代表する神社はみんな村社なんです。郷社は市または県から祭祀料というお金が来て、このためお祭り等を盛大に催すことができました。ですから新井の人は八幡様が郷社であることに誇りをもっていました。八幡様には年に6回のお祭りがあります。（1月の元旦祭、2月の節分祭、4月の春の大祭、7月の末社祭り、9月の秋の大祭、11月の勤労感謝祭）その中で特に思い出に残るのが、秋の大祭です。盛大でした。

大祭は9月15日と決まっていた。この日、新井の子は学校（九合小学校、当時はまだ中学校はなかった）が半日で終わりになりました。八幡様の祭典に参列するためです。九合小の先生の誘導で拝殿前に整列し、神主さんが神殿にささげる祝詞に合わせて私たちも礼拝するのです。

祭りは前日の14日から始まります。14日の晩は最高に盛り上がりました。ササラ（獅子舞の古称）あり、お神楽あり、相撲大会ありです。境内は大勢の参拝客で大賑わいでした。まずは何といても名物、新井八幡宮のササラです。中宿^{ちゅうやど}の竹内雅太郎さん方（八幡様の真南にあるお宅）で舞い仕度を整え（獅子頭をかぶり、腹には太鼓をくくり付け）100m余りの参道を、先導に世話番、神主さん、舞の師匠さん、その後を3人の舞い手が太鼓を叩きながら続き、次いで笛の師匠さんが笛を吹きながら後について、八幡様に向かいます。笛や太鼓の音が近づいてきます。鳥居をくぐり神殿に舞いを告げ、いよいよ舞いの陣形に入り、笛の音が一段と大きく鳴り響きます。ここで改めて祭りの盛り上がり村中に告げられます。

舞いは1人（1匹）の雌獅子を巡る、2人（2匹）の雄獅子の葛藤を表現したものです（だそうです）。舞いは大きく全身で踊ります。壮あり静ありで、まさに神にささげる舞いです。観客はしばし心引き寄せられます。

ササラには大人舞いと子ども舞いがありまして、子ども舞いは小学校3、4年生になると舞子^{まいこ}になります。氏子である私も子ども舞いを舞いました。9月に入ると村の祭りの役員さんたちが毎晩八幡様の神楽殿に集まります。そこで私たちは獅子舞の師匠さんから舞いや太鼓の叩き方を教わるのです。一生懸命稽古をしました。

また私の父もササラの笛吹き^{ふえ}の師匠でした。秋の大祭が近づくと夕飯を済ませた後、縁側に出て、おさらいを兼ね笛（横笛）を吹いていました。私たち家族は父の吹く笛

を聞いていました。笛の音は静かに夜のしじまに響き、その音は今でも忘れられません。

(神社の) 庭の獅子舞が大勢の参拝客の人垣に埋まり、舞いの終わりに近づく頃、こんどは神楽殿から笛や太鼓の祭り囃子が鳴り響き、まさに祭りは最高潮、八幡様の境内は大賑わい。やがて笛や太鼓の音が静まると神楽殿の舞台にお面をかぶった 3 人の「ひよっここ、おかめ」の登場です。男役の 2 人「やじさん、きたさん」と女役「おかめさん」の 3 人による即興の掛け合い漫才まがいの舞台劇、ひよっここ踊りです。これまた観客をどっと笑わせます。時間が経つのも忘れる面白さです。

この時間になると、相撲大会が始まります。これまた祭りの名物です。土俵は境内の南東にありました。祭りの後も土俵はそのまま 1 年中ありましたから、普段は子どもの相撲の遊び場でもありました。14 日の晩は近郷近在の力自慢、相撲自慢の人々が集ってきます。遠く県外の人もいたようです。中には四股名(かしのなま) (力士の名前) をもっている人もいました。中島飛行機の相撲部の方々も参加しました。行司には慣れた人(内ヶ島の人) がいまして、呼び出しから行事まで面白おかしく観客を喜ばせていました。

また祭りにはつきものの、屋台店(出店) もたくさん出ていました。子どもや参拝客は買い物を楽しんでいました。

終わりに、私たちが忘れてはならないことを。戦時中、新井のたくさんの若い方々が戦地へ出征していきました。八幡様の神殿に武運長久の戦勝祈願をし、村の人々の歓呼の聲に送られて、新井、八幡様、故郷を後に戦地に赴きました。そして何人もの方々が二度と故郷の土を踏むことが出来ませんでした。これらの方々も子どもの頃この八幡様で遊び、同じササラを舞い、神楽殿のお神楽を観、同じ土俵でお互い相撲を取り合った方々です。

町田安子（昭和 4 年 内ヶ島町目塚生まれ）

子どもの頃天神山へ椿の花を取りに行つて石の鳥居の上に石を上げると勉強が出来るというので放り上げて遊びました。乗っている石を落としてしまうと 2 つ上げなければいけないというのでこれまた大変でしたが。子どもだから致し方なく、遊び半分でした。（昔からの言い伝えだったのか、その時の子ども同士の決め事だったのかは分かりません）

私の 8 代前の先祖は学頭法印智龍^{がくとうほういん ちりゅう}といい、浄土寺^{じょうどじ}（現在は共同墓地となっている）が火事で焼けた時に檀家を連れて蓮光寺^{れんこうじ}へ行き、和尚になって寺子屋で教えていたそうです。蓮光寺の西側に代々の和尚様の石塔があります。左より 3 番目が智龍先生の石塔です。（智龍先生の墓石は浄土寺の町田家の墓地にもあります）今は浄土寺にお坊さんはおらず、檀家が交代で守っています。町田家で智龍先生の 200 年供養を 13 年前に行いましたので、浄土寺が焼けたのは 200 数十年前ということになるのでしょうか。浄土寺の仏像も蓮光寺に持って行つたらしいです。その仏像は今でも蓮光寺にあります。

天神山の四方は太田市で買い上げるまで田植えもしました。その時に大きな蛙がいて鳴き方が牛の鳴き方に似ているので牛蛙^{うしづゐ}という聞きました。

言い伝えによりますと、天神山を作った工夫^{こうふ}がその周りに住んで大王様を守っていたといひます。いつの頃か、工夫たちのお寺ができ、それは赤塗りのきれいな建物だったといひます。その後、これもいつの時代か分かりませんが、鶴巻戦争^{つるまき}といひ、弓と矢で下毛野（栃木）方面から攻めて来たそうで、そのときやむを得ず怪我した子どもや年寄りを置いて、工夫たちはどこかへ逃げてしまったそうです。私が若い頃はその戦争で使われたと思われる矢の先端の尖った石がこの辺りにたくさん落ちていました。（※編集委員の 1 人、森部（昭和 25 年生まれ）も九合小在学当時、目塚地区周辺の畑で鋭く尖った石矢じりを何個も拾った記憶があるとのこと）

その後お寺もなくなってしまいましたが、その寺のお坊さんだったという行人和尚（行人様とも呼ぶ）の墓石が今でも残っており、旧館林県道沿いに、天神山を向いて立っています。天神山に眠る大王様に向かって拝んでいるようにも見えます。行人様はもう少し北にありましたが、事情により行人塚^{いんじんづか}といひ昔から無番地であった所に何人かで移しました。私もよく覚えています。全国的な土地測量のあった時で、40 年くらい前でしょうか。残されて誰も知らない行人様。大勢の方に知ってほしいです。これらのことはおばに聞きました。

また、先ほどのお寺にあったお地藏様も江戸時代の後期まで旧館林県道沿い（今の

行人様の少し西)にあったそうです。それを、この道を通る館林から来る商人が、「崇るものなら崇ってみろ」と面白がってひっくり返してしまいました。するとその人は崇りで腰を抜かしてしまったそうです。その後、(どういう経緯か知りませんが) 智龍先生がそのお地蔵様を町田家の墓地の前に移動して、ずっとそこにありましたが、今から4、5年前、お地蔵様というのは墓地の中ではなく、入り口にあるものだ、とのことで、入り口に移動しまして、現在でもあります。(北向きになっている大きな地蔵様)

家の西にある小さな古墳(天神山古墳 A 陪塚)はタカンドヤマと呼び、子どもの頃登って遊びました。栗の木があり、それにも登りました。言い伝えによると天神山の大王様の遺品が埋められているといえます。東京から大学生が来て、夜中に無断で発掘作業をしまして、私の父がそれを見つけ、九合小の前にあった駐在所に届け出ました。始末書を書いただけで済んだらしいです。

家の西の畑(A 陪塚のすぐそば)で梅の実を拾っていたら何かグニャっとするものの上に乗って、なんだと思ったら見たことのない大変大きな蛇でした。丸くなってとぐろをまいて眠っていたのでしょう。怖くて家に飛び帰りましたが、その後気になって、逃がしてやろうと思い線香を持ってそこへ行ってみると、姿はありませんでしたが蛇のいた場所は草が折れ、そこにいた跡がはっきり判りました。跡は一抱えほどもありました。その後二度と姿は見せませんでした。

※町田さんは天神山と女体山の間、A 陪塚のすぐそばの家に生まれ育ちました。

文献紹介

九合地区についてさらに調べてみたい方のために、本書を作成するにあたって参考にした文献とその所在、特徴を挙げ、紹介する。

・壬申字引絵図 明治5年頃 群馬県立文書館蔵

大字ごとに作られ、畳1枚以上にもなる大きなもの。数色に着色され、社寺や家々の配置、土地利用、地形などが一目瞭然になっており、当時の様子を知る大変貴重な資料である。しかし九合の中でなぜか飯田だけは所蔵がないとのこと。ただ幸いなことに同地区の清水日出男家に類似の絵図が伝わっており、ここに掲載させていただく。



・**上野国郡村誌 15 新田郡** 明治 10 年頃 太田市立図書館蔵

明治 10 年頃まとめられたものが昭和 61 年に活字化され刊行された。各地区ごとに作られ、人口、地名、社寺など地区の概観が記されている。

・**陸軍測量局彩色迅速測量図** 明治 17 年 九合村物語編集委員蔵

色分けがされており、当時の九合や周辺地区の土地利用について俯瞰することができる。

・**九合村郷土史** 明治 43 年 太田市文化財課蔵

県からの指示で編纂されたもの。太田市教育委員会文化財課にある。毛筆書きのぶ厚い本で、活字になっていないのが惜しまれるが、唯一の九合の歴史書といえる。

・**郷土史加除訂正調査** 大正 4 年

上の九合村郷土史に対する補足。これも文化財課にある。

・**上野国新田郡誌** 昭和 4 年 太田^{とうしゅう}稲主 太田市立図書館蔵

地区によっては当時の古老の聞き書きなどが掲載されている。

・**上毛古墳綜覧** 群馬県 昭和 13 年 太田市立図書館蔵

当時九合地区に現存した古墳それぞれについて、位置、形状、所有者等が記されている。

・**太田市九合地図** 昭和 29 年 九合村物語編集委員所蔵

各地区の小字が落としこまれていて、細かい研究には重宝する。

・**太田市立九合小学校「百年の歩み」** 昭和 48 年 太田市立図書館蔵

九合小や九合地区全体について貴重な情報が掲載されている。

・**戦禍に生きたこどもたち** 小林ふく 昭和 48 年 鳩の森書房 太田市立図書館蔵

著者の小林さんは戦争中に九合小の教師をしておられ、教員退職後の仕事としてこの本を書かれた。この中の資料や記述は太田市史にも引用されている。また九合小を中心として書かれているので、九合と戦争について知ることができる大変貴重な資料である。

・**太田市史** 太田市 昭和 53 年～平成 9 年 太田市立図書館蔵

編纂は昭和 46 年に始まったとのことで、大変長い時間をかけての労作である。本書を作成するにあたって、各所に活用させていただいた。昭和末期にはまだまだ明治生まれの方々が健在であり、今では聞けない貴重な話が数多く載っている。

・**太田市の文化財** 太田市教育委員会 平成 7 年 太田市立図書館蔵

九合地区にある指定文化財がすべて紹介されている。

・**ふるさと地名散歩** 茂木晃 平成 10 年 太田市立図書館蔵

太田市を中心とした地名の解説があり、九合各地区についても記されている。

・**ぐんまのお寺真言宗** 上毛新聞社 平成 13 年 太田市立図書館蔵

九合のお寺の中で、真言宗に属する蓮光寺、十輪寺、安楽寺、薬王寺、国貞寺について記されている。

・**ぐんまのお寺曹洞宗** 上毛新聞社 平成 14 年 太田市立図書館蔵

九合のお寺の中で、曹洞宗に属する霊雲寺、正泉寺について記されている。

・**ありがとう新井町見聞記** 星野雅範 平成 20 年 太田市立図書館蔵

新井町および南新井町について聞き取りを中心に記されている。

・**国宝武人ハニワ、群馬へ帰る！** 群馬県立歴史博物館 平成 21 年

太田市立図書館蔵 飯塚出土の国宝武人埴輪について、記されている。

・**航空写真**

日本地図センター (Tel: 029-851-6657) に、終戦前後から現代まで各年代のものがある。地区の全体を見渡すのに大変重宝。範囲と年代を指定すると有料で写真を送ってくれる。

あとがき

本書完成にあたり、まずは、活動にご理解とご支援をいただいた各区長、語り手の皆様、太田市教育委員会、九合、中央、旭の各小学校、および生涯学習推進協議会、九合行政センターの方々、学生を派遣してくださった群馬大学教育学部の田中麻里先生、その他ご協力いただいた本当にたくさんの皆様に深く感謝申し上げます。

さて、これまでのことを振り返ると、当初、どのような目標とすることがよいのか、思案に暮れたこともありました。しかし委員会メンバー一同が、「自ら九合を学び、さらに調査によって埋もれた史実の掘り起こしを行って、その結果を特に子供たちが活用可能な形で残したい。」という一つの目標のもと、真剣に語り合い、力を合わせるなかで、なんとかここまで来ることができました。本書は、方針の決定、全地区での座談会の実施、その前後で個別訪問をしての聞き取り、文献・現地調査、編集作業など多くのステップを経て作成しました。その中で個人情報等の関係で一部事項について掲載を希望されない方もおられましたが、貴重な史実をできるだけ残すべく、ご協力いただける形に調整いたしました。また、原稿については何十人という語り手や区長の方々に対し、間違いがないかどうか、掲載しても差支えがないかどうか再度確認をいただき、メンバーによるチェックも重ねて記載事項に誤りがないよう心がけました。しかしながらお気づきの点がありましたらご連絡をいただければ幸いです。

なお、本書では九合の各町内における代表的な歴史を“秘密”として取り上げましたが、それらはその地区の膨大な歴史の中のごく一部でしかありません。加えて調査の過程で、貴重な歴史遺物や史料が失われつつあることも知りました。

この「九合村物語 ～77 の秘密～」が九合地区歴史への興味を深める一助となり、ひいては各地区での一層の歴史遺物保護や区史作りなどへとつながっていくことを願い、結びといたします。

平成 25 年 8 月 九合村物語編集委員一同

九合村物語編集委員会

- 代表 星野雅範 (新井)
委員 森尻紀三 (新島)
委員 森尻桂司 (東別所)
委員 森部隆行 (南新井)
委員 木村美佐子 (小舞木)
委員 深谷晃世 (群馬大学教育学部家政教育講座田中研究室所属)
委員 大里英梨子 (同上)

本書に関するご意見、お問い合わせなど

住所：群馬県太田市新井町 544-5

携帯：080-1179-2062

アドレス：otojiroumatu@yahoo.co.jp (星野)

九合村物語

～77の秘密～

太田市1パーセントまちづくり事業

編集・発行 九合村物語編集委員会

発行日 平成25年9月1日

印刷 有限会社 第一写植印刷
TEL 0276-22-2814



九合地区全景:平成 16 年頃撮影(大泉方面より)



- ①金山
- ②富士重工群馬製作所(旧中島飛行機太田工場)
- ③富士重工大泉工場(旧太田飛行場)
- ④三洋電機(旧中島飛行機小泉工場)
- ⑤公園通り(旧中島飛行機専用道路)
- ⑥富士重工矢島工場